

科目名	児童学概論		
担当教員名	鈴木 晴子、平田 智久、坪倉 紀代子、齋藤 麗子 他		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部 (J) - 幼児教育学科		
学 年	1	ク ラ ス	
開 講 期	前期	必修・選択の別	選択, 必修*
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	保育士資格		

ねらい (科目の性格 科目の概要 学修目標)

科目の性格

この科目は、幼児教育学科の学科専門科目であり、卒業必修科目である。入学後初めに学習する基礎科目であり、これからの4年間の幼児教育学科での学習の領域を概観するような内容となっている。学科専任教員各自の専門領域や研究内容を知るといった性格も持っている。

科目の概要

児童学への入口となるオムニバス形式の科目である。本年度は“環境について考える”というテーマをもとに、本学幼児教育学科専任教員が各自の専門的観点から「子どもと環境」について講義し、学びの対象となる子どもへの興味関心を喚起する。

学修目標

- ・これまで持ってきたであろう一般的な「子ども」のイメージを一度突き崩して、多面的に子どもについて探求する。
- ・「子ども」という窓から、世の中の枠組み、身の回りの人間関係・出来事などについて見つめ直す。
- ・各講義担当者の内容について各自が作成した「講義ノート」が主要テキストとなるので、授業の内容をつかみ、ノートにまとめを整理する。
- ・授業への参加、課題への取り組み、ノートの作成などを通して、大学で講義を受けるための基本的なスキルを身につける。

内容

1	鈴木晴：科目の目的や趣旨、内容、各教員の専門等の説明
2	宮野：多様な造形表現を認め合う環境づくりについて
3	藪崎：現代の子どもをとりまく音楽環境について考える
4	齋藤：子どもを取り巻くタバコ環境
5	山田：子どもと「水」や「土(泥)・砂」とのかかわりがもたらすもの
6	向井：子どもにとっての「親」という環境
7	鈴木康：子どもの身体活動と環境
8	上垣内：森のようちえん
9	長田：子どもの育つ人的環境
10	金勝：家庭における音楽文化
11	平田：造形の立場から・・・もの環境・ひと環境
12	大宮：幼児とメディアとの関わり
13	潮谷：子どもの生活と福祉
14	坪倉：幼児の身体表現活動とその環境について
15	まとめ

評価

各担当教員の課題への取組み（50％） 試験（50％）

合格点に満たなかった場合には「再試験」を行います。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

各担当教員が講義の中で、参考図書を紹介や資料の配布を行う予定です。

科目名	児童学演習		
担当教員名	長田 瑞恵、上垣内 伸子、横井 紘子、鈴木 晴子 他		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部 (J) - 幼児教育学科		
学 年	1	ク ラ ス	
開 講 期	通年	必修・選択の別	必修*
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	保育士資格 / 幼稚園教諭一種免許状		

ねらい (科目の性格 科目の概要 学修目標)

科目の性格

この科目は本学科の卒業必修科目となっている。実習を通じて、乳幼児とかかわりを持ちながら学習を進めていく。実習という体験学習を通して、自ら関わりつつ子どもから学ぶ姿勢を確立する。

科目の概要

最初の実習となる1年次の児童学演習では、子どもが育つ様々な現場に実際に出かけ、現代社会の中での保育・育児および子どもの生活の実態を知る。さらに、実習の事前指導・事後指導において、保育に関する現代的課題について調査研究活動を行い、1年次履修の他の専門科目を通しての学び等を踏まえ、保育者として必要な知識技能を修得したことを確認する。

学修目標

1. 実習を通して、保育に関する科目横断的な学習能力を習得する。
2. 保育に関する現代的課題についての現状分析、考察、検討を行う。
3. 実習体験に加え、実習の事前指導・事後指導を通して、問題解決のための対応、判断方法等について学びを深める。
4. 1年次履修の専門科目との関連を踏まえ、自らの学びを振り返り、保育者として必要な知識・技能を修得したことを確認する。

内容

新座市内および周辺地域の、さまざまな保育および子ども支援サービスの場の見学実習を行う。具体的には、就学前の子どもの日中の保育の場である幼稚園および保育所や、保育と育児に関連する場の見学実習を行う。

学校教育としての保育

- ・幼稚園 (本学附属幼稚園)

児童福祉施設での保育

- ・保育所 (新座市立保育所)

児童厚生施設等での健全育成事業

- ・児童センター
- ・子育てサロン (公民館等)

その他

実習の前後には、事前学習や事後の報告発表や話し合いの時間を持ち、子どもと子育てを取り巻く社会状況の理解および子ども理解を深める一助とする。さらに、実習の事前・事後学習を通して、問題を発見し、その問題を解決する過程や解決内容について再検討する手法を取得する。

評価

実習のレポートや発表 (50%)、実習および事前事後学習への参加状況 (50%) を総合して評価する。

教科書・推薦書 (著者名・書名・出版社名)

【教科書】

最新保育資料集(2013) ミネルヴァ書房

幼稚園教育要領解説 文部科学省 フレーベル館

保育所保育指針解説書 厚生労働省 フレーベル館

科目名	児童学研究法（量的研究）		
担当教員名	長田 瑞恵、大宮 明子		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部（J）-幼児教育学科		
学 年	3	ク ラ ス	1Aクラス
開 講 期	前期	必修・選択の別	必修*
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	保育士資格		

ねらい（ 科目の性格 科目の概要 学修目標）

科目の性格

検査法、質問紙法など、子どもをより深く理解するために児童学で用いられる様々な研究法について、主に量的研究法を中心に概説する。

科目の概要

それぞれの研究法について、研究の具体例を交えながら、その背景にある理論、実際の実施方法、実施に際しての注意点などについて理解し、可能な限り学生自身体験を通して理解を深める。あわせて統計の基礎についても学ぶ。

学修目標

- ・授業で解説されるそれぞれの研究法の概要について理解する。
- ・それぞれの研究法を用いながら実際に自分自身の手でデータを収集し、分析し、レポートにまとめる。
- ・どのような研究テーマにはどのような研究方法が適切か考える。

内容

まず、児童学の研究法の種類とその特徴、長所や短所などを理解した上で、どのような場合にどのような研究法が用いられるのかを理解する。その後、研究例や実際の体験を通して、それぞれの研究法についての理解を深める。

1	量的研究と質的研究(講義)
2	データの扱い1(講義)
3	データの扱い2(講義)
4	質問紙法1(グループワーク)
5	質問紙法2(グループワーク)
6	質問紙法3(グループワーク)
7	質問紙法4(グループワーク)
8	レポート・論文の書き方(講義)
9	事例・実践研究1(グループワーク)
10	事例・実践研究2(グループワーク)
11	事例・実践研究3(グループワーク)
12	事例・実践研究4(グループワーク)
13	検査法1(グループワーク)
14	検査法2(グループワーク)
15	まとめ

評価

授業内のレポート60点、学期末の筆記試験40点として評価を行い、60点以上を合格とする。

合格点に満たなかった場合、再試験とする。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】大野木裕明・中沢潤 『心理学マニュアル研究法レッスン』 北大路書房

【推薦書】松原達哉 『心理テスト法入門第4版＜基礎知識と技術習得のために＞』 日本文化科学社

保坂亨・中沢潤 『心理学マニュアル面接法』 北大路書房

鎌原雅彦 『心理学マニュアル質問紙法』 北大路書房

中沢潤 『心理学マニュアル観察法』 北大路書房

秋田喜代美・藤江康彦（編） 『はじめての質的研究法 教育・学習編』 東京図書

科目名	児童学研究法（量的研究）		
担当教員名	長田 瑞恵、大宮 明子		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部（J）-幼児教育学科		
学 年	3	ク ラ ス	1Bクラス
開 講 期	前期	必修・選択の別	必修*
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	保育士資格		

ねらい（ 科目の性格 科目の概要 学修目標）

科目の性格

検査法、質問紙法など、子どもをより深く理解するために児童学で用いられる様々な研究法について、主に量的研究法を中心に概説する。

科目の概要

それぞれの研究法について、研究の具体例を交えながら、その背景にある理論、実際の実施方法、実施に際しての注意点などについて理解し、可能な限り学生自身体験を通して理解を深める。あわせて統計の基礎についても学ぶ。

学修目標

- ・授業で解説されるそれぞれの研究法の概要について理解する。
- ・それぞれの研究法を用いながら実際に自分自身の手でデータを収集し、分析し、レポートにまとめる。
- ・どのような研究テーマにはどのような研究方法が適切か考える。

内容

まず、児童学の研究法の種類とその特徴、長所や短所などを理解した上で、どのような場合にどのような研究法が用いられるのかを理解する。その後、研究例や実際の体験を通して、それぞれの研究法についての理解を深める。

1	量的研究と質的研究(講義)
2	データの扱い1(講義)
3	データの扱い2(講義)
4	質問紙法1(グループワーク)
5	質問紙法2(グループワーク)
6	質問紙法3(グループワーク)
7	質問紙法4(グループワーク)
8	レポート・論文の書き方(講義)
9	事例・実践研究1(グループワーク)
10	事例・実践研究2(グループワーク)
11	事例・実践研究3(グループワーク)
12	事例・実践研究4(グループワーク)
13	検査法1(グループワーク)
14	検査法2(グループワーク)
15	まとめ

評価

授業内のレポート60点、学期末の筆記試験40点として評価を行い、60点以上を合格とする。

合格点に満たなかった場合、再試験とする。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】大野木裕明・中沢潤 『心理学マニュアル研究法レッスン』 北大路書房

【推薦書】松原達哉 『心理テスト法入門第4版＜基礎知識と技術習得のために＞』 日本文化科学社

保坂亨・中沢潤 『心理学マニュアル面接法』 北大路書房

鎌原雅彦 『心理学マニュアル質問紙法』 北大路書房

中沢潤 『心理学マニュアル観察法』 北大路書房

秋田喜代美・藤江康彦（編） 『はじめての質的研究法 教育・学習編』 東京図書

科目名	児童学研究法（質的研究）		
担当教員名	大宮 明子、長田 瑞恵		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部（J）-幼児教育学科		
学 年	3	ク ラ ス	2Aクラス
開 講 期	後期	必修・選択の別	必修*
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	保育士資格		

ねらい（ 科目の性格 科目の概要 学修目標）

科目の性格

この科目は、幼児教育学科の卒業必修科目である。観察法・面接法など、子どもをより深く理解するために児童学で用いられる様々な研究法について、主に質的研究法を中心に学ぶ。

科目の概要

それぞれの研究法について、研究の具体例を交えながら、その背景にある理論、実際の実施方法、実施に際しての注意点などについて理解し、可能な限り学生自身体験を通して理解を深める。あわせて統計の基礎についても学ぶ。

学修目標

- ・授業で解説されるそれぞれの研究法の概要について理解する。
- ・それぞれの研究法を用いながら実際に自分自身の手でデータを収集し、分析し、レポートにまとめる。
- ・どのような研究テーマにはどのような研究方法が適切か考える。

内容

1	レポート・論文の書き方（講義）
2	文献検索（グループワーク）
3	論文の読み方（グループワーク）
4	レジュメの書き方（グループワーク）
5	仮説導出（グループワーク）
6	文献研究（グループワーク）
7	実験研究1（グループワーク）
8	実験研究2（グループワーク）
9	実験研究3（グループワーク）
10	実験研究4（グループワーク）
11	観察法1（グループワーク）
12	観察法2（グループワーク）
13	観察法3（グループワーク）
14	面接法（グループワーク）
15	まとめ

評価

授業内のレポート60点、学期末の筆記試験40点として評価を行い、60点以上を合格とする。

合格点に満たなかった場合、再試験とする。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

前期 児童学研究法 で使用したものと同じである。

【教科書】大野木裕明・中沢潤 『心理学マニュアル研究法レッスン』 北大路書房

【推薦書】松原達哉 『心理テスト法入門第4版〈基礎知識と技術習得のために〉』 日本文化科学社

保坂亨・中沢潤 『心理学マニュアル面接法』 北大路書房

鎌原雅彦 『心理学マニュアル質問紙法』 北大路書房

中沢潤 『心理学マニュアル観察法』 北大路書房

秋田喜代美・藤江康彦（編） 『はじめての質的研究法 教育・学習編』 東京図書

科目名	児童学研究法（質的研究）		
担当教員名	大宮 明子、長田 瑞恵		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部（J）-幼児教育学科		
学 年	3	ク ラ ス	2Bクラス
開 講 期	後期	必修・選択の別	必修*
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	保育士資格		

ねらい（ 科目の性格 科目の概要 学修目標）

科目の性格

この科目は、幼児教育学科の卒業必修科目である。観察法・面接法など、子どもをより深く理解するために児童学で用いられる様々な研究法について、主に質的研究法を中心に学ぶ。

科目の概要

それぞれの研究法について、研究の具体例を交えながら、その背景にある理論、実際の実施方法、実施に際しての注意点などについて理解し、可能な限り学生自身体験を通して理解を深める。あわせて統計の基礎についても学ぶ。

学修目標

- ・授業で解説されるそれぞれの研究法の概要について理解する。
- ・それぞれの研究法を用いながら実際に自分自身の手でデータを収集し、分析し、レポートにまとめる。
- ・どのような研究テーマにはどのような研究方法が適切か考える。

内容

1	レポート・論文の書き方（講義）
2	文献検索（グループワーク）
3	論文の読み方（グループワーク）
4	レジュメの書き方（グループワーク）
5	仮説導出（グループワーク）
6	文献研究（グループワーク）
7	実験研究1（グループワーク）
8	実験研究2（グループワーク）
9	実験研究3（グループワーク）
10	実験研究4（グループワーク）
11	観察法1（グループワーク）
12	観察法2（グループワーク）
13	観察法3（グループワーク）
14	面接法（グループワーク）
15	まとめ

評価

授業内のレポート60点、学期末の筆記試験40点として評価を行い、60点以上を合格とする。

合格点に満たなかった場合、再試験とする。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

前期 児童学研究法 で使用したものと同じである。

【教科書】大野木裕明・中沢潤 『心理学マニュアル研究法レッスン』 北大路書房

【推薦書】松原達哉 『心理テスト法入門第4版〈基礎知識と技術習得のために〉』 日本文化科学社

保坂亨・中沢潤 『心理学マニュアル面接法』 北大路書房

鎌原雅彦 『心理学マニュアル質問紙法』 北大路書房

中沢潤 『心理学マニュアル観察法』 北大路書房

秋田喜代美・藤江康彦（編） 『はじめての質的研究法 教育・学習編』 東京図書

科目名	保育方法		
担当教員名	山田 陽子		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部 (J) - 幼児教育学科		
学 年	2	ク ラ ス	
開 講 期	後期	必修・選択の別	必修* , 選択
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	保育士資格 / 幼稚園教諭一種免許状		

ねらい (科目の性格 科目の概要 学修目標)

保育方法は愛育養護学校での実習を中心に据えて行います。この実習は、3・4年次で行う幼稚園教諭や保育士資格取得を目的とする実習とは異なり、子ども理解を中心テーマとし、保育者としての姿勢やまなざしを獲得していくための基礎となる実習です。幼児教育学科の卒業必修科目であり、資格取得の有無にかかわらず、全員の履修が求められます。同じく2年次に行われる「幼児教育基礎実習」と同様に、子どもから学ぶことを学修の基礎に置く、幼児教育学科の教育特徴をよくあらわしている科目といえます。

実習の目的は、保育の中で幼児及び児童と実際にかかわり、共に遊ぶ中で、一人ひとりの子どもの心理、人間関係、状況に応じてその場で自分自身で考えて行動していくことを通して、子ども理解を深めること、および保育社を目指す存在としての自己理解を深めることを目的とします。

内容

1、学内での事前指導

愛育養護学校の理事長先生の講義を受けます。主な内容は次の2点です。

愛育養護学校とはどんな学校なのか、学校の歴史・教育で一番大切にしていることなどを
知り、理解します。

愛育養護学校の学校の様子、子どもや保育者の生活の姿、保育の展開などの話を聞く中で、実習の心構えについて学びます。

2、愛育養護学校での実習内容

・期間は1日で参加実習です。実施日は5月から翌年の3月までの期間内でほぼ火曜日です。幼稚部、小学低学年・中学年・高学年のいずれかに入り、担当する子どもを決めて行います。

・保育終了後は、引き続き愛育養護学校にて配属クラスの担任保育者および現地実習者と、その日の保育についてのミーティングに参加します。

・実習レポートを作成し、翌日大学に提出します。

3、学内での事後指導

実習後は、20人程度の規模での話し合いを中心とした事後指導を行います。内容は次の2点です。

3～4人の小グループで互いの経験とそのことを通して自分が感じ取った事柄を報告し合い、感想や意見を交わすことで、実習での学びを共有します。

実習前と実習後での自分自身の内にある保育についての変化や障碍のある子どもへの捉え方の変化を記述し、全体で意見を交流する中で、各自の中にある保育への理解や子ども理解を広げていきます。

4、まとめ

愛育養護学校での保育実践の体験を元にしなが、子ども理解と保育について全員で考え、学びを深めます。

評価

実習および事前事後指導を含めた授業への参加状況、レポート提出を基に総合的に評価します。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【推薦書】佐藤学監修 著者代表津守眞・岩崎禎子『学びとケアで育つ 愛育養護学校の子ども・教師・親』小学館

科目名	幼児教育基礎実習		
担当教員名	上垣内 伸子、横井 紘子、山田 陽子、野口 隆子		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部 (J) - 幼児教育学科		
学 年	2	ク ラ ス	
開 講 期	後期	必修・選択の別	必修*
授 業 形 態		単 位 数	1
資 格 関 係	保育士資格 / 幼稚園教諭一種免許状		

ねらい (科目の性格 科目の概要 学修目標)

幼稚園において参加観察実習を行う。幼児教育学科の必修科目である。

本学附属幼稚園を含む15園程度の幼稚園に分かれ、隔週で週1回の実習を行う。実習の翌週は、実習レポートを基に、「幼児教育基礎演習」において話し合いをもち、次回の実習へとつなげていく。春休みには4日間連続の実習を行い、3年次から始まる幼稚園教諭および保育士資格取得のための実習へのスムーズな移行を目指し、保育者としての視点獲得と行動を実習の中で試みる。

保育の中で幼児と実際に関わり、一人一人の子どもの心理、人間関係、状況に応じてその場で考え行動していくことを通して、子ども理解および保育者を目指す存在としての自己理解を深めていくことを目的とする。

内容

1. 隔週での幼稚園参加観察実習

子どもの主体的活動を中心とした保育を展開し、本学科教員と保育実践の共同研究等を行ってきている幼稚園10数園に数人ずつに分かれて配属され、隔週で週1回、登園前から降園後まで1日の実習を3日行う。

実習翌日までにレポートを作成して提出し、翌週には各自のレポートを基に行う演習に参加する。

2. 幼稚園連続実習

後期の授業終了後に4日間の連続実習を行う。これまで実習していたクラスで4日間連続の実習を行い、子どもの遊びや友だち関係、内面を生活の連続性の中で理解していくことを目指す。

実習後にレポートを作成して提出し、総括の話し合いをもち。

実習につき、15回の授業ではなく、集中となる。

第4週頃：1日：幼稚園にて学外オリエンテーション / 保育見学・保育参加

第5～11週頃：3日：幼稚園にて隔週の実習（登園から降園まで1日）

春休み中：4日：幼稚園にて4日間連続の実習

合計58時間の幼稚園での実習となる。

評価

1. すべての実習への参加と、実習日誌の期限内に提出を、単位取得の必要条件とする。

2. 実習参加状況、実習態度および意欲、レポート内容、話し合いへの参加状況等により総合的に評価する。

教科書・推薦書 (著者名・書名・出版社名)

【教科書】

幼稚園教育要領解説 (フレーベル館)

科目名	幼児教育基礎演習		
担当教員名	上垣内 伸子、横井 紘子、山田 陽子、野口 隆子		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部 (J) - 幼児教育学科		
学 年	2	ク ラ ス	
開 講 期	後期	必修・選択の別	必修*
授 業 形 態		単 位 数	1
資 格 関 係	保育士資格 / 幼稚園教諭一種免許状		

ねらい (科目の性格 科目の概要 学修目標)

幼稚園での参加観察実習を行う「幼児教育基礎実習」の事前事後指導という位置づけで、実習事前事後指導と、実習の翌週に、20人規模での話し合いの演習を行う。幼児教育学科の必修科目である。

自らの保育実践をレポートにし、省察する中で、自分自身の関わりのあり方や子どもの内的世界に対する理解を深め、子ども理解と自らの保育行為とのつながりの実際を追体験し確認していくための授業である。

自分たちの保育記録を基に、少人数でじっくり話し合うことを通して、それぞれが保育における自己課題を見だし、互いに啓発しあい支え合いながら、保育者としての資質をのばしていくことを目指す。

内容

1. オリエンテーション / 事前指導

実習の目的・内容等についての学内での事前指導および、実習園での園長・主任・担任による実習のオリエンテーションを受ける。

2. 隔週での幼稚園参加観察実習後の話し合い

実習の翌週は、各自の保育記録を基に、約20人のグループに分かれて、自分たちの保育実践の中からテーマをあげて話し合う。

確実な保育記録レポート提出と、活発な話し合いへの参加が望まれる。

3. 幼稚園連続実習の事前事後指導

隔週での幼稚園実習で学んだことを確認し、新たな自己課題を設定し、連続実習に向けての準備を行う。

実習後は、各自の保育記録を基に、4日間の中での自分の保育者としての成長を確認し、新たに見いだした保育課題などについての話し合いを行い、実習を総括する。

評価

授業への参加状況、実習日誌や課題の提出および内容、話し合いへの参加状況を6:2:2の比率で評価する。

教科書・推薦書 (著者名・書名・出版社名)

【教科書】

幼稚園教育要領解説 (フレーベル館)

科目名	保育者論		
担当教員名	野口 隆子		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部 (J) - 幼児教育学科		
学 年	3	ク ラ ス	1Aクラス
開 講 期	前期	必修・選択の別	必修*
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	保育士資格 / 幼稚園教諭一種免許状		

ねらい (科目の性格 科目の概要 学修目標)

科目の性格

本科目は、学科専攻専門科目における必修である。保育者の仕事、役割と倫理、職務内容、制度、専門性、協働の在り方について理解することを目的とする。

科目の概要

保育の仕事・保育者に関する具体的なイメージを獲得し、保育者としての在り方を学ぶため、保育の場の事例や保育者養成課程の学生の事例、保育実践を移した視聴覚資料など様々な資料を用いて授業をおこなう。また、受講者自身の進路や職業など将来像の構築と獲得に向け、身近な問題と関連づけながら自己を振り返り考察する機会を設ける。

学修目標

保育者とはどういう存在か、保育者の資質、保育者の専門的成長のプロセスと成長を促す要因について学び、求められる保育者像について理解し具体的に考える。

内容

- 第 1 回：保育者とは
- 第 2 回：保育者の仕事と役割、専門性 (1) 保育士
- 第 3 回：保育者の仕事と役割、専門性 (2) 幼稚園教諭
- 第 4 回：保育の現行制度と歴史
- 第 5 回：保育者の様々な役割、保育者の倫理、職務内容 (研修、サービス及び身分保障)
- 第 6 回：乳幼児期の子どもにとっての保育者
- 第 7 回：子ども理解と保育実践
- 第 8 回：青年期の自己と進路・職業選択
- 第 9 回：保育者になること、実習での学び
- 第 1 0 回：保育者の保育実践と省察
- 第 1 1 回：保育における協働と連携
- 第 1 2 回：保育者としての学びと専門的成長をめぐる理論
- 第 1 3 回：保育者の専門的成長を促すメンタリング、研修
- 第 1 4 回：世界の保育者養成と保育者像
- 第 1 5 回：総括

評価

グループワーク等への参加度及び授業終了時のコメントペーパー (2 0 点)、小課題提出 (3 0 点)、期末レポート (5 0 点) による評価を行い、6 0 点以上を合格とする。

教科書・推薦書 (著者名・書名・出版社名)

<テキスト>

小田 豊 監修 / 岡上直子・高梨珪子編著 「保育者論」 光生館

<参考図書>

子どもと保育総合研究所 「最新保育資料集」 ミネルヴァ書房

科目名	保育者論		
担当教員名	野口 隆子		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部 (J) - 幼児教育学科		
学 年	3	ク ラ ス	1Bクラス
開 講 期	前期	必修・選択の別	必修*
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	保育士資格 / 幼稚園教諭一種免許状		

ねらい (科目の性格 科目の概要 学修目標)

科目の性格

本科目は、学科専攻専門科目における必修である。保育者の仕事、役割と倫理、職務内容、制度、専門性、協働の在り方について理解することを目的とする。

科目の概要

保育の仕事・保育者に関する具体的なイメージを獲得し、保育者としての在り方を学ぶため、保育の場の事例や保育者養成課程の学生の事例、保育実践を移した視聴覚資料など様々な資料を用いて授業をおこなう。また、受講者自身の進路や職業など将来像の構築と獲得に向け、身近な問題と関連づけながら自己を振り返り考察する機会を設ける。

学修目標

保育者とはどういう存在か、保育者の資質、保育者の専門的成長のプロセスと成長を促す要因について学び、求められる保育者像について理解し具体的に考える。

内容

- 第1回：保育者とは
- 第2回：保育者の仕事と役割、専門性（1）保育士
- 第3回：保育者の仕事と役割、専門性（2）幼稚園教諭
- 第4回：保育の現行制度と歴史
- 第5回：保育者の様々な役割、保育者の倫理、職務内容（研修、サービス及び身分保障）
- 第6回：乳幼児期の子どもにとっての保育者
- 第7回：子ども理解と保育実践
- 第8回：青年期の自己と進路・職業選択
- 第9回：保育者になること、実習での学び
- 第10回：保育者の保育実践と省察
- 第11回：保育における協働と連携
- 第12回：保育者としての学びと専門的成長をめぐる理論
- 第13回：保育者の専門的成長を促すメンタリング、研修
- 第14回：世界の保育者養成と保育者像
- 第15回：総括

評価

グループワーク等への参加度及び授業終了時のコメントペーパー（20点）、小課題提出（30点）、期末レポート（50点）による評価を行い、60点以上を合格とする。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

<テキスト>

小田 豊 監修 / 岡上直子・高梨珪子編著 「保育者論」 光生館

<参考図書>

子どもと保育総合研究所 「最新保育資料集」 ミネルヴァ書房

科目名	幼児教育学		
担当教員名	上垣内 伸子		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部 (J) - 幼児教育学科		
学 年	1	ク ラ ス	1Aクラス
開 講 期	前期	必修・選択の別	必修*
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	保育士資格 / 幼稚園教諭一種免許状		

ねらい (科目の性格 科目の概要 学修目標)

科目の性格

この科目は、幼児教育学科の専門科目で、卒業必修科目である。幼稚園教諭免許状と保育士資格取得のための必修科目としての位置付けられて、これから学習していく「幼児教育・保育」領域の基盤となる科目である。

科目の概要

幼児教育・保育にかかわる専門的知識を習得し、過去から現代に至る幼児教育・保育の思想、方法の概略を理解し、保育のあるべき方向の考察ができるようにする。乳幼児の生活実態を理解し、それを踏まえた保育、子育て支援、育児相談等の保育者の多様な責務について理解する。保育の目的と目標、保育のねらいと内容、保育方法、保育の環境、保育計画・教育課程、保育評価についての具体的理解に基づき、保育実践者としての自己のあり方やこれからの学び方について考える。

学修目標

- ・ 保育の基本的理解を目的とする。
- ・ 幼稚園教育要領および保育所保育指針における保育の基本について、保育内容と保育方法、保育の思想と歴史的変遷、保育の現状と今日的課題についての理解を深め、これからの保育の展望について、考察ができるようになることを目標に置く。
- ・ 保育に対する積極的な態度と、自ら考える力を養う。

内容

1	保育とは何か
2	保育の歴史
3	乳幼児の生活と発達
4	子どもと遊び
5	保育所保育指針・幼稚園教育要領の制度的位置づけと成立および変遷
6	保育の目的と目標
7	保育のねらいと内容
8	保育の環境
9	保育方法の原理
10	保育活動と保育形態
11	保育指導計画と保育・教育課程
12	保育者の役割と保育実践
13	家庭・地域との連携
14	世界の保育・幼児教育
15	保育の今日的課題と未来への保育ビジョン

評価

授業への参加態度や発言（30%）、学期内の小レポート・小テスト（30%）、学期末試験（40%）により評価を行う。
合格点に満たなかった場合は、「再試験」を行う。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】関口はつ江他『保育原理 - 実践的幼児教育論 - 』建帛社

文部科学省 幼稚園教育要領解説 フレーベル館

厚生労働省 保育所保育指針解説書 フレーベル館

最新保育資料集2012（もしくは2013） ミネルヴァ書房

他に適宜プリント資料配布

【推薦書】津守真・森上史朗監修『倉橋惣三文庫全10巻』フレーベル館

津守真『子ども学のはじまり』フレーベル館

科目名	幼児教育学		
担当教員名	上垣内 伸子		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部 (J) - 幼児教育学科		
学 年	1	ク ラ ス	1Bクラス
開 講 期	前期	必修・選択の別	必修*
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	保育士資格 / 幼稚園教諭一種免許状		

ねらい(科目の性格 科目の概要 学修目標)

科目の性格

この科目は、幼児教育学科の専門科目で、卒業必修科目である。幼稚園教諭免許状と保育士資格取得のための必修科目としての位置付けられて、これから学習していく「幼児教育・保育」領域の基盤となる科目である。

科目の概要

幼児教育・保育にかかわる専門的知識を習得し、過去から現代に至る幼児教育・保育の思想、方法の概略を理解し、保育のあるべき方向の考察ができるようにする。乳幼児の生活実態を理解し、それを踏まえた保育、子育て支援、育児相談等の保育者の多様な責務について理解する。保育の目的と目標、保育のねらいと内容、保育方法、保育の環境、保育計画・教育課程、保育評価についての具体的理解に基づき、保育実践者としての自己のあり方やこれからの学び方について考える。

学修目標

- ・ 保育の基本的理解を目的とする。
- ・ 幼稚園教育要領および保育所保育指針における保育の基本について、保育内容と保育方法、保育の思想と歴史的変遷、保育の現状と今日的課題についての理解を深め、これからの保育の展望について、考察ができるようになることを目標に置く。
- ・ 保育に対する積極的な態度と、自ら考える力を養う。

内容

1	保育とは何か
2	保育の歴史
3	乳幼児の生活と発達
4	子どもと遊び
5	保育所保育指針・幼稚園教育要領の制度的位置づけと成立および変遷
6	保育の目的と目標
7	保育のねらいと内容
8	保育の環境
9	保育方法の原理
10	保育活動と保育形態
11	保育指導計画と保育・教育課程
12	保育者の役割と保育実践
13	家庭・地域との連携
14	世界の保育・幼児教育
15	保育の今日的課題と未来への保育ビジョン

評価

授業への参加態度や発言（30%）、学期内の小レポート・小テスト（30%）、学期末試験（40%）により評価を行う。
合格点に満たなかった場合は、「再試験」を行う。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】関口はつ江他『保育原理 - 実践的幼児教育論 - 』建帛社

文部科学省 幼稚園教育要領解説 フレーベル館

厚生労働省 保育所保育指針解説書 フレーベル館

最新保育資料集2012（もしくは2013） ミネルヴァ書房

他に適宜プリント資料配布

【推薦書】津守真・森上史朗監修『倉橋惣三文庫全10巻』フレーベル館

津守真『子ども学のはじまり』フレーベル館

科目名	教育学		
担当教員名	狩野 浩二		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部 (J) - 幼児教育学科		
学 年	1	ク ラ ス	
開 講 期	後期	必修・選択の別	必修*
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	保育士資格 / 幼稚園教諭一種免許状		

ねらい (科目の性格 科目の概要 学修目標)

本科目は、教育職員免許法に定められた「教育の基礎理論に関する科目」のうち、その筆頭に掲げられた「教育の理念並びに教育に関する歴史及び思想」を含む講義及び、保育士資格の「保育の本質・目的に関する科目」の「教育原理」を含む講義を行います。これから四年間にわたって教職科目や保育誌科目を受講していくもっとも最初の時期に「学幾・保育の基礎を学ぶ科目」をして開講されます。

先生になるために最小限必要となる教育の歴史や理論に関する基礎を勉強することになります。講義では「教育とは何か」、「学校とは何か」、「教える・学ぶとはどういうことなのか」などの根源的な課題について、以下の内容項目に従って取り上げます。

教育の基礎理論に関して理解を深めること、仲間とともに課題を設定し、討論し合いながら研究を深めること、自己の見解を整理し、深め、発表することができること、をめあてとします。

内容

以下、講義内容を項目ごとに書いておきます (順不同)。

テキストの構成とほぼ重なっています。

- 第1回：人間への問いと教育への問い (第1章1)
- 第2回：学ぶことと教えること (第1章2)
- 第3回：発達への助成的介入 (第1章3)
- 第4回：教育と教化と形成 (第1章4)
- 第5回：学校の登場 (第2章1)
- 第6回：近代学校の性格 (第2章2)
- 第7回：近代以前の日本の学校 (第3章1)
- 第8回：日本の「近代化」と学校教育 (第3章2)
- 第9回：新たな出発，その後の展開 (第3章3)
- 第10回：人は学び続ける (第10章1)
- 第11回：地球市民として生きるために (第10章2)
- 第12回：子どもの権利の発見 (第12章1)
- 第13回：子どもの成長・発達をめぐる状況と子どもの「最善の利益」 (第12章2)
- 第14回：社会の変化と教育政策の動向 (第12章3)
- 第15回：まとめ

評価

ミニレポート (20点) と最終課題 (80点) を総合して、単位を認定します。

教科書・推薦書 (著者名・書名・出版社名)

【使用テキスト (教科書) 】田嶋一他著『やさしい教育原理 (新版補訂版) 』有斐閣アルマ

【推薦書】ルソー『エミール（改版）上』岩波文庫、シング『狼に育てられた子』福村出版

【参考図書】留岡清男『教育農場50年』岩波書店、谷昌恒『ひとむれ』評論社

科目名	保育制度・保育政策論		
担当教員名	岡上 直子		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部（J）- 幼児教育学科		
学 年	2	ク ラ ス	2Aクラス
開 講 期	後期	必修・選択の別	必修*
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	保育士資格 / 幼稚園教諭一種免許状		

ねらい（ 科目の性格 科目の概要 学修目標 ）

科目の性格

保育制度・政策は子どもを取り巻く社会の変化によって変わってくる。本科目は、保育制度・政策の歴史の変遷を学び、幼児教育に関する具体的内容・方法の理論を的確に理解するための基盤を築くことを目的とする。

科目の概要

保育について法や政策の観点からみることは、実際の社会的現実のなかで就学前教育が果たしている役割に目を向けることである。本授業では、保育制度の成り立ちについて、歴史の変遷、制度の背景にある社会的要請と保育観を踏まえながら、就学前教育の基本的課題について多角的かつ総合的に考察する。

学修目標

- 1 教育の基礎理論に関する科目として、保育制度・政策の動向を理解する。
- 2 保育制度の仕組みや社会的背景について認識を深め、現代の就学前教育を考察する視点を得る。

内容

- 第1回：今日における子どもの育ちについて考える
- 第2回：社会的営みとしての就学前教育 - わが国における保育制度の仕組み
- 第3回：幼児教育の歴史的系譜 幼稚園・保育所の誕生
- 第4回：幼児教育の歴史的系譜 就学前教育の制度と発展
- 第5回：幼児教育の歴史的系譜 認定こども園の誕生
- 第6回：近年の保育制度改革と保育政策の動向
- 第7回：教育基本法の基本理念と内容
- 第8回：教育基本法の改正及び教育関連法の改正
- 第9回：幼児教育の無償性と義務性
- 第10回：保育者の資質向上を目指す研修制度
- 第11回：子どもの最善の利益を保障する教育環境
- 第12回：近年の教育・保育に関する政策・施策
- 第13回：近年の教育・保育に関する政策・施策
- 第14回：人権教育にかかわる政策・施策
- 第15回：まとめ

評価

授業への取り組みと課題提出30%、最終試験の達成度70%によって評価し、60点以上を合格とする。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

<参考図書>

解説教育六法編集委員会『解説 教育六法』三省堂

子ども保育総合研究所『最新保育資料集』ミネルヴァ書房

科目名	保育制度・保育政策論		
担当教員名	岡上 直子		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部（J）-幼児教育学科		
学 年	2	ク ラ ス	2Bクラス
開 講 期	後期	必修・選択の別	必修*
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	保育士資格 / 幼稚園教諭一種免許状		

ねらい（ 科目の性格 科目の概要 学修目標 ）

科目の性格

保育制度・政策は子どもを取り巻く社会の変化によって変わってくる。本科目は、保育制度・政策の歴史の変遷を学び、幼児教育に関する具体的内容・方法の理論を的確に理解するための基盤を築くことを目的とする。

科目の概要

保育について法や政策の観点からみることは、実際の社会的現実のなかで就学前教育が果たしている役割に目を向けることである。本授業では、保育制度の成り立ちについて、歴史の変遷、制度の背景にある社会的要請と保育観を踏まえながら、就学前教育の基本的課題について多角的かつ総合的に考察する。

学修目標

- 1 教育の基礎理論に関する科目として、保育制度・政策の動向を理解する。
- 2 保育制度の仕組みや社会的背景について認識を深め、現代の就学前教育を考察する視点を得る。

内容

- 第1回：今日における子どもの育ちについて考える
- 第2回：社会的営みとしての就学前教育 - わが国における保育制度の仕組み
- 第3回：幼児教育の歴史的系譜 幼稚園・保育所の誕生
- 第4回：幼児教育の歴史的系譜 就学前教育の制度と発展
- 第5回：幼児教育の歴史的系譜 認定こども園の誕生
- 第6回：近年の保育制度改革と保育政策の動向
- 第7回：教育基本法の基本理念と内容
- 第8回：教育基本法の改正及び教育関連法の改正
- 第9回：幼児教育の無償性と義務性
- 第10回：保育者の資質向上を目指す研修制度
- 第11回：子どもの最善の利益を保障する教育環境
- 第12回：近年の教育・保育に関する政策・施策
- 第13回：近年の教育・保育に関する政策・施策
- 第14回：人権教育にかかわる政策・施策
- 第15回：まとめ

評価

授業への取り組みと課題提出30%、最終試験の達成度70%によって評価し、60点以上を合格とする。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

<参考図書>

解説教育六法編集委員会『解説 教育六法』三省堂

子ども保育総合研究所『最新保育資料集』ミネルヴァ書房

科目名	障害児保育		
担当教員名	山田 陽子		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部（J）-幼児教育学科		
学 年	2	ク ラ ス	1Aクラス
開 講 期	前期	必修・選択の別	必修*
授 業 形 態		単 位 数	1
資 格 関 係	保育士資格 / 幼稚園教諭一種免許状		

ねらい（ 科目の性格 科目の概要 学修目標 ）

科目の性質

この科目は、幼児教育学科の学科専門科目（必修科目）です。保育者は障害のある子どもを、保育所や幼稚園および療育施設で保育しています。障害のある子どもへの保育はその子どもをかけがえのない存在としてとらえ、その子らしく成長していくために必要な指導・援助を行うという意味において、基本は障害のない子どもの保育と同じです。この授業では、障害のある子どもに心から出会い、保育するための構えを作ります。

科目の概要

障害のある子どもにとってふさわしい保育ができるようになるために、障害児保育の歴史や現状を知り、さまざまな障害と保育についての知識を持ち、障害のある子どもと共に生きている他の子ども達や家族とのつながりへの配慮や援助のあり方を学びます。

学修目標

- ・さまざまな障害についての基礎知識と特別な配慮や援助の方法を理解する
- ・障害のある子どもとそうでない子どもが共に育ち合うための保育の方法を理解する
- ・障害児保育は保育者として各自が必ず取り組む保育であることを認識する

内容

1	障害児保育の目的
2	障害児保育の歴史
3	障害のある子どもの保育・療育施設での生活と保育
4	保育者の基本姿勢と保育実践の展開
5	さまざまな障害と保育（1）知的障害
6	さまざまな障害と保育（2）視覚障害・聴覚障害
7	さまざまな障害と保育（3）運動障害
8	さまざまな障害と保育（4）自閉性障害
9	さまざまな障害と保育（5）LDとADHD
10	障害児保育の現状と課題（1）保育所・幼稚園
11	障害児保育の現状と課題（2）療育施設
12	障害のある子どもとそうでない子どもとの育ち合いへの援助
13	障害のある子どもの両親や兄弟への援助
14	障害のある子どもに対する学校教育
15	まとめ

評価

学修目標に関するレポート（40点）と最終週の試験（50点）、さらに通常の授業態度（10点）を加味して総合的に評

値します。合格点を60点とし、合格点に満たなかった場合は再試験を実施します。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】近藤直子・白石正久・中村尚子編『新版テキスト障害児保育』全障研出版部

【推薦書】山田真『障害児保育－自立へ向かう一歩として－』創成社

毛利子来・山田真・野辺明子編著『障害を持つ子のいる暮らし』筑摩書房

科目名	障害児保育		
担当教員名	山田 陽子		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部 (J) - 幼児教育学科		
学 年	2	ク ラ ス	1Bクラス
開 講 期	前期	必修・選択の別	必修*
授 業 形 態		単 位 数	1
資 格 関 係	保育士資格 / 幼稚園教諭一種免許状		

ねらい (科目の性格 科目の概要 学修目標)

科目の性質

この科目は、幼児教育学科の学科専門科目（必修科目）です。保育者は障害のある子どもを、保育所や幼稚園および療育施設で保育しています。障害のある子どもへの保育はその子どもをかけがえのない存在としてとらえ、その子らしく成長していくために必要な指導・援助を行うという意味において、基本は障害のない子どもの保育と同じです。この授業では、障害のある子どもに心から出会い、保育するための構えを作ります。

科目の概要

障害のある子どもにとってふさわしい保育ができるようになるために、障害児保育の歴史や現状を知り、さまざまな障害と保育についての知識を持ち、障害のある子どもと共に生きている他の子ども達や家族とのつながりへの配慮や援助のあり方を学びます。

学修目標

- ・さまざまな障害についての基礎知識と特別な配慮や援助の方法を理解する
- ・障害のある子どもとそうでない子どもが共に育ち合うための保育の方法を理解する
- ・障害児保育は保育者として各自が必ず取り組む保育であることを認識する

内容

1	障害児保育の目的
2	障害児保育の歴史
3	障害のある子どもの保育・療育施設での生活と保育
4	保育者の基本姿勢と保育実践の展開
5	さまざまな障害と保育 (1) 知的障害
6	さまざまな障害と保育 (2) 視覚障害・聴覚障害
7	さまざまな障害と保育 (3) 運動障害
8	さまざまな障害と保育 (4) 自閉性障害
9	さまざまな障害と保育 (5) LDとADHD
10	障害児保育の現状と課題 (1) 保育所・幼稚園
11	障害児保育の現状と課題 (2) 療育施設
12	障害のある子どもとそうでない子どもとの育ち合いへの援助
13	障害のある子どもの両親や兄弟への援助
14	障害のある子どもに対する学校教育
15	まとめ

評価

学修目標に関するレポート (40点) と最終週の試験 (50点) 、さらに通常の授業態度 (10点) を加味して総合的に評

値します。合格点を60点とし、合格点に満たなかった場合は再試験を実施します。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】近藤直子・白石正久・中村尚子編『新版テキスト障害児保育』全障研出版部

【推薦書】山田真『障害児保育－自立へ向かう一歩として－』創成社

毛利子来・山田真・野辺明子編著『障害を持つ子のいる暮らし』筑摩書房

科目名	障害児保育		
担当教員名	山田 陽子		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部（J）-幼児教育学科		
学 年	2	ク ラ ス	10クラス
開 講 期	前期	必修・選択の別	必修*
授 業 形 態		単 位 数	1
資 格 関 係	保育士資格 / 幼稚園教諭一種免許状		

ねらい（ 科目の性格 科目の概要 学修目標）

科目の性質

この科目は、幼児教育学科の学科専門科目（必修科目）です。保育者は障害のある子どもを、保育所や幼稚園および療育施設で保育しています。障害のある子どもへの保育はその子どもをかけがえのない存在としてとらえ、その子らしく成長していくために必要な指導・援助を行うという意味において、基本は障害のない子どもの保育と同じです。この授業では、障害のある子どもに心から出会い、保育するための構えを作ります。

科目の概要

障害のある子どもにとってふさわしい保育ができるようになるために、障害児保育の歴史や現状を知り、さまざまな障害と保育についての知識を持ち、障害のある子どもと共に生きている他の子ども達や家族とのつながりへの配慮や援助のあり方を学びます。

学修目標

- ・さまざまな障害についての基礎知識と特別な配慮や援助の方法を理解する
- ・障害のある子どもとそうでない子どもが共に育ち合うための保育の方法を理解する
- ・障害児保育は保育者として各自が必ず取り組む保育であることを認識する

内容

1	障害児保育の目的
2	障害児保育の歴史
3	障害のある子どもの保育・療育施設での生活と保育
4	保育者の基本姿勢と保育実践の展開
5	さまざまな障害と保育（1）知的障害
6	さまざまな障害と保育（2）視覚障害・聴覚障害
7	さまざまな障害と保育（3）運動障害
8	さまざまな障害と保育（4）自閉性障害
9	さまざまな障害と保育（5）LDとADHD
10	障害児保育の現状と課題（1）保育所・幼稚園
11	障害児保育の現状と課題（2）療育施設
12	障害のある子どもとそうでない子どもとの育ち合いへの援助
13	障害のある子どもの両親や兄弟への援助
14	障害のある子どもに対する学校教育
15	まとめ

評価

学修目標に関するレポート（40点）と最終週の試験（50点）、さらに通常の授業態度（10点）を加味して総合的に評

値します。合格点を60点とし、合格点に満たなかった場合は再試験を実施します。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】近藤直子・白石正久・中村尚子編『新版テキスト障害児保育』全障研出版部

【推薦書】山田真『障害児保育－自立へ向かう一歩として－』創成社

毛利子来・山田真・野辺明子編著『障害を持つ子のいる暮らし』筑摩書房

科目名	障害児保育		
担当教員名	山田 陽子		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部（J）-幼児教育学科		
学 年	2	ク ラ ス	1Dクラス
開 講 期	前期	必修・選択の別	必修*
授 業 形 態		単 位 数	1
資 格 関 係	保育士資格 / 幼稚園教諭一種免許状		

ねらい（ 科目の性格 科目の概要 学修目標）

科目の性質

この科目は、幼児教育学科の学科専門科目（必修科目）です。保育者は障害のある子どもを、保育所や幼稚園および療育施設で保育しています。障害のある子どもへの保育はその子どもをかけがえのない存在としてとらえ、その子らしく成長していくために必要な指導・援助を行うという意味において、基本は障害のない子どもの保育と同じです。この授業では、障害のある子どもに心から出会い、保育するための構えを作ります。

科目の概要

障害のある子どもにとってふさわしい保育ができるようになるために、障害児保育の歴史や現状を知り、さまざまな障害と保育についての知識を持ち、障害のある子どもと共に生きている他の子ども達や家族とのつながりへの配慮や援助のあり方を学びます。

学修目標

- ・さまざまな障害についての基礎知識と特別な配慮や援助の方法を理解する
- ・障害のある子どもとそうでない子どもが共に育ち合うための保育の方法を理解する
- ・障害児保育は保育者として各自が必ず取り組む保育であることを認識する

内容

1	障害児保育の目的
2	障害児保育の歴史
3	障害のある子どもの保育・療育施設での生活と保育
4	保育者の基本姿勢と保育実践の展開
5	さまざまな障害と保育（1）知的障害
6	さまざまな障害と保育（2）視覚障害・聴覚障害
7	さまざまな障害と保育（3）運動障害
8	さまざまな障害と保育（4）自閉性障害
9	さまざまな障害と保育（5）LDとADHD
10	障害児保育の現状と課題（1）保育所・幼稚園
11	障害児保育の現状と課題（2）療育施設
12	障害のある子どもとそうでない子どもとの育ち合いへの援助
13	障害のある子どもの両親や兄弟への援助
14	障害のある子どもに対する学校教育
15	まとめ

評価

学修目標に関するレポート（40点）と最終週の試験（50点）、さらに通常の授業態度（10点）を加味して総合的に評

値します。合格点を60点とし、合格点に満たなかった場合は再試験を実施します。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】近藤直子・白石正久・中村尚子編『新版テキスト障害児保育』全障研出版部

【推薦書】山田真『障害児保育－自立へ向かう一歩として－』創成社

毛利子来・山田真・野辺明子編著『障害を持つ子のいる暮らし』筑摩書房

科目名	障害児保育		
担当教員名	権 明愛		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部 (J) - 幼児教育学科		
学 年	3	ク ラ ス	1Aクラス
開 講 期	前期	必修・選択の別	必修* , 選択
授 業 形 態		単 位 数	1
資 格 関 係	保育士資格 / 幼稚園教諭一種免許状		

ねらい (科目の性格 科目の概要 学修目標)

科目の性格

本科目は、保育資格を取得するための必要な科目である。本科目は、2年に開講した障害児保育 で学んだ知識を踏まえ、様々な障害についての理解を深め、子どもの理解や援助の基本について実際のかかわりのV T Rおよび事例を通して、実践的に学ぶ。

科目の概要

保育者として実践現場で出会う障害のある子ども一人ひとりをどう理解し、受けとめながら支援を進めていくかについて実践的に学ぶ。今まで学んだ障害児保育の知識を振り返りながら、適宜V T Rや臨床及び保育の事例を取り入れ、グループディスカッションを重ねながら受講生同士がお互いに学びを深めていく。

学修目標

- ・今まで学んだ様々な障害についての基礎知識を深めながら、障害のある子どもにとってどのような支援が大切かを考える。
- ・障害のある子どもの保育をどのように展開していくかを実際の具体的な事例を通して学ぶ。
- ・保育における計画作り、体制作り、諸機関との連携及び保護者支援について学ぶ。

内容

1	障害児保育の出発点と私たちが現場で出会う障害のある子どもたち
2	障害のある子どもの保育にかかわる現状と課題
3	様々な障害と保育 (1)
4	様々な障害と保育 (2)
5	事例検討 (1) 障害のある子どもの理解と保育
6	事例検討 (2) 障害のある子どもの理解と保育
7	事例検討 (3) 障害のある子どもの保育の記録・指導計画・評価
8	事例検討 (4) 障害のある子どもの保育の記録・指導計画・評価
9	子ども一人ひとりの発達を促す生活や遊びの環境
10	子ども同士のかかわりと育ち合い
11	保護者や家族に対する理解と支援
12	諸機関との連携
13	未就園児の受け入れと就学支援
14	障害とは何か、障害児保育で何が大切か
15	まとめ

評価

授業のノート(40点)とレポート(50)、さらに通常の授業態度(10)を加味して総合的に評価する。合格点を60

点とし、合格点に満たなかった場合は再試験を実施します。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】近藤直子・白石正久・中村尚子編『新版テキスト障害児保育』全障研出版部

【推薦書】授業中に紹介する。

科目名	障害児保育		
担当教員名	権 明愛		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部 (J) - 幼児教育学科		
学 年	3	ク ラ ス	1Bクラス
開 講 期	前期	必修・選択の別	必修* , 選択
授 業 形 態		単 位 数	1
資 格 関 係	保育士資格 / 幼稚園教諭一種免許状		

ねらい (科目の性格 科目の概要 学修目標)

科目の性格

本科目は、保育資格を取得するための必要な科目である。本科目は、2年に開講した障害児保育 で学んだ知識を踏まえ、様々な障害についての理解を深め、子どもの理解や援助の基本について実際のかかわりのV T Rおよび事例を通して、実践的に学ぶ。

科目の概要

保育者として実践現場で出会う障害のある子ども一人ひとりをどう理解し、受けとめながら支援を進めていくかについて実践的に学ぶ。今まで学んだ障害児保育の知識を振り返りながら、適宜V T Rや臨床及び保育の事例を取り入れ、グループディスカッションを重ねながら受講生同士がお互いに学びを深めていく。

学修目標

- ・今まで学んだ様々な障害についての基礎知識を深めながら、障害のある子どもにとってどのような支援が大切かを考える。
- ・障害のある子どもの保育をどのように展開していくかを実際の具体的な事例を通して学ぶ。
- ・保育における計画作り、体制作り、諸機関との連携及び保護者支援について学ぶ。

内容

1	障害児保育の出発点と私たちが現場で出会う障害のある子どもたち
2	障害のある子どもの保育にかかわる現状と課題
3	様々な障害と保育 (1)
4	様々な障害と保育 (2)
5	事例検討 (1) 障害のある子どもの理解と保育
6	事例検討 (2) 障害のある子どもの理解と保育
7	事例検討 (3) 障害のある子どもの保育の記録・指導計画・評価
8	事例検討 (4) 障害のある子どもの保育の記録・指導計画・評価
9	子ども一人ひとりの発達を促す生活や遊びの環境
10	子ども同士のかかわりと育ち合い
11	保護者や家族に対する理解と支援
12	諸機関との連携
13	未就園児の受け入れと就学支援
14	障害とは何か、障害児保育で何が大切か
15	まとめ

評価

授業のノート(40点)とレポート(50)、さらに通常の授業態度(10)を加味して総合的に評価する。合格点を60

点とし、合格点に満たなかった場合は再試験を実施します。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】近藤直子・白石正久・中村尚子編『新版テキスト障害児保育』全障研出版部

【推薦書】授業中に紹介する。

科目名	障害児保育		
担当教員名	権 明愛		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部（J）- 幼児教育学科		
学 年	3	ク ラ ス	1Cクラス
開 講 期	前期	必修・選択の別	必修* , 選択
授 業 形 態		単 位 数	1
資 格 関 係	保育士資格 / 幼稚園教諭一種免許状		

ねらい（ 科目の性格 科目の概要 学修目標 ）

科目の性格

本科目は、保育資格を取得するための必要な科目である。本科目は、2年に開講した障害児保育 で学んだ知識を踏まえ、様々な障害についての理解を深め、子どもの理解や援助の基本について実際のかかわりのV T Rおよび事例を通して、実践的に学ぶ。

科目の概要

保育者として実践現場で出会う障害のある子ども一人ひとりをどう理解し、受けとめながら支援を進めていくかについて実践的に学ぶ。今まで学んだ障害児保育の知識を振り返りながら、適宜V T Rや臨床及び保育の事例を取り入れ、グループディスカッションを重ねながら受講生同士がお互いに学びを深めていく。

学修目標

- ・今まで学んだ様々な障害についての基礎知識を深めながら、障害のある子どもにとってどのような支援が大切かを考える。
- ・障害のある子どもの保育をどのように展開していくかを実際の具体的な事例を通して学ぶ。
- ・保育における計画作り、体制作り、諸機関との連携及び保護者支援について学ぶ。

内容

1	障害児保育の出発点と私たちが現場で出会う障害のある子どもたち
2	障害のある子どもの保育にかかわる現状と課題
3	様々な障害と保育（1）
4	様々な障害と保育（2）
5	事例検討（1）障害のある子どもの理解と保育
6	事例検討（2）障害のある子どもの理解と保育
7	事例検討（3）障害のある子どもの保育の記録・指導計画・評価
8	事例検討（4）障害のある子どもの保育の記録・指導計画・評価
9	子ども一人ひとりの発達を促す生活や遊びの環境
10	子ども同士のかかわりと育ち合い
11	保護者や家族に対する理解と支援
12	諸機関との連携
13	未就園児の受け入れと就学支援
14	障害とは何か、障害児保育で何が大切か
15	まとめ

評価

授業のノート(40点)とレポート(50)、さらに通常の授業態度(10)を加味して総合的に評価する。合格点を60

点とし、合格点に満たなかった場合は再試験を実施します。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】近藤直子・白石正久・中村尚子編『新版テキスト障害児保育』全障研出版部

【推薦書】授業中に紹介する。

科目名	障害児保育		
担当教員名	権 明愛		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部 (J) - 幼児教育学科		
学 年	3	ク ラ ス	1Dクラス
開 講 期	前期	必修・選択の別	必修* , 選択
授 業 形 態		単 位 数	1
資 格 関 係	保育士資格 / 幼稚園教諭一種免許状		

ねらい (科目の性格 科目の概要 学修目標)

科目の性格

本科目は、保育資格を取得するための必要な科目である。本科目は、2年に開講した障害児保育 で学んだ知識を踏まえ、様々な障害についての理解を深め、子どもの理解や援助の基本について実際のかかわりのV T Rおよび事例を通して、実践的に学ぶ。

科目の概要

保育者として実践現場で出会う障害のある子ども一人ひとりをどう理解し、受けとめながら支援を進めていくかについて実践的に学ぶ。今まで学んだ障害児保育の知識を振り返りながら、適宜V T Rや臨床及び保育の事例を取り入れ、グループディスカッションを重ねながら受講生同士がお互いに学びを深めていく。

学修目標

- ・今まで学んだ様々な障害についての基礎知識を深めながら、障害のある子どもにとってどのような支援が大切かを考える。
- ・障害のある子どもの保育をどのように展開していくかを実際の具体的な事例を通して学ぶ。
- ・保育における計画作り、体制作り、諸機関との連携及び保護者支援について学ぶ。

内容

1	障害児保育の出発点と私たちが現場で出会う障害のある子どもたち
2	障害のある子どもの保育にかかわる現状と課題
3	様々な障害と保育 (1)
4	様々な障害と保育 (2)
5	事例検討 (1) 障害のある子どもの理解と保育
6	事例検討 (2) 障害のある子どもの理解と保育
7	事例検討 (3) 障害のある子どもの保育の記録・指導計画・評価
8	事例検討 (4) 障害のある子どもの保育の記録・指導計画・評価
9	子ども一人ひとりの発達を促す生活や遊びの環境
10	子ども同士のかかわりと育ち合い
11	保護者や家族に対する理解と支援
12	諸機関との連携
13	未就園児の受け入れと就学支援
14	障害とは何か、障害児保育で何が大切か
15	まとめ

評価

授業のノート(40点)とレポート(50)、さらに通常の授業態度(10)を加味して総合的に評価する。合格点を60

点とし、合格点に満たなかった場合は再試験を実施します。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】近藤直子・白石正久・中村尚子編『新版テキスト障害児保育』全障研出版部

【推薦書】授業中に紹介する。

科目名	保育・教育課程論		
担当教員名	山田 陽子		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部 (J) - 幼児教育学科		
学 年	3	ク ラ ス	1Aクラス
開 講 期	前期	必修・選択の別	選択, 必修*
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	保育士資格 / 幼稚園教諭一種免許状		

ねらい (科目の性格 科目の概要 学修目標)

保育・幼児教育におけるカリキュラムの基礎理論をとおして教育課程・保育課程の意義や役割を理解し、保育内容の充実と質の向上のための計画及び評価の重要性とその方法について学びます。この科目は幼稚園教諭免許状取得のための必修科目であり、これまでに履修した授業内容を踏まえて受講することで学びが深まります。また、3～4年生の実習は実践を行う際に身に付けるべき専門的な保育の視点と実践力の獲得につながります。

本講義を通して、教育課程・保育課程の編成と実際並びに子どもの発達の過程と保育の流れについて、様々な資料や事例を元に学び、理解を深めます。その上で保育実習記録の振り返りや指導計画の作成を試み、グループワークや発表を経験することで実践的に学び、保育における子どもの実態の把握 計画 実践－省察・評価の過程を理解していきます。

内容

1	保育・幼児教育の基本と保育カリキュラムの基礎理論
2	日々の保育における遊び・学びの理解と保育者の指導・援助
3	幼稚園教育要領・保育所保育指針の内容とその変遷
4	教育課程・保育課程の編成と実際
5	保育所及び保育所以外の児童福祉施設における計画と評価の意義
6	幼稚園における計画と評価の意義
7	指導計画 (長期的・短期的) の作成と作成上の留意事項
8	保育における記録と省察
9	演習 (1) 記録の実践
10	演習 (2) 指導計画作成
11	演習 (3) グループワークと発表
12	演習 (4) グループワークと発表
13	保育における子ども理解と評価
14	生活と発達の連続性、幼保小の連携
15	まとめ

評価

授業参加度および態度 (30点)、授業時のグループ活動 (20点)、提出課題 (50点) による評価を行い、60点以上を合格とします。合格点に満たなかった場合は再試験を実施します。

教科書・推薦書 (著者名・書名・出版社名)

【教科書】神長美津子・塩谷香 (編者) 「教育課程・保育課程論」光生館

【推薦書】幼児理解と評価 文部科学省 ぎょうせい

幼稚園教育要領解説書 文部科学省 フレーベル館

科目名	保育・教育課程論		
担当教員名	山田 陽子		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部 (J) - 幼児教育学科		
学 年	3	ク ラ ス	1Bクラス
開 講 期	前期	必修・選択の別	必修*, 選択
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	保育士資格 / 幼稚園教諭一種免許状		

ねらい (科目の性格 科目の概要 学修目標)

保育・幼児教育におけるカリキュラムの基礎理論をとおして教育課程・保育課程の意義や役割を理解し、保育内容の充実と質の向上のための計画及び評価の重要性とその方法について学びます。この科目は幼稚園教諭免許状取得のための必修科目であり、これまでに履修した授業内容を踏まえて受講することで学びが深まります。また、3～4年生の実習は実践を行う際に身に付けるべき専門的な保育の視点と実践力の獲得につながります。

本講義を通して、教育課程・保育課程の編成と実際並びに子どもの発達の過程と保育の流れについて、様々な資料や事例を元に学び、理解を深めます。その上で保育実習記録の振り返りや指導計画の作成を試み、グループワークや発表を経験することで実践的に学び、保育における子どもの実態の把握 計画 実践-省察・評価の過程を理解していきます。

内容

1	保育・幼児教育の基本と保育カリキュラムの基礎理論
2	日々の保育における遊び・学びの理解と保育者の指導・援助
3	幼稚園教育要領・保育所保育指針の内容とその変遷
4	教育課程・保育課程の編成と実際
5	保育所及び保育所以外の児童福祉施設における計画と評価の意義
6	幼稚園における計画と評価の意義
7	指導計画 (長期的・短期的) の作成と作成上の留意事項
8	保育における記録と省察
9	演習 (1) 記録の実践
10	演習 (2) 指導計画作成
11	演習 (3) グループワークと発表
12	演習 (4) グループワークと発表
13	保育における子ども理解と評価
14	生活と発達の連続性、幼保小の連携
15	まとめ

評価

授業参加度および態度 (30点)、授業時のグループ活動 (20点)、提出課題 (50点) による評価を行い、60点以上を合格とします。合格点に満たなかった場合は再試験を実施します。

教科書・推薦書 (著者名・書名・出版社名)

【教科書】神長美津子・塩谷香 (編者) 「教育課程・保育課程論」光生館

【推薦書】幼児理解と評価 文部科学省 ぎょうせい

幼稚園教育要領解説書 文部科学省 フレーベル館

科目名	保育計画		
担当教員名	槇谷 厚子		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部 (J) - 幼児教育学科		
学 年	3	ク ラ ス	
開 講 期	後期	必修・選択の別	選択, 必修*
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	保育士資格 / 幼稚園教諭一種免許状		

ねらい (科目の性格 科目の概要 学修目標)

幼児期における教育は、生涯にわたる人間形成の基礎を培うためにとても大切です。幼稚園・保育園は幼児にとって初めての集団生活であり、そこで一人ひとりの成長を願い、共に生活する保育者の役割はきわめて重要です。その役割を確かめ、幼児期にふさわしい生活を支え、一人ひとりの発達に即した援助ができる保育者のあり方を考えます。

また、幼稚園現場の新鮮な話題や、具体的な日常もたくさん伝えていきたいと思っています。現場を身近に感じ、保育を自分自身の問題として捉え、各自が自分なりの保育観を描いていかれるように授業を進めていきます。

内容

講義だけでなく、自分の園の映像を紹介しながら授業を進めたり、授業の終わりに絵本を紹介したり、子どもたちの好きなうたや踊りを一緒に楽しんだりすることも計画しています。

また毎回の授業の終わりに小レポートを提出していただきますが、自分の小さい頃を思い出したり、自分の今の思いをまとめたり、ひとつのテーマについてじっくり考えたりする良い機会になっているようです。

1	幼稚園ってどんなところ？ どんな保育者になりたい？
2	安心して自分らしく過ごすことの大切さについて
3	“遊び”について考えましょう
4	三歳児入園当初の映像を見て考えましょう
5	人とのかわりについて、トラブルの大切さについて
6	行事について考えましょう・・・行事は生活に変化や潤いを与える・・・はず
7	“運動会”の映像を見て、いろいろなことを感じ、考えましょう
8	一人ひとりの成長をどう捉えていくか考えましょう 皆さんで歌いましょう！
9	“しつけ”について考えましょう・・・皆さんの規範意識は？
10	子育てについて・・・今のお母さんたちの思いに心を寄せましょう
11	自分の“幸せ体験”について考えましょう・・・今の子どもたちの“幸せ体験”は？
12	日常の遊びから行事へ
13	“みんなで楽しく音楽会”の映像を見て、いろいろなことを感じ、考えましょう。
14	いろいろな子がいる・・・“みんなちがってみんないい”
15	個の成長が、集団の成長へ、再びどんな保育者になりたい？ 皆さんで歌って踊りましょう！

評価

授業の終わりの小レポート (50%) レポート (50%) により評価を行い、60点以上を合格とする

教科書・推薦書 (著者名・書名・出版社名)

(参考図書) 『幼稚園教育要領解説』文部科学省

科目名	教育方法		
担当教員名	星野 敦子		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部（J）- 幼児教育学科		
学 年	2	ク ラ ス	1Aクラス
開 講 期	前期	必修・選択の別	必修* , 選択
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	保育士資格 / 幼稚園教諭一種免許状		

ねらい（ 科目の性格 科目の概要 学修目標 ）

本科目は、幼児教育現場において必要とされる教育方法理論の基礎知識の獲得を目的としている。特に、子ども観、教育制度およびカリキュラムの変遷と教育方法理論との関係を的確に捉えることとで、より幅広い学習を目指す。

内容

- 1 教育の目的と方法
- 2 教育課程の類型：教科主義と開発主義
- 3 カリキュラムの構成要素
- 4 教育方法の歴史的変遷（1）教科主義的カリキュラムと教育方法
- 5 教育方法の歴史的変遷（2）経験主義的カリキュラムと教育方法
- 6 教育方法の歴史的変遷（3）近代の教育カリキュラムと教育方法
- 7 わが国における教育方法の歴史的変遷
- 8 いろいろな教授法（1）学習集団と教授法
- 9 いろいろな教授法（2）教材開発と教具の利用
- 10 いろいろな教授法（2）新しい教授法
- 10 学習指導の技術
- 11・12 学習指導要領の変遷（1）歴史的変遷
- 13 学習指導要領の変遷（2）現行指導要領の特徴
- 14 世界のカリキュラム改革
- 15 まとめ

プレゼンテーションにあわせた資料プリントを毎回配布する。

毎時間課題プリントを実施する。

評価

評価は、以下の2点を総合して行う

- 1 授業ごとの課題提出（30%）
- 2 最終試験の達成度（70%）

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

初回の授業で指示する

科目名	教育方法		
担当教員名	岡上 直子		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部（J）-幼児教育学科		
学 年	2	ク ラ ス	1Bクラス
開 講 期	前期	必修・選択の別	選択, 必修*
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	保育士資格 / 幼稚園教諭一種免許状		

ねらい（ 科目の性格 科目の概要 学修目標 ）

科目の性格

本科目は、幼児教育現場において必要とされる教育方法理論の基礎知識の獲得を目的としている。特に、子ども観、教育制度およびカリキュラムの変遷と教育方法理論との関係を的確に捉えることで、より幅広い学修を目指す。

科目の概要

現代の教育現場で実践されている教育方法の基礎理論について、歴史的見解から学ぶとともに、教育機器の活用や教材開発、および現代の教育課題への対応についても具体的な事例に基づいて取り扱う。

学修目標

- ・教育方法の歴史的変遷から、幼児教育の特性と具体的な指導の在り方について学ぶ。
- ・教育機器、教材、教具の活用などを中心に、実践的な知識と技能を養う。
- ・様々な教育課題に対応するための基礎知識を獲得する。

内容

- 1 教育の目的と方法
- 2 カリキュラムの構成要素、幼稚園教育要領の特徴と教育方法
- 3 教育方法の歴史的変遷
- 4 わが国における教育方法の歴史的変遷
- 5 教育課程と指導計画
- 6 いろいろな指導方法（1）指導形態と教師の役割
- 7 いろいろな指導方法（2）新しい指導方法の開発
- 8 いろいろな指導方法（3）教材開発と教具の活用
- 9 学級集団と学級経営
- 10 教育機器の活用と情報化への対応
- 11 特別支援教育の園内体制と学級経営
- 12 教育評価の理論と実際
- 13 教育課題への対応（1）幼小の連携・交流の具体的方法
- 14 教育課題への対応（2）多文化社会への配慮と方策
- 15 まとめ

評価

授業への取り組みと課題提出（30%）、最終試験の達成度（70%）で評価し、60点以上を合格とする。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

特に定めない

科目名	乳児保育		
担当教員名	川喜田 昌代		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部（J）-幼児教育学科		
学 年	2	ク ラ ス	2Aクラス
開 講 期	後期	必修・選択の別	必修*,選択
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	保育士資格		

ねらい（ 科目の性格 科目の概要 学修目標 ）

科目の性格 保育士資格に必要とされる専門科目である。乳児全般の基礎と保育について学び、より専門性を高めるための「乳児保育」の科目の基盤となる。

科目の概要 この科目は3歳未満児を保育対象とする科目である。子どもが育つ原点は、乳児期にある。出生後のこの時期にどのような保育を受けるかということが、子どもの育ちに大きく影響する。故に乳児保育は最も重要な時期を対象とすることになる。乳児保育は、保育所保育指針解説書において「生命の保持」とともに「情緒的な絆」の大切さが詳細に言及され、乳児期の保育の焦点がより明確となった。授業では、まずこの点について学ぶ。また「職員の資質向上」も告示化の対象となっていることを踏まえ、乳児保育において必要な基礎知識を学習し、より専門的な視点で子どもにかかわることができるような授業内容である。

学習目標 現在、社会問題となっている虐待等の子どもの成育環境のさまざまな課題をも踏まえ、望ましい乳児保育の在り方を明確にし、必要とされる子どもの見方や捉え方、知識、保育者のあり方を身につけていくことを目標とする。

内容

1	乳児保育オリエンテーション
2	乳児保育の保育ニーズ
3	乳児保育の考え方の基本
4	乳児保育の意義（現代の社会環境・乳児保育の必要性）
5	乳児の発達と保育 0歳児の発達と保育配慮
6	乳児の発達と保育 1、2歳児の発達と保育配慮
7	生活リズム（睡眠覚醒・摂食・排泄・活動性リズム）とデイリープログラムにおける配慮
8	乳児保育の環境 人的環境（保育者像）
9	乳児保育の環境 物的環境
10	乳児保育の計画・記録・評価
11	乳児保育の保育形態とカリキュラム（遊びの発達と保育）
12	保育における連携（保護者・他機関・家庭）
13	育ちが気になる（事例検討）
14	総合学習
15	まとめ

評価

積極的な講義参加を期待する。講義に臨む積極性も評価対象の考慮とする。

出席に関しては、履修する学生各自が責任をもって管理すること。

正式な評価は、項目ごとの小レポート及び、全講義終了後の総合学習試験による。

講義への参加姿勢および小レポート30%、テスト70%により評価を行い、合格点に満たない場合は再試験とする。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】

阿部和子編著 「演習 乳児保育の基本」萌文書林

民秋 言編著 「幼稚園教育要領・保育所保育指針の成立と変遷」 萌文書林

【参考図書】その他、適宜紹介。

科目名	乳児保育		
担当教員名	川喜田 昌代		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部（J）-幼児教育学科		
学 年	2	ク ラ ス	2Bクラス
開 講 期	後期	必修・選択の別	選択, 必修*
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	保育士資格		

ねらい（ 科目の性格 科目の概要 学修目標 ）

科目の性格 保育士資格に必要とされる専門科目である。乳児全般の基礎と保育について学び、より専門性を高めるための「乳児保育」の科目の基盤となる。

科目の概要 この科目は3歳未満児を保育対象とする科目である。子どもが育つ原点は、乳児期にある。出生後のこの時期にどのような保育を受けるかということが、子どもの育ちに大きく影響する。故に乳児保育は最も重要な時期を対象とすることになる。乳児保育は、保育所保育指針解説書において「生命の保持」とともに「情緒的な絆」の大切さが詳細に言及され、乳児期の保育の焦点がより明確となった。授業では、まずこの点について学ぶ。また「職員の資質向上」も告示化の対象となっていることを踏まえ、乳児保育において必要な基礎知識を学習し、より専門的な視点で子どもにかかわることができるような授業内容である。

学習目標 現在、社会問題となっている虐待等の子どもの成育環境のさまざまな課題をも踏まえ、望ましい乳児保育の在り方を明確にし、必要とされる子どもの見方や捉え方、知識、保育者のあり方を身につけていくことを目標とする。

内容

1	乳児保育オリエンテーション
2	乳児保育の保育ニーズ
3	乳児保育の考え方の基本
4	乳児保育の意義（現代の社会環境・乳児保育の必要性）
5	乳児の発達と保育 0歳児の発達と保育配慮
6	乳児の発達と保育 1、2歳児の発達と保育配慮
7	生活リズム（睡眠覚醒・摂食・排泄・活動性リズム）とデイリープログラムにおける配慮
8	乳児保育の環境 人的環境（保育者像）
9	乳児保育の環境 物的環境
10	乳児保育の計画・記録・評価
11	乳児保育の保育形態とカリキュラム（遊びの発達と保育）
12	保育における連携（保護者・他機関・家庭）
13	育ちが気になる（事例検討）
14	総合学習
15	まとめ

評価

積極的な講義参加を期待する。講義に臨む積極性も評価対象の考慮とする。

出席に関しては、履修する学生各自が責任をもって管理すること。

正式な評価は、項目ごとの小レポート及び、全講義終了後の総合学習試験による。

講義への参加姿勢および小レポート30%、テスト70%により評価を行い、合格点に満たない場合は再試験とする。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】

阿部和子編著 「演習 乳児保育の基本」萌文書林

民秋 言編著 「幼稚園教育要領・保育所保育指針の成立と変遷」 萌文書林

【参考図書】その他、適宜紹介。

科目名	乳児保育		
担当教員名	川喜田 昌代		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部（J）-幼児教育学科		
学 年	2	ク ラ ス	2Cクラス
開 講 期	後期	必修・選択の別	選択, 必修*
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	保育士資格		

ねらい（ 科目の性格 科目の概要 学修目標 ）

科目の性格 保育士資格に必要とされる専門科目である。乳児全般の基礎と保育について学び、より専門性を高めるための「乳児保育」の科目の基盤となる。

科目の概要 この科目は3歳未満児を保育対象とする科目である。子どもが育つ原点は、乳児期にある。出生後のこの時期にどのような保育を受けるかということが、子どもの育ちに大きく影響する。故に乳児保育は最も重要な時期を対象とすることになる。乳児保育は、保育所保育指針解説書において「生命の保持」とともに「情緒的な絆」の大切さが詳細に言及され、乳児期の保育の焦点がより明確となった。授業では、まずこの点について学ぶ。また「職員の資質向上」も告示化の対象となっていることを踏まえ、乳児保育において必要な基礎知識を学習し、より専門的な視点で子どもにかかわることができるような授業内容である。

学習目標 現在、社会問題となっている虐待等の子どもの成育環境のさまざまな課題をも踏まえ、望ましい乳児保育の在り方を明確にし、必要とされる子どもの見方や捉え方、知識、保育者のあり方を身につけていくことを目標とする。

内容

1	乳児保育オリエンテーション
2	乳児保育の保育ニーズ
3	乳児保育の考え方の基本
4	乳児保育の意義（現代の社会環境・乳児保育の必要性）
5	乳児の発達と保育 0歳児の発達と保育配慮
6	乳児の発達と保育 1、2歳児の発達と保育配慮
7	生活リズム（睡眠覚醒・摂食・排泄・活動性リズム）とデイリープログラムにおける配慮
8	乳児保育の環境 人的環境（保育者像）
9	乳児保育の環境 物的環境
10	乳児保育の計画・記録・評価
11	乳児保育の保育形態とカリキュラム（遊びの発達と保育）
12	保育における連携（保護者・他機関・家庭）
13	育ちが気になる（事例検討）
14	総合学習
15	まとめ

評価

積極的な講義参加を期待する。講義に臨む積極性も評価対象の考慮とする。

出席に関しては、履修する学生各自が責任をもって管理すること。

正式な評価は、項目ごとの小レポート及び、全講義終了後の総合学習試験による。

講義への参加姿勢および小レポート30%、テスト70%により評価を行い、合格点に満たない場合は再試験とする。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】

阿部和子編著 「演習 乳児保育の基本」萌文書林

民秋 言編著 「幼稚園教育要領・保育所保育指針の成立と変遷」 萌文書林

【参考図書】その他、適宜紹介。

科目名	乳児保育		
担当教員名	川喜田 昌代		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部（J）-幼児教育学科		
学 年	2	ク ラ ス	2Dクラス
開 講 期	後期	必修・選択の別	選択, 必修*
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	保育士資格		

ねらい（ 科目の性格 科目の概要 学修目標 ）

科目の性格 保育士資格に必要とされる専門科目である。乳児全般の基礎と保育について学び、より専門性を高めるための「乳児保育」の科目の基盤となる。

科目の概要 この科目は3歳未満児を保育対象とする科目である。子どもが育つ原点は、乳児期にある。出生後のこの時期にどのような保育を受けるかということが、子どもの育ちに大きく影響する。故に乳児保育は最も重要な時期を対象とすることになる。乳児保育は、保育所保育指針解説書において「生命の保持」とともに「情緒的な絆」の大切さが詳細に言及され、乳児期の保育の焦点がより明確となった。授業では、まずこの点について学ぶ。また「職員の資質向上」も告示化の対象となっていることを踏まえ、乳児保育において必要な基礎知識を学習し、より専門的な視点で子どもにかかわることができるような授業内容である。

学習目標 現在、社会問題となっている虐待等の子どもの成育環境のさまざまな課題をも踏まえ、望ましい乳児保育の在り方を明確にし、必要とされる子どもの見方や捉え方、知識、保育者のあり方を身につけていくことを目標とする。

内容

1	乳児保育オリエンテーション
2	乳児保育の保育ニーズ
3	乳児保育の考え方の基本
4	乳児保育の意義（現代の社会環境・乳児保育の必要性）
5	乳児の発達と保育 0歳児の発達と保育配慮
6	乳児の発達と保育 1、2歳児の発達と保育配慮
7	生活リズム（睡眠覚醒・摂食・排泄・活動性リズム）とデイリープログラムにおける配慮
8	乳児保育の環境 人的環境（保育者像）
9	乳児保育の環境 物的環境
10	乳児保育の計画・記録・評価
11	乳児保育の保育形態とカリキュラム（遊びの発達と保育）
12	保育における連携（保護者・他機関・家庭）
13	育ちが気になる（事例検討）
14	総合学習
15	まとめ

評価

積極的な講義参加を期待する。講義に臨む積極性も評価対象の考慮とする。

出席に関しては、履修する学生各自が責任をもって管理すること。

正式な評価は、項目ごとの小レポート及び、全講義終了後の総合学習試験による。

講義への参加姿勢および小レポート30%、テスト70%により評価を行い、合格点に満たない場合は再試験とする。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】

阿部和子編著 「演習 乳児保育の基本」萌文書林

民秋 言編著 「幼稚園教育要領・保育所保育指針の成立と変遷」 萌文書林

【参考図書】その他、適宜紹介。

科目名	乳児保育		
担当教員名	川喜田 昌代		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部（J）-幼児教育学科		
学 年	3	ク ラ ス	1Aクラス
開 講 期	前期	必修・選択の別	選択
授 業 形 態		単 位 数	1
資 格 関 係	保育士資格		

ねらい（ 科目の性格 科目の概要 学修目標 ）

科目の性格 乳児保育 を基礎とする。乳児保育を深めるための科目である。

科目の概要 現在、乳児保育を行う保育現場では、さまざまな問題を抱えている。発達障害の可能性が見られるような「抱っこを嫌がる乳児」「睡眠が安定しない乳児」「排泄への拘りが強い乳幼児」「不安定な乳児」「言葉の発達の遅れ」、また「虐待の可能性のある乳児」「病児への対応」「保護者対応」等である。これらの現状を学び、その保育について研鑽する。

学修目標 子どもひとり一人を大切にする保育の在り方を模索する過程で、学生自身の乳児保育観を構築していくことを目的とする。また、乳児及び3歳未満児保育の中で学生自らがテ - マを選択し、学生自身の意欲に基づいて、自ら具体的に学ぶ - すなわち、保育課題に対する追求方法についても学ぶことを目標とする。

内容

保育現場の実践例からの「事例研究」及び、個人・グル - プにおける「テ - マ研究」の選択から分析まで、学生の主体性を尊重する。可能な限り、授業で提供される事例のみではなく、学生自身の乳児との体験や自分の乳児期の成育歴等、各自の体験の中から研究をすすめたい。この授業では、乳児の捉え方、課題の設定、研究の進め方、分析方法、研究結果の整理方法等を具体的に学習する。

また、乳児の映像等を活用して、乳児の心理や発達状況を捉える演習も行う。

評価

選択科目である以上、積極的な参加を期待する。

評価は、学生自身の積極性及び、研究発表や討論の内容による。

出欠席に関しては、履修する学生各自が責任をもって管理すること。

毎日のコメント及びレポートを各々50%により評価を行い、総合点60点以上を合格とする。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】必要に応じて適宜紹介する。

科目名	乳児保育		
担当教員名	帆足 暁子		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部（J）-幼児教育学科		
学 年	3	ク ラ ス	1Bクラス
開 講 期	前期	必修・選択の別	選択
授 業 形 態		単 位 数	1
資 格 関 係	保育士資格		

ねらい（ 科目の性格 科目の概要 学修目標 ）

科目の性格 乳児保育 を基礎とする。乳児保育を深めるための科目である。

科目の概要 現在、乳児保育を行う保育現場では、さまざまな問題を抱えている。発達障害の可能性が見られるような「抱っこを嫌がる乳児」「睡眠安定しない乳児」「排泄への拘りが強い乳幼児」「不安定な乳児」「言葉の発達の遅れ」また「虐待の可能性のある乳児」「病児への対応」「保護者対応」等である。これらの現状を学び、その保育について研鑽する。

学修目標 子どもひとり一人を大切にする保育のあり方を模索する過程で、学生自身の乳児保育観を構築していくことを目的とする。また、乳児及び3歳未満児保育の中で学生自らがテーマを選択肢、学生自身の意欲に基づいて、自ら具体的に学ぶ - すなわち、保育課題に対する追求方法についても学ぶことを目標とする。

内容

保育現場の実践例からの「事例研究」及び個人グループにおける「テーマ研究」の選択から分析まで、がくせいの主体性を尊重する。可能な限り、授業で提供される事例のみではなく、学生自身の乳児との体験や自分の乳児期の成育歴等、各自の体験の中から研究をすすめたい。この授業では、乳児の捉え方、分析方法、研究結果の整理方法等を具体的に学習する。

また、乳児の映像等を活用して、乳児の心理や発達状況を捉える演習も行う。

1	乳児保育 オリエンテーション
2	愛着の意義・愛着の関係性障害
3	乳児院事例から子どもにとっての愛着と保育者にとっての愛着についての考察
4	乳児保育担当者である新卒保育者の保育日誌検討
5	保育実践事例討議(グループ)
6	討議発表(グループ)
7	発達障害・気になる子どもの乳児の特徴と対応
8	子ども虐待の特徴と対応
9	保護者支援
10	子どもの気質・新生児の行動変容と保育
11	連絡帳の意義と書き方の留意点
12	乳児クラスのけんか場面の保育分析
13	乳児院の現状と課題
14	医療保育の現状と課題
15	乳児保育 総括

評価

選択科目である以上、積極的な参加を期待する。

評価は、学生自身の積極性及び、研究発表や討議の内容による。

出欠席に関しては、履修する学生各自が責任をもって管理すること。

毎日のコメント及びレポートを各々50%により評価を行い、総合点60点以上を合格とする。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

教科書等は、必要に応じて適宜紹介する。

科目名	多文化保育論		
担当教員名	大和 洋子		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部 (J) - 幼児教育学科		
学 年	3	ク ラ ス	
開 講 期	後期	必修・選択の別	選択
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	保育士資格		

ねらい (科目の性格 科目の概要 学修目標)

この科目は、保育士・幼稚園教諭として現場に勤める予定の学生を想定した授業です。ディスカッションやミニ発表を含みますので、積極的な姿勢を期待しています。

- 1、日本における多文化の歴史とその変遷を理解します。
- 2、日本の多文化地域の教育実践例を取り上げながら、現状を把握することに努めます。特にアジア諸地域の保育・幼児教育を理解し、その地域から日本に移住した家族が体験するであろう問題点、及びそのような子どもを受け入れた施設側が直面するであろう困難点を予測し、解決策を探ります。
- 3、世界の多文化共生社会の教育現場での取り組みを学習します。

保育者として現場で多文化からくる困難に直面した際に、自分の文化的背景を当然の前提として解決策を探らず、適切な対処を考えられるようにします。

内容

本講座は聴講だけでなく、学生の積極的な発言や発表を期待しています。様々なビデオを鑑賞しますが、そのあとにディスカッションやグループワークも取り入れます。聴講生の人数により、単独ないしグループで教科書 (或いは教科書にない) 国・地域の調べ学習分担地域を決め、ミニ発表の時間を設けます。

まず、文化とは何か、差別とは何か、なぜ差別がなぜ起こるのか、なぜ多文化教育が必要なのか、という基本的なところから学習します。

前半では日本の多文化教育の歴史を追いながら、社会の変遷を学習し、後半では世界諸地域の多文化共生の取り組みを学習していきます。

指定教科書以外に、文献や資料を適宜配布し、それに基づいて授業を進めます。

評価

ほぼ毎回ミニレポートを提出してもらいます。その積み重ねを評価に加算します。試験は学期末レポートです。ミニレポート + 学期末レポート + クラスでの貢献度で総合的に評価します。

教科書・推薦書 (著者名・書名・出版社名)

教科書：泉千勢・一見真理子・汐見稔幸編著 (2006) 『世界の幼児教育・保育改革と学力』明石書店 ￥2600

参考図書：山田千明編著 (2006) 『多文化に生きる子供たち 乳幼児期からの異文化間教育』明石書店 ￥2600

OECD編著 星三和子・首藤美香子・大和洋子・一見真理子訳 『OECD保育白書 人生の始まりこそ力強く：乳幼児期の教育とケア (ECEC) の国際比較』明石書店 ￥7600

科目名	保育学		
担当教員名	上垣内 伸子		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部 (J) - 幼児教育学科		
学 年	3	ク ラ ス	
開 講 期	前期	必修・選択の別	選択
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係			

ねらい (科目の性格 科目の概要 学修目標)

科目の性格

この科目は、幼児教育学科の学科専門科目です。幼児教育学の中でさらにこの専門領域について追究し専門性を深めていくことを希望する学生を対象としています。ここでの学びが卒業研究に続いていきます。

科目の概要

現在の子どものおかれている社会環境のもとで、保育の場に何が求められているのかについて考え、各自の保育観づくりに役立つことを目的とする科目です。

保育の基礎となる発達理論について、その概念を抑え、保育という窓からどのようにとらえられるのか、それら発達理論を踏まえて保育をどのように展開していくのかについて、これまで学習してきた保育の知識と実習体験を生かしながら考えていきます。

資料や映像等を用いて、具体的な保育実践を通して保育を考えていきたいと思います。

学修目標

- ・自分の保育実践を省察し子ども理解を深める
- ・保育者に求められる多様な役割を構造化してとらえる。
- ・1年間の保育の流れや卒園までの発達の経過を構造化してとらえる。
- ・自分の保育実践に新たな視点を加えることを目指す。

内容

1	保育とは
2	子どもと保育者 (大人) の関係
3	自発的な活動としての遊び
4	愛着理論について理解する
5	愛着理論を保育の営みの中でとらえる
6	愛着理論を踏まえた保育援助の在り方について考える
7	アフォーダンスについて理解する
8	「環境を通しての保育」とアフォーダンス
9	アフォーダンスを踏まえた環境構成の在り方について考える
10	アフォーダンスを踏まえた保育援助の在り方について考える
11	心の理論について理解する
12	「仲間関係の発達」と心の理論
13	心の理論と特別な配慮が必要な子どもの理解と保育援助
14	心の理論を踏まえた長期的視野に立った指導計画と保育援助
15	まとめ

評価

授業への参加状況（30%）、学期内の小レポート（40%）、学期末のレポート（30%）の比率で評価する。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

毎回プリント資料を配布する

【教科書】初回授業時に指定する

【推薦書】津守真 『保育者の地平』 ミネルヴァ書房 376.1/T

津守真・森上史朗監修 『倉橋惣三文庫全10巻』 フレーベル館

その他、授業時に指示する

科目名	保育学演習		
担当教員名	上垣内 伸子		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部 (J) - 幼児教育学科		
学 年	3	ク ラ ス	
開 講 期	後期	必修・選択の別	選択
授 業 形 態		単 位 数	1
資 格 関 係			

ねらい (科目の性格 科目の概要 学修目標)

科目の性質

この科目は、幼児教育学科の学科専門科目（選択科目）です。卒業研究につながる演習科目です。科目担当者の研究室で卒業研究を進める学生は、この科目を履修することが求められます。

科目の概要

「保育学」で学んだことを継続発展させ、文献購読や、具体的な保育事例研究を行います。自らの保育実践記録や、保育実践研究、事例研究、保育記録を基に、保育理解、子ども理解を深めていくことを目指します。

ドキュメンテーションの作成など、保育をビジュアルに表現することを試みます。

保育室でのロールプレイなど実際に動きながら、子どもの気持ちに気付いたり、保育援助を考えたりしましょう。

日本だけでなく、諸外国の保育の実態や課題についても学びましょう。

学修目標

- ・卒業研究をすすめていく上で求められる基礎的な知識や技能を獲得する。
- ・研究論文に親しみ、保育研究法の理解をする。
- ・保育実践記録の作成と読み取りの力を養う。

内容

1. 保育実践記録/保育ドキュメンテーション/ポートフォリオ等の作成と報告

受講者自身の実践記録や観察記録等を作成、報告し、保育内容や子ども理解、援助方法等について話し合う。

2. 保育実践記録等をめぐる討論

保育者による実践記録・事例研究や観察記録・面談記録等を読み、保育内容や子ども理解、援助方法等について話し合う。

自らの保育観・児童観・発達観の形成につなげると共に、実践研究の方法を学ぶ。

3. 保育の観察と討論

実際の保育場面を観察し、それを基にテーマを設定して話し合う。

4. ロールプレイや環境構成の体験

自分の立てたねらいに基づいて実際の保育室の環境構成を行ったり、ロールプレイを行い、保育援助について理解する。

5. 文献講読

保育理論と保育実践に関わる研究論文や著書を分担して読み、討論、報告する。

評価

授業でのレポート発表と討論への参加状況(70%)、学期末のレポート(30%)により評価する。

教科書・推薦書 (著者名・書名・出版社名)

【教科書】倉橋惣三『幼稚園真諦』フレーベル館

【推薦書】津守真・森上史朗監修『倉橋惣三文庫全10巻』フレーベル館

科目名	保育実践論		
担当教員名	野口 隆子		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部（J）-幼児教育学科		
学 年	3	ク ラ ス	
開 講 期	前期	必修・選択の別	選択
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係			

ねらい（ 科目の性格 科目の概要 学修目標 ）

科目の性格

授業では、保育に関連する近年の様々なトピックや調査研究を取り上げ、保育の実践に結びつける知識を身につけ学ぶことを目的としています。尚、後期に開講される保育実践論演習とあわせて履修することが望ましいと考えています。

科目の概要

授業の中では子ども・保育者・園の3つの観点から、保育実践及び保育実践を理解するための方法を学びます。事例や視聴覚資料など、様々な資料を用いながら考えたり、グループディスカッションをおこなう機会を設けたりすることでさらに理解を深めたいと思います。

学修目標

受講者が自分自身の興味関心の枠組みを広げ、知識や研究と実践を結びつけること、思考する力・実践する力を養う。

内容

1. 授業概要やスケジュール、評価等の解説
2. 保育の「研究」とは
3. 「問い」をたてる
4. 保育研究の方法論
5. 保育研究：グループディスカッション
6. “見える保育”と“見えない保育”
7. 映像から見る保育 : 保育の視点
8. 映像から見る保育 : 保育の改善
9. 保育記録
10. 保育の質と評価
11. 保育者の専門的発達 : 保育者の成長とメンタリング
12. 保育者の専門的発達 : 園文化と学び、園内研修
13. 子どもを取り巻く環境の変化
14. 子どもの学び：保育の国際比較研究
15. 総括

評価

授業への参加度や授業終了後のコメントペーパー（20点）、授業時指定の課題提出（30点）、期末レポート(50点)により評価をおこない、60点以上を合格とする。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

テキストは特に使用せず、随時資料等を配布します。

[参考書]

幼稚園教育指導資料第3集 幼児理解と評価 文部科学省

科目名	保育実践論演習		
担当教員名	野口 隆子		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部（J）-幼児教育学科		
学 年	3	ク ラ ス	
開 講 期	後期	必修・選択の別	選択
授 業 形 態		単 位 数	1
資 格 関 係			

ねらい（ 科目の性格 科目の概要 学修目標）

科目の性格

前期科目「保育実践論」で学んだことをさらに発展させ、保育に関する研究やその方法を具体的に学び、保育に携わる上で生じる疑問点や問題点を追求する力を養う。

科目の概要

保育を理解する上で、様々な調査研究とその方法に親しみ、保育をより多角的に理解する力、子どもを見る目を培うことを目的とする。そのため、授業内でとりあげるテーマを設定する場合もある。受講者の人数と希望に応じて、テーマを共に考えてグループワークをおこなったり、文献購読を通してグループワークをおこなったりする予定である。

学修目標

保育を学び理解するための視点を構築する。受講者は、レジュメ作成と発表を担当し、内容の理解を図るとともに、発展的な問題提起をおこなうことが求められる。また、グループワークを通して互いの意見・考えを交換し学びあう経験を積むことで、個々の学びだけでなく、協同的に学ぶ意欲を培う。積極的に参加する姿勢を持ってほしい。

内容

主として以下のような授業内容を予定している。

1. はじめに：授業の目的と概要・評価の説明、グループワークの方法について
2. 子ども、保育者、園からみた保育実践：研究紹介
3. 子ども、保育者、園からみた保育実践：研究紹介
4. 保育探究のための方法論
5. プレゼンテーションの技法
6. 文献購読と発表、ディスカッション
7. 文献購読と発表、ディスカッション
8. 文献購読と発表、ディスカッション
9. 文献購読と発表、ディスカッション
10. 文献購読と発表、ディスカッション
11. 共同研究テーマとグループワーク
12. グループワーク
13. グループワーク
14. グループワークの発表とディスカッション
15. 総括

受講者確定後、具体的なテーマとスケジュールを決定する。

評価

授業への参加やコメントペーパー（20点）、レジュメ作成等の課題提出と発表（50点）、グループワーク（30点）から評価を行い、60点以上を合格とする。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

授業内で指定。また必要に応じて随時資料を配布する予定。

科目名	保育人間学		
担当教員名	横井 紘子		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部 (J) - 幼児教育学科		
学 年	3	ク ラ ス	
開 講 期	前期	必修・選択の別	選択
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係			

ねらい (科目の性格 科目の概要 学修目標)

本授業では、日常生活の当たり前や各自が備えている認識の枠組みを問い直すことから、子ども、ひいては人間 = 自分自身をより深く豊かに理解していくことを目的とする。

具体的には、人間にとって根源的なテーマをとりあげ、文献購読、保育実践事例の検討を行う予定である。保育とは人間としての自分や他者がかかわる営みであり、様々な保育実践のエピソードに触れることから、保育者と子どもとが織りなす世界に触れ、保育のおもしろさ・難しさ・複雑さも感じてほしい。

随時配布する資料やリアクションペーパーで授業の振り返りを行い、子どもを理解するまなざしがより深く豊かなものに再構成されることを期待する。

内容

1	人間を理解すること
2	人間を理解すること
3	子ども観・家族観の問い直し
4	言葉をめぐって考える
5	言葉をめぐって考える
6	からだをめぐって考える
7	からだをめぐって考える
8	気分・感情をめぐって考える
9	気分・感情をめぐって考える
10	空間をめぐって考える
11	空間をめぐって考える
12	遊びをめぐって考える
13	遊びをめぐって考える
14	遊びをめぐって考える
15	まとめ

評価

平常点20点、小レポート30点、まとめの小論文50点で評価する

60点以上を合格とする

教科書・推薦書 (著者名・書名・出版社名)

授業内でプリントを配布する

科目名	保育人間学演習		
担当教員名			
ナンバリング			
学 科	人間生活学部（J）-幼児教育学科		
学 年		ク ラ ス	
開 講 期		必修・選択の別	
授 業 形 態		単 位 数	
資 格 関 係			

ねらい（ 科目の性格 科目の概要 学修目標 ）

保育人間学と同様、より豊かに乳幼児期の子どもの世界を理解することをめざす。

序盤では、保育をめぐる今日的な課題を何点かとりあげ、現状と課題を検討し、乳幼児期の育ちを捉えるまなざしを養う。

中盤では、教科書を用い、テーマごとに保育のエピソードを読み、考察する。ここでは、自分でもエピソードを書くことを課題としたい。後半では、インタビューデータやエピソードを用いた論文を講読する。

後期では卒業研究を書くにあたって、問いをたてたり、自分で感じたことや考えたことを的確に言語化する力をつけることを意識し、リアクションペーパーやエピソードにまとめることを求める。

内容

1	保育の現状と課題から
2	保育の現状と課題から
3	保育の現状と課題から
4	保育の現状と課題から
5	保育の現状と課題から
6	エピソードを読んだの考察（グループワーク）
7	エピソードを読んだの考察（グループワーク）
8	エピソードを読んだの考察（グループワーク）
9	エピソードを読んだの考察（グループワーク）
10	エピソードを読んだの考察（グループワーク）
11	エピソードを読んだの考察（グループワーク）
12	エピソードを読んだの考察（グループワーク）
13	論文講読
14	論文講読
15	論文講読

評価

平常点20点 リアクションペーパー30点 エピソード20点 期末レポート30点で評価する。合計60点以上を合格とする。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

『エピソード記述で保育を描く』鯨岡峻 鯨岡和子 著 ミネルヴァ書房 2009

科目名	保育カリキュラム論		
担当教員名	山田 陽子		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部 (J) - 幼児教育学科		
学 年	3	ク ラ ス	
開 講 期	前期	必修・選択の別	選択
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係			

ねらい(科目の性格 科目の概要 学修目標)

科目の性格

この科目は、幼児教育学科の学科専門科目です。受講する学生は1・2年次の学習で身に付けた保育の知識があり、保育実習で子ども・保育観察を行い、実際のかかわりも経験しています。そのため、この科目では、学習する内容と保育の実際をつなげてとらえる姿勢を持ちながら、保育および保育カリキュラムを構成する内容についての専門的な知識や考えを深めていきます。

科目の概要

この科目の目的は次の2点です。「保育の主人公は子どもである」ことを念頭において取り組みます。

- ・保育および保育カリキュラムを構成するそれぞれの内容を把握し、実習での保育場面を振り返ることで実感を伴った理解を目指します。
- ・保育者に要求される多様な役割に気づき、理解します。特に、中心となる「子ども理解と援助」「子ども理解に基づく保育カリキュラム」の考え方や方法について丁寧に学びます。

学修目標

1. 保育および保育カリキュラムを構成するそれぞれの内容を理解し、総合的にとらえる。
2. 「子ども理解と援助」「子ども理解に基づく保育カリキュラム」を中心にしながら保育者に要求される多様な役割を理解する
3. 各自の中にある子ども観や保育観を耕し、新しい見方や考え方を加えていく

内容

1	保育とは保育カリキュラムとは
2	保育的關係から紡ぎ出す子ども理解
3	保育の現状と機能
4	子どもが生きる保育の場
5	遊びの特性と目的
6	遊びと子どもの発達(1)
7	遊びと子どもの発達(2)
8	保育カリキュラム
9	保育の内容
10	保育の環境
11	保育の方法・形態
12	保育の記録・評価
13	シュタイナー・フレーベル幼児教育
14	保育者の役割
15	まとめ

評価

学修目標に関する授業時のレポート(40%)および学期末のレポート(50%)、さらに通常の授業態度(10%)により評価を行い、60点以上を合格とします。合格点に満たなかった場合は「再試験」を行います。

教科書・推薦書(著者名・書名・出版社名)

【教科書】特に指定しない。

【推薦書】ステファニー・フィーニイ他 Who am I 研究会訳『保育学入門』ミネルヴァ書房

【参考図書】子どもと保育総合研究所森上史朗他『yaよくわかる保育原理第2版』ミネルヴァ書房

その他必要に応じて随時教室で紹介する。

科目名	保育カリキュラム論演習		
担当教員名	山田 陽子		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部 (J) - 幼児教育学科		
学 年	3	ク ラ ス	
開 講 期	後期	必修・選択の別	選択
授 業 形 態		単 位 数	1
資 格 関 係			

ねらい (科目の性格 科目の概要 学修目標)

教科の性格

この科目は幼児教育学科の学科専門科目です。「保育カリキュラム論」での学習を基盤にしながら「遊びをとおして総合的に保育する」ことについて追究することで、保育についての専門性を深めていきます。

教科の概要

この科目の目的は次の2点です。

- ・子どもがそれぞれの遊びで感じ取っている「その遊びのおもしろさ」に気付き、理解し、一緒に楽しむ感性を磨きます。
- ・子どもにとって遊びとは何か、どう指導・援助すればよいかについて、教科書や各自の実習での保育経験を手掛かりとしながら、各自が自分の課題として取り組み、自分なりの答えを見出していきます。

学修目標

1. 子どもにとっての遊びのおもしろさを子どもの立場で考え、理解する。
2. 遊びの中での子どもの発達をとらえる際の肯定的な見方について理解する。
3. 子どもの遊びに適切な援助をするために多様な援助の方法を知り、把握する。
4. 卒業研究に取り組むにあたっての基礎的な知識を獲得する。

内容

1	保育における遊びの指導・援助を考える (1)
2	保育における遊びの指導・援助を考える (2)
3	名もない遊びのおもしろさを理解する
4	ルールのある遊びのおもしろさを理解する (1)
5	ルールのある遊びのおもしろさを理解する (2)
6	生き物とのかかわりのおもしろさを理解する (1)
7	生き物とのかかわりのおもしろさを理解する (2)
8	探検遊びのおもしろさを理解する
9	ごっこ遊びのおもしろさを理解する
10	年齢別でのごっこ遊びの楽しみ方を知る
11	絵本や紙芝居のおもしろさを理解する
12	好きな遊びに取り組むことの子どもにとっての意味を考える
13	発達の視点から遊びを考える (1)
14	発達の視点から遊びを考える (2)
15	まとめ

評価

学修目標に関する授業時のレポート(30%)および学期末のレポート(50%)、討論への参加状況通や授業態度(20

%)により評価を行い、60点以上を合格とします。合格点に満たなかった場合は「再試験」を行います。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】河崎道夫『新保育論3 あそびのひみつ 指導と理論の新展開』ひとなる書房

【推薦書】小川博久『遊び保育論』萌文書林

その他必要に応じて随時教室で紹介する。

科目名	保育内容総論		
担当教員名	上垣内 伸子		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部 (J) - 幼児教育学科		
学 年	3	ク ラ ス	2Aクラス
開 講 期	後期	必修・選択の別	必修*, 選択
授 業 形 態		単 位 数	1
資 格 関 係	保育士資格 / 幼稚園教諭一種免許状		

ねらい (科目の性格 科目の概要 学修目標)

科目の性格

この科目は、幼児教育学科の学科専門科目であり、幼稚園教諭免許状および保育士資格取得のための必修科目である。5領域からなる保育内容を学習し、教育実習へと向かうための総まとめの科目という性格を持つ。

科目の概要

幼稚園や保育所は、子どもたちが自ら環境にかかわり、遊びを中心とした様々な経験を通して総合的に発達をとげている場所である。本授業では、どのような環境や保育内容が子どもにとってふさわしいかについて総合的に考える視座を養うことを目的とする。これまでの各授業での学びや実習を振り返る中で、子どもにして欲しい経験、必要な経験などを具体的に考え、それを具現化するための園環境、保育方針等をグループで設計・作成し、発表することを予定している。

学修目標

- ・幼稚園教育要領および保育所保育指針における領域と領域間の関係について理解する。
- ・幼稚園および保育所における保育内容を吟味する目を養う。
- ・乳幼児期にふさわしい保育内容を自ら計画し実践するためのスキルを獲得する。

内容

1	保育内容とは何か
2	グループワーク1「私たちの幼稚園・保育所をデザインする」 名称 / 基本情報の決定
3	教育方針の設定
4	園舎・園庭の設計 (安全性・機能性・創造性・経験の多様性等に配慮
5	保育内容の吟味 (子どもたちが取り組む活動や経験の意味、保育的意図やねらいを考える)
6	幼稚園の特長・特色の明確化
7	グループごとの発表 1 回目
8	グループごとの発表 2 回目
9	グループワーク2「教育課程・指導計画等の作成」 作成した保育内容の再考・検討
10	保育内容の具体化
11	保育内容にもとづいた教育課程 / 指導計画 (週案・日案) / 行事計画等の作成
12	グループごとの発表 1 回目
13	グループごとの発表 1 回目
14	まとめ 子どもの経験を総合的に捉える視点の獲得 「領域」の窓から子どもの経験を捉える
15	各領域の関係性を考える

評価

授業への参加態度 (20%)、グループ活動への取り組みの姿勢とプレゼンテーションの内容 (20%)、グループ活動による作成資料の提出 (30%)、学期末のレポート (30%) により評価を行う。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

テキスト：文部科学省 幼稚園教育要領解説 フレーベル館

厚生労働省 保育所保育指針 フレーベル館

（他に毎回プリント資料配布）

科目名	保育内容総論		
担当教員名	上垣内 伸子		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部（J）- 幼児教育学科		
学 年	3	ク ラ ス	2Bクラス
開 講 期	後期	必修・選択の別	必修* , 選択
授 業 形 態		単 位 数	1
資 格 関 係	保育士資格 / 幼稚園教諭一種免許状		

ねらい（ 科目の性格 科目の概要 学修目標 ）

科目の性格

この科目は、幼児教育学科の学科専門科目であり、幼稚園教諭免許状および保育士資格取得のための必修科目である。5領域からなる保育内容を学習し、教育実習へと向かうための総まとめの科目という性格を持つ。

科目の概要

幼稚園や保育所は、子どもたちが自ら環境にかかわり、遊びを中心とした様々な経験を通して総合的に発達をとげている場所である。本授業では、どのような環境や保育内容が子どもにとってふさわしいかについて総合的に考える視座を養うことを目的とする。これまでの各授業での学びや実習を振り返る中で、子どもにして欲しい経験、必要な経験などを具体的に考え、それを具現化するための園環境、保育方針等をグループで設計・作成し、発表することを予定している。

学修目標

- ・ 幼稚園教育要領および保育所保育指針における領域と領域間の関係について理解する。
- ・ 幼稚園および保育所における保育内容を吟味する目を養う。
- ・ 乳幼児期にふさわしい保育内容を自ら計画し実践するためのスキルを獲得する。

内容

1	保育内容とは何か
2	グループワーク1「私たちの幼稚園・保育所をデザインする」 名称 / 基本情報の決定
3	教育方針の設定
4	園舎・園庭の設計（安全性・機能性・創造性・経験の多様性等に配慮
5	保育内容の吟味（子どもたちが取り組む活動や経験の意味、保育的意図やねらいを考える）
6	幼稚園の特長・特色の明確化
7	グループごとの発表1回目
8	グループごとの発表2回目
9	グループワーク2「教育課程・指導計画等の作成」 作成した保育内容の再考・検討
10	保育内容の具体化
11	保育内容にもとづいた教育課程 / 指導計画（週案・日案） / 行事計画等の作成
12	グループごとの発表1回目
13	グループごとの発表1回目
14	まとめ 子どもの経験を総合的に捉える視点の獲得 「領域」の窓から子どもの経験を捉える
15	各領域の関係性を考える

評価

授業への参加態度（20%）、グループ活動への取り組みの姿勢とプレゼンテーションの内容（20%）、グループ活動による作成資料の提出（30%）、学期末のレポート（30%）により評価を行う。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

テキスト：文部科学省 幼稚園教育要領解説 フレーベル館

厚生労働省 保育所保育指針 フレーベル館

（他に毎回プリント資料配布）

科目名	保育内容総論		
担当教員名	上垣内 伸子		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部 (J) - 幼児教育学科		
学 年	3	ク ラ ス	2Cクラス
開 講 期	後期	必修・選択の別	選択, 必修*
授 業 形 態		単 位 数	1
資 格 関 係	保育士資格 / 幼稚園教諭一種免許状		

ねらい (科目の性格 科目の概要 学修目標)

科目の性格

この科目は、幼児教育学科の学科専門科目であり、幼稚園教諭免許状および保育士資格取得のための必修科目である。5領域からなる保育内容を学習し、教育実習へと向かうための総まとめの科目という性格を持つ。

科目の概要

幼稚園や保育所は、子どもたちが自ら環境にかかわり、遊びを中心とした様々な経験を通して総合的に発達をとげている場所である。本授業では、どのような環境や保育内容が子どもにとってふさわしいかについて総合的に考える視座を養うことを目的とする。これまでの各授業での学びや実習を振り返る中で、子どもにして欲しい経験、必要な経験などを具体的に考え、それを具現化するための園環境、保育方針等をグループで設計・作成し、発表することを予定している。

学修目標

- ・幼稚園教育要領および保育所保育指針における領域と領域間の関係について理解する。
- ・幼稚園および保育所における保育内容を吟味する目を養う。
- ・乳幼児期にふさわしい保育内容を自ら計画し実践するためのスキルを獲得する。

内容

1	保育内容とは何か
2	グループワーク1「私たちの幼稚園・保育所をデザインする」 名称 / 基本情報の決定
3	教育方針の設定
4	園舎・園庭の設計 (安全性・機能性・創造性・経験の多様性等に配慮
5	保育内容の吟味 (子どもたちが取り組む活動や経験の意味、保育的意図やねらいを考える)
6	幼稚園の特長・特色の明確化
7	グループごとの発表 1 回目
8	グループごとの発表 2 回目
9	グループワーク2「教育課程・指導計画等の作成」 作成した保育内容の再考・検討
10	保育内容の具体化
11	保育内容にもとづいた教育課程 / 指導計画 (週案・日案) / 行事計画等の作成
12	グループごとの発表 1 回目
13	グループごとの発表 1 回目
14	まとめ 子どもの経験を総合的に捉える視点の獲得 「領域」の窓から子どもの経験を捉える
15	各領域の関係性を考える

評価

授業への参加態度 (20%)、グループ活動への取り組みの姿勢とプレゼンテーションの内容 (20%)、グループ活動による作成資料の提出 (30%)、学期末のレポート (30%) により評価を行う。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

テキスト：文部科学省 幼稚園教育要領解説 フレーベル館

厚生労働省 保育所保育指針 フレーベル館

（他に毎回プリント資料配布）

科目名	保育内容総論		
担当教員名			
ナンバリング			
学 科	人間生活学部（J）- 幼児教育学科		
学 年		ク ラ ス	2Dクラス
開 講 期		必修・選択の別	
授 業 形 態		単 位 数	
資 格 関 係	保育士資格 / 幼稚園教諭一種免許状		

ねらい（ 科目の性格 科目の概要 学修目標 ）

科目の性格

この科目は、幼児教育学科の学科専門科目であり、幼稚園教諭免許状および保育士資格取得のための必修科目である。5領域からなる保育内容を学習し、教育実習へと向かうための総まとめの科目という性格を持つ。

科目の概要

幼稚園や保育所は、子どもたちが自ら環境にかかわり、遊びを中心とした様々な経験を通して総合的に発達をとげている場所である。本授業では、どのような環境や保育内容が子どもにとってふさわしいかについて総合的に考える視座を養うことを目的とする。これまでの各授業での学びや実習を振り返る中で、子どもにして欲しい経験、必要な経験などを具体的に考え、それを具現化するための園環境、保育方針等をグループで設計・作成し、発表することを予定している。

学修目標

- ・ 幼稚園教育要領および保育所保育指針における領域と領域間の関係について理解する。
- ・ 幼稚園および保育所における保育内容を吟味する目を養う。
- ・ 乳幼児期にふさわしい保育内容を自ら計画し実践するためのスキルを獲得する。

内容

1	保育内容とは何か
2	グループワーク1「私たちの幼稚園・保育所をデザインする」 名称 / 基本情報の決定
3	教育方針の設定
4	園舎・園庭の設計（安全性・機能性・創造性・経験の多様性等に配慮
5	保育内容の吟味（子どもたちが取り組む活動や経験の意味、保育的意図やねらいを考える）
6	幼稚園の特長・特色の明確化
7	グループごとの発表1回目
8	グループごとの発表2回目
9	グループワーク2「教育課程・指導計画等の作成」 作成した保育内容の再考・検討
10	保育内容の具体化
11	保育内容にもとづいた教育課程 / 指導計画（週案・日案） / 行事計画等の作成
12	グループごとの発表1回目
13	グループごとの発表1回目
14	まとめ 子どもの経験を総合的に捉える視点の獲得 「領域」の窓から子どもの経験を捉える
15	各領域の関係性を考える

評価

授業への参加態度（20%）、グループ活動への取り組みの姿勢とプレゼンテーションの内容（20%）、グループ活動による作成資料の提出（30%）、学期末のレポート（30%）により評価を行う。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

テキスト：文部科学省 幼稚園教育要領解説 フレーベル館

厚生労働省 保育所保育指針 フレーベル館

（他に毎回プリント資料配布）

科目名	保育内容の指導法（健康）		
担当教員名	横井 絃子		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部（J）-幼児教育学科		
学 年	2	ク ラ ス	1Aクラス
開 講 期	前期	必修・選択の別	必修* , 選択
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	保育士資格 / 幼稚園教諭一種免許状		

ねらい（ 科目の性格 科目の概要 学修目標）

幼稚園教育要領・保育所保育指針に示されている領域のうち、心身の健康に関する領域「健康」について学ぶ。幼稚園教諭一種免許状および保育士資格を取得する上での必修科目である。

安心感・安定感をもち、こころとからだを十分に働かせて生活したり遊んだりすることの重要性について考えを深め、心身共に健康な子どもの育ちを支える保育者の役割や、指導の実際について具体的に考察していく。さらに、生活リズムや基本的な生活習慣を身につけること、安全に生活することが健康的な生活の基盤となっていることを理解し、現状と課題、援助の方法についても探究していきたい。また、新幼稚園教育要領・新保育所保育指針において食育についての内容が明記された。食べることは健康に欠くことができないものであり、乳幼児期の子どもが食べる喜びや楽しさを感じることで、適切な食習慣を形成することなどの重要性、食をめぐっての保育内容・方法についても実践的に考えていきたい。

保育内容の領域「健康」に関する基本的知識を習得すると同時に、「健康」の視点から子ども理解を深め、より実践的に保育者の役割を考える力を身につける。

内容

1	領域「健康」とは何か	健康の定義を探る
2	領域「健康」とは何か	領域「健康」の歴史的変遷
3	心の安定と園生活	入園期の子どもの不安 / 子どもにとっての保育者の存在とは
4	心の安定と園生活	不安定な子どもの思いに寄り添う保育者のあり方 / 家庭との連携
5	身体機能の発達と遊び	発達段階と運動能力の傾向 / 園におけるさまざまな動き
6	身体機能の発達と遊び	自然との触れ合い / 戸外での遊び
7	身体機能の発達と遊び	遊びの中の動きの多様性 / 保育者の援助
8	生活リズム・生活習慣	子どもの生活実態とその変容 / 身辺自立と生活習慣の発達
9	生活リズム・生活習慣	園における援助のあり方 / 家庭との連続性
10	生活の場としての幼稚園・保育所	子どもが自ら生活の場を整えること
11	安全管理と健康管理	園生活で起こる事故とその対応 / リスクとハザード
12	安全管理と健康管理	安全と健康に対する指導 / 遊びの中で育む意識
13	食生活と健康	食育とは / 食べることの楽しさ・食に対する関心を育む保育
14	食生活と健康	食育と健康をテーマとした指導計画の立案（グループワーク）
15	まとめ	子どもの健康を捉える視点

評価

平常点20点 小テスト40点 期末レポート40点により評価を行い、60点以上を合格とする。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】文部科学省 『幼稚園教育要領解説』 フレーベル館

厚生労働省編 『保育所保育指針解説書』 フレーベル館
(他に毎回プリント資料を配布します)

科目名	保育内容の指導法（健康）		
担当教員名	横井 絃子		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部（J）-幼児教育学科		
学 年	2	ク ラ ス	1Bクラス
開 講 期	前期	必修・選択の別	必修* , 選択
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	保育士資格 / 幼稚園教諭一種免許状		

ねらい（ 科目の性格 科目の概要 学修目標）

幼稚園教育要領・保育所保育指針に示されている領域のうち、心身の健康に関する領域「健康」について学ぶ。幼稚園教諭一種免許状および保育士資格を取得する上での必修科目である。

安心感・安定感をもち、こころとからだを十分に働かせて生活したり遊んだりすることの重要性について考えを深め、心身共に健康な子どもの育ちを支える保育者の役割や、指導の実際について具体的に考察していく。さらに、生活リズムや基本的な生活習慣を身につけること、安全に生活することが健康的な生活の基盤となっていることを理解し、現状と課題、援助の方法についても探究していきたい。また、新幼稚園教育要領・新保育所保育指針において食育についての内容が明記された。食べることは健康に欠くことができないものであり、乳幼児期の子どもが食べる喜びや楽しさを感じることで、適切な食習慣を形成することなどの重要性、食をめぐっての保育内容・方法についても実践的に考えていきたい。

保育内容の領域「健康」に関する基本的知識を習得すると同時に、「健康」の視点から子ども理解を深め、より実践的に保育者の役割を考える力を身につける。

内容

1	領域「健康」とは何か	健康の定義を探る
2	領域「健康」とは何か	領域「健康」の歴史的変遷
3	心の安定と園生活	入園期の子どもの不安 / 子どもにとっての保育者の存在とは
4	心の安定と園生活	不安定な子どもの思いに寄り添う保育者のあり方 / 家庭との連携
5	身体機能の発達と遊び	発達段階と運動能力の傾向 / 園におけるさまざまな動き
6	身体機能の発達と遊び	自然との触れ合い / 戸外での遊び
7	身体機能の発達と遊び	遊びの中の動きの多様性 / 保育者の援助
8	生活リズム・生活習慣	子どもの生活実態とその変容 / 身辺自立と生活習慣の発達
9	生活リズム・生活習慣	園における援助のあり方 / 家庭との連続性
10	生活の場としての幼稚園・保育所	子どもが自ら生活の場を整えること
11	安全管理と健康管理	園生活で起こる事故とその対応 / 設備の点検
12	安全管理と健康管理	安全と健康に対する指導 / 遊びの中で育む意識
13	食生活と健康	食育とは / 食べることの楽しさ・食に対する関心を育む保育
14	食生活と健康	食育と健康をテーマとした指導計画の立案（グループワーク）
15	まとめ	子どもの健康を捉える視点

評価

平常点20点 小テスト40点 期末レポート40点により評価を行い、60点以上を合格とする。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】文部科学省 『幼稚園教育要領解説』 フレーベル館

厚生労働省編 『保育所保育指針解説書』 フレーベル館
(他に毎回プリント資料を配布します)

科目名	保育内容の指導法（健康）		
担当教員名	鈴木 康弘		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部（J）-幼児教育学科		
学 年	2	ク ラ ス	1Cクラス
開 講 期	前期	必修・選択の別	必修* , 選択
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	保育士資格 / 幼稚園教諭一種免許状		

ねらい（ 科目の性格 科目の概要 学修目標 ）

科目の性格

幼稚園教育要領・保育所保育指針に示されている領域のうち、心身の健康に関する領域「健康」について学びます。幼稚園教諭免許や保育士資格の取得を目指す学生には単位の修得が義務づけられています。

科目の概要

安心感・安定感をもち、こころとからだを十分に働かせて生活したり遊んだりすることの重要性について考えを深め、心身共に健康な子どもの育ちを支える保育者の役割や、指導の実際について具体的に考察していきます。さらに、生活リズムや基本的な生活習慣を身につけること、安全に生活することが健康的な生活の基盤となっていることを理解し、現状と課題、援助の方法についても探究していきます。また、新幼稚園教育要領・新保育所保育指針において食育についての内容が明記された事にもとない、食をめぐるの保育内容・方法についても実践的に考えていきます。

学修目標

保育内容の領域「健康」に関する基本的知識を習得すると同時に、「健康」の視点から子ども理解を深め、より実践的に保育者の役割を考える力を身につける。

内容

1	領域「健康」とは何か	幼児教育の歴史と領域「健康」
2	領域「健康」とは何か	遊びを中心とした保育と領域「健康」
3	子どもの生活リズム・生活習慣	
4	身体機能の発達と運動能力の発達	
5	領域「健康」のねらいと内容	
6	乳児期の発達の特徴	
7	身辺自立と生活習慣の獲得	
8	心の安定と園生活	
9	安全への配慮	園生活で起こる事故の傾向
10	安全への配慮	応急手当
11	食生活と健康	子どもをめぐる食の現状と課題
12	食生活と健康	食育と健康をテーマとした指導計画の立案（グループワーク）
13	食生活と健康	食育と健康をテーマとした指導計画の修正（グループワーク）
14	食生活と健康	食育と健康をテーマとした指導計画の発表（グループワーク）
15	授業のまとめと試験	

評価

評価は、授業への取り組み（20点）、授業での課題（指導計画の立案・修正・発表 30点）及びまとめの試験（50点）の観点から総合的に行います。60点以上を合格とします。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】河邊貴子編，保育内容 健康，建帛社。

科目名	保育内容の指導法（健康）		
担当教員名	鈴木 康弘		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部（J）-幼児教育学科		
学 年	2	ク ラ ス	1Dクラス
開 講 期	前期	必修・選択の別	選択, 必修*
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	保育士資格 / 幼稚園教諭一種免許状		

ねらい（ 科目の性格 科目の概要 学修目標 ）

科目の性格

幼稚園教育要領・保育所保育指針に示されている領域のうち、心身の健康に関する領域「健康」について学びます。幼稚園教諭免許や保育士資格の取得を目指す学生には単位の修得が義務づけられています。

科目の概要

安心感・安定感をもち、こころとからだを十分に働かせて生活したり遊んだりすることの重要性について考えを深め、心身共に健康な子どもの育ちを支える保育者の役割や、指導の実際について具体的に考察していきます。さらに、生活リズムや基本的な生活習慣を身につけること、安全に生活することが健康的な生活の基盤となっていることを理解し、現状と課題、援助の方法についても探究していきます。また、新幼稚園教育要領・新保育所保育指針において食育についての内容が明記された事にもとない、食をめぐるの保育内容・方法についても実践的に考えていきます。

学修目標

保育内容の領域「健康」に関する基本的知識を習得すると同時に、「健康」の視点から子ども理解を深め、より実践的に保育者の役割を考える力を身につける。

内容

1	領域「健康」とは何か	幼児教育の歴史と領域「健康」
2	領域「健康」とは何か	遊びを中心とした保育と領域「健康」
3	子どもの生活リズム・生活習慣	
4	身体機能の発達と運動能力の発達	
5	領域「健康」のねらいと内容	
6	乳児期の発達の特徴	
7	身辺自立と生活習慣の獲得	
8	心の安定と園生活	
9	安全への配慮	園生活で起こる事故の傾向
10	安全への配慮	応急手当
11	食生活と健康	子どもをめぐる食の現状と課題
12	食生活と健康	食育と健康をテーマとした指導計画の立案（グループワーク）
13	食生活と健康	食育と健康をテーマとした指導計画の修正（グループワーク）
14	食生活と健康	食育と健康をテーマとした指導計画の発表（グループワーク）
15	授業のまとめと試験	

評価

評価は、授業への取り組み（20点）、授業での課題（指導計画の立案・修正・発表 30点）及びまとめの試験（50点）の観点から総合的に行います。60点以上を合格とします。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】河邊貴子編，保育内容 健康，建帛社。

科目名	保育内容の指導法（環境）		
担当教員名	野口 隆子		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部（J）-幼児教育学科		
学 年	2	ク ラ ス	2Aクラス
開 講 期	後期	必修・選択の別	選択, 必修*
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	保育士資格 / 幼稚園教諭一種免許状		

ねらい（ 科目の性格 科目の概要 学修目標）

科目の性格

本科目は、幼稚園教諭免許状・保育士資格取得のための必修科目である。保育における「環境」とは何か、子どもの発達や遊び、保育者の役割に関する基本的知識を身につけ、乳幼児期の環境の重要性を理解することを目的とする。

科目の概要

保育・幼児教育における基本を理解し、保育を「環境」という視点からとらえ、子ども一人ひとりが主体的に生活し関わっていけるような環境作りを考える。その際、保育者自身が周囲の環境に気付き、柔軟で開かれた視野と好奇心・探究心、問題意識を持つことの重要性について、そして子どもの発達過程と一人ひとりに対する理解に基づく適切な援助と指導の方法、保育者の役割について具体的に学ぶ。

学修目標

保育における環境として、自然環境のみならず、人・物・事象と子どもとの関係を理解する。授業内では様々な事例や視聴覚資料などの資料を用いて具体的・実践的に考えたり、グループワークや発表の機会を設けたりするなど、受講者が身近な問題として環境を捉える。

内容

- 第1回：概説：保育における「環境」とは
- 第2回：幼稚園教育要領・保育所保育指針における「環境」とその変遷
- 第3回：子どもの発達と環境：乳児期
- 第4回：子どもの発達と環境：幼児期、児童期
- 第5回：遊びと環境
- 第6回：具体的事物との関わり、人的環境としての保育者の役割
- 第7回：子どもと自然
- 第8回：生活環境における文字、数量、情報
- 第9回：園の行事と子どもの経験
- 第10回：保育者の環境構成
- 第11回：保育計画と記録、省察
- 第12回：子どもを取り巻く現代社会と環境
- 第13回：子ども・家庭と保育・幼児教育の場
- 第14回：世界の保育・幼児教育
- 第15回：総括

評価

授業時の課題提出やコメントペーパーによる平常点（30点）、授業時の課題提出（20点）、期末レポート（50点）による評価を行い、60点以上を合格とする。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

『環境』 無藤隆・福元真由美編 萌文書林

幼稚園教育要領解説書 文部科学省 フレーベル館

保育所保育指針解説書 厚生労働省 フレーベル館

科目名	保育内容の指導法（環境）		
担当教員名	野口 隆子		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部（J）-幼児教育学科		
学 年	2	ク ラ ス	2Bクラス
開 講 期	後期	必修・選択の別	必修* , 選択
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	保育士資格 / 幼稚園教諭一種免許状		

ねらい（ 科目の性格 科目の概要 学修目標）

科目の性格

本科目は、幼稚園教諭免許状・保育士資格取得のための必修科目である。保育における「環境」とは何か、子どもの発達や遊び、保育者の役割に関する基本的知識を身につけ、乳幼児期の環境の重要性を理解することを目的とする。

科目の概要

保育・幼児教育における基本を理解し、保育を「環境」という視点からとらえ、子ども一人ひとりが主体的に生活し関わっていけるような環境作りを考える。その際、保育者自身が周囲の環境に気付き、柔軟で開かれた視野と好奇心・探究心、問題意識を持つことの重要性について、そして子どもの発達過程と一人ひとりに対する理解に基づく適切な援助と指導の方法、保育者の役割について具体的に学ぶ。

学修目標

保育における環境として、自然環境のみならず、人・物・事象と子どもとの関係を理解する。授業内では様々な事例や視聴覚資料などの資料を用いて具体的・実践的に考えたり、グループワークや発表の機会を設けたりするなど、受講者が身近な問題として環境を捉える。

内容

- 第1回：概説：保育における「環境」とは
- 第2回：幼稚園教育要領・保育所保育指針における「環境」とその変遷
- 第3回：子どもの発達と環境：乳児期
- 第4回：子どもの発達と環境：幼児期、児童期
- 第5回：遊びと環境
- 第6回：具体的事物との関わり、人的環境としての保育者の役割
- 第7回：子どもと自然
- 第8回：生活環境における文字、数量、情報
- 第9回：園の行事と子どもの経験
- 第10回：保育者の環境構成
- 第11回：保育計画と記録、省察
- 第12回：子どもを取り巻く現代社会と環境
- 第13回：子ども・家庭と保育・幼児教育の場
- 第14回：世界の保育・幼児教育
- 第15回：総括

評価

授業時の課題提出やコメントペーパーによる平常点（30点）、授業時の課題提出（20点）、期末レポート（50点）による評価を行い、60点以上を合格とする。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

『環境』 無藤隆・福元真由美編 萌文書林

幼稚園教育要領解説書 文部科学省 フレーベル館

保育所保育指針解説書 厚生労働省 フレーベル館

科目名	保育内容の指導法（環境）		
担当教員名	野口 隆子		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部（J）-幼児教育学科		
学 年	2	ク ラ ス	2Cクラス
開 講 期	後期	必修・選択の別	必修* , 選択
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	保育士資格 / 幼稚園教諭一種免許状		

ねらい（ 科目の性格 科目の概要 学修目標）

科目の性格

本科目は、幼稚園教諭免許状・保育士資格取得のための必修科目である。保育における「環境」とは何か、子どもの発達や遊び、保育者の役割に関する基本的知識を身につけ、乳幼児期の環境の重要性を理解することを目的とする。

科目の概要

保育・幼児教育における基本を理解し、保育を「環境」という視点からとらえ、子ども一人ひとりが主体的に生活し関わっていけるような環境作りを考える。その際、保育者自身が周囲の環境に気付き、柔軟で開かれた視野と好奇心・探究心、問題意識を持つことの重要性について、そして子どもの発達過程と一人ひとりに対する理解に基づく適切な援助と指導の方法、保育者の役割について具体的に学ぶ。

学修目標

保育における環境として、自然環境のみならず、人・物・事象と子どもとの関係を理解する。授業内では様々な事例や視聴覚資料などの資料を用いて具体的・実践的に考えたり、グループワークや発表の機会を設けたりするなど、受講者が身近な問題として環境を捉える。

内容

- 第1回：概説：保育における「環境」とは
- 第2回：幼稚園教育要領・保育所保育指針における「環境」とその変遷
- 第3回：子どもの発達と環境：乳児期
- 第4回：子どもの発達と環境：幼児期、児童期
- 第5回：遊びと環境
- 第6回：具体的事物との関わり、人的環境としての保育者の役割
- 第7回：子どもと自然
- 第8回：生活環境における文字、数量、情報
- 第9回：園の行事と子どもの経験
- 第10回：保育者の環境構成
- 第11回：保育計画と記録、省察
- 第12回：子どもを取り巻く現代社会と環境
- 第13回：子ども・家庭と保育・幼児教育の場
- 第14回：世界の保育・幼児教育
- 第15回：総括

評価

授業時の課題提出やコメントペーパーによる平常点（30点）、授業時の課題提出（20点）、期末レポート（50点）による評価を行い、60点以上を合格とする。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

『環境』 無藤隆・福元真由美編 萌文書林

幼稚園教育要領解説書 文部科学省 フレーベル館

保育所保育指針解説書 厚生労働省 フレーベル館

科目名	保育内容の指導法（環境）		
担当教員名	野口 隆子		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部（J）-幼児教育学科		
学 年	2	ク ラ ス	2Dクラス
開 講 期	後期	必修・選択の別	必修* , 選択
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	保育士資格 / 幼稚園教諭一種免許状		

ねらい（ 科目の性格 科目の概要 学修目標）

科目の性格

本科目は、幼稚園教諭免許状・保育士資格取得のための必修科目である。保育における「環境」とは何か、子どもの発達や遊び、保育者の役割に関する基本的知識を身につけ、乳幼児期の環境の重要性を理解することを目的とする。

科目の概要

保育・幼児教育における基本を理解し、保育を「環境」という視点からとらえ、子ども一人ひとりが主体的に生活し関わっていけるような環境作りを考える。その際、保育者自身が周囲の環境に気付き、柔軟で開かれた視野と好奇心・探究心、問題意識を持つことの重要性について、そして子どもの発達過程と一人ひとりに対する理解に基づく適切な援助と指導の方法、保育者の役割について具体的に学ぶ。

学修目標

保育における環境として、自然環境のみならず、人・物・事象と子どもとの関係を理解する。授業内では様々な事例や視聴覚資料などの資料を用いて具体的・実践的に考えたり、グループワークや発表の機会を設けたりするなど、受講者が身近な問題として環境を捉える。

内容

- 第1回：概説：保育における「環境」とは
- 第2回：幼稚園教育要領・保育所保育指針における「環境」とその変遷
- 第3回：子どもの発達と環境：乳児期
- 第4回：子どもの発達と環境：幼児期、児童期
- 第5回：遊びと環境
- 第6回：具体的事物との関わり、人的環境としての保育者の役割
- 第7回：子どもと自然
- 第8回：生活環境における文字、数量、情報
- 第9回：園の行事と子どもの経験
- 第10回：保育者の環境構成
- 第11回：保育計画と記録、省察
- 第12回：子どもを取り巻く現代社会と環境
- 第13回：子ども・家庭と保育・幼児教育の場
- 第14回：世界の保育・幼児教育
- 第15回：総括

評価

授業時の課題提出やコメントペーパーによる平常点（30点）、授業時の課題提出（20点）、期末レポート（50点）による評価を行い、60点以上を合格とする。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

『環境』 無藤隆・福元真由美編 萌文書林

幼稚園教育要領解説書 文部科学省 フレーベル館

保育所保育指針解説書 厚生労働省 フレーベル館

科目名	保育内容の指導法（人間関係）		
担当教員名	宮里 暁美		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部（J）- 幼児教育学科		
学 年	3	ク ラ ス	1Aクラス
開 講 期	前期	必修・選択の別	選択, 必修*
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	保育士資格 / 幼稚園教諭一種免許状		

ねらい（ 科目の性格 科目の概要 学修目標 ）

科目の性格

幼稚園教育要領・保育所保育指針に示されている領域のうち、人とかかわりに関する領域「人間関係」について学ぶ。幼稚園教諭一種免許状および保育士資格を取得する上での必修科目である。

科目の概要

幼児は人とかかわることを通して成長していく。人とかかわる力を身につけていくことは幼児教育の中心的課題であり、全ての領域につながる幼児の育ちのもととなるものだと考える。この授業では、人とかかわる力がどのように育っていくのかについて具体的な幼児の姿を通してとらえ、幼児期における人間関係の育ちと、その育ちを支える教師の援助について理解する。

学修目標

人とかかわる力がどのように育っていくのか、発達の道筋をとらえて理解する。

人とかかわる力をはぐくむ上での教師の役割について具体的な姿から学ぶ。

家庭や地域の現状をとらえ課題と解決策について学ぶ。

人とかかわる力を育てていくための教材について体験を通して学ぶ。

トラブル、規範意識などの切り口から学びを深める。

内容

1	絵本「どろんこぶた」から見えてきた「人間関係」
2	領域「人間関係」概論 子どもが育つ社会について
3	領域「人間関係」概論 ねらいと内容、内容の取扱いについて
4	人とかかわる育ちのプロセス 3歳児の姿から
5	人とかかわる育ちのプロセス 4歳児の姿から
6	人とかかわる育ちのプロセス 5歳児の姿から
7	トラブルについて
8	規範意識の育ちについて
9	人とかかわる力を育てる教師の援助
10	人とかかわる力を育てる教材研究
11	人とかかわる力を育てる教材研究
12	家庭や地域との連携
13	多様な人とかかわり
14	地域の中の幼稚園 震災の記録から学ぶ
15	まとめ

評価

平常点 20点 課題(小レポート) 30点 試験 50点により評価を行い、60点以上を合格とする。

教科書・推薦書(著者名・書名・出版社名)

【教科書】文部科学省『幼稚園教育要領解説』フレーベル館

厚生労働省編『保育所保育指針解説書』フレーベル館

他に、資料のプリントを授業中に配布

科目名	保育内容の指導法（人間関係）		
担当教員名	宮里 暁美		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部（J）- 幼児教育学科		
学 年	3	ク ラ ス	1Bクラス
開 講 期	前期	必修・選択の別	必修* , 選択
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	保育士資格 / 幼稚園教諭一種免許状		

ねらい（ 科目の性格 科目の概要 学修目標 ）

科目の性格

幼稚園教育要領・保育所保育指針に示されている領域のうち、人とかかわりに関する領域「人間関係」について学ぶ。幼稚園教諭一種免許状および保育士資格を取得する上での必修科目である。

科目の概要

幼児は人とかかわることを通して成長していく。人とかかわる力を身につけていくことは幼児教育の中心的課題であり、全ての領域につながる幼児の育ちのもととなるものだと考える。この授業では、人とかかわる力がどのように育っていくのかについて具体的な幼児の姿を通してとらえ、幼児期における人間関係の育ちと、その育ちを支える教師の援助について理解する。

学修目標

人とかかわる力がどのように育っていくのか、発達の道筋をとらえて理解する。

人とかかわる力をはぐくむ上での教師の役割について具体的な姿から学ぶ。

家庭や地域の現状をとらえ課題と解決策について学ぶ。

人とかかわる力を育てていくための教材について体験を通して学ぶ。

トラブル、規範意識などの切り口から学びを深める。

内容

1	絵本「どろんこぶた」から見えてきた「人間関係」
2	領域「人間関係」概論 子どもが育つ社会について
3	領域「人間関係」概論 ねらいと内容、内容の取扱いについて
4	人とかかわる育ちのプロセス 3歳児の姿から
5	人とかかわる育ちのプロセス 4歳児の姿から
6	人とかかわる育ちのプロセス 5歳児の姿から
7	トラブルについて
8	規範意識の育ちについて
9	人とかかわる力を育てる教師の援助
10	人とかかわる力を育てる教材研究
11	人とかかわる力を育てる教材研究
12	家庭や地域との連携
13	多様な人とかかわり
14	地域の中の幼稚園 震災の記録から学ぶ
15	まとめ

評価

平常点 20点 課題(小レポート) 30点 試験 50点により評価を行い、60点以上を合格とする。

教科書・推薦書(著者名・書名・出版社名)

【教科書】文部科学省『幼稚園教育要領解説』フレーベル館

厚生労働省編『保育所保育指針解説書』フレーベル館

他に、資料のプリントを授業中に配布

科目名	保育内容の指導法（人間関係）		
担当教員名	山田 陽子		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部（J）- 幼児教育学科		
学 年	3	ク ラ ス	2Aクラス
開 講 期	後期	必修・選択の別	必修* , 選択
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	保育士資格 / 幼稚園教諭一種免許状		

ねらい（ 科目の性格 科目の概要 学修目標）

この科目は、幼稚園教諭免許状と保育士資格の取得のための必修科目です。「保育所保育指針」「幼稚園教育要領」の中の保育内容「人間関係」を理解し、幼児期にふさわしい指導・援助方法について学びます。

子どもは生まれながらにして社会的存在であり、保護者や保育者等の周りの大人から愛され・育まれ・鍛錬され、同年代の仲間とともに遊び・生活し・切磋琢磨し合うというように、日々さまざまな人達と出会い具体的に関わっていく営みこそが、子どもの生きる力や人とかかわる力を育てていきます。この授業では、幼児期の人間関係の発達をテキストやビデオや絵本などからイメージし理解を膨らませ、併せて必要な援助も考えます。また、園での人間関係の中で子ども達が体験している協同遊びやトラブルなどが子どもにもたらす育ちの中身について考え、子ども達が経験しているであろう、上辺だけの繋がりではなく心を通い合わせる喜びや通い合わない悲しさや悔しさなどについても考え、子ども理解を深めます。

- ・ 保育内容「人間関係」を理解し、必要な援助を知る
- ・ 園での子ども達の人間関係の体験の中身を知り、その体験が子どものどのような育ちにつながっているのかを理解する

内容

1	保育内容5領域の関連性と「人間関係」に求められること
2	家庭での子どもの人間関係
3	園での0～3歳児の人間関係の発達
4	園での3歳児の人間関係の発達
5	園での4歳児の人間関係の発達
6	園での5歳児の人間関係の発達
7	人とかかわる力を育むための援助と配慮
8	自我の芽生えと人への気付き
9	遊びと生活の中での体験の積み重ねの中で成長すること
10	子ども同士のトラブルを通して成長すること
11	みんなで生活を作る中で道徳性が芽生えること
12	協同する経験を重ねる5歳児
13	特別なニーズを持つ子どもへの保育者のかかわる姿勢
14	小学校へつなぐ
15	まとめ

評価

授業参加度及び態度（40%）、提出課題及びレポート（60パーセント）を総合して評価します。合格点を60点とし、合格点に満たなかった場合は再試験を実施します。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】友定啓子・小田豊編著 新保育シリーズ「保育内容 人間関係」光生館

【推薦書】吉村真理子「絵本の匂い保育の味」小学館

科目名	保育内容の指導法（人間関係）		
担当教員名	山田 陽子		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部（J）-幼児教育学科		
学 年	3	ク ラ ス	2Bクラス
開 講 期	後期	必修・選択の別	選択, 必修*
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	保育士資格 / 幼稚園教諭一種免許状		

ねらい（ 科目の性格 科目の概要 学修目標）

この科目は、幼稚園教諭免許状と保育士資格の取得のための必修科目です。「保育所保育指針」「幼稚園教育要領」の中の保育内容「人間関係」を理解し、幼児期にふさわしい指導・援助方法について学びます。

子どもは生まれながらにして社会的存在であり、保護者や保育者等の周りの大人から愛され・育まれ・鍛錬され、同年代の仲間とともに遊び・生活し・切磋琢磨し合うというように、日々さまざまな人達と出会い具体的に関わっていく営みこそが、子どもの生きる力や人とかかわる力を育てていきます。この授業では、幼児期の人間関係の発達の姿をテキストやビデオや絵本などからイメージし理解を膨らませ、併せて必要な援助も考えます。また、園での人間関係の中で子ども達が体験している協同遊びやトラブルなどが子どもにもたらす育ちの中身について考え、子ども達が経験しているであろう、上辺だけの繋がりではなく心を通い合わせる喜びや通い合わない悲しさや悔しさなどについても考え、子ども理解を深めます。

- ・保育内容「人間関係」を理解し、必要な援助を知る
- ・園での子ども達の人間関係の体験の中身を知り、その体験が子どものどのような育ちにつながっているのかを理解する

内容

1	保育内容5領域の関連性と「人間関係」に求められること
2	家庭での子どもの人間関係
3	園での0～3歳児の人間関係の発達
4	園での3歳児の人間関係の発達
5	園での4歳児の人間関係の発達
6	園での5歳児の人間関係の発達
7	人とかかわる力を育むための援助と配慮
8	自我の芽生えと人への気付き
9	遊びと生活の中での体験の積み重ねの中で成長すること
10	子ども同士のトラブルを通して成長すること
11	みんなで生活を作る中で道徳性が芽生えること
12	協同する経験を重ねる5歳児
13	特別なニーズを持つ子どもへの保育者のかかわる姿勢
14	小学校へつなぐ
15	まとめ

評価

授業参加度及び態度（40%）、提出課題及びレポート（60パーセント）を総合して評価します。合格点を60点とし、合格点に満たなかった場合は再試験を実施します。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】友定啓子・小田豊編著 新保育シリーズ「保育内容 人間関係」光生館

【推薦書】吉村真理子「絵本の匂い保育の味」小学館

科目名	保育内容の指導法（言葉）		
担当教員名	上垣内 伸子		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部（J）-幼児教育学科		
学 年	3	ク ラ ス	1Aクラス
開 講 期	前期	必修・選択の別	必修* ,選択
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	保育士資格 / 幼稚園教諭一種免許状		

ねらい（ 科目の性格 科目の概要 学修目標）

科目の性質

幼稚園教諭免許状および保育士資格取得のための必修科目であり、この科目を履修していることが幼稚園、保育所での実習を行うための必要条件となっている。

科目の概要

子どもの発達理解、保育援助、教材研究、保育者となる自分自身の言葉への感性を育むという、4つの観点に立って授業は構築されている。発達理解に基づいて、子どもを受容し、安心感を育てていくような言葉かけ、遊びの発展を促していく言葉かけ、自分の気持ちや考えを友だちに伝えたり、友だちの発言を聞いて分かろうとする態度を育てる言葉かけといった具体的な保育援助の在り方を考えていく。後半には、保育案を作成しての絵本の読み聞かせをしたり、ペープサートを作成して簡単な劇を楽しんだり、絵本を作って合評する。受講することでコミュニケーションと文化について考察すると共に、文化の受け手としてだけでなく作り手としての自己を啓発することを望むものである。

学修目標

- ・ 幼稚園教育要領・保育所保育指針に示される領域「言葉」の指導法について理解する。
- ・ 乳幼児の自己表現とコミュニケーションについて多面的に理解する。
- ・ 絵本等の児童文化財についても、教材研究と実践スキルを養う。
- ・ 詩作や絵本作り、劇遊びなどを通して、言葉に対する感覚を養う。

内容

1	コミュニケーション能力の発達：乳幼児期の言葉とコミュニケーションの発達の理解
2	子どもの詩の鑑賞 / 「子どもの言葉」の表現特性とその後ろにある心情の理解
3	十文字のキャンパスをキャンパスにphoto俳句を一句
4	実際の子どもの姿から「子どもの言葉」について考える 子どものコミュニケーション様式
5	遊びの中の言葉 / ごっこ遊びの中での会話
6	- 1保育者の言葉と援助（実践記録を基にした学習）
7	- 2保育者の言葉と援助（保育ビデオを基にした学習）
8	絵本・物語とイマジネーション 私自身の絵本との出会いをふりかえる
9	文化財としての絵本と紙芝居 / 読み聞かせの演習
10	保育案の作成と教材研究
11	ことば遊び / 劇遊び
12	簡単なペープサート作成と劇遊び体験
13	文字・数・記号の獲得と保育
14	気になる言葉の遅れや問題
15	絵本作りと合評

評価

授業への参加態度（30%）、学期内の小レポート（30%）、学期末のレポートと作品の提出（40%）により評価を行う。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】文部科学省 幼稚園教育要領解説 フレーベル館
厚生労働省 保育所保育指針解説書 フレーベル館
（他に毎回プリント資料配布）

【推薦書】授業開始時に指示する

【参考図書】授業開始時に指示する

科目名	保育内容の指導法（言葉）		
担当教員名	上垣内 伸子		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部（J）-幼児教育学科		
学 年	3	ク ラ ス	1Bクラス
開 講 期	前期	必修・選択の別	必修* ,選択
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	保育士資格 / 幼稚園教諭一種免許状		

ねらい（ 科目の性格 科目の概要 学修目標）

科目の性質

幼稚園教諭免許状および保育士資格取得のための必修科目であり、この科目を履修していることが幼稚園、保育所での実習を行うための必要条件となっている。

科目の概要

子どもの発達理解、保育援助、教材研究、保育者となる自分自身の言葉への感性を育むという、4つの観点に立って授業は構築されている。発達理解に基づいて、子どもを受容し、安心感を育てていくような言葉かけ、遊びの発展を促していく言葉かけ、自分の気持ちや考えを友だちに伝えたり、友だちの発言を聞いて分かろうとする態度を育てる言葉かけといった具体的な保育援助の在り方を考えていく。後半には、保育案を作成しての絵本の読み聞かせをしたり、ペープサートを作成して簡単な劇を楽しんだり、絵本を作って合評する。受講することでコミュニケーションと文化について考察すると共に、文化の受け手としてだけでなく作り手としての自己を啓発することを望むものである。

学修目標

- ・ 幼稚園教育要領・保育所保育指針に示される領域「言葉」の指導法について理解する。
- ・ 乳幼児の自己表現とコミュニケーションについて多面的に理解する。
- ・ 絵本等の児童文化財についても、教材研究と実践スキルを養う。
- ・ 詩作や絵本作り、劇遊びなどを通して、言葉に対する感覚を養う。

内容

1	コミュニケーション能力の発達：乳幼児期の言葉とコミュニケーションの発達の理解
2	子どもの詩の鑑賞 / 「子どもの言葉」の表現特性とその後ろにある心情の理解
3	十文字のキャンパスをキャンパスにphoto俳句を一句
4	実際の子どもの姿から「子どもの言葉」について考える 子どものコミュニケーション様式
5	遊びの中の言葉 / ごっこ遊びの中での会話
6	- 1保育者の言葉と援助（実践記録を基にした学習）
7	- 2保育者の言葉と援助（保育ビデオを基にした学習）
8	絵本・物語とイマジネーション 私自身の絵本との出会いをふりかえる
9	文化財としての絵本と紙芝居 / 読み聞かせの演習
10	保育案の作成と教材研究
11	ことば遊び / 劇遊び
12	簡単なペープサート作成と劇遊び体験
13	文字・数・記号の獲得と保育
14	気になる言葉の遅れや問題
15	絵本作りと合評

評価

授業への参加態度（30%）、学期内の小レポート（30%）、学期末のレポートと作品の提出（40%）により評価を行う。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】文部科学省 幼稚園教育要領解説 フレーベル館
厚生労働省 保育所保育指針解説書 フレーベル館
（他に毎回プリント資料配布）

【推薦書】授業開始時に指示する

【参考図書】授業開始時に指示する

科目名	保育内容の指導法（言葉）		
担当教員名	横井 絢子		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部（J）-幼児教育学科		
学 年	3	ク ラ ス	10クラス
開 講 期	前期	必修・選択の別	必修* ,選択
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	保育士資格 / 幼稚園教諭一種免許状		

ねらい（ 科目の性格 科目の概要 学修目標）

科目の性質

幼稚園教諭免許状および保育士資格取得のための必修科目であり、この科目を履修していることが幼稚園、保育所での実習を行うための必要条件となっている。

科目の概要

子どもの発達理解、保育援助、教材研究、保育者となる自分自身の言葉への感性を育むという、4つの観点に立って授業は構築されている。発達理解に基づいて、子どもを受容し、安心感を育てていくような言葉かけ、遊びの発展を促していく言葉かけ、自分の気持ちや考えを友だちに伝えたり、友だちの発言を聞いて分かろうとする態度を育てる言葉かけといった具体的な保育援助の在り方を考えていく。後半には、保育案を作成しての絵本の読み聞かせをしたり、ペープサートを作成して簡単な劇を楽しんだり、絵本を作って合評する。受講することでコミュニケーションと文化について考察すると共に、文化の受け手としてだけでなく作り手としての自己を啓発することを望むものである。

学修目標

- ・ 幼稚園教育要領・保育所保育指針に示される領域「言葉」の指導法について理解する。
- ・ 乳幼児の自己表現とコミュニケーションについて多面的に理解する。
- ・ 絵本等の児童文化財についても、教材研究と実践スキルを養う。
- ・ 詩作や絵本作り、劇遊びなどを通して、言葉に対する感覚を養う。

内容

1	コミュニケーション能力の発達：乳幼児期の言葉とコミュニケーションの発達の理解
2	子どもの詩の鑑賞 / 「子どもの言葉」の表現特性とその後ろにある心情の理解
3	十文字のキャンパスをキャンパスにphoto俳句を一句
4	実際の子どもの姿から「子どもの言葉」について考える 子どものコミュニケーション様式
5	遊びの中の言葉 / ごっこ遊びの中での会話
6	- 1保育者の言葉と援助（実践記録を基にした学習）
7	- 2保育者の言葉と援助（保育ビデオを基にした学習）
8	絵本・物語とイマジネーション 私自身の絵本との出会いをふりかえる
9	文化財としての絵本と紙芝居 / 読み聞かせの演習
10	保育案の作成と教材研究
11	ことば遊び / 劇遊び
12	簡単なペープサート作成と劇遊び体験
13	文字・数・記号の獲得と保育
14	気になる言葉の遅れや問題
15	絵本作りと合評

評価

授業への参加態度（30%）、学期内の小レポート（30%）、学期末のレポートと作品の提出（40%）により評価を行う。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】文部科学省 幼稚園教育要領解説 フレーベル館
厚生労働省 保育所保育指針解説書 フレーベル館
（他に毎回プリント資料配布）

【推薦書】授業開始時に指示する

【参考図書】授業開始時に指示する

科目名	保育内容の指導法（言葉）		
担当教員名	横井 紘子		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部（J）-幼児教育学科		
学 年	3	ク ラ ス	1Dクラス
開 講 期	前期	必修・選択の別	選択, 必修*
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	保育士資格 / 幼稚園教諭一種免許状		

ねらい（ 科目の性格 科目の概要 学修目標）

科目の性質

幼稚園教諭免許状および保育士資格取得のための必修科目であり、この科目を履修していることが幼稚園、保育所での実習を行うための必要条件となっている。

科目の概要

子どもの発達理解、保育援助、教材研究、保育者となる自分自身の言葉への感性を育むという、4つの観点に立って授業は構築されている。発達理解に基づいて、子どもを受容し、安心感を育てていくような言葉かけ、遊びの発展を促していく言葉かけ、自分の気持ちや考えを友だちに伝えたり、友だちの発言を聞いて分かろうとする態度を育てる言葉かけといった具体的な保育援助の在り方を考えていく。後半には、保育案を作成しての絵本の読み聞かせをしたり、ペープサートを作成して簡単な劇を楽しんだり、絵本を作って合評する。受講することでコミュニケーションと文化について考察すると共に、文化の受け手としてだけでなく作り手としての自己を啓発することを望むものである。

学修目標

- ・ 幼稚園教育要領・保育所保育指針に示される領域「言葉」の指導法について理解する。
- ・ 乳幼児の自己表現とコミュニケーションについて多面的に理解する。
- ・ 絵本等の児童文化財についても、教材研究と実践スキルを養う。
- ・ 詩作や絵本作り、劇遊びなどを通して、言葉に対する感覚を養う。

内容

1	コミュニケーション能力の発達：乳幼児期の言葉とコミュニケーションの発達の理解
2	子どもの詩の鑑賞 / 「子どもの言葉」の表現特性とその後ろにある心情の理解
3	十文字のキャンパスをキャンパスにphoto俳句を一句
4	実際の子どもの姿から「子どもの言葉」について考える 子どものコミュニケーション様式
5	遊びの中の言葉 / ごっこ遊びの中での会話
6	- 1保育者の言葉と援助（実践記録を基にした学習）
7	- 2保育者の言葉と援助（保育ビデオを基にした学習）
8	絵本・物語とイマジネーション 私自身の絵本との出会いをふりかえる
9	文化財としての絵本と紙芝居 / 読み聞かせの演習
10	保育案の作成と教材研究
11	ことば遊び / 劇遊び
12	簡単なペープサート作成と劇遊び体験
13	文字・数・記号の獲得と保育
14	気になる言葉の遅れや問題
15	絵本作りと合評

評価

授業への参加態度（30%）、学期内の小レポート（30%）、学期末のレポートと作品の提出（40%）により評価を行う。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】文部科学省 幼稚園教育要領解説 フレーベル館
厚生労働省 保育所保育指針解説書 フレーベル館
（他に毎回プリント資料配布）

【推薦書】授業開始時に指示する

【参考図書】授業開始時に指示する

科目名	保育内容の指導法（音楽表現）		
担当教員名	金勝 裕子		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部（J）-幼児教育学科		
学 年	3	ク ラ ス	1Aクラス
開 講 期	前期	必修・選択の別	必修* , 選択
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	保育士資格 / 幼稚園教諭一種免許状		

ねらい（ 科目の性格 科目の概要 学修目標）

「ピアノ奏法」を取得し、さらに学んだ技術を、実際の童謡や子どもの歌の伴奏に活用する技術を学ぶ。子どもにとって歌いやすい伴奏とはどのようなものなのか、保育者にとって弾きやすい伴奏とはどのようなものなのか、さらに伴奏で音楽表現を豊かにするにはどのようにしていくのかを勉強する。
編曲法をベースに自分でピアノ伴奏の編曲を行い、身につけていく。

内容

音楽理論をしっかり理解する。

第1回～第3回で音楽理論および西洋音楽の大まかな理解を学ぶ

・ ・ ・ ・ ・ のカデンツとその応用曲編曲法を学ぶ

第4回・5回で ・ ・ ・ のカデンツのマスターと応用曲の編曲を学ぶ

第6回・7回で ・ ・ ・ のカデンツのマスターと応用曲の編曲を学ぶ

第8回で ・ ・ ・ の応用曲の編曲を学ぶ

第9回で ・ ・ ・ の応用曲の編曲を学ぶ

第10回・第11回で短調の応用曲の編曲を学ぶ

第12回でコード奏の説明をする

第13回でコード奏の編曲を学ぶ

第14回・15回で編曲演奏の総まとめをする。

各自の技術に合わせた無理のない伴奏編曲をする

個性を生かした編曲を学ぶ

このような基礎学習から次の項目をマスターしていく

伴奏の難易度かわらずどのような伴奏でも弾くことができる

伴奏譜がなくても考えて伴奏ができる

自在に楽譜を書くことができる

子ども主体の音楽が展開できる

上記の内容でクラスの進度を見ながら進めていく。

評価

授業内容の理解度を見る ノート提出をする 毎回の授業への取り組みを評価する。この三点を持って考慮の対象とする。。その割合は を50%、 を20%、 を30%とする。 はペーパーにより行い、一切持ち込み不可。15回目

、90分で行う。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】	最新 学生の音楽通論	供田武嘉津	音楽の友社	¥980	税込
【参考図書】	「ポケットいっぱいのおた」	鈴木恵津子著	教育芸術社	¥2100	

科目名	保育内容の指導法（音楽表現）		
担当教員名	金勝 裕子		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部（J）-幼児教育学科		
学 年	3	ク ラ ス	1Bクラス
開 講 期	前期	必修・選択の別	必修* , 選択
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	保育士資格 / 幼稚園教諭一種免許状		

ねらい（ 科目の性格 科目の概要 学修目標）

「ピアノ奏法」を取得し、さらに学んだ技術を、実際の童謡や子どもの歌の伴奏に活用する技術を学ぶ。子どもにとって歌いやすい伴奏とはどのようなものなのか、保育者にとって弾きやすい伴奏とはどのようなものなのか、さらに伴奏で音楽表現を豊かにするにはどのようにしていくのかを勉強する。
編曲法をベースに自分でピアノ伴奏の編曲を行い、身につけていく。

内容

音楽理論をしっかり理解する。

第1回～第3回で音楽理論および西洋音楽の大まかな理解を学ぶ

・ ・ ・ ・ ・ のカデンツとその応用曲編曲法を学ぶ

第4回・5回で ・ ・ ・ のカデンツのマスターと応用曲の編曲を学ぶ

第6回・7回で ・ ・ ・ のカデンツのマスターと応用曲の編曲を学ぶ

第8回で ・ ・ ・ の応用曲の編曲を学ぶ

第9回で ・ ・ ・ の応用曲の編曲を学ぶ

第10回・第11回で短調の応用曲の編曲を学ぶ

第12回でコード奏の説明をする

第13回でコード奏の編曲を学ぶ

第14回・15回で編曲演奏の総まとめをする。

各自の技術に合わせた無理のない伴奏編曲をする

個性を生かした編曲を学ぶ

このような基礎学習から次の項目をマスターしていく

伴奏の難易度かわらずどのような伴奏でも弾くことができる

伴奏譜がなくても考えて伴奏ができる

自在に楽譜を書くことができる

子ども主体の音楽が展開できる

上記の内容でクラスの進度を見ながら進めていく。

評価

授業内容の理解度を見る ノート提出をする 毎回の授業への取り組みを評価する。この三点を持って考慮の対象とする。。その割合は を50%、 を20%、 を30%とする。 はペーパーにより行い、一切持ち込み不可。15回目

、90分で行う。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】	最新 学生の音楽通論	供田武嘉津	音楽の友社	¥980	税込
【参考図書】	「ポケットいっぱいのおた」	鈴木恵津子著	教育芸術社	¥2100	

科目名	保育内容の指導法（音楽表現）		
担当教員名	金勝 裕子		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部（J）-幼児教育学科		
学 年	3	ク ラ ス	2Aクラス
開 講 期	後期	必修・選択の別	選択, 必修*
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	保育士資格 / 幼稚園教諭一種免許状		

ねらい（ 科目の性格 科目の概要 学修目標 ）

「ピアノ奏法」を取得し、さらに学んだ技術を、実際の童謡や子どもの歌の伴奏に活用する技術を学ぶ。子どもにとって歌いやすい伴奏とはどのようなものなのか、保育者にとって弾きやすい伴奏とはどのようなものなのか、さらに伴奏で音楽表現を豊かにするにはどのようにしていくのかを勉強する。
編曲法をベースに自分でピアノ伴奏の編曲を行い、身につけていく。

内容

音楽理論をしっかり理解する。

第1回～第3回で音楽理論および西洋音楽の大まかな理解を学ぶ

・ ・ ・ ・ ・ のカデンツとその応用曲編曲法を学ぶ

第4回・5回で ・ ・ ・ のカデンツのマスターと応用曲の編曲を学ぶ

第6回・7回で ・ ・ ・ のカデンツのマスターと応用曲の編曲を学ぶ

第8回で ・ ・ ・ の応用曲の編曲を学ぶ

第9回で ・ ・ ・ の応用曲の編曲を学ぶ

第10回・第11回で短調の応用曲の編曲を学ぶ

第12回でコード奏の説明をする

第13回でコード奏の編曲を学ぶ

第14回・15回で編曲演奏の総まとめをする。

各自の技術に合わせた無理のない伴奏編曲をする

個性を生かした編曲を学ぶ

このような基礎学習から次の項目をマスターしていく

伴奏の難易度かわらずどのような伴奏でも弾くことができる

伴奏譜がなくても考えて伴奏ができる

自在に楽譜を書くことができる

子ども主体の音楽が展開できる

上記の内容でクラスの進度を見ながら進めていく。

評価

授業内容の理解度を見る ノート提出をする 毎回の授業への取り組みを評価する。この三点を持って考慮の対象とする。。その割合は を50%、 を20%、 を30%とする。 はペーパーにより行い、一切持ち込み不可。15回目

、90分で行う。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】	最新 学生の音楽通論	供田武嘉津	音楽の友社	¥980	税込
【参考図書】	「ポケットいっぱいのおた」	鈴木恵津子著	教育芸術社	¥2100	

科目名	保育内容の指導法（音楽表現）		
担当教員名	金勝 裕子		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部（J）-幼児教育学科		
学 年	3	ク ラ ス	2Bクラス
開 講 期	後期	必修・選択の別	選択, 必修*
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	保育士資格 / 幼稚園教諭一種免許状		

ねらい（ 科目の性格 科目の概要 学修目標）

「ピアノ奏法」を取得し、さらに学んだ技術を、実際の童謡や子どもの歌の伴奏に活用する技術を学ぶ。子どもにとって歌いやすい伴奏とはどのようなものなのか、保育者にとって弾きやすい伴奏とはどのようなものなのか、さらに伴奏で音楽表現を豊かにするにはどのようにしていくのかを勉強する。

編曲法をベースに自分でピアノ伴奏の編曲を行い、身につけていく。

内容

音楽理論をしっかり理解する。

第1回～第3回で音楽理論および西洋音楽の大まかな理解を学ぶ

・ ・ ・ ・ ・ のカデンツとその応用曲編曲法を学ぶ

第4回・5回で ・ ・ ・ のカデンツのマスターと応用曲の編曲を学ぶ

第6回・7回で ・ ・ ・ のカデンツのマスターと応用曲の編曲を学ぶ

第8回で ・ ・ ・ の応用曲の編曲を学ぶ

第9回で ・ ・ ・ の応用曲の編曲を学ぶ

第10回・第11回で短調の応用曲の編曲を学ぶ

第12回でコード奏の説明をする

第13回でコード奏の編曲を学ぶ

第14回・15回で編曲演奏の総まとめをする。

各自の技術に合わせた無理のない伴奏編曲をする

個性を生かした編曲を学ぶ

このような基礎学習から次の項目をマスターしていく

伴奏の難易度かわらずどのような伴奏でも弾くことができる

伴奏譜がなくても考えて伴奏ができる

自在に楽譜を書くことができる

子ども主体の音楽が展開できる

上記の内容でクラスの進度を見ながら進めていく。

評価

授業内容の理解度を見る ノート提出をする 毎回の授業への取り組みを評価する。この三点を持って考慮の対象とする。。その割合は を50%、 を20%、 を30%とする。 はペーパーにより行い、一切持ち込み不可。15回目

、90分で行う。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】	最新 学生の音楽通論	供田武嘉津	音楽の友社	¥980	税込
【参考図書】	「ポケットいっぱいのおた」	鈴木恵津子著	教育芸術社	¥2100	

科目名	保育内容の指導法（造形表現）		
担当教員名	平田 智久		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部（J）-幼児教育学科		
学 年	2	ク ラ ス	2Aクラス
開 講 期	後期	必修・選択の別	必修* ,選択
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	保育士資格 / 幼稚園教諭一種免許状		

ねらい（ 科目の性格 科目の概要 学修目標）

幼稚園教育要領の第1章総則、第1 幼稚園教育の基本の中に「...幼児期の特性を踏まえ、環境を通して行うものであることを基本とする。」と示されている。また、保育所保育指針では第1章 総則、3 保育の原理の（3）保育の環境の中で、「...人、物、場などの環境が相互に関連し合い、子どもの生活が豊かなものとなるよう、...計画的に環境を構成し、工夫して保育しなければならない。」と示している。そうした保育の環境を構成する人的、物的、自然や社会の事象などを有効に取り入れる努力が求められている。子どもたちの日々の活動の中で造形活動は以上の「人的、物的、自然や社会の事象」と深く関わっている活動である。それらをいかに組み合わせ順序付けて構成することが望ましいかを演習を通して学ぶことがねらいである。

子どもたちは日々の活動の中で造形活動は大好きな活動のひとつである。「人的、物的、自然や社会の事象」と深く関わることは子どもの興味関心と深く関わる活動でもある。それらをいかに組み合わせ順序付けて構成することが望ましいか、実際の保育を視野に置きながら演習を通して学んでいく。

いわゆる作品主義の活動ではない。ものと出会い、人と関わり合い、事象に触れ心ときめかせる子ども達に共感できる資質を磨くことを目標とする。

内容

- 1.プロローグ・自然との出会い-1- 触感覚を駆使して・フロッタージュ
2. 自然との出会い-2- 葉っぱのはり絵
3. ものとの出会い-1- 紙との出会いから はり絵
4. ものとの出会い-2- ローラーのあそびから
5. ものとの出会い-3- スタンピング
6. ものとの出会い-4- スチレン版画 紙版画
7. ものとの出会い-5- 円柱形からの展開
8. ものとの出会い-6- 空き箱との出会い
9. ものとの出会い-7- 風を感じて
10. ひとつの出会い-1- 一緒に描くっておもしろい
11. ひとつの出会い-2- 持ち寄りの協同画
12. ひとつの出会い-3- 持ち寄りの活動、劇的
13. 社会の事象と造形-1- クリスマスなど
14. 社会の事象と造形-2- 宇宙と...
- 15.エピローグ・社会の事象と造形-3- プレゼントカード

以上を天候なども考慮しながら順番を変更して行なう。

評価

演習を通して学ぶので、感じ考えたことや実験してわかったことなどを一冊のスケッチブックにまとめ、自分のための資料集とすること(60%)。そのスケッチブックによって造形表現を手がかりとして子ども達と関わる感性、意欲を評価する(40%)。

教科書・推薦書(著者名・書名・出版社名)

〔教科書〕平田智久監修「毎日が造形あそび」学習研究社刊

科目名	保育内容の指導法（造形表現）		
担当教員名	平田 智久		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部（J）-幼児教育学科		
学 年	2	ク ラ ス	2Bクラス
開 講 期	後期	必修・選択の別	必修* , 選択
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	保育士資格 / 幼稚園教諭一種免許状		

ねらい（ 科目の性格 科目の概要 学修目標）

幼稚園教育要領の第1章総則、第1 幼稚園教育の基本の中に「...幼児期の特性を踏まえ、環境を通して行うものであることを基本とする。」と示されている。また、保育所保育指針では第1章 総則、3 保育の原理の（3）保育の環境の中で、「...人、物、場などの環境が相互に関連し合い、子どもの生活が豊かなものとなるよう、...計画的に環境を構成し、工夫して保育しなければならない。」と示している。そうした保育の環境を構成する人的、物的、自然や社会の事象などを有効に取り入れる努力が求められている。子どもたちの日々の活動の中で造形活動は以上の「人的、物的、自然や社会の事象」と深く関わっている活動である。それらをいかに組み合わせ順序付けて構成することが望ましいかを演習を通して学ぶことがねらいである。

子どもたちは日々の活動の中で造形活動は大好きな活動のひとつである。「人的、物的、自然や社会の事象」と深く関わることは子どもの興味関心と深く関わる活動でもある。それらをいかに組み合わせ順序付けて構成することが望ましいか、実際の保育を視野に置きながら演習を通して学んでいく。

いわゆる作品主義の活動ではない。ものと出会い、人と関わり合い、事象に触れ心ときめかせる子ども達に共感できる資質を磨くことを目標とする。

内容

- 1.プロローグ・自然との出会い-1- 触感覚を駆使して・フロッタージュ
2. 自然との出会い-2- 葉っぱのはり絵
3. ものとの出会い-1- 紙との出会いから はり絵
4. ものとの出会い-2- ローラーのあそびから
5. ものとの出会い-3- スタンピング
6. ものとの出会い-4- スチレン版画 紙版画
7. ものとの出会い-5- 円柱形からの展開
8. ものとの出会い-6- 空き箱との出会い
9. ものとの出会い-7- 風を感じて
10. ひとつの出会い-1- 一緒に描くっておもしろい
11. ひとつの出会い-2- 持ち寄りの協同画
12. ひとつの出会い-3- 持ち寄りの活動、劇的
13. 社会の事象と造形-1- クリスマスなど
14. 社会の事象と造形-2- 宇宙と...
15. エピローグ・社会の事象と造形-3- プレゼントカード

以上を天候なども考慮しながら順番を変更して行なう。

評価

演習を通して学ぶので、感じ考えたことや実験してわかったことなどを一冊のスケッチブックにまとめ、自分のための資料集とすること(60%)。そのスケッチブックによって造形表現を手がかりとして子ども達と関わる感性、意欲を評価する(40%)。

教科書・推薦書(著者名・書名・出版社名)

〔教科書〕平田智久監修「毎日が造形あそび」学習研究社刊

科目名	保育内容の指導法（造形表現）		
担当教員名	宮野 周		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部（J）-幼児教育学科		
学 年	2	ク ラ ス	2Cクラス
開 講 期	後期	必修・選択の別	必修* , 選択
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	保育士資格 / 幼稚園教諭一種免許状		

ねらい（ 科目の性格 科目の概要 学修目標）

幼稚園教育要領の第1章総則、第1 幼稚園教育の基本の中に「...幼児期の特性を踏まえ、環境を通して行うものであることを基本とする。」と示されている。また、保育所保育指針では第1章 総則、3 保育の原理の（3）保育の環境の中で、「...人、物、場などの環境が相互に関連し合い、子どもの生活が豊かなものとなるよう、...計画的に環境を構成し、工夫して保育しなければならない。」と示している。そうした保育の環境を構成する人的、物的、自然や社会の事象などを有効に取り入れる努力が求められている。子どもたちの日々の活動の中で造形活動は以上の「人的、物的、自然や社会の事象」と深く関わっている活動である。それらをいかに組み合わせ順序付けて構成することが望ましいかを演習を通して学ぶことがねらいである。

子どもたちは日々の活動の中で造形活動は大好きな活動のひとつである。「人的、物的、自然や社会の事象」と深く関わることは子どもの興味関心と深く関わる活動でもある。それらをいかに組み合わせ順序付けて構成することが望ましいか、実際の保育を視野に置きながら演習を通して学んでいく。

いわゆる作品主義の活動ではない。ものと出会い、人と関わり合い、事象に触れ心ときめかせる子ども達に共感できる資質を磨くことを目標とする。

内容

- 1.プロローグ・自然との出会い-1- 触感覚を駆使して・フロッタージュ
2. 自然との出会い-2- 葉っぱのはり絵
3. ものとの出会い-1- 紙との出会いから はり絵
4. ものとの出会い-2- ローラーのあそびから
5. ものとの出会い-3- スタンピング
6. ものとの出会い-4- スチレン版画 紙版画
7. ものとの出会い-5- 円柱形からの展開
8. ものとの出会い-6- 空き箱との出会い
9. ものとの出会い-7- 風を感じて
10. ひととの出会い-1- 一緒に描くっておもしろい
11. ひととの出会い-2- 持ち寄りの協同画
12. ひととの出会い-3- 持ち寄りの活動、劇的
13. 社会の事象と造形-1- クリスマスなど
14. 社会の事象と造形-2- 宇宙と...
15. エピローグ・社会の事象と造形-3- プレゼントカード

以上を天候なども考慮しながら順番を変更して行なう。

評価

演習を通して学ぶので、感じ考えたことや実験してわかったことなどを一冊のスケッチブックにまとめ、自分のための資料集とすること(60%)。そのスケッチブックによって造形表現を手がかりとして子ども達と関わる感性、意欲を評価する(40%)。

教科書・推薦書(著者名・書名・出版社名)

〔教科書〕平田智久監修「毎日が造形あそび」学習研究社刊

科目名	保育内容の指導法（造形表現）		
担当教員名	宮野 周		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部（J）-幼児教育学科		
学 年	2	ク ラ ス	2Dクラス
開 講 期	後期	必修・選択の別	必修* , 選択
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	保育士資格 / 幼稚園教諭一種免許状		

ねらい（ 科目の性格 科目の概要 学修目標）

幼稚園教育要領の第1章総則、第1 幼稚園教育の基本の中に「...幼児期の特性を踏まえ、環境を通して行うものであることを基本とする。」と示されている。また、保育所保育指針では第1章 総則、3 保育の原理の（3）保育の環境の中で、「...人、物、場などの環境が相互に関連し合い、子どもの生活が豊かなものとなるよう、...計画的に環境を構成し、工夫して保育しなければならない。」と示している。そうした保育の環境を構成する人的、物的、自然や社会の事象などを有効に取り入れる努力が求められている。子どもたちの日々の活動の中で造形活動は以上の「人的、物的、自然や社会の事象」と深く関わっている活動である。それらをいかに組み合わせ順序付けて構成することが望ましいかを演習を通して学ぶことがねらいである。

子どもたちは日々の活動の中で造形活動は大好きな活動のひとつである。「人的、物的、自然や社会の事象」と深く関わることは子どもの興味関心と深く関わる活動でもある。それらをいかに組み合わせ順序付けて構成することが望ましいか、実際の保育を視野に置きながら演習を通して学んでいく。

いわゆる作品主義の活動ではない。ものと出会い、人と関わり合い、事象に触れ心ときめかせる子ども達に共感できる資質を磨くことを目標とする。

内容

- 1.プロローグ・自然との出会い-1- 触感覚を駆使して・フロッタージュ
2. 自然との出会い-2- 葉っぱのはり絵
3. ものとの出会い-1- 紙との出会いから はり絵
4. ものとの出会い-2- ローラーのあそびから
5. ものとの出会い-3- スタンピング
6. ものとの出会い-4- スチレン版画 紙版画
7. ものとの出会い-5- 円柱形からの展開
8. ものとの出会い-6- 空き箱との出会い
9. ものとの出会い-7- 風を感じて
10. ひとつの出会い-1- 一緒に描くっておもしろい
11. ひとつの出会い-2- 持ち寄りの協同画
12. ひとつの出会い-3- 持ち寄りの活動、劇的
13. 社会の事象と造形-1- クリスマスなど
14. 社会の事象と造形-2- 宇宙と...
15. エピローグ・社会の事象と造形-3- プレゼントカード

以上を天候なども考慮しながら順番を変更して行なう。

評価

演習を通して学ぶので、感じ考えたことや実験してわかったことなどを一冊のスケッチブックにまとめ、自分のための資料集とすること(60%)。そのスケッチブックによって造形表現を手がかりとして子ども達と関わる感性、意欲を評価する(40%)。

教科書・推薦書(著者名・書名・出版社名)

〔教科書〕平田智久監修「毎日が造形あそび」学習研究社刊

科目名	保育内容の指導法（身体表現）		
担当教員名	坪倉 紀代子		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部（J）- 幼児教育学科		
学 年	3	ク ラ ス	1Aクラス
開 講 期	前期	必修・選択の別	選択, 必修*
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	保育士資格 / 幼稚園教諭一種免許状		

ねらい（ 科目の性格 科目の概要 学修目標）

【授業の概要】

10人の子供がいれば10通りの発想と動きが生まれることを前提に、多様な運動経験を子どもから引き出し、子どもとともにその運動を楽しみながら、子ども自身が活動を進めていけるような援助の方法を考えていく。指導案を作成し、お互いに模擬指導を体験するグループワークを随時実施していく。“身体表現基礎”における学びをもとに、さらに豊かな感性と身体による表現力を高め、創造性豊かな学生の育成を図る。

【到達目標】

- ・ 保育の場で身体表現の活動を指導展開していくための知識、方法、留意点を学ぶ。
- ・ 幼児の身体表現にふさわしい題材の検討・開拓をし、試行する。
- ・ “身体表現基礎”における学びをもとに、さらに子ども理解を深めながら身体表現の経験を進める。

受講制限

“身体表現基礎”の履修が完了していること

内容

1	子どもが本来持っている活動欲求、運動欲求を満たすということについて
2	運動によるカタルシスを体験しよう
3	“からだをあそぶ・からだであそぶ”ということについて
4	子どもたちのそれぞれのとらえ方、あらわし方を認めるということについて
5	からだの快感を保障してあげるということについて
6	<動きを引き出す言葉かけの要素> 運動そのものを明確にしていく
7	” 擬音語・擬態語との関係
8	” イメージと結びつけて
9	” 変化を生みだす状況設定
10	” ストーリーを考える
11	<多様な題材からの身体表現と指導法> 紙飛行機
12	” 音、声、擬音語・擬態語
13	愉快的、面白い動詞を起点に
14	身近材料（小箱）を活用して運動あそび、表現あそびを考える
15	絵本から身体表現へ

評価

授業への取り組み方を基本とし、実技試験・模擬指導の実施、レポート・毎時の記録等から評価する。

平常点50%、試験・指導30%、レポート・記録20%

三分の二以上出席することで評価を受けることができる。

合格点に満たなかった場合は再試験を行う。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

推薦書

斎藤孝、山下柚実 『五感力を育てる』 中公新書

高田ケラー有子 『平らな国デンマーク』 NHK出版

山本直英、片山健 『からだっていいな』 童心社

科目名	保育内容の指導法（身体表現）		
担当教員名	坪倉 紀代子		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部（J）- 幼児教育学科		
学 年	3	ク ラ ス	1Bクラス
開 講 期	前期	必修・選択の別	必修* , 選択
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	保育士資格 / 幼稚園教諭一種免許状		

ねらい（ 科目の性格 科目の概要 学修目標）

【授業の概要】

10人の子供がいれば10通りの発想と動きが生まれることを前提に、多様な運動経験を子どもから引き出し、子どもとともにその運動を楽しみながら、子ども自身が活動を進めていけるような援助の方法を考えていく。指導案を作成し、お互いに模擬指導を体験するグループワークを随時実施していく。“身体表現基礎”における学びをもとに、さらに豊かな感性と身体による表現力を高め、創造性豊かな学生の育成を図る。

【到達目標】

- ・ 保育の場で身体表現の活動を指導展開していくための知識、方法、留意点を学ぶ。
- ・ 幼児の身体表現にふさわしい題材の検討・開拓をし、試行する。
- ・ “身体表現基礎”における学びをもとに、さらに子ども理解を深めながら身体表現の経験を進める。

受講制限

“身体表現基礎”の履修が完了していること

内容

1	子どもが本来持っている活動欲求、運動欲求を満たすということについて
2	運動によるカタルシスを体験しよう
3	“からだをあそぶ・からだであそぶ”ということについて
4	子どもたちのそれぞれのとらえ方、あらわし方を認めるということについて
5	からだの快感を保障してあげるということについて
6	<動きを引き出す言葉かけの要素> 運動そのものを明確にしていく
7	” 擬音語・擬態語との関係
8	” イメージと結びつけて
9	” 変化を生みだす状況設定
10	” ストーリーを考える
11	<多様な題材からの身体表現と指導法> 紙飛行機
12	” 音、声、擬音語・擬態語
13	愉快的、面白い動詞を起点に
14	身近材料（小箱）を活用して運動あそび、表現あそびを考える
15	絵本から身体表現へ

評価

授業への取り組み方を基本とし、実技試験・模擬指導の実施、レポート・毎時の記録等から評価する。

平常点50%、試験・指導30%、レポート・記録20%

三分の二以上出席することで評価を受けることができる。

合格点に満たなかった場合は再試験を行う。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

推薦書

斎藤孝、山下柚実 『五感力を育てる』 中公新書

高田ケラー有子 『平らな国デンマーク』 NHK出版

山本直英、片山健 『からだっていいな』 童心社

科目名	保育内容の指導法（身体表現）		
担当教員名	坪倉 紀代子		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部（J）-幼児教育学科		
学 年	3	ク ラ ス	10クラス
開 講 期	前期	必修・選択の別	選択, 必修*
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	保育士資格 / 幼稚園教諭一種免許状		

ねらい（ 科目の性格 科目の概要 学修目標）

【授業の概要】

10人の子供がいれば10通りの発想と動きが生まれることを前提に、多様な運動経験を子どもから引き出し、子どもとともにその運動を楽しみながら、子ども自身が活動を進めていけるような援助の方法を考えていく。指導案を作成し、お互いに模擬指導を体験するグループワークを随時実施していく。“身体表現基礎”における学びをもとに、さらに豊かな感性と身体による表現力を高め、創造性豊かな学生の育成を図る。

【到達目標】

- ・ 保育の場で身体表現の活動を指導展開していくための知識、方法、留意点を学ぶ。
- ・ 幼児の身体表現にふさわしい題材の検討・開拓をし、試行する。
- ・ “身体表現基礎”における学びをもとに、さらに子ども理解を深めながら身体表現の経験を進める。

受講制限

“身体表現基礎”の履修が完了していること

内容

1	子どもが本来持っている活動欲求、運動欲求を満たすということについて
2	運動によるカタルシスを体験しよう
3	“からだをあそぶ・からだであそぶ”ということについて
4	子どもたちのそれぞれのとらえ方、あらわし方を認めるということについて
5	からだの快感を保障してあげるということについて
6	<動きを引き出す言葉かけの要素>運動そのものを明確にしていく
7	” 擬音語・擬態語との関係
8	” イメージと結びつけて
9	” 変化を生みだす状況設定
10	” ストーリーを考える
11	<多様な題材からの身体表現と指導法>紙飛行機
12	” 音、声、擬音語・擬態語
13	愉快的、面白い動詞を起点に
14	身近材料（小箱）を活用して運動あそび、表現あそびを考える
15	絵本から身体表現へ

評価

授業への取り組み方を基本とし、実技試験・模擬指導の実施、レポート・毎時の記録等から評価する。

平常点50%、試験・指導30%、レポート・記録20%

三分の二以上出席することで評価を受けることができる。

合格点に満たなかった場合は再試験を行う。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

推薦書

斎藤孝、山下柚実 『五感力を育てる』 中公新書

高田ケラー有子 『平らな国デンマーク』 NHK出版

山本直英、片山健 『からだっていいな』 童心社

科目名	保育内容の指導法（身体表現）		
担当教員名	坪倉 紀代子		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部（J）- 幼児教育学科		
学 年	3	ク ラ ス	1Dクラス
開 講 期	前期	必修・選択の別	必修* , 選択
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	保育士資格 / 幼稚園教諭一種免許状		

ねらい（ 科目の性格 科目の概要 学修目標）

【授業の概要】

10人の子供がいれば10通りの発想と動きが生まれることを前提に、多様な運動経験を子どもから引き出し、子どもとともにその運動を楽しみながら、子ども自身が活動を進めていけるような援助の方法を考えていく。指導案を作成し、お互いに模擬指導を体験するグループワークを随時実施していく。“身体表現基礎”における学びをもとに、さらに豊かな感性と身体による表現力を高め、創造性豊かな学生の育成を図る。

【到達目標】

- ・ 保育の場で身体表現の活動を指導展開していくための知識、方法、留意点を学ぶ。
- ・ 幼児の身体表現にふさわしい題材の検討・開拓をし、試行する。
- ・ “身体表現基礎”における学びをもとに、さらに子ども理解を深めながら身体表現の経験を進める。

受講制限

“身体表現基礎”の履修が完了していること

内容

1	子どもが本来持っている活動欲求、運動欲求を満たすということについて
2	運動によるカタルシスを体験しよう
3	“からだをあそぶ・からだであそぶ”ということについて
4	子どもたちのそれぞれのとらえ方、あらわし方を認めるということについて
5	からだの快感を保障してあげるということについて
6	<動きを引き出す言葉かけの要素> 運動そのものを明確にしていく
7	” 擬音語・擬態語との関係
8	” イメージと結びつけて
9	” 変化を生みだす状況設定
10	” ストーリーを考える
11	<多様な題材からの身体表現と指導法> 紙飛行機
12	” 音、声、擬音語・擬態語
13	愉快的、面白い動詞を起点に
14	身近材料（小箱）を活用して運動あそび、表現あそびを考える
15	絵本から身体表現へ

評価

授業への取り組み方を基本とし、実技試験・模擬指導の実施、レポート・毎時の記録等から評価する。

平常点50%、試験・指導30%、レポート・記録20%

三分の二以上出席することで評価を受けることができる。

合格点に満たなかった場合は再試験を行う。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

推薦書

斎藤孝、山下柚実 『五感力を育てる』 中公新書

高田ケラー有子 『平らな国デンマーク』 NHK出版

山本直英、片山健 『からだっていいな』 童心社

科目名	子どもと自然		
担当教員名	二宮 穰		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部 (J) - 幼児教育学科		
学 年	2	ク ラ ス	2Aクラス
開 講 期	後期	必修・選択の別	選択, 選必
授 業 形 態		単 位 数	1
資 格 関 係	保育士資格 / 幼稚園教諭一種免許状		

ねらい (科目の性格 科目の概要 学修目標)

科目の性格

この科目は、おもに幼児と自然とのかかわりの援助について学ぶ。他の保育内容科目との関連が深い。

科目の概要

動植物をはじめ、季節の自然事象を活用しながら、保育者自身が自然に親しみ、理解とかかわりを深めるとともに、子どもにとって自然とのかかわりがいかに重要かを理解し、適切な援助の方法を考えていく。

学修目標

1. 動植物をはじめとする身近な自然事象に気づき、かかわりをもつことができる。
2. そうした自然事象の性質や特徴を理解し、かかわりを深めることができる。
3. 自分の体験を活かしながら、子どもと自然とのかかわりを援助する方法を具体的に考えることができる。

内容

1	子どもにとっての自然
2	身近な自然体験 小動物とのかかわり
3	身近な自然体験 植物とのかかわり
4	身近な自然体験 自然事象とのかかわり
5	身近な自然体験 季節の自然への気づきと活用
6	動物とのかかわり ねらい, 動物とは何か?
7	動物とのかかわり 保育のなかでどのようにかわるか
8	動物とのかかわり 実践事例に学ぶ
9	植物とのかかわり ねらい, 植物とは何か?
10	植物とのかかわり 保育のなかでどのようにかわるか
11	植物とのかかわり 実践事例に学ぶ
12	自然事象とのかかわり ねらい, 自然事象とは何か?
13	自然事象とのかかわり 保育のなかでどのようにかわるか
14	自然事象とのかかわり 実践事例に学ぶ
15	まとめ

評価

授業の3分の2以上出席した学生を評価の対象とする。平常の提出物 (30点) とレポート (70点) により評価を行い、60点以上を合格とする。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】使用しない。適宜プリントを配布。

【参考図書】教室で紹介する。

科目名	子どもと自然		
担当教員名	二宮 穰		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部 (J) - 幼児教育学科		
学 年	2	ク ラ ス	2Bクラス
開 講 期	後期	必修・選択の別	選必, 選択
授 業 形 態		単 位 数	1
資 格 関 係	保育士資格 / 幼稚園教諭一種免許状		

ねらい (科目の性格 科目の概要 学修目標)

科目の性格

この科目は、おもに幼児と自然とのかかわりの援助について学ぶ。他の保育内容科目との関連が深い。

科目の概要

動植物をはじめ、季節の自然事象を活用しながら、保育者自身が自然に親しみ、理解とかかわりを深めるとともに、子どもにとって自然とのかかわりがいかに重要かを理解し、適切な援助の方法を考えていく。

学修目標

1. 動植物をはじめとする身近な自然事象に気づき、かかわりをもつことができる。
2. そうした自然事象の性質や特徴を理解し、かかわりを深めることができる。
3. 自分の体験を活かしながら、子どもと自然とのかかわりを援助する方法を具体的に考えることができる。

内容

1	子どもにとっての自然
2	身近な自然体験 小動物とのかかわり
3	身近な自然体験 植物とのかかわり
4	身近な自然体験 自然事象とのかかわり
5	身近な自然体験 季節の自然への気づきと活用
6	動物とのかかわり ねらい, 動物とは何か?
7	動物とのかかわり 保育のなかでどのようにかわるか
8	動物とのかかわり 実践事例に学ぶ
9	植物とのかかわり ねらい, 植物とは何か?
10	植物とのかかわり 保育のなかでどのようにかわるか
11	植物とのかかわり 実践事例に学ぶ
12	自然事象とのかかわり ねらい, 自然事象とは何か?
13	自然事象とのかかわり 保育のなかでどのようにかわるか
14	自然事象とのかかわり 実践事例に学ぶ
15	まとめ

評価

授業の3分の2以上出席した学生を評価の対象とする。平常の提出物 (30点) とレポート (70点) により評価を行い、60点以上を合格とする。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】使用しない。適宜プリントを配布。

【参考図書】教室で紹介する。

科目名	子どもと自然		
担当教員名	二宮 穰		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部 (J) - 幼児教育学科		
学 年	2	ク ラ ス	2Cクラス
開 講 期	後期	必修・選択の別	選択, 選必
授 業 形 態		単 位 数	1
資 格 関 係	保育士資格 / 幼稚園教諭一種免許状		

ねらい (科目の性格 科目の概要 学修目標)

科目の性格

この科目は、おもに幼児と自然とのかかわりの援助について学ぶ。他の保育内容科目との関連が深い。

科目の概要

動植物をはじめ、季節の自然事象を活用しながら、保育者自身が自然に親しみ、理解とかかわりを深めるとともに、子どもにとって自然とのかかわりがいかに重要かを理解し、適切な援助の方法を考えていく。

学修目標

1. 動植物をはじめとする身近な自然事象に気づき、かかわりをもつことができる。
2. そうした自然事象の性質や特徴を理解し、かかわりを深めることができる。
3. 自分の体験を活かしながら、子どもと自然とのかかわりを援助する方法を具体的に考えることができる。

内容

1	子どもにとっての自然
2	身近な自然体験 小動物とのかかわり
3	身近な自然体験 植物とのかかわり
4	身近な自然体験 自然事象とのかかわり
5	身近な自然体験 季節の自然への気づきと活用
6	動物とのかかわり ねらい, 動物とは何か?
7	動物とのかかわり 保育のなかでどのようにかわるか
8	動物とのかかわり 実践事例に学ぶ
9	植物とのかかわり ねらい, 植物とは何か?
10	植物とのかかわり 保育のなかでどのようにかわるか
11	植物とのかかわり 実践事例に学ぶ
12	自然事象とのかかわり ねらい, 自然事象とは何か?
13	自然事象とのかかわり 保育のなかでどのようにかわるか
14	自然事象とのかかわり 実践事例に学ぶ
15	まとめ

評価

授業の3分の2以上出席した学生を評価の対象とする。平常の提出物 (30点) とレポート (70点) により評価を行い、60点以上を合格とする。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】使用しない。適宜プリントを配布。

【参考図書】教室で紹介する。

科目名	子どもと自然		
担当教員名	二宮 穰		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部 (J) - 幼児教育学科		
学 年	2	ク ラ ス	2Dクラス
開 講 期	後期	必修・選択の別	選必, 選択
授 業 形 態		単 位 数	1
資 格 関 係	保育士資格 / 幼稚園教諭一種免許状		

ねらい (科目の性格 科目の概要 学修目標)

科目の性格

この科目は、おもに幼児と自然とのかかわりの援助について学ぶ。他の保育内容科目との関連が深い。

科目の概要

動植物をはじめ、季節の自然事象を活用しながら、保育者自身が自然に親しみ、理解とかかわりを深めるとともに、子どもにとって自然とのかかわりがいかに重要かを理解し、適切な援助の方法を考えていく。

学修目標

1. 動植物をはじめとする身近な自然事象に気づき、かかわりをもつことができる。
2. そうした自然事象の性質や特徴を理解し、かかわりを深めることができる。
3. 自分の体験を活かしながら、子どもと自然とのかかわりを援助する方法を具体的に考えることができる。

内容

1	子どもにとっての自然
2	身近な自然体験 小動物とのかかわり
3	身近な自然体験 植物とのかかわり
4	身近な自然体験 自然事象とのかかわり
5	身近な自然体験 季節の自然への気づきと活用
6	動物とのかかわり ねらい, 動物とは何か?
7	動物とのかかわり 保育のなかでどのようにかわるか
8	動物とのかかわり 実践事例に学ぶ
9	植物とのかかわり ねらい, 植物とは何か?
10	植物とのかかわり 保育のなかでどのようにかわるか
11	植物とのかかわり 実践事例に学ぶ
12	自然事象とのかかわり ねらい, 自然事象とは何か?
13	自然事象とのかかわり 保育のなかでどのようにかわるか
14	自然事象とのかかわり 実践事例に学ぶ
15	まとめ

評価

授業の3分の2以上出席した学生を評価の対象とする。平常の提出物 (30点) とレポート (70点) により評価を行い、60点以上を合格とする。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】使用しない。適宜プリントを配布。

【参考図書】教室で紹介する。

科目名	国語概説		
担当教員名	松木 正子		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部 (J) - 幼児教育学科		
学 年	2	ク ラ ス	
開 講 期	前期	必修・選択の別	選必, 選択
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	幼稚園教諭一種免許状		

ねらい (科目の性格 科目の概要 学修目標)

専門科目、保育内容の選択教科である。幼児・児童のことばと向き合うものとしてことばについてさまざまな側面から考えることを目指す。

漢字、ひらがな、片仮名などの文字の基礎基本を知り、さまざまな文章を読み考えを交流するなど実践的にことばと向き合う活動を通して学ぶ。

言葉について基礎的な知識を学び理解する。

読み、書き、表現する中で実践的な言葉の活用力を身につける。

内容

1	「ことばの学習」とは
2	文字について考える
3	文字について考える
4	文字について考える
5	プレゼンテーション
6	プレゼンテーション
7	詩を読む
8	詩を読む
9	新聞を読む
10	自分の考えを書く
11	敬語
12	ことばについて考える
13	児童文学
14	児童文学
15	まとめ

評価

ミニレポート (4割)、参加の状況 (3割)、最終レポート (3割)

教科書・推薦書 (著者名・書名・出版社名)

授業時に指示

科目名	算数概説		
担当教員名	増田 吉史		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部 (J) - 幼児教育学科		
学 年	2	ク ラ ス	
開 講 期	前期	必修・選択の別	選必, 選択
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	幼稚園教諭一種免許状		

ねらい (科目の性格 科目の概要 学修目標)

幼児期から形成される数、量、図形概念の獲得過程を考察していく。

小学校就学前後の幼児・児童の数学的概念の獲得と、小学校算数科の内容と関連づける。算数は低学年から高学年の学年進行にしたがって段階的に高度になる指導の系統を考察し、小学校入学前の幼児期の遊びや生活を通じた数や量の形の概念獲得を知る。算数科の学びの基本や、その内容や方法を、「数と計算」「量と測定」「図形」「数量関係」の4領域で考察していく。

幼児期から形成される数学的な概念を、小学校算数科の内容と関連づけ、さらに問題解決学習を体感する。

内容

1	ガイダンス、小学校における算数科の役割と幼児教育
2	学習指導要領における算数、数感覚、個数を数えること、1対1対応
3	幼児の数感覚、十進位取り記数法
4	同じ数ずつの集まり、数の相対的な大きさ
5	どちらが多い、すごろく遊び、ものと数詞の対応、数の表し方
6	幼稚園での遊びの中での数、数概念、数直線
7	数の大小、順序と系列あわせていくつ、ピンゴ・ゲーム
8	幼稚園で数に関わること、加法・減法の意味、加法・減法の計算
9	数の増減、数当てゲーム、整数の性質、問題解決的な学習
10	仲間集めと分類、くらべてみよう
11	身近な量の大きさ
12	比べ方と量の保存、量の測定
13	幼児の図形と空間の感覚、形作り、型押し、影遊び、模様作り
14	幼児児童の数量感覚、変わり方のパターン
15	振り返りとまとめ

評価

小テストや提出物 (80%)、試験 (20%) で評価し、60%以上を合格とする。

教科書・推薦書 (著者名・書名・出版社名)

【教科書】小学校学習指導要領解説算数編 文科省著 (東洋館出版社)

【推薦書】算数科コース別指導による確かな学び、理論編 (明治図書)

算数科コース別指導による確かな学び、1 - 3年実践編 (明治図書)

算数科コース別指導による確かな学び、4 - 6年実践編 (明治図書)

科目名	生活概説		
担当教員名	清水 一豊		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部（J）-幼児教育学科		
学 年	2	ク ラ ス	
開 講 期	後期	必修・選択の別	選必, 選択
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	幼稚園教諭一種免許状		

ねらい（ 科目の性格 科目の概要 学修目標 ）

小学校低学年教科の生活科がどのような学習であるかの概要を知り、ねらいや内容を具体的な実習や活動場面に触れることでより詳しく理解し、指導のポイントを習得する。また、仲間と協同して課題に取り組み、「子どもの見ている世界」に留意し、子ども理解力、授業力の向上を図る。

内容

1	「生活」の概要 予定 準備等の説明
2	子どもの生活体験・発達課題・生活科の概要
3	生活科の評価
4	身近な自然にかかわる単元例
5	キャンパスでの自然に関わる活動
6	落ち葉や実等を素材にした製作、表現活動
7	遊ぶ・交流する活動
8	身近な社会にかかわる単元例
9	自分の住んでいる街の「お気に入りマップ」の作成
10	マップを活用した伝え合う活動
11	家庭・家族にかかわる活動
12	「自分自身」にかかわる単元例
13	成長を振り返り表現する活動
14	アプローチカリキュラムとスタートカリキュラム
15	体験や具体的な活動を通して育つ「自立」についてまとめる

評価

課題レポート・作品 50% 課題論文 50% 総合的に評価する。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】 小学校学習指導要領解説 生活科編 文部科学省

【参考図書】 小学校生活科教科書 「せいかつ」上下 光村教育図書出版
生活科事典 東京書籍 他の参考図書は授業内で提示する。

科目名	生涯発達心理学		
担当教員名	長田 瑞恵		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部（J）- 幼児教育学科		
学 年	1	ク ラ ス	1Aクラス
開 講 期	前期	必修・選択の別	必修*
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	保育士資格 / 幼稚園教諭一種免許状		

ねらい（ 科目の性格 科目の概要 学修目標 ）

科目の性格

本科目は、幼稚園教諭一種免許状取得のための必修科目であり、保育士養成課程教育カリキュラムにおける「保育の対象の理解に関する科目」の一つである。1年次の最初に学ぶ専門科目の一つとして、後の養成課程の基礎の一部を成すものである。

科目の概要

発達という概念について理解を深め、人間の一生の中の最初期である乳幼児期とそれに続く児童期の特徴について理解する。そして、発達や学習の過程、生涯発達の観点から考えた障がいについても理解を深める。また、子どもが人との相互的にかかわりを通して発達していくことを具体的に理解する。

学修目標

- ・生涯発達という観点から人間をとらえ、人の一生の各時期の発達の特徴について学ぶ。
- ・特に乳幼児期から児童期にかけての身体的、心理的発達について重要性を理解する。
- ・各時期の発達の特徴と、保育や学習との関連を考察する。

内容

1	保育と発達心理学（1）子どもの発達を理解することの意義・保育実践の評価と心理学
2	保育と発達心理学（2）発達観、子ども観と保育観
3	生涯発達と初期経験の重要性（1）胎児期及び新生児期の発達
4	生涯発達と初期経験の重要性（2）乳幼児期の発達
5	生涯発達と初期経験の重要性（3）学童期から青年期の発達
6	生涯発達と初期経験の重要性（4）成人期、老年期の発達
7	子どもの発達理解（1）子どもの発達と環境
8	子どもの発達理解（2）感情の発達と自我
9	子どもの発達理解（3）身体的機能と運動機能の発達
10	子どもの発達理解（4）知覚と認知の発達・学習
11	子どもの発達理解（5）言葉の発達と社会性
12	人との相互的にかかわりと子どもの発達（1）基本的信頼感の獲得
13	人との相互的にかかわりと子どもの発達（2）他者とのかかわり・社会的相互作用
14	生涯発達の観点から考えた障がいと発達援助
15	まとめ

評価

平常点（授業内の課題）20点、学期末の筆記試験80点（自由記述課題と選択式課題）として評価を行い、60点以上を合格とする。

合格点に満たなかった場合、再試験とする。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】丹羽さかの（編著）・小田豊（監修）『保育の心理学I』 光生館

【推薦書】無藤隆・岩立京子編著 『乳幼児心理学』 北大路書房

無藤隆・藤崎真知代編著 『保育の心理学』 北大路書房

科目名	生涯発達心理学		
担当教員名	長田 瑞恵		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部（J）- 幼児教育学科		
学 年	1	ク ラ ス	1Bクラス
開 講 期	前期	必修・選択の別	必修*
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	保育士資格 / 幼稚園教諭一種免許状		

ねらい（ 科目の性格 科目の概要 学修目標 ）

科目の性格

本科目は、幼稚園教諭一種免許状取得のための必修科目であり、保育士養成課程教育カリキュラムにおける「保育の対象の理解に関する科目」の一つである。1年次の最初に学ぶ専門科目の一つとして、後の養成課程の基礎の一部を成すものである。

科目の概要

発達という概念について理解を深め、人間の一生の中の最初期である乳幼児期とそれに続く児童期の特徴について理解する。そして、発達や学習の過程、生涯発達の観点から考えた障がいについても理解を深める。また、子どもが人との相互的にかかわりを通して発達していくことを具体的に理解する。

学修目標

- ・生涯発達という観点から人間をとらえ、人の一生の各時期の発達の特徴について学ぶ。
- ・特に乳幼児期から児童期にかけての身体的、心理的発達について重要性を理解する。
- ・各時期の発達の特徴と、保育や学習との関連を考察する。

内容

1	保育と発達心理学（1）子どもの発達を理解することの意義・保育実践の評価と心理学
2	保育と発達心理学（2）発達観、子ども観と保育観
3	生涯発達と初期経験の重要性（1）胎児期及び新生児期の発達
4	生涯発達と初期経験の重要性（2）乳幼児期の発達
5	生涯発達と初期経験の重要性（3）学童期から青年期の発達
6	生涯発達と初期経験の重要性（4）成人期、老年期の発達
7	子どもの発達理解（1）子どもの発達と環境
8	子どもの発達理解（2）感情の発達と自我
9	子どもの発達理解（3）身体的機能と運動機能の発達
10	子どもの発達理解（4）知覚と認知の発達・学習
11	子どもの発達理解（5）言葉の発達と社会性
12	人との相互的にかかわりと子どもの発達（1）基本的信頼感の獲得
13	人との相互的にかかわりと子どもの発達（2）他者とのかかわり・社会的相互作用
14	生涯発達の観点から考えた障がいと発達援助
15	まとめ

評価

平常点（授業内の課題）20点、学期末の筆記試験80点（自由記述課題と選択式課題）として評価を行い、60点以上を合格とする。

合格点に満たなかった場合、再試験とする。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】丹羽さかの(編著)・小田豊(監修)『保育の心理学I』 光生館

【推薦書】無藤隆・岩立京子編著 『乳幼児心理学』 北大路書房

無藤隆・藤崎真知代編著 『保育の心理学』 北大路書房

科目名	生涯発達心理学		
担当教員名	長田 瑞恵		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部（J）- 幼児教育学科		
学 年	1	ク ラ ス	10クラス
開 講 期	前期	必修・選択の別	必修*
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	保育士資格 / 幼稚園教諭一種免許状		

ねらい（ 科目の性格 科目の概要 学修目標 ）

科目の性格

本科目は、幼稚園教諭一種免許状取得のための必修科目であり、保育士養成課程教育カリキュラムにおける「保育の対象の理解に関する科目」の一つである。1年次の最初に学ぶ専門科目の一つとして、後の養成課程の基礎の一部を成すものである。

科目の概要

発達という概念について理解を深め、人間の一生の中の最初期である乳幼児期とそれに続く児童期の特徴について理解する。そして、発達や学習の過程、生涯発達の観点から考えた障がいについても理解を深める。また、子どもが人との相互的にかかわりを通して発達していくことを具体的に理解する。

学修目標

- ・生涯発達という観点から人間をとらえ、人の一生の各時期の発達の特徴について学ぶ。
- ・特に乳幼児期から児童期にかけての身体的、心理的発達について重要性を理解する。
- ・各時期の発達の特徴と、保育や学習との関連を考察する。

内容

1	保育と発達心理学（1）子どもの発達を理解することの意義・保育実践の評価と心理学
2	保育と発達心理学（2）発達観、子ども観と保育観
3	生涯発達と初期経験の重要性（1）胎児期及び新生児期の発達
4	生涯発達と初期経験の重要性（2）乳幼児期の発達
5	生涯発達と初期経験の重要性（3）学童期から青年期の発達
6	生涯発達と初期経験の重要性（4）成人期、老年期の発達
7	子どもの発達理解（1）子どもの発達と環境
8	子どもの発達理解（2）感情の発達と自我
9	子どもの発達理解（3）身体的機能と運動機能の発達
10	子どもの発達理解（4）知覚と認知の発達・学習
11	子どもの発達理解（5）言葉の発達と社会性
12	人との相互的にかかわりと子どもの発達（1）基本的信頼感の獲得
13	人との相互的にかかわりと子どもの発達（2）他者とのかかわり・社会的相互作用
14	生涯発達の観点から考えた障がいと発達援助
15	まとめ

評価

平常点（授業内の課題）20点、学期末の筆記試験80点（自由記述課題と選択式課題）として評価を行い、60点以上を合格とする。

合格点に満たなかった場合、再試験とする。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】丹羽さかの(編著)・小田豊(監修)『保育の心理学I』 光生館

【推薦書】無藤隆・岩立京子編著 『乳幼児心理学』 北大路書房

無藤隆・藤崎真知代編著 『保育の心理学』 北大路書房

科目名	保育心理学		
担当教員名	大宮 明子		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部 (J) - 幼児教育学科		
学 年	1	ク ラ ス	2Aクラス
開 講 期	後期	必修・選択の別	必修*
授 業 形 態		単 位 数	1
資 格 関 係	保育士資格 / 幼稚園教諭一種免許状		

ねらい (科目の性格 科目の概要 学修目標)

科目の性格

この科目は、幼児教育学科の卒業必修科目である。

科目の概要

子どもの発達、生活や遊びを通じた学習の過程、性格、適応などについて、保育心理学の立場から学ぶ。

学修目標

毎回事前に該当する部分のテキストを読み、レジユメを作成し提出する。毎回短い論述課題およびリアクションペーパーの提出を求める。

乳幼児期の子どもの理解を深め、保育をより効果的に進めるための心理学的知見、さらに生活と遊びを通して学ぶ子どもの経験や学習過程、保育における発達援助について理解する。

内容

1	子どもの発達と保育実践(1)子ども理解における発達の把握
2	子どもの発達と保育実践(2)個人差や発達過程に応じた保育
3	子どもの発達と保育実践(3)身体感覚を伴う多様な経験と環境との相互作用
4	子どもの発達と保育実践(4)環境としての保育者と子どもの発達
5	子どもの発達と保育実践(5)子ども相互のかかわりと関係作り
6	子どもの発達と保育実践(6)自己主張と自己統制
7	子どもの発達と保育実践(7)子ども集団と保育の環境
8	学習過程(1)子どもの生活・遊びと学び
9	学習過程(2)生涯にわたる生きる力の基礎を培う
10	保育における発達援助(1)基本的な生活習慣の獲得と発達援助
11	保育における発達援助(2)自己の主体性の形成と発達援助
12	保育における発達援助(3)発達の課題に応じた援助やかかわり
13	保育における発達援助(4)発達の連続性と就学への支援
14	保育における発達援助(5)発達援助における協働
15	まとめ

評価

毎回のレジユメ・リアクションペーパー30点、期末テスト70点で評価し、60点以上を合格とする。

合格点に達しなかった場合には、再試験を行う。

教科書・推薦書 (著者名・書名・出版社名)

【テキスト】無藤隆・清水益次編著『保育の心理学』 北大路書房

【推薦書】内田伸子編著『よくわかる乳幼児心理学』ミネルヴァ書房

服部照子・岡本雅子編著『保育発達学（第2版）』ミネルヴァ書房

科目名	保育心理学		
担当教員名	大宮 明子		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部 (J) - 幼児教育学科		
学 年	1	ク ラ ス	2Bクラス
開 講 期	後期	必修・選択の別	必修*
授 業 形 態		単 位 数	1
資 格 関 係	保育士資格 / 幼稚園教諭一種免許状		

ねらい (科目の性格 科目の概要 学修目標)

科目の性格

この科目は、幼児教育学科の卒業必修科目である。

科目の概要

子どもの発達、生活や遊びを通じた学習の過程、性格、適応などについて、保育心理学の立場から学ぶ。

学修目標

毎回事前に該当する部分のテキストを読み、レジユメを作成し提出する。毎回短い論述課題およびリアクションペーパーの提出を求める。

乳幼児期の子どもの理解を深め、保育をより効果的に進めるための心理学的知見、さらに生活と遊びを通して学ぶ子どもの経験や学習過程、保育における発達援助について理解する。

内容

1	子どもの発達と保育実践(1)子ども理解における発達の把握
2	子どもの発達と保育実践(2)個人差や発達過程に応じた保育
3	子どもの発達と保育実践(3)個人差や発達過程に応じた保育
4	子どもの発達と保育実践(4)環境としての保育者と子どもの発達
5	子どもの発達と保育実践(5)子ども相互のかかわりと関係作り
6	子どもの発達と保育実践(6)自己主張と自己統制
7	子どもの発達と保育実践(7)子ども集団と保育の環境
8	学習過程(1)子どもの生活・遊びと学び
9	学習過程(2)生涯にわたる生きる力の基礎を培う
10	保育における発達援助(1)基本的な生活習慣の獲得と発達援助
11	保育における発達援助(2)自己の主体性の形成と発達援助
12	保育における発達援助(3)発達の課題に応じた援助やかかわり
13	保育における発達援助(4)発達の連続性と就学への支援
14	保育における発達援助(5)発達援助における協働
15	まとめ

評価

毎回のレジユメ・リアクションペーパー30点、期末テスト70点で評価し、60点以上を合格とする。

合格点に達しなかった場合には、再試験を行う。

教科書・推薦書 (著者名・書名・出版社名)

【テキスト】無藤隆・清水益次編著『保育の心理学』 北大路書房

【推薦書】内田伸子編著『よくわかる乳幼児心理学』ミネルヴァ書房

服部照子・岡本雅子編著『保育発達学（第2版）』ミネルヴァ書房

科目名	保育心理学		
担当教員名	大宮 明子		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部 (J) - 幼児教育学科		
学 年	1	ク ラ ス	2Cクラス
開 講 期	後期	必修・選択の別	必修*
授 業 形 態		単 位 数	1
資 格 関 係	保育士資格 / 幼稚園教諭一種免許状		

ねらい (科目の性格 科目の概要 学修目標)

科目の性格

この科目は、幼児教育学科の卒業必修科目である。

科目の概要

子どもの発達、生活や遊びを通じた学習の過程、性格、適応などについて、保育心理学の立場から学ぶ。

学修目標

毎回事前に該当する部分のテキストを読み、レジユメを作成し提出する。毎回短い論述課題およびリアクションペーパーの提出を求める。

乳幼児期の子どもの理解を深め、保育をより効果的に進めるための心理学的知見、さらに生活と遊びを通して学ぶ子どもの経験や学習過程、保育における発達援助について理解する。

内容

1	子どもの発達と保育実践(1)子ども理解における発達の把握
2	子どもの発達と保育実践(2)個人差や発達過程に応じた保育
3	子どもの発達と保育実践(3)身体感覚を伴う多様な経験と環境との相互作用
4	子どもの発達と保育実践(4)環境としての保育者と子どもの発達
5	子どもの発達と保育実践(5)子ども相互のかかわりと関係作り
6	子どもの発達と保育実践(6)自己主張と自己統制
7	子どもの発達と保育実践(7)子ども集団と保育の環境
8	学習過程(1)子どもの生活・遊びと学び
9	学習過程(2)生涯にわたる生きる力の基礎を培う
10	保育における発達援助(1)基本的な生活習慣の獲得と発達援助
11	保育における発達援助(2)自己の主体性の形成と発達援助
12	保育における発達援助(3)発達の課題に応じた援助やかかわり
13	保育における発達援助(4)発達の連続性と就学への支援
14	保育における発達援助(5)発達援助における協働
15	まとめ

評価

毎回のレジユメ・リアクションペーパー30点、期末テストレポート70点で評価し、60点以上を合格とする。合格点に達しなかった場合には、再試験を行う。

教科書・推薦書 (著者名・書名・出版社名)

【教科書】無藤隆・清水益次編著『保育の心理学』 北大路書房

【推薦書】内田伸子編著『よくわかる乳幼児心理学』ミネルヴァ書房

服部照子・岡本雅子編著『保育発達学（第2版）』ミネルヴァ書房

科目名	保育心理学		
担当教員名	大宮 明子		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部 (J) - 幼児教育学科		
学 年	1	ク ラ ス	2Dクラス
開 講 期	後期	必修・選択の別	必修*
授 業 形 態		単 位 数	1
資 格 関 係	保育士資格 / 幼稚園教諭一種免許状		

ねらい (科目の性格 科目の概要 学修目標)

科目の性格

この科目は、幼児教育学科の卒業必修科目である。

科目の概要

子どもの発達、生活や遊びを通じた学習の過程、性格、適応などについて、保育心理学の立場から学ぶ。

学修目標

毎回事前に該当する部分のテキストを読み、レジユメを作成し提出する。毎回短い論述課題およびリアクションペーパーの提出を求める。

乳幼児期の子どもの理解を深め、保育をより効果的に進めるための心理学的知見、さらに生活と遊びを通して学ぶ子どもの経験や学習過程、保育における発達援助について理解する。

内容

1	子どもの発達と保育実践(1)子ども理解における発達の把握
2	子どもの発達と保育実践(2)個人差や発達過程に応じた保育
3	子どもの発達と保育実践(3)身体感覚を伴う多様な経験と環境との相互作用
4	子どもの発達と保育実践(4)環境としての保育者と子どもの発達
5	子どもの発達と保育実践(5)子ども相互のかかわりと関係作り
6	子どもの発達と保育実践(6)自己主張と自己統制
7	子どもの発達と保育実践(7)子ども集団と保育の環境
8	学習過程(1)子どもの生活・遊びと学び
9	学習過程(2)生涯にわたる生きる力の基礎を培う
10	保育における発達援助(1)基本的な生活習慣の獲得と発達援助
11	保育における発達援助(2)自己の主体性の形成と発達援助
12	保育における発達援助(3)発達の課題に応じた援助やかかわり
13	保育における発達援助(4)発達の連続性と就学への支援
14	保育における発達援助(5)発達援助における協働
15	まとめ

評価

毎回のレジユメ・リアクションペーパー30点、期末テスト70点で評価し、60点以上を合格とする。

合格点に達しなかった場合には、再試験を行う。

教科書・推薦書 (著者名・書名・出版社名)

【テキスト】無藤隆・清水益次編著『保育の心理学』 北大路書房

【推薦書】内田伸子編著『よくわかる乳幼児心理学』ミネルヴァ書房

服部照子・岡本雅子編著『保育発達学（第2版）』ミネルヴァ書房

科目名	臨床心理学		
担当教員名	向井 美穂		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部（J）- 幼児教育学科		
学 年	3	ク ラ ス	
開 講 期	前期	必修・選択の別	選択
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係			

ねらい（ 科目の性格 科目の概要 学修目標 ）

科目の性格

幼児教育学科3年次の選択科目のひとつである。

科目の概要

臨床心理学とは、何らかの心の問題や葛藤を持つ人に、心理学的な知識や技法を用いて実践的に援助するための学問である。本科目では、臨床心理学の初歩的な知識を学ぶことを目的とする。乳幼児期、児童期を中心に、人格形成の途上であり、可能性に満ちた存在である子どもへの個別的な人間理解を深めるためのアプローチの仕方や心理的援助の方法についての基礎理論を学ぶ。

学修目標

臨床心理学の初歩的な知識を学び、今日の 子どもの臨床的課題を把握する。

内容

臨床心理学とは

臨床心理学の基礎理論

臨床心理学のさまざまな研究法

子どもの心理臨床

子どもへの全体的・総合的アプローチ

子どもの発達と臨床的課題

子どもへ臨床心理学を応用するには

心理療法の事例検討から考える その1

心理療法の事例検討から考える その2

心理療法の事例検討から考える その3

子どもの臨床的課題の理解

保育場面の事例研究とグループワーク その1

保育場面の事例研究とグループワーク その2

保育場面の事例研究とグループワーク その3

まとめ

保育現場での臨床的なアプローチについて臨床学的視点からの理解を深めることとします。授業内で体験的な学びを深めていくことを重視しますので、受講生自身が主体的に行為者となって学ぶことが求められます。

評価

最終課題（50%）、授業内での課題活動の担い方についての行為評価（50%）として総合評価します。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

教科書・推薦書ともに授業内で紹介します。

科目名	臨床発達心理学		
担当教員名	長田 瑞恵		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部 (J) - 幼児教育学科		
学 年	2	ク ラ ス	
開 講 期	後期	必修・選択の別	選択
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	保育士資格		

ねらい(科目の性格 科目の概要 学修目標)

科目の性格

乳幼児期・児童期の子どもを臨床発達心理学的観点から考える。これまでに履修してきた発達に関わる基礎的な知識を土台として、さらに代表的な発達理論について理解を深めると同時に、臨床場面での事例に基づいて障がいについて学ぶ。

科目の概要

理論的背景としてPiaget、Eriksonの主張や、発達心理学の領域で注目されている「心の理論」などについて学ぶ。さらに、さまざまな発達障がいについて理解を深め、障がいをもっている子どもたちの保育・教育や子育てについて考える。

学修目標

- ・発達理論については、授業内に解説される内容をよく復習し、これまでに学んだ知識と有機的に統合する
- ・障がいについては、事例に基づくそれぞれの障がいの特徴を理解し、障がいをもつ子どもへの保育・教育について自分自身で考える力を養う
- ・臨床的な視点から発達をとらえることの必要性について理解する

内容

1	臨床発達心理学総論
2	Piagetの発達段階論
3	Piagetの発達段階論
4	Eriksonの発達理論
5	Eriksonの発達理論
6	「心の理論」
7	「心の理論」
8	発達障がい総論
9	発達障がい各論 : 広汎性発達障害
10	発達障がい各論 : ADHD
11	発達障がい各論 : LD
12	発達障がい各論 : 発達障がいを持つ子どもを持つということ
13	もう一つの「発達障がい」 : 虐待1
14	もう一つの「発達障がい」 : 虐待2
15	まとめ

評価

平常点(授業内の感想票)20点、学期末の筆記試験80点として評価を行い、60点以上を合格とする。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

- 【教科書】 白石正久著 『発達の扉 上』 かもがわ出版
白石正久著 『発達の扉 下』 かもがわ出版
- 【推薦書】 市川宏伸著 『子どもの心の病気がわかる本』 講談社
小西 行郎 『子どもの心の発達がわかる本』 講談社

科目名	保育・教育相談		
担当教員名	向井 美穂		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部 (J) - 幼児教育学科		
学 年	3	ク ラ ス	1Aクラス
開 講 期	前期	必修・選択の別	必修*, 選択
授 業 形 態		単 位 数	1
資 格 関 係	保育士資格 / 幼稚園教諭一種免許状		

ねらい (科目の性格 科目の概要 学修目標)

科目の性格

幼児教育学科専門科目であり、幼稚園教諭一種免許状取得のための必修科目である。

科目の概要

子どもの臨床的な課題と子どもへの心理的援助の方法についての基盤的な理解の上に、保育者は保護者との保育・教育相談をどのように担うべきかという理論と技法の基本を学ぶための教科である。

現代社会では、子どもの臨床的課題の解決、発展には、子どもへの臨床的なアプロ - チばかりでなく、保護者との保育・教育相談、カウンセリングが並行することによる保護者と保育者との連携の必要性がますます高まっている。そのため、保護者の相談に対応するうえでの基本的な理論と姿勢についての知識を習得することは保育者にとって欠かせない要件となっている。

学修目標

- ・ 保育・教育相談の基本となるカウンセリングの理論と技法についての理解を深める。
- ・ 幼稚園や保育所、子育て支援センター等における保育現場で求められている保育・教育相談者としての専門性の修得。
- ・ 行為法などのアクションレベルの相談技法の集団における学びに積極的に参加し、日常生活や保育現場での実践力を高める

内容

子どもの臨床的課題に対し適切な心理的援助を行っていくためには、基本的な発達の理解が必要不可欠なことはいうまでもないが、同時に、保護者と良好な関係を作り協働していくこと、問題を一人で抱え込むのではなく仲間と協力していくこと、また必要に応じて他機関との連携をとっていくことなども重要である。保育・教育相談に携わる際の基礎知識と基本技法の習得をめざし、保育・教育現場での多様なニーズに応えていくための下地づくりをしていきたい。

子どもへの臨床活動と共に保護者との保育・教育相談が展開する保育現場（幼稚園、保育所、地域の子育て支援センターなど）で展開する相談の実際とその特色について、実践事例と対応させながら学ぶ。

保育・教育相談とは

カウンセリングの歴史と広がり

カウンセリングの基礎理論

カウンセリングの実践展開事例についてのグループ・ワーク その1

カウンセリングの実践展開事例についてのグループ・ワーク その2

カウンセリングの実践展開事例についてのグループ・ワーク その3

なぜ保育者に相談者としての役割を担うことが求められるようになったのか

カウンセリング理論を基盤とする保育・教育相談の展開

保育・教育相談の特性に対応した実践理論

実践事例についての事例研究

事例のロール・プレイからの検討

相談関係を促進する相談者の関係認識と行為の基本
保育・教育相談と連携する関係機関における発達臨床活動の実際
まとめ

評価

最終課題（60％）、講義・グループワークへの参加態度（20％）、小レポート（20％）を総合して評価する。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

授業内で随時紹介する。

科目名	保育・教育相談		
担当教員名	向井 美穂		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部 (J) - 幼児教育学科		
学 年	3	ク ラ ス	1Bクラス
開 講 期	前期	必修・選択の別	選択, 必修*
授 業 形 態		単 位 数	1
資 格 関 係	保育士資格 / 幼稚園教諭一種免許状		

ねらい (科目の性格 科目の概要 学修目標)

科目の性格

幼児教育学科専門科目であり、幼稚園教諭一種免許状取得のための必修科目である。

科目の概要

子どもの臨床的な課題と子どもへの心理的援助の方法についての基盤的な理解の上に、保育者は保護者との保育・教育相談をどのように担うべきかという理論と技法の基本を学ぶための教科である。

現代社会では、子どもの臨床的課題の解決、発展には、子どもへの臨床的なアプロ - チばかりでなく、保護者との保育・教育相談、カウンセリングが並行することによる保護者と保育者との連携の必要性がますます高まっている。そのため、保護者の相談に対応するうえでの基本的な理論と姿勢についての知識を習得することは保育者にとって欠かせない要件となっている。

学修目標

- ・ 保育・教育相談の基本となるカウンセリングの理論と技法についての理解を深める。
- ・ 幼稚園や保育所、子育て支援センター等における保育現場で求められている保育・教育相談者としての専門性の修得。
- ・ 行為法などのアクションレベルの相談技法の集団における学びに積極的に参加し、日常生活や保育現場での実践力を高める

内容

子どもの臨床的課題に対し適切な心理的援助を行っていくためには、基本的な発達の理解が必要不可欠なことはいうまでもないが、同時に、保護者と良好な関係を作り協働していくこと、問題を一人で抱え込むのではなく仲間と協力していくこと、また必要に応じて他機関との連携をとっていくことなども重要である。保育・教育相談に携わる際の基礎知識と基本技法の習得をめざし、保育・教育現場での多様なニーズに応えていくための下地づくりをしていきたい。

子どもへの臨床活動と共に保護者との保育・教育相談が展開する保育現場（幼稚園、保育所、地域の子育て支援センターなど）で展開する相談の実際とその特色について、実践事例と対応させながら学ぶ。

保育・教育相談とは

カウンセリングの歴史と広がり

カウンセリングの基礎理論

カウンセリングの実践展開事例についてのグループ・ワーク その1

カウンセリングの実践展開事例についてのグループ・ワーク その2

カウンセリングの実践展開事例についてのグループ・ワーク その3

なぜ保育者に相談者としての役割を担うことが求められるようになったのか

カウンセリング理論を基盤とする保育・教育相談の展開

保育・教育相談の特性に対応した実践理論

実践事例についての事例研究

事例のロール・プレイからの検討

相談関係を促進する相談者の関係認識と行為の基本
保育・教育相談と連携する関係機関における発達臨床活動の実際
まとめ

評価

最終課題（60％）、講義・グループワークへの参加態度（20％）、小レポート（20％）を総合して評価する。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

授業内で随時紹介する。

科目名	保育・教育相談		
担当教員名	向井 美穂		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部 (J) - 幼児教育学科		
学 年	3	ク ラ ス	10クラス
開 講 期	前期	必修・選択の別	必修*, 選択
授 業 形 態		単 位 数	1
資 格 関 係	保育士資格 / 幼稚園教諭一種免許状		

ねらい (科目の性格 科目の概要 学修目標)

科目の性格

幼児教育学科専門科目であり、幼稚園教諭一種免許状取得のための必修科目である。

科目の概要

子どもの臨床的な課題と子どもへの心理的援助の方法についての基盤的な理解の上に、保育者は保護者との保育・教育相談をどのように担うべきかという理論と技法の基本を学ぶための教科である。

現代社会では、子どもの臨床的課題の解決、発展には、子どもへの臨床的なアプロ - チばかりでなく、保護者との保育・教育相談、カウンセリングが並行することによる保護者と保育者との連携の必要性がますます高まっている。そのため、保護者の相談に対応するうえでの基本的な理論と姿勢についての知識を習得することは保育者にとって欠かせない要件となっている。

学修目標

- ・ 保育・教育相談の基本となるカウンセリングの理論と技法についての理解を深める。
- ・ 幼稚園や保育所、子育て支援センター等における保育現場で求められている保育・教育相談者としての専門性の修得。
- ・ 行為法などのアクションレベルの相談技法の集団における学びに積極的に参加し、日常生活や保育現場での実践力を高める

内容

子どもの臨床的課題に対し適切な心理的援助を行っていくためには、基本的な発達の理解が必要不可欠なことはいうまでもないが、同時に、保護者と良好な関係を作り協働していくこと、問題を一人で抱え込むのではなく仲間と協力していくこと、また必要に応じて他機関との連携をとっていくことなども重要である。保育・教育相談に携わる際の基礎知識と基本技法の習得をめざし、保育・教育現場での多様なニーズに応えていくための下地づくりをしていきたい。

子どもへの臨床活動と共に保護者との保育・教育相談が展開する保育現場（幼稚園、保育所、地域の子育て支援センターなど）で展開する相談の実際とその特色について、実践事例と対応させながら学ぶ。

保育・教育相談とは

カウンセリングの歴史と広がり

カウンセリングの基礎理論

カウンセリングの実践展開事例についてのグループ・ワーク その1

カウンセリングの実践展開事例についてのグループ・ワーク その2

カウンセリングの実践展開事例についてのグループ・ワーク その3

なぜ保育者に相談者としての役割を担うことが求められるようになったのか

カウンセリング理論を基盤とする保育・教育相談の展開

保育・教育相談の特性に対応した実践理論

実践事例についての事例研究

事例のロール・プレイからの検討

相談関係を促進する相談者の関係認識と行為の基本
保育・教育相談と連携する関係機関における発達臨床活動の実際
まとめ

評価

最終課題（60％）、講義・グループワークへの参加態度（20％）、小レポート（20％）を総合して評価する。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

授業内で随時紹介する。

科目名	保育・教育相談		
担当教員名	向井 美穂		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部 (J) - 幼児教育学科		
学 年	3	ク ラ ス	1Dクラス
開 講 期	前期	必修・選択の別	必修* , 選択
授 業 形 態		単 位 数	1
資 格 関 係	保育士資格 / 幼稚園教諭一種免許状		

ねらい (科目の性格 科目の概要 学修目標)

科目の性格

幼児教育学科専門科目であり、幼稚園教諭一種免許状取得のための必修科目である。

科目の概要

子どもの臨床的な課題と子どもへの心理的援助の方法についての基盤的な理解の上に、保育者は保護者との保育・教育相談をどのように担うべきかという理論と技法の基本を学ぶための教科である。

現代社会では、子どもの臨床的課題の解決、発展には、子どもへの臨床的なアプローチばかりでなく、保護者との保育・教育相談、カウンセリングが並行することによる保護者と保育者との連携の必要性がますます高まっている。そのため、保護者の相談に対応するうえでの基本的な理論と姿勢についての知識を習得することは保育者にとって欠かせない要件となっている。

学修目標

- ・ 保育・教育相談の基本となるカウンセリングの理論と技法についての理解を深める。
- ・ 幼稚園や保育所、子育て支援センター等における保育現場で求められている保育・教育相談者としての専門性の修得。
- ・ 行為法などのアクションレベルの相談技法の集団における学びに積極的に参加し、日常生活や保育現場での実践力を高める

内容

子どもの臨床的課題に対し適切な心理的援助を行っていくためには、基本的な発達の理解が必要不可欠なことはいうまでもないが、同時に、保護者と良好な関係を作り協働していくこと、問題を一人で抱え込むのではなく仲間と協力していくこと、また必要に応じて他機関との連携をとっていくことなども重要である。保育・教育相談に携わる際の基礎知識と基本技法の習得をめざし、保育・教育現場での多様なニーズに応えていくための下地づくりをしていきたい。

子どもへの臨床活動と共に保護者との保育・教育相談が展開する保育現場（幼稚園、保育所、地域の子育て支援センターなど）で展開する相談の実際とその特色について、実践事例と対応させながら学ぶ。

保育・教育相談とは

カウンセリングの歴史と広がり

カウンセリングの基礎理論

カウンセリングの実践展開事例についてのグループ・ワーク その1

カウンセリングの実践展開事例についてのグループ・ワーク その2

カウンセリングの実践展開事例についてのグループ・ワーク その3

なぜ保育者に相談者としての役割を担うことが求められるようになったのか

カウンセリング理論を基盤とする保育・教育相談の展開

保育・教育相談の特性に対応した実践理論

実践事例についての事例研究

事例のロール・プレイからの検討

相談関係を促進する相談者の関係認識と行為の基本
保育・教育相談と連携する関係機関における発達臨床活動の実際
まとめ

評価

最終課題（60％）、講義・グループワークへの参加態度（20％）、小レポート（20％）を総合して評価する。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

授業内で随時紹介する。

科目名	青年心理学		
担当教員名	大宮 明子		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部 (J) - 幼児教育学科		
学 年	2	ク ラ ス	
開 講 期	後期	必修・選択の別	選択
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	保育士資格		

ねらい (科目の性格 科目の概要 学修目標)

科目の性格

この科目は、幼児教育学科における保育士資格取得の選択必修科目の一つである。保育士資格取得希望の2・3・4年生を対象とする。

科目の概要

この科目では、講義形式で思春期・青年期の発達の特徴や生じうる臨床的な課題について学ぶと共に、青年期にある履修者自身の自己理解を深めるために、履修者自身が授業中にワークを行う。

学修目標

1. 思春期・青年期の発達の特徴と臨床的な課題を理解する
2. 自己理解を深める
3. 物事を感じる力とそれを文章で表現する力を磨く

内容

1	オリエンテーション：思春期・青年期の意味
2	青年期の自我の発達
3	青年期の認知発達
4	青年期の身体発達と心の発達
5	青年期の家族関係
6	青年期の友人関係
7	青年期の恋愛関係
8	前半のまとめ
9	青年と学校
10	青年と文化
11	就職とキャリア設計
12	青年期の臨床的な課題 1
13	青年期の臨床的な課題 2
14	青年期と精神疾患
15	まとめ

評価

授業中のリアクションペーパー30点、ワークの課題20点、期末試験50点で、60点以上を合格とする。

教科書・推薦書 (著者名・書名・出版社名)

【テキスト】資料を適宜配布する。

【推薦書】宮下一博監修 松島公望・橋本広信編「ようこそ！青年心理学」ナカニシヤ出版
大野久編著「エピソードでつかむ青年心理学」 ミネルヴァ書房

科目名	発達心理学		
担当教員名	長田 瑞恵		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部 (J) - 幼児教育学科		
学 年	3	ク ラ ス	
開 講 期	前期	必修・選択の別	選択
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係			

ねらい (科目の性格 科目の概要 学修目標)

科目の性格

人間の発達とは何かについて特に心理面に焦点を当て、研究方法や明らかにされて来た知見、今後の研究課題などについて、学生一人一人が問題意識を持ちつつ理解することを目指す。

科目の概要

乳幼児期から児童期への発達を中心に、最新の研究成果を紹介しながら、心理学に関連する様々な領域の発達について理解を深める。日常の経験や実習での体験などと併せて考えていくことにより、人間の発達について自ら包括的に考える力を養いたい。

学修目標

- ・乳幼児期から児童期への心理学的発達の特徴を研究例を通して理解する。
- ・最新の研究知見を日常の経験や実習での体験などと結びつけて考察し、人間の発達について包括的に考える力を身につける。
- ・各回の講義後に出される課題を次回授業開始前までに提出し、講義内容について自ら問題意識を持って理解を深める。

内容

1	発達心理学とは
2	人生における胎児期・乳幼児期の意味
3	人間発達の可塑性
4	母子相互作用
5	世界の認識
6	気質・社会性
7	象徴機能の成立と言語発達
8	言語の機能と会話の発達
9	記憶
10	心の理論
11	遊びの発達
12	思考と語り
13	科学する心
14	生活世界から学びの世界へ
15	まとめ・質疑応答

評価

授業中の提出課題 (15回) 100点として評価を行い、60点以上を合格とする。

合格点に満たなかった場合、再試験とする。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】 内田伸子編 『よくわかる乳幼児心理学』 ミネルヴァ書房

【推薦書】 『生涯発達心理学とは何か:理論と方法(講座生涯発達心理学;第1巻)』無藤隆・やまだようこ編集(金子書房)

『人生への旅立ち:胎児・乳児・幼児前期(講座生涯発達心理学;第2巻)』麻生武・内田伸子編(金子書房)

『子ども時代を生きる:幼児から児童へ(講座生涯発達心理学;3)』内田伸子・南博文編(金子書房)

科目名	発達心理学演習		
担当教員名	長田 瑞恵		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部 (J) - 幼児教育学科		
学 年	3	ク ラ ス	
開 講 期	後期	必修・選択の別	選択
授 業 形 態		単 位 数	1
資 格 関 係			

ねらい (科目の性格 科目の概要 学修目標)

科目の性格

発達心理学や関連領域 (保育実践など) の実証的研究論文を中心に講読し、研究の意義や批判点について参加者全員で討論する。

科目の概要

研究の目的、方法、結果、考察を読みこなすスキルを身につけ、実際に研究計画を立てる力を養うことを目的とする。学生一人一人が1本ずつ発達心理学や関連領域の実証的研究論文を講読し、内容を要約して発表し、研究の意義や批判点について参加者全員で討論する。

前期に発達心理学を履修済みの学生のみ受講を許可する。また、4年次の卒業研究に発達心理学分野を選ぶ学生は履修していることが望ましい。

学修目標

- ・発達心理学の古典的論文を通して、専門知識について理解を深める。
- ・各人が自分の担当文献の内容をまとめたレジュメを作成し、内容を発表することで、研究の目的、方法、結果、考察を読みこなすスキルを身につける。
- ・研究の意義や批判点について参加者全員で討論することで、批判的思考力、課題解決力を養う。

内容

1	授業ガイダンス：レジュメ作成方法, 発表の方法
2	担当教員による発表・討論
3	学生による発表・討論
4	学生による発表・討論
5	学生による発表・討論
6	学生による発表・討論
7	学生による発表・討論
8	学生による発表・討論
9	学生による発表・討論
10	学生による発表・討論
11	学生による発表・討論
12	学生による発表・討論
13	学生による発表・討論
14	学生による発表・討論
15	まとめ

評価

分担分の発表80点、他の学生の発表時の取り組み20点として評価を行い、60点以上を合格とする。
合格点に満たなかった場合、再試験とする。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】杉村伸一郎・坂田陽子編 『実験で学ぶ発達心理学』 ナカニシヤ出版

その他、適宜、資料を配付する。

科目名	発達臨床論		
担当教員名	向井 美穂		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部 (J) - 幼児教育学科		
学 年	3	ク ラ ス	
開 講 期	前期	必修・選択の別	選択
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係			

ねらい (科目の性格 科目の概要 学修目標)

科目の性格

幼児教育専攻の専門科目であり、選択科目です。

科目の概要

一人一人の子どもたちの育ちは様々ですが、その子ども達が生き生きと楽しく毎日を過ごすためにどのような関わりが必要かを心理学的見地から学んでいきます。何らかの心の問題や葛藤、発達の課題を持つ人に、心理学的な知識や技法を用いて実践的に援助する方法について学び、保育場面あるいは生活場面での実践について考えながら学んでいきます。

学修目標

臨床発達、臨床心理学の初歩的な知識を学びながら、今日の子どもの臨床的課題を把握します。子どもの発達を踏まえ、さまざまな問題が発生する原因について心理学的な見地から考え、その上で、一人の人間としてまた保育者として何が出来るのかを考えていくことを目標とします。

内容

何らかの心理的支援が必要な子どもたちとはどのような状況 (環境) にあるのかを知ることから始め、子どもたちの現状を理解するために、さまざまな文献、資料 (視聴覚教材を含む) をもとに直面している課題と今後の展望についてディスカッションを通して学びを深めていきます。また子どもの育つ環境として望ましくない場合も現実の場面では多いあります。そうした状況にある親子についてどのような支援が出来るのか、また子どもが抱えている要因、親が抱えている要因、社会的環境要因についても学びながら援助の方法について考えていきます。

以下に述べるテーマを取り上げます。

1. 現代の子育て事情と支援を必要とする子どもの現状
支援が必要な問題について考える (3回)
2. 事例検討とグループワーク (3回)
3. 子どもの要因：発達障害を中心に考える (3回)
4. 親の要因 (1回)
5. 社会的要因 (1回)
6. さまざまな環境での子どもの育ちについて (3回)
7. まとめ (1回)

評価

授業内でのグループディスカッション及びグループワークへの参加度 (30点)、授業内でのレポート (20点)、最終課題 (50点) により総合的に評価します。60点以上を合格点とします。

教科書・推薦書 (著者名・書名・出版社名)

授業内で参考文献等を随時紹介していきます。

科目名	発達臨床論演習		
担当教員名	向井 美穂		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部 (J) - 幼児教育学科		
学 年	3	ク ラ ス	
開 講 期	後期	必修・選択の別	選択
授 業 形 態		単 位 数	1
資 格 関 係			

ねらい (科目の性格 科目の概要 学修目標)

支援が必要な子どもたちの心理的ケアについて学ぶ。さらに子どもの支援のみならず、家族支援、地域支援、保育所・幼稚園・学校・専門機関との連携などとの関係を踏まえながら、子どもの育ちを支えるためにできることについて幅広く探ることとする。

グループディスカッションやグループワークを通して学生自身が協力しながら相互学習することを求める。積極的に問題意識を持ち、自分から探求しようとする意欲が求められる内容となる。

受講生の関心をもとに文献の購読、事例研究の分析、子どもに関する時事問題等を中心に考えていく。また子どもの心理的ケアについて、具体的事例を取り上げ、心理学的観点から考えていくこととする。

最終的には受講生自身が持つ子ども観がどのようなものかを自覚し、その上で自身が実践できる支援についての考えを具体的にイメージ出来るようにすることを目標とする。

内容

取り上げる内容としては以下に示すが、グループワーク等をなるべく多く取り入れながら進めていく。また受講生と相談しながら取り上げる内容等を随時決めていく。

1. 支援を要する子どもの現状を理解する (3回)
2. 保育者としてどのような心理的ケアを行うことができるか (2回)
3. 特別なニーズがある子どもたちを理解しその支援について考える (3回)
4. 家族支援とは何か、親子関係を考えることから始める (3回)
5. 様々な研究から学ぶ (3回)
6. 子どもたちが育っていく上で自分に出来ることは何かを考える (1回)

評価

授業内での小レポート(20%)、授業への参加度(20%)、自己課題に即した調査研究(40%)、グループワークの発表(20%)などから総合的に評価する。

教科書・推薦書 (著者名・書名・出版社名)

授業内に適宜参考文献を紹介する。

科目名	言語発達心理学		
担当教員名	大宮 明子		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部（J）-幼児教育学科		
学 年	3	ク ラ ス	
開 講 期	前期	必修・選択の別	選択
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係			

ねらい（ 科目の性格 科目の概要 学修目標）

科目の性格

この科目は、人間生活学部幼児教育学科専門科目（選択）である。後期に「言語発達心理学演習」を履修予定の学生は、前期にこの科目を履修していることが必要である。

科目の概要

ことばは、コミュニケーションの手段とともに思考の道具である。私たちはことばをどのように獲得してきたのだろうか。この科目では人間の発達の中で、特に「ことばと思考」に焦点をあてて、乳幼児のことばや思考の発達、ことばの発達の障害について理解を深め、ことばを育てる初期環境の重要性を考える。

学修目標

1. ことばの発達過程を理解する
2. 子どもの思考の発達過程を理解する
3. 言語発達の障害について理解する

毎回の授業の中で、リアクションペーパーを書き、授業内容について各自が考察する。

内容

1	ことばと思考の発達について：導入
2	ことばの獲得を支えるもの
3	ことばの発達過程
4	語彙の発達
5	読み書き能力の発達
6	絵本との出会い
7	前半のまとめ
8	会話の発達
9	ことばの発達の個人差
10	第2言語獲得
11	言語発達の障害の基礎
12	言語発達の障害の実際
13	子どもの思考(1)
14	子どもの思考(2)
15	まとめ

評価

毎回授業内のリアクションペーパー30点、期末筆記試験・レポート課題70点で評価を行う。60点以上を合格とする。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】適宜資料を配布する。

【推薦書】岩立志津夫・小椋たみ子編 『よくわかる言語発達』ミネルヴァ書房
内田伸子編 『よくわかる乳幼児心理学』ミネルヴァ書房

科目名	言語発達心理学演習		
担当教員名	大宮 明子		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部（J）-幼児教育学科		
学 年	3	ク ラ ス	
開 講 期	後期	必修・選択の別	選択
授 業 形 態		単 位 数	1
資 格 関 係			

ねらい（ 科目の性格 科目の概要 学修目標）

科目の性格

この科目は、人間生活学部幼児教育学科の専門科目（選択）である。この科目を履修する場合には、前期の「言語発達心理学」を履修していることが前提となる。4年次の卒業研究に、言語発達心理学分野を選ぶ学生は履修することが望ましい。

科目の概要

各受講者が、自分の関心と興味に基づいて、言語の発達や保育に関連する研究論文を読み、レジユメを作成し、パワーポイントによる発表を行うとともに、その内容について履修者で議論する。

学修目標

論文・資料の探し方、論文の読み方、レジユメの作り方、パワーポイントによるプレゼンの仕方など、卒業研究を行うために必要とする力を養うことを目的とする。

内容

学生が各自の興味・関心に基づき、言語発達心理学や保育に関連する研究論文を読み、レジユメを作りパワーポイントにより内容を発表し、研究の意義や今後の展開について履修者全員で討論する。

- (1)授業ガイダンス
- (2)担当教員による発表
- (3)～(14)学生による発表
- (15)まとめ

評価

分担部分の発表80点、ゼミ中のコメント・ゼミへの積極的な参加度20点として評価を行い、60点以上を合格とする。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【テキスト】必要に応じて資料を配布する。

科目名	子ども家庭福祉		
担当教員名	鈴木 晴子		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部 (J) - 幼児教育学科		
学 年	1	ク ラ ス	1Aクラス
開 講 期	前期	必修・選択の別	必修*
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	保育士資格		

ねらい (科目の性格 科目の概要 学修目標)

科目の性格

本科目は、保育士資格を取得するにあたって必要となる科目であり、子どもや家庭をめぐる福祉の概要を学ぶことになる。1年次履修「社会福祉」、2年次履修「子ども家庭福祉」、「養護原理」「養護内容」、3年次履修「相談援助」とも関連性がある。

科目の概要

現代の子どもの育つ環境の実態について具体的に学ぶことを通して、保育者としての子ども家庭福祉への見識を養うことを目指す。子ども権利条約や保育者の専門性と役割について理解を深める。

学修目標

1. 子ども家庭福祉の変遷を知り、基本的知識を身につける。
2. 子育て家庭への支援、児童福祉施設の現状を理解する。
3. 子どもの権利について理解を深める。
4. 保育者に求められる職務や資質・技能を理解する。

内容

1	私たちの眼からみた子どもを囲む状況
2	子どもにかかわる人と環境
3	「現代」の子どもをめぐる現状
4	現代社会と子ども家庭福祉
5	子ども家庭福祉の歴史と人権
6	組織・専門職 児童福祉施設
7	組織・専門職 保育ニーズと保育所
8	組織・専門職 保育士と倫理綱領
9	多様な保育サービス
10	多様な保育サービス
11	組織・専門職 児童厚生施設
12	子ども家庭福祉の法体系
13	子ども家庭福祉の実施体制
14	子育て支援・次世代育成支援サービスの展開
15	まとめ

評価

授業への参加状況 (20点)、授業内の課題やリアクションペーパー (30点)、期末テスト (50点) により評価を行い、60点以上を合格とする。

合格点に満たなかった場合は再試験を行なう。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

〔教科書〕授業時に指示を行う

〔参考書〕最新保育資料集 2013 ミネルヴァ書房

科目名	子ども家庭福祉		
担当教員名	鈴木 晴子		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部 (J) - 幼児教育学科		
学 年	1	ク ラ ス	1Bクラス
開 講 期	前期	必修・選択の別	必修*
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	保育士資格		

ねらい(科目の性格 科目の概要 学修目標)

科目の性格

本科目は、保育士資格を取得するにあたって必要となる科目であり、子どもや家庭をめぐる福祉の概要を学ぶことになる。1年次履修「社会福祉」、2年次履修「子ども家庭福祉」、「養護原理」「養護内容」、3年次履修「相談援助」とも関連性がある。

科目の概要

現代の子どもの育つ環境の実態について具体的に学ぶことを通して、保育者としての子ども家庭福祉への見識を養うことを目指す。子ども権利条約や保育者の専門性と役割について理解を深める。

学修目標

1. 子ども家庭福祉の変遷を知り、基本的知識を身につける。
2. 子育て家庭への支援、児童福祉施設の現状を理解する。
3. 子どもの権利について理解を深める。
4. 保育者に求められる職務や資質・技能を理解する。

内容

1	私たちの眼からみた子どもを囲む状況
2	子どもにかかわる人と環境
3	「現代」の子どもをめぐる現状
4	現代社会と子ども家庭福祉
5	子ども家庭福祉の歴史と人権
6	組織・専門職 児童福祉施設
7	組織・専門職 保育ニーズと保育所
8	組織・専門職 保育士と倫理綱領
9	多様な保育サービス
10	多様な保育サービス
11	組織・専門職 児童厚生施設
12	子ども家庭福祉の法体系
13	子ども家庭福祉の実施体制
14	子育て支援・次世代育成支援サービスの展開
15	まとめ

評価

授業への参加状況(20点)、授業内の課題やリアクションペーパー(30点)、期末テスト(50点)により評価を行い、60点以上を合格とする。

合格点に満たなかった場合は再試験を行なう。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

〔教科書〕授業時に指示を行う

〔参考書〕最新保育資料集 2013 ミネルヴァ書房

科目名	子ども家庭福祉		
担当教員名	潮谷 恵美		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部 (J) - 幼児教育学科		
学 年	2	ク ラ ス	
開 講 期	後期	必修・選択の別	選択
授 業 形 態		単 位 数	1
資 格 関 係	保育士資格		

ねらい (科目の性格 科目の概要 学修目標)

科目の性格 子ども家庭福祉 をふまえて、現在の子ども家庭福祉問題に関わる援助の実際について、関わる機関、施設、領域、対象別にテーマを設けて検討する。特に、法改正の変遷や子どもをめぐる問題、子供の権利の実情に即して、専門援助のあり方を考察できるようになることを目指す。

科目の概要 本講義では、子ども家庭福祉 をふまえて、現在の児童福祉問題に関わる援助の実際について、現代の子どもや家庭に関わる福祉課題の理解、理念の理解 (講義1.2.3.4)、子ども家庭福祉の法制度、関わる機関、支援、施設の理解 (講義5.6.7.8.9.10.11.12.13) をふまえ、今後の課題について考察ができる (講義14) ようになることを目指す。

学修目標 本講義では提示されたテキスト内容や配布資料等を事前に確認し、講義内で以下の点を理解できるように努力することを求める。さらに、ノート等を取り、基礎的な必要知識事項の確認し、考察することを求める。加えて、授業時間内にリアクションペーパーを配布し、授業内容理解の確認を把握するので積極的に活用すること。講義の目標 1. 現代社会における子どもや家庭の現状と福祉課題について理解する。 2. 子ども家庭福祉の法制度の基礎を理解する。 3. 子ども家庭福祉の援助体制や実際について理解する。 4. 子ども家庭福祉の動向と課題について理解する。

内容

- 1 現代社会と子ども・家庭の生活実態
- 2 現代社会と子ども・家庭福祉ニーズ
- 3 子ども家庭福祉の理念 (1) 児童の定義
- 4 子ども家庭福祉の理念 (2) 児童の権利
- 5 子ども家庭福祉に関わる法と実施体制
- 6 子ども家庭福祉と自立支援
- 7 児童虐待の理解
- 8 児童虐待、家庭内暴力への援助と防止
- 9 児童福祉サービスの実際 1 相談援助活動
- 10 児童福祉サービスの実際 2 児童福祉施設 (1)
- 11 児童福祉サービスの実際 3 児童福祉施設 (2)
- 12 児童福祉サービスの実際 4 子育て支援 / 地域援助活動
- 13 児童福祉サービスの実際 5 児童福祉専門職の専門性と倫理の課題
- 14 児童・家庭福祉サービスの新しい動き
- 15 まとめ

評価

学修目標に関する課題レポート (20点)、試験 (50点)、授業態度 (リアクションペーパー提出含む) (30点)。60点以上を合格とする。合格点に達しなかった場合は「再試験」を行う。

教科書・推薦書 (著者名・書名・出版社名)

教科書 講義中に示す

推薦書、参考文献等 講義中に適宜示す

科目名	社会福祉		
担当教員名	潮谷 恵美		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部 (J) - 幼児教育学科		
学 年	1	ク ラ ス	2Aクラス
開 講 期	後期	必修・選択の別	必修*
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	保育士資格		

ねらい(科目の性格 科目の概要 学修目標)

科目の性格 本科目は学科専門科目「生活と福祉」に位置づけられている必修科目である。4年間で学ぶ福祉に関する基本的知識の理解や考察を求める。特に保育専門職として身につけるべき福祉知識や技術、自己の課題に関わる考察を行う基盤となる。科目の関連は「子ども家庭福祉」をはじめ「生活と福祉」の各科目において学ぶ各福祉領域の制度やサービスの体系や関連性を提示し、各科目の基礎知識理解につながるものである。

科目の概要 本講義では社会福祉の意義、歴史的展開、社会福祉の動向・課題を概観し(講義1.2)社会福祉と児童福祉及び児童の人権や家庭支援との関連性について理解する(講義3.4)、そして、社会福祉に関わる基本的な制度、実施体系、専門職などについて理解を深め(講義4.6.7.8.9.10.11.12)、課題の考察(講義13.14)が可能になることを目的とする。

学修目標本 講義では提示されたテキスト内容や配布資料等を事前に確認し、講義内で以下の点を理解できるように努力することを求める。さらに、ノート等を取り、基礎的な必要知識事項の確認し、考察することを求める。加えて、授業時間内にリアクションペーパーを配布し、授業内容理解の確認を把握するので積極的に活用すること。講義の目標 1. 現代社会における社会福祉の意義と歴史的変遷について理解する。2. 社会福祉と児童福祉及び児童の人権や家庭支援との関連性について理解する。3. 社会福祉の制度や実施体系等について理解する。4. 社会福祉における相談援助や利用者の保護にかかわる仕組みについて理解する。5. 社会福祉の動向と課題について理解する。

内容

1	オリエンテーション 現代社会における社会福祉の意義と歴史的変遷(1)
2	現代社会における社会福祉の意義と歴史的変遷(2)
3	社会福祉と人権 (1) 社会福祉と児童家庭福祉と人権
4	社会福祉と人権 (2) 社会福祉における権利擁護
5	社会福祉の制度と実施体系 (1) 社会福祉の制度と法体系
6	社会福祉の制度と実施体系 (2) 社会福祉行財政と実施機関
7	社会福祉の制度と実施体系 (3) 社会福祉施設等
8	社会福祉の制度と実施体系 (4) 社会福祉の専門職・実施者
9	社会福祉の制度と実施体系 (5) 社会保障及び関連制度の概要
10	社会福祉における相談援助 (1) 相談援助の意義と原則
11	社会福祉における相談援助 (2) 相談援助の方法と技術
12	社会福祉における相談援助 (3)社会福祉における利用者の保護にかかわる仕組み
13	社会福祉の動向と課題 (1)少子高齢化社会への対応と在宅福祉・地域福祉の推進
14	社会福祉の動向と課題 (2) 教育・療育・保健・医療等との連携とネットワーク
15	まとめ

評価

学習目標に関する課題レポート（20点）、試験（50点）、授業態度（リアクションペーパー提出含む）（30点）。60点以上を合格とする。合格点に達さなかった場合は「再試験」を行う。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【テキスト】授業内で示す

参考図書 必要に応じて随時講義内で示す。

科目名	社会福祉		
担当教員名	潮谷 恵美		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部 (J) - 幼児教育学科		
学 年	1	ク ラ ス	2Bクラス
開 講 期	後期	必修・選択の別	必修*
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	保育士資格		

ねらい(科目の性格 科目の概要 学修目標)

科目の性格 本科目は学科専門科目「生活と福祉」に位置づけられている必修科目である。4年間で学ぶ福祉に関する基本的知識の理解や考察を求める。特に保育専門職として身につけるべき福祉知識や技術、自己の課題に関わる考察を行う基盤となる。科目の関連は「子ども家庭福祉」をはじめ「生活と福祉」の各科目において学ぶ各福祉領域の制度やサービスの体系や関連性を提示し、各科目の基礎知識理解につながるものである。

科目の概要 本講義では社会福祉の意義、歴史的展開、社会福祉の動向・課題を概観し(講義1.2)社会福祉と児童福祉及び児童の人権や家庭支援との関連性について理解する(講義3.4)、そして、社会福祉に関わる基本的な制度、実施体系、専門職などについて理解を深め(講義4.6.7.8.9.10.11.12)、課題の考察(講義13.14)が可能になることを目的とする。

学修目標 本講義では提示されたテキスト内容や配布資料等を事前に確認し、講義内で以下の点を理解できるように努力することを求める。さらに、ノート等を取り、基礎的な必要知識事項の確認し、考察することを求める。加えて、授業時間内にリアクションペーパーを配布し、授業内容理解の確認を把握するので積極的に活用すること。講義の目標 1. 現代社会における社会福祉の意義と歴史的変遷について理解する。2. 社会福祉と児童福祉及び児童の人権や家庭支援との関連性について理解する。3. 社会福祉の制度や実施体系等について理解する。4. 社会福祉における相談援助や利用者の保護にかかわる仕組みについて理解する。5. 社会福祉の動向と課題について理解する。

内容

1	オリエンテーション 現代社会における社会福祉の意義と歴史的変遷(1)
2	現代社会における社会福祉の意義と歴史的変遷(2)
3	社会福祉と人権 (1) 社会福祉と児童家庭福祉と人権
4	社会福祉と人権 (2) 社会福祉における権利擁護
5	社会福祉の制度と実施体系 (1) 社会福祉の制度と法体系
6	社会福祉の制度と実施体系 (2) 社会福祉行財政と実施機関
7	社会福祉の制度と実施体系 (3) 社会福祉施設等
8	社会福祉の制度と実施体系 (4) 社会福祉の専門職・実施者
9	社会福祉の制度と実施体系 (5) 社会保障及び関連制度の概要
10	社会福祉における相談援助 (1) 相談援助の意義と原則
11	社会福祉における相談援助 (2) 相談援助の方法と技術
12	社会福祉における相談援助 (3) 社会福祉における利用者の保護にかかわる仕組み
13	社会福祉の動向と課題 (1) 少子高齢化社会への対応と在宅福祉・地域福祉の推進
14	社会福祉の動向と課題 (2) 教育・療育・保健・医療等との連携とネットワーク
15	まとめ

評価

学習目標に関する課題レポート（20点）、試験（50点）、授業態度（リアクションペーパー提出含む）（30点）。60点以上を合格とする。合格点に達さなかった場合は「再試験」を行う。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【テキスト】授業内で示す

参考図書 必要に応じて随時講義内で示す。

科目名	相談援助		
担当教員名	鈴木 晴子		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部 (J) - 幼児教育学科		
学 年	3	ク ラ ス	2Cクラス
開 講 期	後期	必修・選択の別	選択, 必修*
授 業 形 態		単 位 数	1
資 格 関 係	保育士資格		

ねらい (科目の性格 科目の概要 学修目標)

科目の性格

本科目は、保育士資格を得るために必要な科目であり、より実践的な学びをしていくことをねらいとする。1年次履修「社会福祉」「子ども家庭福祉」、2年次履修「子ども家庭福祉」「養護原理」や3・4年次の施設実習(保育所以外)とも関連性がある。

科目の概要

保育士としてどのようなソーシャルワークを実践していくことが必要かについて考え、直接援助技術及び間接援助技術について理解を深める。適宜、視聴教材や臨床事例を取り入れ、グループディスカッションを重ねながら受講生相互に学びを深めていくことを求める。

学修目標

1. 相談援助の概要について理解する
2. 相談援助の方法と技術について理解する
3. 相談援助の具体的展開について理解する
4. 保育におけるソーシャルワークの応用と事例分析を通して対象への理解を深める

内容

1	相談援助とは
2	現場で出会う支援対象と支援内容
3	相談援助の概要 基本理念と意義
4	相談援助の概要 相談援助とソーシャルワーク
5	相談援助の概要 保育とソーシャルワーク
6	相談援助の方法と技術 相談援助の過程
7	相談援助の方法と技術 相談援助のアプローチ
8	相談援助の展開 計画・記録・評価
9	事例検討(1)障害児
10	事例検討(1)障害児
11	事例検討(2)要保護児童
12	事例検討(2)要保護児童
13	事例検討(3)地域における子育て家庭
14	事例検討(3)地域における子育て家庭
15	まとめ

評価

授業への参加状況(20点)、授業内の課題やリアクションペーパー(30点)、期末レポート(50点)により評価を行

い、60点以上を合格とする。

合格点に満たなかった場合は再試験を行なう。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

[教科書] 授業時に指示を行う

科目名	相談援助		
担当教員名	鈴木 晴子		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部 (J) - 幼児教育学科		
学 年	3	ク ラ ス	2Dクラス
開 講 期	後期	必修・選択の別	選択, 必修*
授 業 形 態		単 位 数	1
資 格 関 係	保育士資格		

ねらい (科目の性格 科目の概要 学修目標)

科目の性格

本科目は、保育士資格を得るために必要な科目であり、より実践的な学びをしていくことをねらいとする。1年次履修「社会福祉」「子ども家庭福祉」、2年次履修「子ども家庭福祉」「養護原理」や3・4年次の施設実習（保育所以外）とも関連性がある。

科目の概要

保育士としてどのようなソーシャルワークを実践していくことが必要かについて考え、直接援助技術及び間接援助技術について理解を深める。適宜、視聴教材や臨床事例を取り入れ、グループディスカッションを重ねながら受講生相互に学びを深めていくことを求める。

学修目標

1. 相談援助の概要について理解する
2. 相談援助の方法と技術について理解する
3. 相談援助の具体的展開について理解する
4. 保育におけるソーシャルワークの応用と事例分析を通して対象への理解を深める

内容

1	相談援助とは
2	現場で出会う支援対象と支援内容
3	相談援助の概要 基本理念と意義
4	相談援助の概要 相談援助とソーシャルワーク
5	相談援助の概要 保育とソーシャルワーク
6	相談援助の方法と技術 相談援助の過程
7	相談援助の方法と技術 相談援助のアプローチ
8	相談援助の展開 計画・記録・評価
9	事例検討 (1) 障害児
10	事例検討 (1) 障害児
11	事例検討 (2) 要保護児童
12	事例検討 (2) 要保護児童
13	事例検討 (3) 地域における子育て家庭
14	事例検討 (3) 地域における子育て家庭
15	まとめ

評価

授業への参加状況 (20点)、授業内の課題やリアクションペーパー (30点)、期末レポート (50点) により評価を行

い、60点以上を合格とする。

合格点に満たなかった場合は再試験を行なう。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

[教科書] 授業時に指示を行う

科目名	相談援助		
担当教員名	権 明愛		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部（J）-幼児教育学科		
学 年	3	ク ラ ス	2Aクラス
開 講 期	後期	必修・選択の別	必修*,選択
授 業 形 態		単 位 数	1
資 格 関 係	保育士資格		

ねらい（ 科目の性格 科目の概要 学修目標 ）

科目の性格

本科目は、保育士資格を得るために必要な科目であり、より実践的な学びをしていくことをねらいとする。1年次履修「社会福祉」「子ども家庭福祉」、2年次履修「子ども家庭福祉」「養護原理」や3・4年次の施設実習（保育所以外）とも関連性がある。

科目の概要

保育士としてどのようなソーシャルワークを実践していくことが必要かについて考え、直接援助技術及び間接援助技術について理解を深める。適宜、視聴教材や臨床事例を取り入れ、グループディスカッションを重ねながら受講生相互に学びを深めていくことを求める。

学修目標

1. 相談援助の概要について理解する
2. 相談援助の方法と技術について理解する
3. 相談援助の具体的展開について理解する
4. 保育におけるソーシャルワークの応用と事例分析を通して対象への理解を深める

内容

1	相談援助とは
2	現場で出会う支援対象と支援内容
3	相談援助の概要 基本理念と意義
4	相談援助の概要 相談援助とソーシャルワーク
5	相談援助の概要 保育とソーシャルワーク
6	相談援助の方法と技術 相談援助の過程
7	相談援助の方法と技術 相談援助のアプローチ
8	相談援助の展開 計画・記録・評価
9	事例検討（1）障害児
10	事例検討（1）障害児
11	事例検討（2）要保護児童
12	事例検討（2）要保護児童
13	事例検討（3）地域における子育て家庭
14	事例検討（3）地域における子育て家庭
15	まとめ

評価

授業への参加状況（20点）、授業内の課題やリアクションペーパー（30点）、期末レポート（50点）により評価を行

い、60点以上を合格とする。

合格点に満たなかった場合は再試験を行なう。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

[教科書] 授業時に指示を行う

科目名	相談援助		
担当教員名	権 明愛		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部（J）-幼児教育学科		
学 年	3	ク ラ ス	2Bクラス
開 講 期	後期	必修・選択の別	必修*,選択
授 業 形 態		単 位 数	1
資 格 関 係	保育士資格		

ねらい（ 科目の性格 科目の概要 学修目標 ）

科目の性格

本科目は、保育士資格を得るために必要な科目であり、より実践的な学びをしていくことをねらいとする。1年次履修「社会福祉」「子ども家庭福祉」、2年次履修「子ども家庭福祉」「養護原理」や3・4年次の施設実習（保育所以外）とも関連性がある。

科目の概要

保育士としてどのようなソーシャルワークを実践していくことが必要かについて考え、直接援助技術及び間接援助技術について理解を深める。適宜、視聴教材や臨床事例を取り入れ、グループディスカッションを重ねながら受講生相互に学びを深めていくことを求める。

学修目標

1. 相談援助の概要について理解する
2. 相談援助の方法と技術について理解する
3. 相談援助の具体的展開について理解する
4. 保育におけるソーシャルワークの応用と事例分析を通して対象への理解を深める

内容

1	相談援助とは
2	現場で出会う支援対象と支援内容
3	相談援助の概要 基本理念と意義
4	相談援助の概要 相談援助とソーシャルワーク
5	相談援助の概要 保育とソーシャルワーク
6	相談援助の方法と技術 相談援助の過程
7	相談援助の方法と技術 相談援助のアプローチ
8	相談援助の展開 計画・記録・評価
9	事例検討（1）障害児
10	事例検討（1）障害児
11	事例検討（2）要保護児童
12	事例検討（2）要保護児童
13	事例検討（3）地域における子育て家庭
14	事例検討（3）地域における子育て家庭
15	まとめ

評価

授業への参加状況（20点）、授業内の課題やリアクションペーパー（30点）、期末レポート（50点）により評価を行

い、60点以上を合格とする。

合格点に満たなかった場合は再試験を行なう。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

[教科書] 授業時に指示を行う

科目名	養護原理		
担当教員名	潮谷 恵美		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部（J）-幼児教育学科		
学 年	2	ク ラ ス	1Aクラス
開 講 期	前期	必修・選択の別	選択, 必修*
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	保育士資格		

ねらい（ 科目の性格 科目の概要 学修目標）

科目の性格 本科目は学科専門科目「生活と福祉」に位置づけられている必修科目である。1年生で学ぶ保育専門職として修得すべき科目を踏まえて、社会的養護の概念、意義と課題理解を目標とする。科目の関連は特に「社会福祉」、「子ども家庭福祉」、「養護内容」をはじめとした保育、社会的養護に関わる各福祉領域の制度やサービス理解とつながりが深い科目である。

科目の概要 本講義では、社会的養護の原理について理念と歴史的展開変遷（講義1.2）、児童の権利擁護と養護理論（講義3.4）、法と制度施策体制と施設機関の理解、自立支援、虐待対応と防止等（講義5.6.7.8.9.10.11.12.13）理解と今後の課題について考察がきる（講義14）よことを目指す。

学修目標 本講義では提示されたテキスト内容や配布資料等を事前に確認し、講義内で以下の点を理解できるように努力することを求める。さらに、ノート等を取り、基礎的な必要知識事項の確認し、考察することを求める。加えて、授業時間内にリアクションペーパーを配布し、授業内容理解の確認を把握するので積極的に活用すること。 **講義の目標** 1. 現代社会における社会的養護の意義と歴史的変遷について理解する。 2. 社会的養護と児童福祉の関連性及び児童の権利擁護について理解する。 3. 社会的養護の制度や実施体系等について理解する。 4. 社会的養護における児童の人権擁護及び自立支援等について理解する。 5. 社会的養護の現状と課題について理解する。

内容

< 内容 >

- 1 現代社会における社会的養護の意義と歴史的変遷 (1)社会的養護の理念と概念
- 2 現代社会における社会的養護の意義と歴史的変遷 (2)歴史的変遷
- 3 社会的養護と子ども家庭福祉
- 4 児童の権利擁護と社会的養護
- 5 社会的養護の制度と法体系
- 6 社会的養護の仕組みと実施体系
- 7 家庭的養護と施設養護
- 8 社会的養護の専門職・実施者
- 9 施設養護の実際
- 10施設養護の実際 - 日常生活支援、治療的支援、自己実現・自立支援等 -
- 11施設養護とソーシャルワーク
- 12社会的養護の現状と課題
- 13施設等の運営管理と地域とのかかわり
- 14被措置児童等の虐待防止と社会的養護
- 15総括

評価

学修目標に関する課題レポート（20点）、試験（50点）、授業態度（リアクションペーパー提出含む）（30点）。6

0点以上を合格とする。合格点に達さなかった場合は「再試験」を行う。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

教科書 講義中に示す

推薦書 講義中に適宜示す

科目名	養護原理		
担当教員名	潮谷 恵美		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部（J）-幼児教育学科		
学 年	2	ク ラ ス	1Bクラス
開 講 期	前期	必修・選択の別	選択, 必修*
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	保育士資格		

ねらい（ 科目の性格 科目の概要 学修目標）

科目の性格 本科目は学科専門科目「生活と福祉」に位置づけられている必修科目である。1年生で学ぶ保育専門職として修得すべき科目を踏まえて、社会的養護の概念、意義と課題理解を目標とする。科目の関連は特に「社会福祉」、「子ども家庭福祉」、「養護内容」をはじめとした保育、社会的養護に関わる各福祉領域の制度やサービス理解とつながりが深い科目である。

科目の概要 本講義では、社会的養護の原理について理念と歴史的展開変遷（講義1.2）、児童の権利擁護と養護理論（講義3.4）、法と制度施策体制と施設機関の理解、自立支援、虐待対応と防止等（講義5.6.7.8.9.10.11.12.13）理解と今後の課題について考察がきる（講義14）ことを目指す。

学修目標 本講義では提示されたテキスト内容や配布資料等を事前に確認し、講義内で以下の点を理解できるように努力することを求める。さらに、ノート等を取り、基礎的な必要知識事項の確認し、考察することを求める。加えて、授業時間内にリアクションペーパーを配布し、授業内容理解の確認を把握するので積極的に活用すること。講義の目標 1．現代社会における社会的養護の意義と歴史的変遷について理解する。2．社会的養護と児童福祉の関連性及び児童の権利擁護について理解する。3．社会的養護の制度や実施体系等について理解する。4．社会的養護における児童の人権擁護及び自立支援等について理解する。5．社会的養護の現状と課題について理解する

内容

< 内容 >

- 1 現代社会における社会的養護の意義と歴史的変遷 (1)社会的養護の理念と概念
- 2 現代社会における社会的養護の意義と歴史的変遷 (2)歴史的変遷
- 3 社会的養護と子ども家庭福祉
- 4 児童の権利擁護と社会的養護
- 5 社会的養護の制度と法体系
- 6 社会的養護の仕組みと実施体系
- 7 家庭的養護と施設養護
- 8 社会的養護の専門職・実施者
- 9 施設養護の実際
- 10施設養護の実際 - 日常生活支援、治療的支援、自己実現・自立支援等 -
- 11施設養護とソーシャルワーク
- 12社会的養護の現状と課題
- 13施設等の運営管理と地域とのかかわり
- 14被措置児童等の虐待防止と社会的養護
- 15総括

評価

学修目標に関する課題レポート（20点）、試験（50点）、授業態度（リアクションペーパー提出含む）（30点）。6

0点以上を合格とする。合格点に達さなかった場合は「再試験」を行う。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

教科書 講義中に示す

推薦書、参考文献等 講義中に適宜示す

科目名	養護内容		
担当教員名	鈴木 晴子		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部 (J) - 幼児教育学科		
学 年	2	ク ラ ス	2Aクラス
開 講 期	後期	必修・選択の別	必修*, 選択
授 業 形 態		単 位 数	1
資 格 関 係	保育士資格		

ねらい (科目の性格 科目の概要 学修目標)

科目の性格

本科目は、保育士資格を得るために必要な科目であり、2年次前期開講の「養護原理」で学んだ内容を踏まえ、より実践的な学びをしていくことをねらいとする。1年次履修「社会福祉」「子ども家庭福祉」、2年次履修「子ども家庭福祉」「養護原理」や3・4年次の施設実習（保育所以外）とも関連性がある。

科目の概要

臨床事例やビデオ視聴を適宜活用しながら、子どもや子育て家庭への援助の始まりから終わり、アフターケアについて理解する。また、施設で生活をする子どもの日常生活の援助や自立支援について臨機応変に判断・対応していくための見識を養うことを目指す。グループディスカッションを取り入れていく。

学修目標

1. 子どもの育ち、親としての育ちの過程を理解し、諸問題の背景と対応について理解を深める
2. 困難を抱えた子どもを理解する
3. 施設養護について理解し、施設保育者としての在り方を学ぶ

内容

1	社会の中での子どもの位置づけ
2	親が親として育つ過程と親権
3	自己実現、自立への支援・援助
4	社会的養護の展開過程
5	保育者の基本的な養護援助・支援 (1) 児童養護施設など
6	保育者の基本的な養護援助・支援 (1) 児童養護施設など
7	保育者の基本的な養護援助・支援 (1) 児童養護施設など
8	保育者の基本的な養護援助・支援 (1) 児童養護施設など
9	自立支援計画書の作成・方法
10	保育者の基本的な養護援助・支援 (2) 障害児系施設
11	保育者の基本的な養護援助・支援 (2) 障害児系施設
12	保育者の基本的な養護援助・支援 (2) 障害児系施設
13	子どもの権利の擁護
14	保育士の倫理および責務
15	まとめ

評価

授業への参加状況 (20点)、授業内の課題やリアクションペーパー (30点)、期末レポート (50点) により評価を行い、60点以上を合格とする。

合格点に満たなかった場合は再試験を行なう。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

[教科書] 授業時に指示を行う

科目名	養護内容		
担当教員名	鈴木 晴子		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部 (J) - 幼児教育学科		
学 年	2	ク ラ ス	2Bクラス
開 講 期	後期	必修・選択の別	選択, 必修*
授 業 形 態		単 位 数	1
資 格 関 係	保育士資格		

ねらい (科目の性格 科目の概要 学修目標)

科目の性格

本科目は、保育士資格を得るために必要な科目であり、2年次前期開講の「養護原理」で学んだ内容を踏まえ、より実践的な学びをしていくことをねらいとする。1年次履修「社会福祉」「子ども家庭福祉」、2年次履修「子ども家庭福祉」「養護原理」や3・4年次の施設実習（保育所以外）とも関連性がある。

科目の概要

臨床事例やビデオ視聴を適宜活用しながら、子どもや子育て家庭への援助の始まりから終わり、アフターケアについて理解する。また、施設で生活をする子どもの日常生活の援助や自立支援について臨機応変に判断・対応していくための見識を養うことを目指す。グループディスカッションを取り入れていく。

学修目標

1. 子どもの育ち、親としての育ちの過程を理解し、諸問題の背景と対応について理解を深める
2. 困難を抱えた子どもを理解する
3. 施設養護について理解し、施設保育者としての在り方を学ぶ

内容

1	社会の中での子どもの位置づけ
2	親が親として育つ過程と親権
3	自己実現、自立への支援・援助
4	社会的養護の展開過程
5	保育者の基本的な養護援助・支援 (1) 児童養護施設など
6	保育者の基本的な養護援助・支援 (1) 児童養護施設など
7	保育者の基本的な養護援助・支援 (1) 児童養護施設など
8	保育者の基本的な養護援助・支援 (1) 児童養護施設など
9	自立支援計画書の作成・方法
10	保育者の基本的な養護援助・支援 (2) 障害児系施設
11	保育者の基本的な養護援助・支援 (2) 障害児系施設
12	保育者の基本的な養護援助・支援 (2) 障害児系施設
13	子どもの権利の擁護
14	保育士の倫理および責務
15	まとめ

評価

授業への参加状況 (20点)、授業内の課題やリアクションペーパー (30点)、期末レポート (50点) により評価を行い、60点以上を合格とする。

合格点に満たなかった場合は再試験を行なう。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

[教科書] 授業時に指示を行う

科目名	養護内容		
担当教員名	潮谷 恵美		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部（J）-幼児教育学科		
学 年	2	ク ラ ス	2Cクラス
開 講 期	後期	必修・選択の別	必修*,選択
授 業 形 態		単 位 数	1
資 格 関 係	保育士資格		

ねらい（ 科目の性格 科目の概要 学修目標 ）

科目の性格

本科目は、保育士資格を得るために必要な科目であり、2年次前期開講の「養護原理」で学んだ内容を踏まえ、より実践的な学びをしていくことをねらいとする。1年次履修「社会福祉」「子ども家庭福祉」、2年次履修「子ども家庭福祉」「養護原理」や3・4年次の施設実習（保育所以外）とも関連性がある。

科目の概要

臨床事例やビデオ視聴を適宜活用しながら、子どもや子育て家庭への援助の始まりから終わり、アフターケアについて理解する。また、施設で生活をする子どもの日常生活の援助や自立支援について臨機応変に判断・対応していくための見識を養うことを目指す。グループディスカッションを取り入れていく。

学修目標

1. 子どもの育ち、親としての育ちの過程を理解し、諸問題の背景と対応について理解を深める
2. 困難を抱えた子どもを理解する
3. 施設養護について理解し、施設保育者としての在り方を学ぶ

内容

1	社会の中での子どもの位置づけ
2	親が親として育つ過程と親権
3	自己実現、自立への支援・援助
4	社会的養護の展開過程
5	保育者の基本的な養護援助・支援（1）児童養護施設など
6	保育者の基本的な養護援助・支援（1）児童養護施設など
7	保育者の基本的な養護援助・支援（1）児童養護施設など
8	保育者の基本的な養護援助・支援（1）児童養護施設など
9	自立支援計画書の作成・方法
10	保育者の基本的な養護援助・支援（2）障害児系施設
11	保育者の基本的な養護援助・支援（2）障害児系施設
12	保育者の基本的な養護援助・支援（2）障害児系施設
13	子どもの権利の擁護
14	保育士の倫理および責務
15	まとめ

評価

授業への参加状況（20点）、授業内の課題やリアクションペーパー（30点）、期末レポート（50点）により評価を行い、60点以上を合格とする。

合格点に満たなかった場合は再試験を行なう。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

授業初回にて指示を行ないます。

科目名	養護内容		
担当教員名	潮谷 恵美		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部（J）-幼児教育学科		
学 年	2	ク ラ ス	2Dクラス
開 講 期	後期	必修・選択の別	必修*,選択
授 業 形 態		単 位 数	1
資 格 関 係	保育士資格		

ねらい（ 科目の性格 科目の概要 学修目標 ）

科目の性格

本科目は、保育士資格を得るために必要な科目であり、2年次前期開講の「養護原理」で学んだ内容を踏まえ、より実践的な学びをしていくことをねらいとする。1年次履修「社会福祉」「子ども家庭福祉」、2年次履修「子ども家庭福祉」「養護原理」や3・4年次の施設実習（保育所以外）とも関連性がある。

科目の概要

臨床事例やビデオ視聴を適宜活用しながら、子どもや子育て家庭への援助の始まりから終わり、アフターケアについて理解する。また、施設で生活をする子どもの日常生活の援助や自立支援について臨機応変に判断・対応していくための見識を養うことを目指す。グループディスカッションを取り入れていく。

学修目標

1. 子どもの育ち、親としての育ちの過程を理解し、諸問題の背景と対応について理解を深める
2. 困難を抱えた子どもを理解する
3. 施設養護について理解し、施設保育者としての在り方を学ぶ

内容

1	社会の中での子どもの位置づけ
2	親が親として育つ過程と親権
3	自己実現、自立への支援・援助
4	社会的養護の展開過程
5	保育者の基本的な養護援助・支援（1）児童養護施設など
6	保育者の基本的な養護援助・支援（1）児童養護施設など
7	保育者の基本的な養護援助・支援（1）児童養護施設など
8	保育者の基本的な養護援助・支援（1）児童養護施設など
9	自立支援計画書の作成・方法
10	保育者の基本的な養護援助・支援（2）障害児系施設
11	保育者の基本的な養護援助・支援（2）障害児系施設
12	保育者の基本的な養護援助・支援（2）障害児系施設
13	子どもの権利の擁護
14	保育士の倫理および責務
15	まとめ

評価

授業への参加状況（20点）、授業内の課題やリアクションペーパー（30点）、期末レポート（50点）により評価を行い、60点以上を合格とする。

合格点に満たなかった場合は再試験を行なう。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

[教科書] 授業時に指示を行う

科目名	子育て支援論		
担当教員名	向井 美穂		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部 (J) - 幼児教育学科		
学 年	2	ク ラ ス	2Aクラス
開 講 期	後期	必修・選択の別	必修*, 選択
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	保育士資格		

ねらい (科目の性格 科目の概要 学修目標)

本科目は保育士養成課程カリキュラムの「保育の対象の理解に関する科目」に関する科目の一つであり、「家庭の意義とその機能」「子育て家庭を取り巻く社会的状況」「子育て家庭の支援体制」「子育て家庭のニーズに応じた多様な支援の展開と関係機関との連携」について理解することが求められています。昨今の子育て環境の変化を踏まえ、子育ての現状を知ることから始め、現代社会において求められている子育て支援とはどのようなものかについて考えを深めることを目指します。

また受講者自身が出来る子育て支援とはどのようなものかについて考え、そこから「子どもを育てる」ことの意義について考えを深めていくこととします。

内容

1. 家庭支援の意義と役割

- (1) 家庭の意義と機能 - 親になるとは - (第1回)
- (2) 家庭支援の必要性 (第2回)
- (3) 家族の機能とは (第3回)

2. 家庭生活を取り巻く社会的状況

- (1) 子育てするとは? (第4回)
- (2) 子どもにとっての家族とは? - 家族形態の変容 - (第5回)
- (3) 子育ての実際 (第6回)
- (4) 子育てに必要な社会資源 (第7回)

3. 多様な支援の展開と関係機関との連携

- (1) 子育て支援サービスの概要
 - 保育所での実践例 (第8回)
 - 地域の子育て家庭への実践例 (第9回)
 - 地域の子育て家庭への実践例 その2 (第10回)
- (2) 要保護児童及びその家庭に対する支援
 - 保健所での実践例 (第11回)
 - 児童相談所の実践例 (第12回)
- (3) 子育て支援機関との連携
 - 虐待を防ぐ取り組み (第13回)

4. 他国の子育て支援について (第14回)

5. まとめ (第15回)

評価

授業後の小レポート(30点)、授業への参加意欲(20点)、および最終課題(50点)により総合的評価を行います。

60点以上を合格とします。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

教科書：授業内で指定する。

参考図書：大豆生田啓友他編「よくわかる子育て支援・家族援助論」ミネルヴァ書房

橋本真紀他編「よくわかる家族援助論」ミネルヴァ書房

汐見稔幸編「世界に学ぼう!子育て支援」フレーベル館

科目名	子育て支援論		
担当教員名	向井 美穂		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部（J）-幼児教育学科		
学 年	2	ク ラ ス	2Bクラス
開 講 期	後期	必修・選択の別	選択, 必修*
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	保育士資格		

ねらい（ 科目の性格 科目の概要 学修目標 ）

本科目は保育士養成課程カリキュラムの「保育の対象の理解に関する科目」に関する科目の一つであり、「家庭の意義とその機能」「子育て家庭を取り巻く社会的状況」「子育て家庭の支援体制」「子育て家庭のニーズに応じた多様な支援の展開と関係機関との連携」について理解することが求められています。昨今の子育て環境の変化を踏まえ、子育ての現状を知ることから始め、現代社会において求められている子育て支援とはどのようなものかについて考えを深めることを目指します。

また受講者自身が出来る子育て支援とはどのようなものかについて考え、そこから「子どもを育てる」ことの意義について考えを深めていくこととします

内容

1. 家庭支援の意義と役割

- (1) 家庭の意義と機能 - 親になるとは - (第1回)
- (2) 家庭支援の必要性 (第2回)
- (3) 家族の機能とは (第3回)

2. 家庭生活を取り巻く社会的状況

- (1) 子育てするとは? (第4回)
- (2) 子どもにとっての家族とは? - 家族形態の変容 - (第5回)
- (3) 子育ての実際 (第6回)
- (4) 子育てに必要な社会資源 (第7回)

3. 多様な支援の展開と関係機関との連携

- (1) 子育て支援サービスの概要
 - 保育所での実践例 (第8回)
 - 地域の子育て家庭への実践例 (第9回)
 - 地域の子育て家庭への実践例 その2 (第10回)
- (2) 要保護児童及びその家庭に対する支援
 - 保健所での実践例 (第11回)
 - 児童相談所の実践例 (第12回)
- (3) 子育て支援機関との連携
 - 虐待を防ぐ取り組み (第13回)

4. 他国の子育て支援について (第14回)

5. まとめ (第15回)

評価

授業後の小レポート(30点)、授業への参加意欲(20点)、および最終課題(50点)により総合的評価を行います。

60点以上を合格とします。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

教科書：授業内で指定する。

参考図書：大豆生田啓友他編「よくわかる子育て支援・家族援助論」ミネルヴァ書房

橋本真紀他編「よくわかる家族援助論」ミネルヴァ書房

汐見稔幸編「世界に学ぼう!子育て支援」フレーベル館

科目名	家族関係論		
担当教員名	大友 由紀子		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部 (J) - 幼児教育学科		
学 年	2	ク ラ ス	
開 講 期	前期	必修・選択の別	選択
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	保育士資格		

ねらい(科目の性格 科目の概要 学修目標)

人間生活の基本単位である家族という小集団と、そこでの人間関係の特徴を理解する。家族は、男女が結婚することによってつくり、子どもの誕生によって成員を増やし、やがて子どもが独立することで規模を縮小し、最後は老夫婦のいずれか一方の死によって消滅するという、ライフサイクルを持っている。ライフサイクルのそれぞれのライフステージには、それぞれの生活課題がある。近年、わが国では未婚晩婚化、晩産化が進み、ライフサイクルの平均像が大きく異なっている。本科目では、家族関係における周期的な変化と時代的な変化を、実証的に読み解く力を習得する。

内容

1	ガイダンス - 家族の捉え方
2	家族のかたち - 1 . 核家族の二面性
3	家族のかたち - 2 . 家族の種類と分類
4	家族のかたち - 3 . 家族形態の変化
5	結婚と家族形成 - 1 . 異性交際
6	結婚と家族形成 - 2 . 配偶者選択
7	結婚と家族形成 - 3 . 結婚のかたち
8	結婚と家族形成 - 4 . 結婚の変化
9	発達する家族 - 1 . 家族のライフサイクル
10	発達する家族 - 2 . ライフサイクルの変化
11	発達する家族 - 3 . ライフコースと世代
12	家族のライフステージと発達課題 - 1 . 夫婦関係
13	家族のライフステージと発達課題 - 2 . 前期親子関係
14	家族のライフステージと発達課題 - 3 . 後期親子関係
15	総括

評価

学期末のペーパー試験 (70%) と授業時の課題 (30%) によって評価する。

教科書・推薦書 (著者名・書名・出版社名)

【推薦書】

湯沢雅彦・宮本みち子『新版 データで読む家族問題』NHKブックス、2008。

野乃山久也編『論点ハンドブック 家族社会学』世界思想社、2009。

科目名	地域福祉論		
担当教員名	宮城 道子		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部 (J) - 幼児教育学科		
学 年	2	ク ラ ス	
開 講 期	前期	必修・選択の別	選択
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	保育士資格		

ねらい (科目の性格 科目の概要 学修目標)

現代社会における福祉を理解するため、地域福祉の基本的考え方、またその背景を学ぶ。各地で展開されている住民の主体的な活動事例 (ボランティア・NPO・コミュニティビジネス等) をとりあげ、多様な人々の多様な生活が展開する地域という総合的な空間の理解を深める。特に東日本大震災後、新たな「絆」を模索する取組を展開している東北に注目する。生活の場として、居住地域を見る視点を得る。

内容

1	現代社会におけるコミュニティと福祉
2	地域福祉の理念とその展開
3	地域福祉の理論の発展
4	地域福祉の主体と多様な地域団体
5	生活問題の発生とその把握 - 東日本大震災の復興過程から
6	住民参加と専門職の役割
7	事例検討 - 災害ボランティアをめぐって
8	事例検討 - 介護のネットワーク
9	事例検討 - 働く場を求めて
10	事例検討 - つながる関係を広げて
11	事例検討 - 安心して暮らす住まい
12	ソーシャルキャピタルの可能性
13	課題報告 - 自分の住む地域を考える
14	課題報告 - 自分の住む地域を考える
15	課題講評と講義のまとめ

評価

事例レポート (2 割)、報告・発表 (2 割)、期末レポート (6 割)

教科書・推薦書 (著者名・書名・出版社名)

推薦書 : 渋川智明 『福祉NPO - 地域を支える市民起業』岩波新書 2001 369/S

広井良典 『持続可能な福祉社会 - 「もう一つの日本」の構想』ちくま新書 2006 364/H

岩下清子・佐藤義夫・島田千穂 『「小規模多機能」の意味論』雲母書房 2006 369.26/ I

科目名	児童福祉論		
担当教員名	鈴木 晴子		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部（J）- 幼児教育学科		
学 年	3	ク ラ ス	1Aクラス
開 講 期	前期	必修・選択の別	選択
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係			

ねらい（ 科目の性格 科目の概要 学修目標）

子どもや子どもの育つ環境に“同じ”、“違う”ということではなく、それぞれの色合いで捉えるものである。これらの様相の中に、専門的な援助・支援が介在することで、子どもや親の生活がより豊かになっていくこと家庭がある。親元で生活することができず社会的養護のもとで生活している子ども、親元で生活しているが専門機関・専門職が支えている家族など実にさまざまである。

本授業では、子どもたちをめぐる多様な様相や諸問題、実際の支援について理解を深め考えていきたい。また、専門職として子どもや家族の生活を「人・環境」から支えていく視点についても洞察し、柔軟かつ適切な判断・援助について考えていきたい。

内容

“子どもが健全に育つとは何か”、“家族支援とは何か”を切り口に以下のテーマを取り上げていく。

1. 子どもの育ちと環境

生活環境の変化

児童虐待

児童福祉施設での子どもの生活と養護

2. 子育て支援・地域支援

子育て家庭の諸問題（育児疲労、育児困難、経済的支援 など）

子育て支援機関と地域のつながり

保育者と他の子育て専門職とのつながり

人と人をつなぐ現場実践（絵本の読みあいを行なった臨床事例の紹介）

3. 発達の躓きの理解と家族支援

療育と家族支援

障害児・者の理解と家族支援

4. 保育者の役割と他職種連携について

支援の質的向上と施設職員のメンタルヘルス

他職種の職務と専門職連携

評価

授業への参加状況（20点）、授業内の課題やリアクションペーパー（30点）、期末レポート（50点）により評価を行い、60点以上を合格とする。？

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

適宜紹介する。

科目名	児童福祉論		
担当教員名	潮谷 恵美		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部（J）-幼児教育学科		
学 年	3	ク ラ ス	1Bクラス
開 講 期	前期	必修・選択の別	選択
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係			

ねらい（ 科目の性格 科目の概要 学修目標）

科目の性格 本科目は幼児教育専攻専門科目における「健康と運動」に位置づく選択科目である。1年生、2年生で修得した保育に関わる専門科目（特に「社会福祉」、「子ども家庭福祉」、「養護原理」、「養護内容」等保育必修科目全般）を踏まえてより保育の専門職として必要な児童養護の現状と課題、社会的養護領域の専門性を深く理解、考察できるようになることをめざす。さらに、実践的、発展的な学習として学ぶ「児童養護演習」の基礎知識となる科目である。

科目の概要 児童養護論では社会的養護の内容について、現代の福祉援助課題に対応する児童養護の基本的視座・意義や理念（講義1.2.3.4.）、対象や方法、児童養護の内容の理解（講義5.6.7.8.9.10）、現状と課題並びに今後の展望（講義11.12.13.14）を理解する。

学修の目標 本講義では提示されたテキスト内容や配布資料等を事前に確認し、講義内で以下の点を理解できるように努力することを求める。さらに、ノート等を取り、基礎的な必要知識事項の確認し、考察することを求める。加えて、授業時間内にリアクションペーパーを配布し、授業内容理解の確認を把握するので積極的に活用すること。

講義の目標

- 1 現代の児童養護の意義や理念、対象の理解、援助課題理解
- 2 施設運営や援助体制、専門的支援内容、児童養護に関わる専門職の理解
- 3 自立支援の視点や権利擁護の視点から具体的な論点の理解
- 4 児童養護の現状と今後の展望理解

内容

内容

- 1 社会福祉の展開と社会的養護
- 2 児童養護の意義と基本原理
- 3 児童養護の歴史 1
- 4 児童養護の歴史 2
- 5 児童養護の対象と方法
- 6 自立支援の課題 1
- 7 自立支援の課題 2
- 8 自立支援の課題 3
- 9 児童養護の特質 1
- 10 児童養護の特質 2
- 11 児童養護の現在 1
- 12 児童養護の現在 2
- 13 児童養護の現在 3
- 14 児童養護の課題と展望
- 15 総括

評価

学習目標に関する課題レポート（20点）、試験（50点）、授業態度（リアクションペーパー提出含む）（30点）。60点以上を合格とする。合格点に達さなかった場合は「再試験」を行う。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

教科書 講義内で示す。

科目名	児童福祉論演習		
担当教員名	鈴木 晴子		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部 (J) - 幼児教育学科		
学 年	3	ク ラ ス	2Aクラス
開 講 期	後期	必修・選択の別	選択
授 業 形 態		単 位 数	1
資 格 関 係			

ねらい (科目の性格 科目の概要 学修目標)

前期科目「児童養護論」で学んだことを発展させ、「子どもが健全に育つとは何か」、「家族支援とは何か」について自主的な学びを目指す。

"保育者による実践記録・時事問題・臨床事例・ビデオ視聴等を通して知識と実践をつなげ、柔軟かつ適切な判断力と実践力を養うことを目的としている。また、受講生自身が障害に関する事柄、社会的養護に関する事柄に問題意識をもち、自ら調べることで研鑽を深めることも大切にしたい。

尚、4年次の卒業研究に社会的養護に関連することをテーマとしたい学生は履修していることが望ましい。 ?"

内容

保育者による実践記録、文献講読、手記・時事問題、ビデオ視聴、実習体験等を通して探究していく。受講者の関心のあるテーマについてディスカッションを重ね、グループ発表も取り入れる。

取り上げる内容の目安として以下に示す。

1. 支援を要する子どもと保育者の役割 (養育における援助、発達支援、施設養護)
2. 施設養護や里親における生活援助
3. 子育て家庭への支援と実際
4. 環境や心身に障害をもつ当事者・家族の障害受容
5. 子どもの人権、施設職員の職場環境とメンタルヘルス

評価

担当分の発表 (50点)、グループディスカッション等の取り組み (30点)、小レポート (20点) により評価を行い、60点以上を合格とする。 ?

教科書・推薦書 (著者名・書名・出版社名)

授業内に適宜紹介する。

科目名	児童福祉論演習		
担当教員名	潮谷 恵美		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部（J）-幼児教育学科		
学 年	3	ク ラ ス	2Bクラス
開 講 期	後期	必修・選択の別	選択
授 業 形 態		単 位 数	1
資 格 関 係			

ねらい（ 科目の性格 科目の概要 学修目標）

科目の性格 本科目は幼児教育専攻専門科目における専門科目「健康と運動」に位置づく選択科目である。1年生、2年生で修得した保育に関わる専門科目、保育必修科目全般）を踏まえてより保育の専門職として必要な児童養護の現状と課題、社会的養護領域の専門性を実践的に考察できるようになることをめざす。

科目の概要 児童福祉論演習では社会的養護の内容について、現代の福祉援助課題に対応する児童養護の基本的視座、養護の意義や理念を踏まえて、事例検討やグループディスカッションを行い現代における児童養護についての課題を考察する。さらに、学習の成果についてプレゼンテーションを行い、他者へ伝達するスキル修得もめざす。

学修の目標 昨今の子どもをめぐる援助課題に対する施設利用児（者）と援助者の関係形成過程をはじめ、施設運営や援助体制、専門性、社会的養護における自立支援の視点や権利擁護の視点から具体的な課題分析を行う。本講義では提示されたテキスト内容や配布資料等を事前に確認し、講義内で事例検討やグループディスカッションを行い現代における児童養護についての課題を考察する。さらに、学習の成果についてグループもしくは個人でのプレゼンテーションを行い、他者へ伝達するスキル修得もめざす。 1 児童養護における援助対象の理解、援助課題、専門性の理解 2 施設運営や援助体制、専門的支援内容分析 3 自立支援の視点や権利擁護に視点をあいた事例検討 4 学習成果のプレゼンテーション

内容

- 1 児童養護の展開 1 ニーズの理解
- 2 児童養護の展開 2 支援の展開
- 3 養護実践の専門性 1
- 4 養護実践の専門性 2
- 5 児童養護体制の理解 1
- 6 児童養護体制の理解 2
- 7 養護の課題 1 自立支援の展開
- 8 養護の課題 2 権利擁護の体制
- 9 事例検討1
- 10 事例検討2
- 11 事例検討3
- 12 事例検討4
- 14 今後の社会的養護の展望
- 15 まとめ

評価

授業態度（リアクションペーパーによる確認含む）50点、プレゼンテーションの評価30点、課題提出20点。合格点は60点以上。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

教科書 授業内で適宜示す。

科目名	児童保健学		
担当教員名	齋藤 麗子		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部（J）-幼児教育学科		
学 年	1	ク ラ ス	2Aクラス
開 講 期	後期	必修・選択の別	必修*
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	保育士資格		

ねらい（ 科目の性格 科目の概要 学修目標 ）

子どもは大人を小さくしたわけではありません。乳児期、幼児期は成長を続け、人生の中でも最も変化が激しい時期です。児童保健学1は小児保健を学ぶ場です。入学初年度として子どもの成長、発育、発達や健康的な生活習慣について保育にかかわるものに知っていて欲しい幅広い基本的な事柄を健康な子どもを中心に学習します。さらに我が国の一般的な母子保健システムや母子手帳の役割、乳幼児健診についても長年母子保健行政や医療に関わってきた講師による実際的な講義を実施します。

内容

- 1,小児保健とは 人口動態について
- 2,母子保健行政システム
- 3,母子健康手帳の役割
- 4,乳児・幼児の発育と成長曲線
- 5,乳児・幼児の運動発達、神経発達と反射
- 6,乳児健診 各種統計
- 7,1歳半健診、3歳児健診 就学時健診
- 8,女性の喫煙・飲酒と出生児への影響
- 9,乳幼児の栄養・消化
- 10,子どもの睡眠
- 11,子どもの生活リズム
- 12,指しゃぶり、おしゃぶりの口腔影響
- 13,子どもとメディア、児童憲章
- 14,授業の復習
- 15,まとめ 解説

評価

定期試験80% レポート10% 授業参加度10%によって評価し60点以上を合格とする。
合格点に満たない場合は再試験を実施する。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

[教科書]日本保育園保健協議会編 [保育保健の基礎知識]日本小児医事出版社

[推薦書]田中哲郎監修 齋藤麗子共著[子育て支援における保健相談マニュアル]日本小児医事出版社

科目名	児童保健学		
担当教員名	齋藤 麗子		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部 (J) - 幼児教育学科		
学 年	1	ク ラ ス	2Bクラス
開 講 期	後期	必修・選択の別	必修*
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	保育士資格		

ねらい (科目の性格 科目の概要 学修目標)

子どもは大人を小さくしたただけではありません。乳児期、幼児期は成長を続け、人生の中でも最も変化が激しい時期です。児童保健学1は小児保健を学ぶ場です。入学初年度として子どもの成長、発育、発達や健康的な生活習慣について保育にかかわるものに知っていて欲しい幅広い基本的な事柄を健康な子どもを中心に学習します。さらに我が国の一般的な母子保健システムや母子手帳の役割、乳幼児健診についても長年母子保健行政や医療に関わってきた講師による実際的な講義を実施します。

内容

- 1, 小児保健とは 人口動態について
- 2, 母子保健行政システム
- 3, 母子健康手帳の役割
- 4, 乳児・幼児の発育と成長曲線
- 5, 乳児・幼児の運動発達、神経発達と反射
- 6, 乳児健診 各種統計
- 7, 1歳半健診、3歳児健診 就学時健診
- 8, 女性の喫煙・飲酒と出生児への影響
- 9, 乳幼児の栄養・消化
- 10, 子どもの睡眠
- 11, 子どもの生活リズム
- 12, 指しゃぶり、おしゃぶりの口腔影響
- 13, 子どもとメディア、児童憲章
- 14, 授業の復習
- 15, まとめ 解説

評価

定期試験80% レポート10% 授業参加度10%によって評価し60点以上を合格とする。
合格点に満たない場合は再試験を実施する。

教科書・推薦書 (著者名・書名・出版社名)

[教科書] 日本保育園保健協議会編 [保育保健の基礎知識] 日本小児医事出版社

[推薦書] 田中哲郎監修 齋藤麗子共著 [子育て支援における保健相談マニュアル] 日本小児医事出版社

科目名	児童保健学		
担当教員名	齋藤 麗子		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部 (J) - 幼児教育学科		
学 年	2	ク ラ ス	2Aクラス
開 講 期	後期	必修・選択の別	必修* , 選択
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	保育士資格		

ねらい (科目の性格 科目の概要 学修目標)

児童保健学 をふまえ、保育の現場で身近な子どもの感染症や皮膚疾患についてDVD、スライドなどの視覚により理解しやすい授業を小児科専門医師により実施する。予防接種の最新知識や事故防止、虐待の発見、歯科保健、多胎児の育児など新しい話題の理解も必要である。

内容

- 1) 子どもの視力
- 2) 乳幼児の発育発達 デンバー式発達検査
- 3) 発達と事故防止 SIDS乳幼児突然死症候群
- 4) 子どもに多い皮膚の病気
- 5) ウィルス性感染症 1
- 6) ウィルス性感染症 2
- 7) 歯科保健
- 8) 発熱に関係する耳鼻科疾患
- 9) 予防接種
- 10) 受動喫煙による子どもへの影響
- 11) 気管支喘息
- 12 虐待の発見
- 13 双子、三つ子の育児
- 14) 後期の復習
- 15) まとめ 解説

評価

定期試験80% レポート10% 授業参加度10%によって評価し60点以上を合格とする。

合格点に満たない場合は再試験を実施する。

教科書・推薦書 (著者名・書名・出版社名)

教科書・推薦書 (著者名・書名・出版社名) [教科書]日本保育園保健協議会編 [保育保健の基礎知識]日本小児医事出版社
 [推薦書]田中哲郎監修 齋藤麗子共著[子育て支援における保健相談マニュアル]日本小児医事出版社

科目名	児童保健学		
担当教員名	齋藤 麗子		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部 (J) - 幼児教育学科		
学 年	2	ク ラ ス	2Bクラス
開 講 期	後期	必修・選択の別	必修* , 選択
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	保育士資格		

ねらい (科目の性格 科目の概要 学修目標)

児童保健学 をふまえ、保育の現場で身近な子どもの感染症や皮膚疾患についてDVD、スライドなどの視覚により理解しやすい授業を小児科専門医師により実施する。予防接種の最新知識や事故防止、虐待の発見、歯科保健、多胎児の育児など新しい話題の理解も必要である。

内容

- 1) 子どもの視力
- 2) 乳幼児の発育発達 デンバー式発達検査
- 3) 発達と事故防止 SIDS乳幼児突然死症候群
- 4) 子どもに多い皮膚の病気
- 5) ウィルス性感染症 1
- 6) ウィルス性感染症 2
- 7) 歯科保健
- 8) 発熱に関係する耳鼻科疾患
- 9) 予防接種
- 10) 受動喫煙による子どもへの影響
- 11) 気管支喘息
- 12 虐待の発見
- 13 双子、三つ子の育児
- 14) 後期の復習
- 15) まとめ 解説

評価

定期試験80% レポート10% 授業参加度10%によって評価し60点以上を合格とする。

合格点に満たない場合は再試験を実施する。

教科書・推薦書 (著者名・書名・出版社名)

教科書・推薦書 (著者名・書名・出版社名) [教科書]日本保育園保健協議会編 [保育保健の基礎知識]日本小児医事出版社
 [推薦書]田中哲郎監修 齋藤麗子共著[子育て支援における保健相談マニュアル]日本小児医事出版社

科目名	児童保健学演習		
担当教員名	齋藤 麗子		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部 (J) - 幼児教育学科		
学 年	2	ク ラ ス	1Aクラス
開 講 期	前期	必修・選択の別	必修* , 選択
授 業 形 態		単 位 数	1
資 格 関 係	保育士資格		

ねらい (科目の性格 科目の概要 学修目標)

保育の現場では、子どもの健康観察は日常時に実施せねばならない。児童保健学演習では児童保健学1の学習を踏まえ、グループ単位で実習形式の授業を行う。

乳児の人形を使った身長・体重、胸囲、頭位測定、抱き方、排気の仕方、オムツ替え、沐浴実習など体験型の学習である。哺乳瓶での調乳実習は乳児保育に役立つ。正しい手洗い方法を知るとは感染予防、食中毒予防などの基本である。熱中症予防やけがの手当て、事故防止などの知識は、保育現場では欠かせない。この実習を主体的にまじめに取り組むことで、児童保健学2の理解が深まる。小児科専門医の立場から楽しい実際の授業を進めたい。

内容

- 1, 子どもの身体計測
- 2, 体温測定 心拍、呼吸数測定
- 3, 家庭で行う聴力検査
- 4, 家庭で行う視力検査
- 5, 子どもの事故防止
- 6, 手洗い実習 手洗い歌
- 7, ノロウィルス対応
- 8, 調乳 哺乳 排気
- 9, 乳児の抱き方、衣服の着脱 沐浴の手順
- 10, 沐浴実習
- 11, 夏の保育の注意 調査
- 12, 夏の保育の調査レポート
- 13, 外傷、骨折、けいれん等の対応
- 14, 実習の復習
- 15, まとめ 解説

評価

ペーパーテスト60点 実習参加度20点 レポート20点によって総合的に評価し60点以上を合格とする。

教科書・推薦書 (著者名・書名・出版社名)

[教科書] 授業ごとにプリントを作成し配布する。

[推薦書] 小児保健実習 佐藤益子編著 ななみ書房

科目名	児童保健学演習		
担当教員名	齋藤 麗子		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部 (J) - 幼児教育学科		
学 年	2	ク ラ ス	1Bクラス
開 講 期	前期	必修・選択の別	必修* , 選択
授 業 形 態		単 位 数	1
資 格 関 係	保育士資格		

ねらい (科目の性格 科目の概要 学修目標)

保育の現場では、子どもの健康観察は日常時に実施せねばならない。児童保健学演習では児童保健学1の学習を踏まえ、グループ単位で実習形式の授業を行う。

乳児の人形を使った身長・体重、胸囲、頭位測定、抱き方、排気の仕方、オムツ替え、沐浴実習など体験型の学習である。哺乳瓶での調乳実習は乳児保育に役立つ。正しい手洗い方法を知ることが感染予防、食中毒予防などの基本である。熱中症予防やけがの手当て、事故防止などの知識は、保育現場では欠かせない。この実習を主体的にまじめに取り組むことで、児童保健学2の理解が深まる。小児科専門医の立場から楽しい実際的な授業を進めたい。

内容

- 1, 子どもの身体計測
- 2, 体温測定 心拍、呼吸数測定
- 3, 家庭で行う聴力検査
- 4, 家庭で行う視力検査
- 5, 子どもの事故防止
- 6, 手洗い実習 手洗い歌
- 7, ノロウィルス対応
- 8, 調乳 哺乳 排気
- 9, 乳児の抱き方、衣服の着脱 沐浴の手順
- 10, 沐浴実習
- 11, 夏の保育の注意 調査
- 12, 夏の保育の調査レポート
- 13, 外傷、骨折、けいれん等の対応
- 14, 実習の復習
- 15, まとめ 解説

評価

ペーパーテスト60点 実習参加度20点 レポート20点によって総合的に評価し60点以上を合格とする。

教科書・推薦書 (著者名・書名・出版社名)

[教科書] 授業ごとにプリントを作成し配布する。

[推薦書] 小児保健実習 佐藤益子編著 ななみ書房

科目名	児童保健学演習		
担当教員名	齋藤 麗子		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部 (J) - 幼児教育学科		
学 年	2	ク ラ ス	1Cクラス
開 講 期	前期	必修・選択の別	必修* , 選択
授 業 形 態		単 位 数	1
資 格 関 係	保育士資格		

ねらい(科目の性格 科目の概要 学修目標)

保育の現場では、子どもの健康観察は日常時に実施せねばならない。児童保健学演習では児童保健学1の学習を踏まえ、グループ単位で実習形式の授業を行う。

乳児の人形を使った身長・体重、胸囲、頭位測定、抱き方、排気の仕方、オムツ替え、沐浴実習など体験型の学習である。哺乳瓶での調乳実習は乳児保育に役立つ。正しい手洗い方法を知ることが感染予防、食中毒予防などの基本である。熱中症予防やけがの手当て、事故防止などの知識は、保育現場では欠かせない。この実習を主体的にまじめに取り組むことで、児童保健学2の理解が深まる。小児科専門医の立場から楽しい実際の授業を進めたい。

内容

- 1, 子どもの身体計測
- 2, 体温測定 心拍、呼吸数測定
- 3, 家庭で行う聴力検査
- 4, 家庭で行う視力検査
- 5, 子どもの事故防止
- 6, 手洗い実習 手洗い歌
- 7, ノロウィルス対応
- 8, 調乳 哺乳 排気
- 9, 乳児の抱き方、衣服の着脱 沐浴の手順
- 10, 沐浴実習
- 11, 夏の保育の注意 調査
- 12, 夏の保育の調査レポート
- 13, 外傷、骨折、けいれん等の対応
- 14, 実習の復習
- 15, まとめ 解説

評価

ペーパーテスト60点 実習参加度20点 レポート20点によって総合的に評価し60点以上を合格とする。

教科書・推薦書(著者名・書名・出版社名)

[教科書] 授業ごとにプリントを作成し配布する。

[推薦書] 小児保健実習 佐藤益子編著 ななみ書房

科目名	児童保健学演習		
担当教員名	齋藤 麗子		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部（J）-幼児教育学科		
学 年	2	ク ラ ス	1Dクラス
開 講 期	前期	必修・選択の別	選択, 必修*
授 業 形 態		単 位 数	1
資 格 関 係	保育士資格		

ねらい（ 科目の性格 科目の概要 学修目標 ）

保育の現場では、子どもの健康観察は日常時に実施せねばならない。児童保健学演習では児童保健学1の学習を踏まえ、グループ単位で実習形式の授業を行う。

乳児の人形を使った身長・体重、胸囲、頭位測定、抱き方、排気の仕方、オムツ替え、沐浴実習など体験型の学習である。哺乳瓶での調乳実習は乳児保育に役立つ。正しい手洗い方法を知ることが感染予防、食中毒予防などの基本である。熱中症予防やけがの手当て、事故防止などの知識は、保育現場では欠かせない。この実習を主体的にまじめに取り組むことで、児童保健学2の理解が深まる。小児科専門医の立場から楽しい実際の授業を進めたい。

内容

- 1, 子どもの身体計測
- 2, 体温測定 心拍、呼吸数測定
- 3, 家庭で行う聴力検査
- 4, 家庭で行う視力検査
- 5, 子どもの事故防止
- 6, 手洗い実習 手洗い歌
- 7, ノロウィルス対応
- 8, 調乳 哺乳 排気
- 9, 乳児の抱き方、衣服の着脱 沐浴の手順
- 10, 沐浴実習
- 11, 夏の保育の注意 調査
- 12, 夏の保育の調査レポート
- 13, 外傷、骨折、けいれん等の対応
- 14, 実習の復習
- 15, まとめ 解説

評価

ペーパーテスト60点 実習参加度20点 レポート20点によって総合的に評価し60点以上を合格とする。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

[教科書] 授業ごとにプリントを作成し配布する。

[推薦書] 小児保健実習 佐藤益子編著 ななみ書房

科目名	食と発達		
担当教員名	山崎 優子		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部 (J) - 幼児教育学科		
学 年	3	ク ラ ス	1Aクラス
開 講 期	前期	必修・選択の別	必修*, 選択
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	保育士資格		

ねらい(科目の性格 科目の概要 学修目標)

科目の性格

本科目は、子どもの発達の理解、保育の理解をしたうえで、子どもが健康に育つ生活の軸となる食生活について学ぶ。

科目の概要

子どもの発育・発達および特別な配慮などに応じた適切な栄養や食生活とは何か学ぶとともに、保育における子どもの発達に合わせた食育支援、保護者支援に必要な食の知識を学ぶ。

学修目標：

- .教科書を読んで、わからない用語をあげておき、授業に臨む。
- .授業内で何らかの発見自分の食生活を乳幼児の親または保育士自身の食事と置き換えて演習に臨む。
- .演習は「やってみて」「振り返る」こと。

内容

1	ガイダンス、子どもの発達に応じた食について学ぶ意義
2	子どもの発達と栄養の基本的な知識
3	何をどのくらい食べたらよいか
4	子育てと家庭の食事(献立)構造の関係
5	妊娠期から授乳期の母体の変化と食生活の特徴
6	乳児期の食生活(乳汁栄養)
7	乳児期の食生活(子どもの発育・発達の関係と離乳の実際)
8	幼児期の食生活(幼児期の心身の特徴と食事)
9	幼児期の食生活(幼児期の食生活上の問題と対応)
10	学齢期・思春期の食生活(心身の特徴と望ましい食生活および食の自立について)
11	特別な配慮が必要な子どもの食生活と対応
12	子どもの発達と食育
13	児童福祉施設の施設特性と子どもの食生活および支援
14	食育支援の計画から評価の考え方と事例
15	まとめ

評価

2/3以上の出席をもって評価対象者とする。評価は、授業内レポート(40%)、発表10点(10%)、定期試験レポート(50%)で、60点以上を合格とする。

教科書・推薦書(著者名・書名・出版社名)

【教科書】堤ちはる他著：子育て・子育てを支援するー子どもの食と栄養ー，萌文書林

【参考図書】内田園 他著：子どもの食と栄養，学建書院

亀城和子 他著：「保育所の食事を通して食育を」，学建書院

科目名	食と発達		
担当教員名	山崎 優子		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部 (J) - 幼児教育学科		
学 年	3	ク ラ ス	1Bクラス
開 講 期	前期	必修・選択の別	必修*, 選択
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	保育士資格		

ねらい (科目の性格 科目の概要 学修目標)

科目の性格

本科目は、子どもの発達の理解、保育の理解をしたうえで、子どもが健康に育つ生活の軸となる食生活について学ぶ。

科目の概要

子どもの発育・発達および特別な配慮などに応じた適切な栄養や食生活とは何か学ぶとともに、保育における子どもの発達に合わせた食育支援、保護者支援に必要な食の知識を学ぶ。

学修目標：

- .教科書を読んで、わからない用語をあげておき、授業に臨む。
- .授業内で何らかの発見自分の食生活を乳幼児の親または保育士自身の食事と置き換えて演習に臨む。
- .演習は「やってみて」「振り返る」こと。

内容

1	ガイダンス、子どもの発達に応じた食について学ぶ意義
2	子どもの発達と栄養の基本的な知識
3	何をどのくらい食べたらよいか
4	子育てと家庭の食事（献立）構造の関係
5	妊娠期から授乳期の母体の変化と食生活の特徴
6	乳児期の食生活（乳汁栄養）
7	乳児期の食生活（子どもの発育・発達の関係と離乳の実際）
8	幼児期の食生活（幼児期の心身の特徴と食事）
9	幼児期の食生活（幼児期の食生活上の問題と対応）
10	学齢期・思春期の食生活（心身の特徴と望ましい食生活および食の自立について）
11	特別な配慮が必要な子どもの食生活と対応
12	子どもの発達と食育
13	児童福祉施設の施設特性と子どもの食生活および支援
14	食育支援の計画から評価の考え方と事例
15	まとめ

評価

2/3以上の出席をもって評価対象者とする。評価は、授業内レポート（40%）、発表10点（10%）、定期試験レポート（50%）で、60点以上を合格とする。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】堤ちはる他著：子育て・子育てを支援するー子どもの食と栄養ー，萌文書林

【参考図書】内田園 他著：子どもの食と栄養，学建書院

亀城和子 他著：「保育所の食事を通して食育を」，学建書院

科目名	食と発達		
担当教員名	佐々木 菜穂		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部（J）-幼児教育学科		
学 年	3	ク ラ ス	1Cクラス
開 講 期	前期	必修・選択の別	選択, 必修*
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	保育士資格		

ねらい（ 科目の性格 科目の概要 学修目標）

科目の性格

本科目は、子どもの発達の理解、保育の理解をしたうえで、子どもが健康に育つ生活の軸となる食生活について学ぶ。

科目の概要

子どもの発育・発達および特別な配慮などに応じた適切な栄養や食生活とは何か学ぶとともに、保育における子どもの発達に合わせた食育支援、保護者支援に必要な食の知識を学ぶ。

学修目標：

- .教科書を読んで、わからない用語をあげておき、授業に臨む。
- .授業内で何らかの発見自分の食生活を乳幼児の親または保育士自身の食事と置き換えて演習に臨む。
- .演習は「やってみて」「振り返る」こと。

内容

1	ガイダンス、子どもの発達に応じた食について学ぶ意義
2	子どもの発達と栄養の基本的な知識
3	何をどのくらい食べたらよいか
4	子育てと家庭の食事（献立）構造の関係
5	妊娠期から授乳期の母体の変化と食生活の特徴
6	乳児期の食生活（乳汁栄養）
7	乳児期の食生活（子どもの発育・発達の関係と離乳の実際）
8	幼児期の食生活（幼児期の心身の特徴と食事）
9	幼児期の食生活（幼児期の食生活上の問題と対応）
10	学齢期・思春期の食生活（心身の特徴と望ましい食生活および食の自立について）
11	特別な配慮が必要な子どもの食生活と対応
12	子どもの発達と食育
13	児童福祉施設の施設特性と子どもの食生活および支援
14	食育支援の計画から評価の考え方と事例
15	まとめ

評価

2/3以上の出席をもって評価対象者とする。評価は、授業内レポート（40%）、発表10点（10%）、定期試験レポート（50%）で、60点以上を合格とする。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】堤ちはる他著：子育て・子育てを支援するー子どもの食と栄養ー，萌文書林

【参考図書】内田園 他著：子どもの食と栄養，学建書院

亀城和子 他著：「保育所の食事を通して食育を」，学建書院

科目名	食と発達		
担当教員名	佐々木 菜穂		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部（J）-幼児教育学科		
学 年	3	ク ラ ス	1Dクラス
開 講 期	前期	必修・選択の別	選択, 必修*
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	保育士資格		

ねらい（ 科目の性格 科目の概要 学修目標）

科目の性格

本科目は、子どもの発達の理解、保育の理解をしたうえで、子どもが健康に育つ生活の軸となる食生活について学ぶ。

科目の概要

子どもの発育・発達および特別な配慮などに応じた適切な栄養や食生活とは何か学ぶとともに、保育における子どもの発達に合わせた食育支援、保護者支援に必要な食の知識を学ぶ。

学修目標：

- .教科書を読んで、わからない用語をあげておき、授業に臨む。
- .授業内で何らかの発見自分の食生活を乳幼児の親または保育士自身の食事と置き換えて演習に臨む。
- .演習は「やってみて」「振り返る」こと。

内容

1	ガイダンス、子どもの発達に応じた食について学ぶ意義
2	子どもの発達と栄養の基本的な知識
3	何をどのくらい食べたらよいか
4	子育てと家庭の食事（献立）構造の関係
5	妊娠期から授乳期の母体の変化と食生活の特徴
6	乳児期の食生活（乳汁栄養）
7	乳児期の食生活（子どもの発育・発達の関係と離乳の実際）
8	幼児期の食生活（幼児期の心身の特徴と食事）
9	幼児期の食生活（幼児期の食生活上の問題と対応）
10	学齢期・思春期の食生活（心身の特徴と望ましい食生活および食の自立について）
11	特別な配慮が必要な子どもの食生活と対応
12	子どもの発達と食育
13	児童福祉施設の施設特性と子どもの食生活および支援
14	食育支援の計画から評価の考え方と事例
15	まとめ

評価

2/3以上の出席をもって評価対象者とする。評価は、授業内レポート（40%）、発表10点（10%）、定期試験レポート（50%）で、60点以上を合格とする。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】堤ちはる他著：子育て・子育てを支援するー子どもの食と栄養ー，萌文書林

【参考図書】内田園 他著：子どもの食と栄養，学建書院

亀城和子 他著：「保育所の食事を通して食育を」，学建書院

科目名	ネイチャー・ワーク		
担当教員名	平田 智久		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部 (J) - 幼児教育学科		
学 年	2	ク ラ ス	1Aクラス
開 講 期	前期	必修・選択の別	必修*
授 業 形 態		単 位 数	1
資 格 関 係	幼稚園教諭一種免許状		

ねらい (科目の性格 科目の概要 学修目標)

森や林などに身を置いた直接体験を通して、幼児教育の根幹の一つ「総合的に…」の意味を理解することが目標である。そうした理解は幼児教育にとどまらず、人間の感性をより豊かに醸成していくことになること、考える力、行動力にも深くかかわることにもなること、つまり、幼保小の連携やそれ以降の人間性の高揚に連なっていることを体感することである。

授業の目的に示した通り、さまざまな視座の交差統合が重要である。学科学部のさまざまな専門性の高い教員の知見を活用し、学生自らの体験の中でさまざまな視座を絡めあわせ構築させていく。

子どもたちと自然の中に出かけ、神秘さや不思議さに目をみはる感性を育み、分かち合うことの大切さを知り、体感することが目標である。

内容

ゲストスピーカーや天候などに応じて授業形態を変更する。演習にふさわしい服装と心構えで望むこと。

第1回：プロローグ

第2回：自然との対話 風・光・影 その1

第3回：自然との対話 風・光・影 その2

第4回：自然との対話 風・光・影 その3

第5回：自然との対話 樹木・鳥 その1

第6回：自然との対話 樹木・花 その2

第7回：自然との対話 樹木・虫 その3

第8回：自然との対話 宇宙 その1

第9回：自然との対話 宇宙 その2

第10回：自然の中に生きる その1 水

第11回：自然の中に生きる その2 火

第12回：自然の中に生きる その3 草木

第13回：自然の中に生きる その4 草木

第14回：自然の中に生きる その5 土

第15回：自然の中に生きる その6 土

評価

演習を通して学ぶので、感じ考えたことや実験してわかったことなどを一冊のスケッチブック（自作）にまとめ、自分のための資料集とすること(60%)。そのスケッチブックによって、自然とのかかわりを重視した保育に展開できる力や、子ども達と関わる感性、意欲を評価する(40%)。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

レイチェル・L. カーソン, 上遠 恵子（翻訳）「センス・オブ・ワンダー」新潮社刊

科目名	ネイチャー・ワーク		
担当教員名	平田 智久		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部 (J) - 幼児教育学科		
学 年	2	ク ラ ス	1Bクラス
開 講 期	前期	必修・選択の別	必修*
授 業 形 態		単 位 数	1
資 格 関 係	幼稚園教諭一種免許状		

ねらい (科目の性格 科目の概要 学修目標)

森や林などに身を置いた直接体験を通して、幼児教育の根幹の一つ「総合的に…」の意味を理解することが目標である。そうした理解は幼児教育にとどまらず、人間の感性をより豊かに醸成していくことになること、考える力、行動力にも深くかかわることにもなること、つまり、幼保小の連携やそれ以降の人間性の高揚に連なっていることを体感することである。

授業の目的に示した通り、さまざまな視座の交差統合が重要である。学科学部のさまざまな専門性の高い教員の知見を活用し、学生自らの体験の中でさまざまな視座を絡めあわせ構築させていく。

子どもたちと自然の中に出かけ、神秘さや不思議さに目をみはる感性を育み、分かち合うことの大切さを知り、体感することが目標である。

内容

ゲストスピーカーや天候などに応じて授業形態を変更する。演習にふさわしい服装と心構えで望むこと。

第1回：プロローグ

第2回：自然との対話 風・光・影 その1

第3回：自然との対話 風・光・影 その2

第4回：自然との対話 風・光・影 その3

第5回：自然との対話 樹木・鳥 その1

第6回：自然との対話 樹木・花 その2

第7回：自然との対話 樹木・虫 その3

第8回：自然との対話 宇宙 その1

第9回：自然との対話 宇宙 その2

第10回：自然の中に生きる その1 水

第11回：自然の中に生きる その2 火

第12回：自然の中に生きる その3 草木

第13回：自然の中に生きる その4 草木

第14回：自然の中に生きる その5 土

第15回：自然の中に生きる その6 土

評価

演習を通して学ぶので、感じ考えたことや実験してわかったことなどを一冊のスケッチブック（自作）にまとめ、自分のための資料集とすること(60%)。そのスケッチブックによって、自然とのかかわりを重視した保育に展開できる力や、子ども達と関わる感性、意欲を評価する(40%)。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

レイチェル・L. カーソン, 上遠 恵子（翻訳）「センス・オブ・ワンダー」新潮社刊

科目名	ネイチャー・ワーク		
担当教員名	宮野 周		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部 (J) - 幼児教育学科		
学 年	2	ク ラ ス	10クラス
開 講 期	前期	必修・選択の別	必修*
授 業 形 態		単 位 数	1
資 格 関 係	幼稚園教諭一種免許状		

ねらい (科目の性格 科目の概要 学修目標)

森や林などに身を置いた直接体験を通して、幼児教育の根幹の一つ「総合的に…」の意味を理解することが目標である。そうした理解は幼児教育にとどまらず、人間の感性をより豊かに醸成していくことになること、考える力、行動力にも深くかかわることにもなること、つまり、幼保小の連携やそれ以降の人間性の高揚に連なっていることを体感することである。

授業の目的に示した通り、さまざまな視座の交差統合が重要である。学科学部のさまざまな専門性の高い教員の知見を活用し、学生自らの体験の中でさまざまな視座を絡めあわせ構築させていく。

子どもたちと自然の中に出かけ、神秘さや不思議さに目をみはる感性を育み、分かち合うことの大切さを知り、体感することが目標である。

内容

ゲストスピーカーや天候などに応じて授業形態を変更する。演習にふさわしい服装と心構えで望むこと。

第1回：プロローグ

第2回：自然との対話 風・光・影 その1

第3回：自然との対話 風・光・影 その2

第4回：自然との対話 風・光・影 その3

第5回：自然との対話 樹木・鳥 その1

第6回：自然との対話 樹木・花 その2

第7回：自然との対話 樹木・虫 その3

第8回：自然との対話 宇宙 その1

第9回：自然との対話 宇宙 その2

第10回：自然の中に生きる その1 水

第11回：自然の中に生きる その2 火

第12回：自然の中に生きる その3 草木

第13回：自然の中に生きる その4 草木

第14回：自然の中に生きる その5 土

第15回：自然の中に生きる その6 土

評価

演習を通して学ぶので、感じ考えたことや実験してわかったことなどを一冊のスケッチブック（自作）にまとめ、自分のための資料集とすること(60%)。そのスケッチブックによって、自然とのかかわりを重視した保育に展開できる力や、子ども達と関わる感性、意欲を評価する(40%)。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

レイチェル・L. カーソン, 上遠 恵子（翻訳）「センス・オブ・ワンダー」新潮社刊

科目名	ネイチャー・ワーク		
担当教員名	宮野 周		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部 (J) - 幼児教育学科		
学 年	2	ク ラ ス	1Dクラス
開 講 期	前期	必修・選択の別	必修*
授 業 形 態		単 位 数	1
資 格 関 係	幼稚園教諭一種免許状		

ねらい (科目の性格 科目の概要 学修目標)

森や林などに身を置いた直接体験を通して、幼児教育の根幹の一つ「総合的に…」の意味を理解することが目標である。そうした理解は幼児教育にとどまらず、人間の感性をより豊かに醸成していくことになること、考える力、行動力にも深くかかわることにもなること、つまり、幼保小の連携やそれ以降の人間性の高揚に連なっていることを体感することである。

授業の目的に示した通り、さまざまな視座の交差統合が重要である。学科学部のさまざまな専門性の高い教員の知見を活用し、学生自らの体験の中でさまざまな視座を絡めあわせ構築させていく。

子どもたちと自然の中に出かけ、神秘さや不思議さに目をみはる感性を育み、分かち合うことの大切さを知り、体感することが目標である。

内容

ゲストスピーカーや天候などに応じて授業形態を変更する。演習にふさわしい服装と心構えで望むこと。

第1回：プロローグ

第2回：自然との対話 風・光・影 その1

第3回：自然との対話 風・光・影 その2

第4回：自然との対話 風・光・影 その3

第5回：自然との対話 樹木・鳥 その1

第6回：自然との対話 樹木・花 その2

第7回：自然との対話 樹木・虫 その3

第8回：自然との対話 宇宙 その1

第9回：自然との対話 宇宙 その2

第10回：自然の中に生きる その1 水

第11回：自然の中に生きる その2 火

第12回：自然の中に生きる その3 草木

第13回：自然の中に生きる その4 草木

第14回：自然の中に生きる その5 土

第15回：自然の中に生きる その6 土

評価

演習を通して学ぶので、感じ考えたことや実験してわかったことなどを一冊のスケッチブック（自作）にまとめ、自分のための資料集とすること(60%)。そのスケッチブックによって、自然とのかかわりを重視した保育に展開できる力や、子ども達と関わる感性、意欲を評価する(40%)。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

レイチェル・L. カーソン, 上遠 恵子（翻訳）「センス・オブ・ワンダー」新潮社刊

科目名	体育基礎（子どもと運動）		
担当教員名	鈴木 康弘		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部（J）-幼児教育学科		
学 年	2	ク ラ ス	1Aクラス
開 講 期	前期	必修・選択の別	必修*,選択
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	保育士資格 / 幼稚園教諭一種免許状		

ねらい（ 科目の性格 科目の概要 学修目標）

科目の性格

この科目は、幼稚園教諭、保育士資格を取得するために履修が必要な科目です。また、この科目は、子どもの運動についてさらに深く専門的に学ぶ幼児運動論や幼児運動論演習へと発展します。

科目の概要

幼児期には、自らが主体的に運動に関わるなかで、「身体を動かすことが楽しい」と感じる経験が必要であり、そのための援助や環境設定が保育者に求められています。授業では、幼児期に行われる運動遊びを実際に体験しながら、その援助方法や環境設定について考えていきます。

学修目標

1. 幼児の発達段階に応じた運動遊び場面での援助方法や遊具の環境設定について、基本的事項を理解する。
2. 運動遊び場面におけるモデルとしての保育者の能力を身につける。

内容

1	オリエンテーション 授業の目的
2	平均台を使った運動遊び
3	マットを使った運動遊び
4	ボールを使った運動遊び（蹴って遊ぶ）
5	ボールを使った運動遊び（投げて遊ぶ）
6	前半授業の振り返り（運動遊びノートの作成）
7	前半授業の振り返り（運動遊びノートの作成）
8	かえるの体操、ヤンチャリカのテスト
9	バンブーダンス
10	跳び箱を使った運動遊び
11	日本の伝承遊び あんたがたどこさ
12	後半授業の振り返り（運動遊びノートの作成）
13	日本の伝承遊び 竹馬
14	日本の伝承遊び こま
15	授業のまとめ

評価

評価は、授業態度（15点）、授業での課題提出（運動遊びにおける環境設定のまとめ 20点）、子どものための準備体操テスト（20点）、及び伝承遊びテスト（竹馬、こままわし、ボールつき 各45点）の観点から総合的に行います。60点以上を合格とします。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】 岩崎洋子編，保育と幼児期の運動遊び，萌文書林．

【推薦書】 杉原隆編著，新版幼児の体育，建帛社．

科目名	体育基礎（子どもと運動）		
担当教員名	鈴木 康弘		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部（J）-幼児教育学科		
学 年	2	ク ラ ス	1Bクラス
開 講 期	前期	必修・選択の別	必修*,選択
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	保育士資格 / 幼稚園教諭一種免許状		

ねらい（ 科目の性格 科目の概要 学修目標）

科目の性格

この科目は、幼稚園教諭、保育士資格を取得するために履修が必要な科目です。また、この科目は、子どもの運動についてさらに深く専門的に学ぶ幼児運動論や幼児運動論演習へと発展します。

科目の概要

幼児期には、自らが主体的に運動に関わるなかで、「身体を動かすことが楽しい」と感じる経験が必要であり、そのための援助や環境設定が保育者に求められています。授業では、幼児期に行われる運動遊びを実際に体験しながら、その援助方法や環境設定について考えていきます。

学修目標

1. 幼児の発達段階に応じた運動遊び場面での援助方法や遊具の環境設定について、基本的事項を理解する。
2. 運動遊び場面におけるモデルとしての保育者の能力を身につける。

内容

1	オリエンテーション 授業の目的
2	平均台を使った運動遊び
3	マットを使った運動遊び
4	ボールを使った運動遊び（蹴って遊ぶ）
5	ボールを使った運動遊び（投げて遊ぶ）
6	前半授業の振り返り（運動遊びノート作成）
7	前半授業の振り返り（運動遊びノート作成）
8	かえるの体操、ヤンチャリカのテスト
9	バンブーダンス
10	跳び箱を使った運動遊び
11	日本の伝承遊び あんたがたどこさ
12	後半授業の振り返り（運動遊びノート作成）
13	日本の伝承遊び 竹馬
14	日本の伝承遊び こま
15	授業のまとめ

評価

評価は、授業態度（15点）、授業での課題提出（運動遊びにおける環境設定のまとめ 20点）、子どものための準備体操テスト（20点）、及び伝承遊びテスト（竹馬、こままわし、ボールつき 各45点）の観点から総合的に行います。60点以上を合格とします。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】 岩崎洋子編，保育と幼児期の運動遊び，萌文書林．

【推薦書】 杉原隆編著，新版幼児の体育，建帛社．

科目名	体育基礎（子どもと運動）		
担当教員名	鈴木 康弘		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部（J）-幼児教育学科		
学 年	2	ク ラ ス	1Cクラス
開 講 期	前期	必修・選択の別	必修*,選択
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	保育士資格 / 幼稚園教諭一種免許状		

ねらい（ 科目の性格 科目の概要 学修目標）

科目の性格

この科目は、幼稚園教諭、保育士資格を取得するために履修が必要な科目です。また、この科目は、子どもの運動についてさらに深く専門的に学ぶ幼児運動論や幼児運動論演習へと発展します。

科目の概要

幼児期には、自らが主体的に運動に関わるなかで、「身体を動かすことが楽しい」と感じる経験が必要であり、そのための援助や環境設定が保育者に求められています。授業では、幼児期に行われる運動遊びを実際に体験しながら、その援助方法や環境設定について考えていきます。

学修目標

1. 幼児の発達段階に応じた運動遊び場面での援助方法や遊具の環境設定について、基本的事項を理解する。
2. 運動遊び場面におけるモデルとしての保育者の能力を身につける。

内容

1	オリエンテーション 授業の目的
2	平均台を使った運動遊び
3	マットを使った運動遊び
4	ボールを使った運動遊び（蹴って遊ぶ）
5	ボールを使った運動遊び（投げて遊ぶ）
6	前半授業の振り返り（運動遊びノートの作成）
7	前半授業の振り返り（運動遊びノートの作成）
8	かえるの体操、ヤンチャリカのテスト
9	バンブーダンス
10	跳び箱を使った運動遊び
11	日本の伝承遊び あんたがたどこさ
12	後半授業の振り返り（運動遊びノートの作成）
13	日本の伝承遊び 竹馬
14	日本の伝承遊び こま
15	授業のまとめ

評価

評価は、授業態度（15点）、授業での課題提出（運動遊びにおける環境設定のまとめ 20点）、子どものための準備体操テスト（20点）、及び伝承遊びテスト（竹馬、こままわし、ボールつき 各45点）の観点から総合的に行います。60点以上を合格とします。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】 岩崎洋子編，保育と幼児期の運動遊び，萌文書林．

【推薦書】 杉原隆編著，新版幼児の体育，建帛社．

科目名	体育基礎（子どもと運動）		
担当教員名	鈴木 康弘		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部（J）-幼児教育学科		
学 年	2	ク ラ ス	1Dクラス
開 講 期	前期	必修・選択の別	必修*,選択
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	保育士資格 / 幼稚園教諭一種免許状		

ねらい（ 科目の性格 科目の概要 学修目標）

科目の性格

この科目は、幼稚園教諭、保育士資格を取得するために履修が必要な科目です。また、この科目は、子どもの運動についてさらに深く専門的に学ぶ幼児運動論や幼児運動論演習へと発展します。

科目の概要

幼児期には、自らが主体的に運動に関わるなかで、「身体を動かすことが楽しい」と感じる経験が必要であり、そのための援助や環境設定が保育者に求められています。授業では、幼児期に行われる運動遊びを実際に体験しながら、その援助方法や環境設定について考えていきます。

学修目標

1. 幼児の発達段階に応じた運動遊び場面での援助方法や遊具の環境設定について、基本的事項を理解する。
2. 運動遊び場面におけるモデルとしての保育者の能力を身につける。

内容

1	オリエンテーション 授業の目的
2	平均台を使った運動遊び
3	マットを使った運動遊び
4	ボールを使った運動遊び（蹴って遊ぶ）
5	ボールを使った運動遊び（投げて遊ぶ）
6	前半授業の振り返り（運動遊びノートの作成）
7	前半授業の振り返り（運動遊びノートの作成）
8	かえるの体操、ヤンチャリカのテスト
9	バンブーダンス
10	跳び箱を使った運動遊び
11	日本の伝承遊び あんたがたどこさ
12	後半授業の振り返り（運動遊びノートの作成）
13	日本の伝承遊び 竹馬
14	日本の伝承遊び こま
15	授業のまとめ

評価

評価は、授業態度（15点）、授業での課題提出（運動遊びにおける環境設定のまとめ 20点）、子どものための準備体操テスト（20点）、及び伝承遊びテスト（竹馬、こままわし、ボールつき 各45点）の観点から総合的に行います。60点以上を合格とします。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】 岩崎洋子編，保育と幼児期の運動遊び，萌文書林．

【推薦書】 杉原隆編著，新版幼児の体育，建帛社．

科目名	健康教育学		
担当教員名	齋藤 麗子		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部 (J) - 幼児教育学科		
学 年	3	ク ラ ス	1Aクラス
開 講 期	前期	必修・選択の別	選択
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係			

ねらい (科目の性格 科目の概要 学修目標)

働く母親が増加し、保育や幼児教育のニーズは増えているが、これは量的のみならず保育内容の多様化も求められている。ゼロ歳児保育、病児保育、病後児保育、病棟内保育などこれからの保育現場は広がりを見せている。健康な時だけの保育ではないため、様々な病気の理解や、薬の飲み方、さらに学校保健分野も学習する必要がある。子どもの便や尿からも健康状態が把握できる。ノロウイルス感染や虱などは集団保育では避けて通れない。子どもと一緒に病気と付き合える保育士を目指してほしい。また、子どもたちの健康維持のための理解のできる健康教育も学んでほしい。小児科専門医師が視聴覚教材を使い、分かりやすい授業を実施する。

内容

- 内容 1, 発熱、腹痛、嘔吐、下痢など子どもによくある症状
- 2, こどものけが、スポーツ外傷
- 3, かぜ症候群と保育の注意
- 4, 熱中症、日射病などの夏の保育の注意
- 5, 食中毒と保育
- 6, 子どもを取り巻くタバコ環境
- 7, 女性と喫煙
- 8, 子どもによくある感染症1
- 9, 子どもによくある感染症2
- 10, 最近の予防接種
- 11, 学校保健安全法
- 12, 感染症サーベイランス
- 13, 病時保育と与薬
- 14, 復習と質問
- 15, まとめと解説

評価

定期試験80% レポート20% によって評価し60点以上を合格とする。合格点に満たない場合は再試験を実施する。

教科書・推薦書 (著者名・書名・出版社名)

[教科書] 適宜プリント資料を作成、配布

[推薦書] 日本外来小児科学会編著「お母さんに伝えたい子どもの病気ホームケアガイド」医歯薬出版株式会社
日本外来小児科学会編著「お母さんに伝えたい子どものくすり安心ガイド」医歯薬出版株式会社

科目名	健康教育学		
担当教員名	鈴木 康弘		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部 (J) - 幼児教育学科		
学 年	3	ク ラ ス	1Bクラス
開 講 期	前期	必修・選択の別	選択
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係			

ねらい (科目の性格 科目の概要 学修目標)

科目の性格

幼児教育学科の学科専門科目です。幼児期の運動発達とその援助に関する専門的な理解を深め、「健康教育学演習」へとつなげる科目です。

科目の概要

本授業では、幼児期の発達の特徴に応じた運動遊びの援助を行うために必要な知識と経験を深めます。まず、前半の講義を受講することを通して幼児期の運動指導に関する理解を深めます。後半は、子どもの多様な動きを引き出すための教材研究や教材の製作を通して経験を深めます。

学修目標

1. 幼児期の運動発達とその援助方法について理解を深める
2. 幼児期の発達の特徴に基づいた運動遊びの援助について経験を深める

内容

1	ガイダンス (授業内容の詳細および授業の進め方等)
2	現代社会に生きる子どもの生活と保育者の役割 (講義)
3	動機づけと運動 (講義)
4	運動指導のポイント (講義)
5	遊具の役割 (講義)
6	安全への配慮 (講義)
7	運動の効果 (講義)
8	運動遊びのための教材研究 ・文献研究 (グループワーク)
9	運動遊びのための教材研究 ・指導案の作成 (個人)
10	運動遊びのための教材研究 ・指導案の検討 (グループワーク)
11	運動遊びのための教材研究 ・教材の作成 (グループワーク)
12	運動遊びのための教材研究 ・教材の作成 (グループワーク)
13	運動遊びのための教材研究 ・作成した教材の試行 (グループワーク)
14	運動遊びのための教材研究 ・作成した教材の試行 (グループワーク)
15	運動遊びのための教材研究 ・作成した教材の改善 (グループワーク)

評価

評価は、運動指導理論の理解度 (40点)、教材研究の過程と成果 (40点)、まとめのレポート (20点) の観点から総合的に行います。60点以上を合格とします。

教科書・推薦書 (著者名・書名・出版社名)

科目名	健康教育学演習		
担当教員名	齋藤 麗子		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部 (J) - 幼児教育学科		
学 年	3	ク ラ ス	2Aクラス
開 講 期	後期	必修・選択の別	選択
授 業 形 態		単 位 数	1
資 格 関 係			

ねらい (科目の性格 科目の概要 学修目標)

保育のニーズの多様化の中で、病気についての理解を持つ保育士をめざし、前期の保育臨床学の授業を踏まえ、さらに演習を等して主体的な取り組みを期待する。病気の後や具合の悪いときの対応として、食事、や水分補給の考え方、増えている予防接種の接種順なども実践的に学ぶ。子ども自身が危険防止の安全の考え方や行動実践が出来るように、さらに健康維持のための子どもが理解できる健康教育の実践に役立つ為にグループワークの中で各自が唱、紙芝居、人形劇、ロールプレー等を工夫する。

救急蘇生の実習では人形やAEDを使い全員が実演する。小児科専門医が経験に基づいた授業を実施するが、学ぶ意欲のある学生に参加してほしい。

内容

- 1, 尿路感染症について 脱水時の水分補給とORS
- 2, 発熱、下痢、脱水時の食事メニュー作成
- 3, 予防接種の接種モデル作成
- 4, 保育現場での感染症事例検討
- 5, 食物アレルギーとは 事例検討
- 6, 食物アレルギー対応と食物成分表示の見方
- 7, 救急時の対応とAED使用法
- 8, 救急蘇生実習
- 9, 子どもの喫煙防止教育
- 10, 動物由来感染症事例について
- 11, 子どもの事故防止ポスター作成
- 12, 園でのけがの対応
- 13, 健康教育紙芝居の作成
- 14, 健康教育紙芝居の発表 復習
- 15, まとめと解説

評価

レポート20% 実習参加度20% まとめのテスト60% で60点以上を合格とする。合格点に満たない場合は面接にて評価。

教科書・推薦書 (著者名・書名・出版社名)

[教科書] 適宜プリント資料を作成、配布

[推薦書] 田中哲郎監修 齋藤麗子共著「子育て支援における保健相談マニュアル」日本小児医事出版社

科目名	健康教育学演習		
担当教員名	鈴木 康弘		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部 (J) - 幼児教育学科		
学 年	3	ク ラ ス	2Bクラス
開 講 期	後期	必修・選択の別	選択
授 業 形 態		単 位 数	1
資 格 関 係			

ねらい (科目の性格 科目の概要 学修目標)

科目の性格

幼児教育学科の学科専門科目です。卒業研究につながる演習科目として位置づけられており、担当者の研究室で卒業研究を進める学生は、基本的にはこの科目を履修していることが求められます。

科目の概要

前半は、子どもの運動遊び広場（わくわくプレイパーク@幼教）での活動を通して、運動遊びに関する環境設定や援助についての経験を深めます。後半は、これまでの経験に基づいた問題意識を整理するとともに、幼児の運動に関連した興味のある論文を読み、内容をまとめて発表します。同時に、発表された論文に関する疑問点や課題などを討論します。

学修目標

1. 子どもの運動遊びに関する環境設定や援助についての経験を深める。
2. 伝える（発表する）事を前提とした資料を作成し、論点を絞って発表する。
3. 討論を通して、論文を批判的な視点で捉えることができるようになる。

内容

1	運動遊び活動案の再検討
2	運動遊び活動案の再構成
3	運動遊び教材の改善
4	わくわくプレイパーク@幼教 in 桐華祭の打ち合わせ
5	運動遊び教材の改善
6	運動遊び教材の子どもへの試行（わくわくプレイパーク@幼教 in 桐華祭）
7	運動遊実践（わくわくプレイパーク）の反省とまとめ
8	幼児の運動遊びに関する論文の検討
9	幼児の運動遊びに関する論文のまとめ
10	幼児の運動遊びに関する論文のまとめ
11	学生による発表と討論
12	学生による発表と討論
13	学生による発表と討論
14	学生による発表と討論
15	学生による発表と討論

評価

評価は、教材研究の過程と成果（40）、発表資料の作成と発表（40点）、討論への参加（20点）の観点から総合的に行います。60点以上を合格とします。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

教科書 特に使用しない

推薦書 授業中に随時紹介する

科目名	音楽基礎（歌唱法）		
担当教員名	藪崎 伸一郎		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部（J）-幼児教育学科		
学 年	2	ク ラ ス	1Aクラス
開 講 期	前期	必修・選択の別	必修* , 選択
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	保育士資格 / 幼稚園教諭一種免許状		

ねらい（ 科目の性格 科目の概要 学修目標）

科目の性格

この科目は、保育者として必須である「歌うこと」を学ぶ科目である。保育現場では子どもたちと共に歌うことが多々あるが、そのためにはどうしたら良いのか。その的確な方法を学ぶ事を主眼とする。

科目の概要

保育現場で歌われている歌を多く取り上げ、子どもと共に楽しみながら歌う方法を、基礎的な音楽知識や声に関する知識（発声法、呼吸法など）を学びながら体得する。さらにグループ活動を通して作品を創造していく中で、積極性や協調性、コミュニケーション力を養う。

学修目標

- ? 人前でも臆せずに歌うことができる
- ? 保育現場で歌われている歌、歌ってほしい歌を知りレパートリーを広げる
- ? 歌うことの楽しさを実体験として味わい、表現力豊かに伝えることができるようにする

内容

1	ガイダンス
2	歌うこととは
3	声が出るしくみ
4	発声法・呼吸法の基礎
5	発声法・呼吸法の応用
6	音楽の基礎知識と読譜（ト音記号によるクレ読み）
7	音楽の基礎知識と読譜（ヘ音記号によるクレ読み）
8	ボディパーカッションを用いた表現と創作
9	子どもの音楽的発達の理解
10	子どもの歌唱作品・表現法の基礎
11	子どもの歌唱作品・表現法の応用
12	グループ活動の意義と事例研究
13	子どもを対象とした歌唱作品による音楽劇の創作(グループ活動)
14	グループ単位での実践
15	まとめ(グループ単位での作品発表)

評価

音楽鑑賞レポート（20%）、歌唱試験（30%）、グループ活動への取り組み（50%）

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】

小林美実『音楽リズム』東京書籍、『標準版コールユーブンゲン』全音楽譜出版社

【推薦書】

米山文明『声がよくなる本』主婦と生活社、萩野仁志・後野仁彦『医師と声楽家が解き明かす発声のメカニズム』音楽之友社

科目名	音楽基礎（歌唱法）		
担当教員名	藪崎 伸一郎		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部（J）-幼児教育学科		
学 年	2	ク ラ ス	1Bクラス
開 講 期	前期	必修・選択の別	必修* , 選択
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	保育士資格 / 幼稚園教諭一種免許状		

ねらい（ 科目の性格 科目の概要 学修目標）

科目の性格

この科目は、保育者として必須である「歌うこと」を学ぶ科目である。保育現場では子どもたちと共に歌うことが多々あるが、そのためにはどうしたら良いのか。その的確な方法を学ぶ事を主眼とする。

科目の概要

保育現場で歌われている歌を多く取り上げ、子どもと共に楽しみながら歌う方法を、基礎的な音楽知識や声に関する知識（発声法、呼吸法など）を学びながら体得する。さらにグループ活動を通して作品を創造していく中で、積極性や協調性、コミュニケーション力を養う。

学修目標

- ? 人前でも臆せずに歌うことができる
- ? 保育現場で歌われている歌、歌ってほしい歌を知りレパートリーを広げる
- ? 歌うことの楽しさを実体験として味わい、表現力豊かに伝えることができるようにする

内容

1	ガイダンス
2	歌うこととは
3	声が出るしくみ
4	発声法・呼吸法の基礎
5	発声法・呼吸法の応用
6	音楽の基礎知識と読譜（ト音記号によるクレ読み）
7	音楽の基礎知識と読譜（ヘ音記号によるクレ読み）
8	ボディパーカッションを用いた表現と創作
9	子どもの音楽的発達の理解
10	子どもの歌唱作品・表現法の基礎
11	子どもの歌唱作品・表現法の応用
12	グループ活動の意義と事例研究
13	子どもを対象とした歌唱作品による音楽劇の創作(グループ活動)
14	グループ単位での実践
15	まとめ(グループ単位での作品発表)

評価

音楽鑑賞レポート（20%）、歌唱試験（30%）、グループ活動への取り組み（50%）

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】

小林美実『音楽リズム』東京書籍、『標準版コールユーブンゲン』全音楽譜出版社

【推薦書】

米山文明『声がよくなる本』主婦と生活社、萩野仁志・後野仁彦『医師と声楽家が解き明かす発声のメカニズム』音楽之友社

科目名	音楽基礎（歌唱法）		
担当教員名	藪崎 伸一郎		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部（J）-幼児教育学科		
学 年	2	ク ラ ス	1Cクラス
開 講 期	前期	必修・選択の別	必修* , 選択
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	保育士資格 / 幼稚園教諭一種免許状		

ねらい（ 科目の性格 科目の概要 学修目標）

科目の性格

この科目は、保育者として必須である「歌うこと」を学ぶ科目である。保育現場では子どもたちと共に歌うことが多々あるが、そのためにはどうしたら良いのか。その的確な方法を学ぶ事を主眼とする。

科目の概要

保育現場で歌われている歌を多く取り上げ、子どもと共に楽しみながら歌う方法を、基礎的な音楽知識や声に関する知識（発声法、呼吸法など）を学びながら体得する。さらにグループ活動を通して作品を創造していく中で、積極性や協調性、コミュニケーション力を養う。

学修目標

- ? 人前でも臆せずに歌うことができる
- ? 保育現場で歌われている歌、歌ってほしい歌を知りレパートリーを広げる
- ? 歌うことの楽しさを実体験として味わい、表現力豊かに伝えることができるようにする

内容

1	ガイダンス
2	歌うこととは
3	声が出るしくみ
4	発声法・呼吸法の基礎
5	発声法・呼吸法の応用
6	音楽の基礎知識と読譜（ト音記号によるクレ読み）
7	音楽の基礎知識と読譜（ヘ音記号によるクレ読み）
8	ボディパーカッションを用いた表現と創作
9	子どもの音楽的発達の理解
10	子どもの歌唱作品・表現法の基礎
11	子どもの歌唱作品・表現法の応用
12	グループ活動の意義と事例研究
13	子どもを対象とした歌唱作品による音楽劇の創作（グループ活動）
14	グループ単位での実践
15	まとめ（グループ単位での作品発表）

評価

音楽鑑賞レポート（20%）、歌唱試験（30%）、グループ活動への取り組み（50%）

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】

小林美実『音楽リズム』東京書籍、『標準版コールユーブンゲン』全音楽譜出版社

【推薦書】

米山文明『声がよくなる本』主婦と生活社、萩野仁志・後野仁彦『医師と声楽家が解き明かす発声のメカニズム』音楽之友社

科目名	音楽基礎（歌唱法）		
担当教員名	藪崎 伸一郎		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部（J）-幼児教育学科		
学 年	2	ク ラ ス	1Dクラス
開 講 期	前期	必修・選択の別	必修* , 選択
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	保育士資格 / 幼稚園教諭一種免許状		

ねらい（ 科目の性格 科目の概要 学修目標）

科目の性格

この科目は、保育者として必須である「歌うこと」を学ぶ科目である。保育現場では子どもたちと共に歌うことが多々あるが、そのためにはどうしたら良いのか。その的確な方法を学ぶ事を主眼とする。

科目の概要

保育現場で歌われている歌を多く取り上げ、子どもと共に楽しみながら歌う方法を、基礎的な音楽知識や声に関する知識（発声法、呼吸法など）を学びながら体得する。さらにグループ活動を通して作品を創造していく中で、積極性や協調性、コミュニケーション力を養う。

学修目標

- ? 人前でも臆せずに歌うことができる
- ? 保育現場で歌われている歌、歌ってほしい歌を知りレパートリーを広げる
- ? 歌うことの楽しさを実体験として味わい、表現力豊かに伝えることができるようにする

内容

1	ガイダンス
2	歌うこととは
3	声が出るしくみ
4	発声法・呼吸法の基礎
5	発声法・呼吸法の応用
6	音楽の基礎知識と読譜（ト音記号によるクレ読み）
7	音楽の基礎知識と読譜（ヘ音記号によるクレ読み）
8	ボディパーカッションを用いた表現と創作
9	子どもの音楽的発達の理解
10	子どもの歌唱作品・表現法の基礎
11	子どもの歌唱作品・表現法の応用
12	グループ活動の意義と事例研究
13	子どもを対象とした歌唱作品による音楽劇の創作(グループ活動)
14	グループ単位での実践
15	まとめ(グループ単位での作品発表)

評価

音楽鑑賞レポート（20%）、歌唱試験（30%）、グループ活動への取り組み（50%）

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】

小林美実『音楽リズム』東京書籍、『標準版コールユーブンゲン』全音楽譜出版社

【推薦書】

米山文明『声がよくなる本』主婦と生活社、萩野仁志・後野仁彦『医師と声楽家が解き明かす発声のメカニズム』音楽之友社

科目名	音楽基礎（ピアノ基礎技術）		
担当教員名	金勝 裕子		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部（J）-幼児教育学科		
学 年	1	ク ラ ス	01
開 講 期	後期	必修・選択の別	選択, 必修*
授 業 形 態		単 位 数	1
資 格 関 係	保育士資格 / 幼稚園教諭一種免許状		

ねらい（ 科目の性格 科目の概要 学修目標）

科目の性格 ピアノ技術向上のために個人レッスン形式で行う。学生それぞれ個人に添ったレベルに応じた進度に合わせて、教本を進めていく。

科目の概要 バイエルピアノ教本全曲終了することで単位を修得する。すでに長い経験を持つ学生から初心者の学生まで、幅広い技術層がある。バイエルが終了していない学生はバイエルから、バイエルを終了した学生はその学生のレベルに応じた授業を進めて行く。

学修目標 初心者はバイエルを終了し、実技試験に合格をすることが目標である。経験者は担当の教員と相談し自由曲を実技試験として受ける。

「音楽基礎」の単位を修得して「音楽表現」へ進む。「音楽基礎」が習得できない場合は「音楽表現」を取ることができないので、必ず取得しておきたい科目であることに注意してほしい。

内容

後期から開講する授業であるので、前期は自習をして後期に備える。特に初心者は後期のみでバイエルを終了しなくてはならないので、予習の時間が長くあることを利用する。

初心者は「バイエルピアノ教則本」を購入し60番までは自習しておく。授業は60番以降の進めてきたところから始める。バイエルにおける自習活動は、独学あるいはピアノ学習のできる機関で習うなど方法は自分で選択する。ただしピアノ関係の教員との相談はいつでも研究室を訪れればその方法の相談はできるので、ぜひ相談してもらいたい。

バイエル終了は当大学の音楽教員が終了とみなした学生に限る。大学外での終了は考慮はするが、担当教員との話し合いで決定する。

経験者は、自習してレベルを保つことを進める。

個人レッスンは一人90分で6 - 8人行う。

経験者の教本は担当の教員と授業の最初に相談をして進めていく。

または の学生で、欠席が多いあるいは自習学習に著しく欠けると担当教員が判断した場合は、実技受験は不可能とする。その場合担当教員の指示となる。

評価

バイエルを終了したものは実技テストを受験できる。

バイエル修了者はバイエルの中から指定された曲を弾く。

経験者は担当教員と課題曲を相談して実技試験を受ける。

実技の授業であるから、毎回の家庭学習の充実と、授業に対する熱意とで実技テストの受験が可能となることを注意すること。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

バイエルを終了していない学生は

「バイエルピアノ教則本(標準版)」全音楽譜出版社

科目名	音楽基礎（楽器演奏）		
担当教員名	金勝 裕子		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部（J）-幼児教育学科		
学 年	2	ク ラ ス	01
開 講 期	前期	必修・選択の別	選択
授 業 形 態		単 位 数	1
資 格 関 係	保育士資格 / 幼稚園教諭一種免許状		

ねらい（ 科目の性格 科目の概要 学修目標）

音楽基礎 において、ピアノ奏法の単位を取得した学生の次へのステップとして置かれた科目である。

実技科目としてさらに広く音楽に取り組めるように、分野を広げて開講する。さらなるピアノ技術の向上を目指す「ピアノ演奏」、歌唱力を高めるための「声楽」、電子楽器を学ぶための「エレクトーン」、邦楽に取り組むための「箏」の4つのジャンルから選択することができる。

声楽は選択の人数により、個人レッスン・コーラス・その他で声楽担当教員と相談の上で授業を進める。ピアノ・エレクトーンは基本的には個人レッスンであるが、時には連弾などの学習方法も取り入れる。「箏」はグループレッスンを基本としている。

個人個人の学習目標を持って音楽を楽しく広く学習したい。

内容

ピアノ

ピアノは1年後期に単位を取得した学生に、さらなるステップアップを希望する学生に行う。ピアノをさらに楽しむことができるように、個人指導はもちろんのこと、ピアノ連弾や他楽器とのアンサンブルなど、担当教員と相談しながら楽しく進めていきたい。ピアノ演奏に係わる授業としてで、伴奏などは含まない。

エレクトーン

基本的には個人レッスンで進めていく。エレクトーンの魅力はあらゆる音色が楽しめることと、リズム音が出ることで、広いジャンルの音楽が楽しめることである。機械とともに演奏することで、1人で弾いていても、オーケストラの音色やアンサンブルの音色で、大きな編成の中で演奏をしているようなスケールの大きい音楽が楽しめる。

声楽

声楽の中でも個人レッスンの希望者や、コーラス希望など選択した学生数により希望をとりながら進めていく。学生数により可能不可能な内容になってしまうので、声楽担当教員と話し合いをしながら進めることとなるが、基本的に歌に関するテクニク的な面と表現する力をつけることを基本として進めていく。

邦楽

文科省の音楽推薦事項に小学校・中学校における邦楽の実技が置かれて久しい。平素あまり触れることのない日本音楽を、箏による演奏で邦楽の基本的な学びを進めていく。日本の「わらべうた」や日本古謡を演奏することで日本文化に目を向けていくことを目的としている。

どの演奏を選んでも自分自身のステップアップを目指した授業内容である。

評価

実技のものであるので、家庭学習の力が大きく自分自身の勉強にかかってくる。競い合う授業ではないが、努力と意欲が必

要で、学習態度及び参加意欲によっては認定が難しい場合がある。

まとめとして、各担当教員のクラスで、かんたんな演奏会形式をとることもある。

家庭学習の様子50%、テキストを学習する意欲50%とする。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

全音ピアノピース・全音ピアノ教本など。さらなる教本として、ショパン「ワルツ集」ほか
エレクトーンに関しては、E L 90・E L 900で使用するあらゆるジャンルでの選曲が可能となりクラシックからポッ
プスまで音楽を楽しめる。

声楽は「子どものうた集」「童謡集」「コーラス」などを予定している。

邦楽は「わらべ歌集」「古曲」などを使用する。

科目名	造形基礎（感じて表現）		
担当教員名	平田 智久		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部（J）-幼児教育学科		
学 年	1	ク ラ ス	1Aクラス
開 講 期	前期	必修・選択の別	選択, 必修*
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	保育士資格 / 幼稚園教諭一種免許状		

ねらい（ 科目の性格 科目の概要 学修目標）

科目の性格

乳・幼児・児童期の望ましい成長を願う時、造形的環境の担う役割は極めて大きい。

主に視覚や触覚を通して“もの”に関わり、感じ考え心を表したりする造形行動は、生活をより豊かにする営みであるばかりでなく、人間同士理解し合える手段として欠かせない行動のひとつである。

そうした人間にとって重要な生きる手段としての造形を、どのようにすれば乳幼児児童期に保障していけるだろうか。

科目の概要

大人になると、すでに造形的な価値観も獲得しているが、いわゆる上手下手という狭義の結果論がその価値基準になっていることが多い。造形嫌いになったり、造形行動に無関心になっている学生に、造形行動の大切さや楽しさを体中の感覚を駆使して再認識してもらうことが第一のねらいである。

学修目標

そのねらいが達成されることで、自己の感性を再認識し自己の価値観を多様にするばかりでなく、乳幼児から児童までの理解にも深く関わる。さらに子どもたちが育つ環境について造形を通して考え実践できる力を育成し、望ましい保育・教育の実現を可能にすることになる。

内容

造形的行為や行動、造形表現の基礎としての感性や意欲、さらに、さまざまな表現法に関わる技術などは、“もの”との直接体験からの感受習得が望ましい。そこで演習を通して、感性や意欲を高めながら、幅広い価値観が獲得できることを望み、造形基礎 および を連動させておこなう。従って、造形基礎 も継続して履修することを望む。

この造形基礎 では“もの=身近な素材”に直接触れて体感し、人間にとって“つくる”ことの意味を問い直しながら経験を深めていく。そのために身支度等の準備は必須である。

1. プロローグ・紙との出会い 1
2. 紙との出会い 2
3. 紙との出会い 3
4. 紙との出会い 4
5. 絵の具との出会い 1
6. 絵の具との出会い 2
7. 絵の具との出会い 3
8. 絵の具との出会い 4
9. 木との出会い 1
10. 木との出会い 2
11. 木との出会い 3
12. 粘土との出会い 1

13. 粘土との出会い 2
14. 粘土との出会い 3
15. エピローグ・水との出会い

評価

演習を通して行ったこと、感じたこと、考えたことなどを一冊のスケッチブックにまとめ、さらに関連したことを参考資料を基に書き加えて、自分自身の資料集を作り上げる(60%)。そのスケッチブックによって各々の感性、意欲について評価する(40%)。

教科書・推薦書(著者名・書名・出版社名)

教科書 平田・小野編著「乳幼児の造形表現」保育出版社刊

科目名	造形基礎（感じて表現）		
担当教員名	平田 智久		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部（J）-幼児教育学科		
学 年	1	ク ラ ス	1Bクラス
開 講 期	前期	必修・選択の別	選択, 必修*
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	保育士資格 / 幼稚園教諭一種免許状		

ねらい（ 科目の性格 科目の概要 学修目標）

科目の性格

乳・幼児・児童期の望ましい成長を願う時、造形的環境の担う役割は極めて大きい。

主に視覚や触覚を通して“もの”に関わり、感じ考え心を表したりする造形行動は、生活をより豊かにする営みであるばかりでなく、人間同士理解し合える手段として欠かせない行動のひとつである。

そうした人間にとって重要な生きる手段としての造形を、どのようにすれば乳幼児児童期に保障していけるだろうか。

科目の概要

大人になると、すでに造形的な価値観も獲得しているが、いわゆる上手下手という狭義の結果論がその価値基準になっていることが多い。造形嫌いになったり、造形行動に無関心になっている学生に、造形行動の大切さや楽しさを体中の感覚を駆使して再認識してもらうことが第一のねらいである。

学修目標

そのねらいが達成されることで、自己の感性を再認識し自己の価値観を多様にするばかりでなく、乳幼児から児童までの理解にも深く関わる。さらに子どもたちが育つ環境について造形を通して考え実践できる力を育成し、望ましい保育・教育の実現を可能にすることになる。

内容

造形的行為や行動、造形表現の基礎としての感性や意欲、さらに、さまざまな表現法に関わる技術などは、“もの”との直接体験からの感受習得が望ましい。そこで演習を通して、感性や意欲を高めながら、幅広い価値観が獲得できることを望み、造形基礎 および を連動させておこなう。従って、造形基礎 も継続して履修することを望む。

この造形基礎 では“もの=身近な素材”に直接触れて体感し、人間にとって“つくる”ことの意味を問い直しながら経験を深めていく。そのために身支度等の準備は必須である。

1. プロローグ・紙との出会い 1
2. 紙との出会い 2
3. 紙との出会い 3
4. 紙との出会い 4
5. 絵の具との出会い 1
6. 絵の具との出会い 2
7. 絵の具との出会い 3
8. 絵の具との出会い 4
9. 木との出会い 1
10. 木との出会い 2
11. 木との出会い 3
12. 粘土との出会い 1

13. 粘土との出会い 2
14. 粘土との出会い 3
15. エピローグ・水との出会い

評価

演習を通して行ったこと、感じたこと、考えたことなどを一冊のスケッチブックにまとめ、さらに関連したことを参考資料を基に書き加えて、自分自身の資料集を作り上げる(60%)。そのスケッチブックによって各々の感性、意欲について評価する(40%)。

教科書・推薦書(著者名・書名・出版社名)

教科書 平田・小野編著「乳幼児の造形表現」保育出版社刊

科目名	造形基礎（感じて表現）		
担当教員名	平田 智久		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部（J）-幼児教育学科		
学 年	1	ク ラ ス	10クラス
開 講 期	前期	必修・選択の別	選択, 必修*
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	保育士資格 / 幼稚園教諭一種免許状		

ねらい（ 科目の性格 科目の概要 学修目標）

科目の性格

乳・幼児・児童期の望ましい成長を願う時、造形的環境の担う役割は極めて大きい。

主に視覚や触覚を通して“もの”に関わり、感じ考え心を表したりする造形行動は、生活をより豊かにする営みであるばかりでなく、人間同士理解し合える手段として欠かせない行動のひとつである。

そうした人間にとって重要な生きる手段としての造形を、どのようにすれば乳幼児児童期に保障していけるだろうか。

科目の概要

大人になると、すでに造形的な価値観も獲得しているが、いわゆる上手下手という狭義の結果論がその価値基準になっていることが多い。造形嫌いになったり、造形行動に無関心になっている学生に、造形行動の大切さや楽しさを体中の感覚を駆使して再認識してもらうことが第一のねらいである。

学修目標

そのねらいが達成されることで、自己の感性を再認識し自己の価値観を多様にするばかりでなく、乳幼児から児童までの理解にも深く関わる。さらに子どもたちが育つ環境について造形を通して考え実践できる力を育成し、望ましい保育・教育の実現を可能にすることになる。

内容

造形的行為や行動、造形表現の基礎としての感性や意欲、さらに、さまざまな表現法に関わる技術などは、“もの”との直接体験からの感受習得が望ましい。そこで演習を通して、感性や意欲を高めながら、幅広い価値観が獲得できることを望み、造形基礎 および を連動させておこなう。従って、造形基礎 も継続して履修することを望む。

この造形基礎 では“もの=身近な素材”に直接触れて体感し、人間にとって“つくる”ことの意味を問い直しながら経験を深めていく。そのために身支度等の準備は必須である。

1. プロローグ・紙との出会い 1
2. 紙との出会い 2
3. 紙との出会い 3
4. 紙との出会い 4
5. 絵の具との出会い 1
6. 絵の具との出会い 2
7. 絵の具との出会い 3
8. 絵の具との出会い 4
9. 木との出会い 1
10. 木との出会い 2
11. 木との出会い 3
12. 粘土との出会い 1

13. 粘土との出会い 2
14. 粘土との出会い 3
15. エピローグ・水との出会い

評価

演習を通して行ったこと、感じたこと、考えたことなどを一冊のスケッチブックにまとめ、さらに関連したことを参考資料を基に書き加えて、自分自身の資料集を作り上げる(60%)。そのスケッチブックによって各々の感性、意欲について評価する(40%)。

教科書・推薦書(著者名・書名・出版社名)

教科書 平田・小野編著「乳幼児の造形表現」保育出版社刊

科目名	造形基礎（感じて表現）		
担当教員名	平田 智久		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部（J）-幼児教育学科		
学 年	1	ク ラ ス	1Dクラス
開 講 期	前期	必修・選択の別	必修* ,選択
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	保育士資格 / 幼稚園教諭一種免許状		

ねらい（ 科目の性格 科目の概要 学修目標）

科目の性格

乳・幼児・児童期の望ましい成長を願う時、造形的環境の担う役割は極めて大きい。

主に視覚や触覚を通して“もの”に関わり、感じ考え心を表したりする造形行動は、生活をより豊かにする営みであるばかりでなく、人間同士理解し合える手段として欠かせない行動のひとつである。

そうした人間にとって重要な生きる手段としての造形を、どのようにすれば乳幼児児童期に保障していけるだろうか。

科目の概要

大人になると、すでに造形的な価値観も獲得しているが、いわゆる上手下手という狭義の結果論がその価値基準になっていることが多い。造形嫌いになったり、造形行動に無関心になっている学生に、造形行動の大切さや楽しさを体中の感覚を駆使して再認識してもらうことが第一のねらいである。

学修目標

そのねらいが達成されることで、自己の感性を再認識し自己の価値観を多様にするばかりでなく、乳幼児から児童までの理解にも深く関わる。さらに子どもたちが育つ環境について造形を通して考え実践できる力を育成し、望ましい保育・教育の実現を可能にすることになる。

内容

造形的行為や行動、造形表現の基礎としての感性や意欲、さらに、さまざまな表現法に関わる技術などは、“もの”との直接体験からの感受習得が望ましい。そこで演習を通して、感性や意欲を高めながら、幅広い価値観が獲得できることを望み、造形基礎 および を連動させておこなう。従って、造形基礎 も継続して履修することを望む。

この造形基礎 では“もの=身近な素材”に直接触れて体感し、人間にとって“つくる”ことの意味を問い直しながら経験を深めていく。そのために身支度等の準備は必須である。

1. プロローグ・紙との出会い 1
2. 紙との出会い 2
3. 紙との出会い 3
4. 紙との出会い 4
5. 絵の具との出会い 1
6. 絵の具との出会い 2
7. 絵の具との出会い 3
8. 絵の具との出会い 4
9. 木との出会い 1
10. 木との出会い 2
11. 木との出会い 3
12. 粘土との出会い 1

13. 粘土との出会い 2
14. 粘土との出会い 3
15. エピローグ・水との出会い

評価

演習を通して行ったこと、感じたこと、考えたことなどを一冊のスケッチブックにまとめ、さらに関連したことを参考資料を基に書き加えて、自分自身の資料集を作り上げる(60%)。そのスケッチブックによって各々の感性、意欲について評価する(40%)。

教科書・推薦書(著者名・書名・出版社名)

教科書 平田・小野編著「乳幼児の造形表現」保育出版社刊

科目名	造形基礎（考えて表現）		
担当教員名	宮野 周		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部（J）- 幼児教育学科		
学 年	1	ク ラ ス	2Aクラス
開 講 期	後期	必修・選択の別	必修* , 選択
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	保育士資格 / 幼稚園教諭一種免許状		

ねらい（ 科目の性格 科目の概要 学修目標）

身近な素材やものの色や形、感触やイメージ等に親しむ経験や具体的な活動を通して造形表現の楽しさや喜びを味わい、造形表現に関する知識・技術を習得し将来、保育者として必要な実践的な力を身につけることを目的とします。

素材体験、造形あそび等、実技を中心とした授業内容のため、活動しやすく汚れても良い服装で受講すること。

様々な表現や材料体験を通して、指導者となるための幅広い造形的な能力や子どもたちが育つ環境について造形を通して考え実践できる力を身につけてほしい。

内容

1	オリエンテーション：授業の内容、扱う道具、評価方法、約束事など
2	身近にある材料を使った表現：段ボール
3	身近にある材料を使った表現：段ボール
4	身近にある材料を使った表現：段ボール
5	様々な描画材料の特徴について理解し「かく」活動について
6	様々な描画材料の特徴について理解し「かく」活動について
7	様々な描画材料の特徴について理解し「かく」活動について
8	身近にある材料を使った表現
9	身近にある材料を使った表現
10	身近にある材料を使った表現
11	身近にある材料を使った表現
12	身近な材料でつくって遊ぶ
13	身近な材料でつくって遊ぶ
14	身近な材料でつくって遊ぶ
15	まとめ

評価

授業を通して行ったこと、感じたこと、考えたことなどを一冊のスケッチブックにまとめ、さらに関連したことを参考資料などをもとに加え、自分自身のポートフォリオを作成する（60%）。また活動への取り組み、学習態度、作品の提出（40%）により総合的に判断します。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

適宜、紹介する。

推薦書

・東山明『絵画・製作・造形あそび指導百科』ひかりのくに

- ・阿部寿文・舟井賀世子 『0・1・2歳児の造形あそび百科』 ひかりのくに
- ・平田智久・小野和編著 『すべての感覚を駆使してわかる乳幼児の造形表現』 保育出版社

科目名	造形基礎（考えて表現）		
担当教員名	宮野 周		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部（J）- 幼児教育学科		
学 年	1	ク ラ ス	2Bクラス
開 講 期	後期	必修・選択の別	選択, 必修*
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	保育士資格 / 幼稚園教諭一種免許状		

ねらい（ 科目の性格 科目の概要 学修目標）

身近な素材やものの色や形、感触やイメージ等に親しむ経験や具体的な活動を通して造形表現の楽しさや喜びを味わい、造形表現に関する知識・技術を習得し将来、保育者として必要な実践的な力を身につけることを目的とします。

素材体験、造形あそび等、実技を中心とした授業内容のため、活動しやすく汚れても良い服装で受講すること。

様々な表現や材料体験を通して、指導者となるための幅広い造形的な能力や子どもたちが育つ環境について造形を通して考え実践できる力を身につけてほしい。

内容

1	オリエンテーション：授業の内容、扱う道具、評価方法、約束事など
2	身近にある材料を使った表現：段ボール
3	身近にある材料を使った表現：段ボール
4	身近にある材料を使った表現：段ボール
5	様々な描画材料の特徴について理解し「かく」活動について
6	様々な描画材料の特徴について理解し「かく」活動について
7	様々な描画材料の特徴について理解し「かく」活動について
8	身近にある材料を使った表現
9	身近にある材料を使った表現
10	身近にある材料を使った表現
11	身近にある材料を使った表現
12	身近な材料でつくって遊ぶ
13	身近な材料でつくって遊ぶ
14	身近な材料でつくって遊ぶ
15	まとめ

評価

授業を通して行ったこと、感じたこと、考えたことなどを一冊のスケッチブックにまとめ、さらに関連したことを参考資料などをもとに加え、自分自身のポートフォリオを作成する（60%）。また活動への取り組み、学習態度、作品の提出（40%）により総合的に判断します。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

適宜、紹介する。

推薦書

・東山明『絵画・製作・造形あそび指導百科』ひかりのくに

- ・阿部寿文・舟井賀世子 『0・1・2歳児の造形あそび百科』 ひかりのくに
- ・平田智久・小野和編著 『すべての感覚を駆使してわかる乳幼児の造形表現』 保育出版社

科目名	造形基礎（考えて表現）		
担当教員名	宮野 周		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部（J）- 幼児教育学科		
学 年	1	ク ラ ス	2Cクラス
開 講 期	後期	必修・選択の別	選択, 必修*
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	保育士資格 / 幼稚園教諭一種免許状		

ねらい（ 科目の性格 科目の概要 学修目標）

身近な素材やものの色や形、感触やイメージ等に親しむ経験や具体的な活動を通して造形表現の楽しさや喜びを味わい、造形表現に関する知識・技術を習得し将来、保育者として必要な実践的な力を身につけることを目的とします。

素材体験、造形あそび等、実技を中心とした授業内容のため、活動しやすく汚れても良い服装で受講すること。

様々な表現や材料体験を通して、指導者となるための幅広い造形的な能力や子どもたちが育つ環境について造形を通して考え実践できる力を身につけてほしい。

内容

1	オリエンテーション：授業の内容、扱う道具、評価方法、約束事など
2	身近にある材料を使った表現：段ボール
3	身近にある材料を使った表現：段ボール
4	身近にある材料を使った表現：段ボール
5	様々な描画材料の特徴について理解し「かく」活動について
6	様々な描画材料の特徴について理解し「かく」活動について
7	様々な描画材料の特徴について理解し「かく」活動について
8	身近にある材料を使った表現
9	身近にある材料を使った表現
10	身近にある材料を使った表現
11	身近にある材料を使った表現
12	身近な材料でつくって遊ぶ
13	身近な材料でつくって遊ぶ
14	身近な材料でつくって遊ぶ
15	まとめ

評価

授業を通して行ったこと、感じたこと、考えたことなどを一冊のスケッチブックにまとめ、さらに関連したことを参考資料などをもとに加え、自分自身のポートフォリオを作成する（60%）。また活動への取り組み、学習態度、作品の提出（40%）により総合的に判断します。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

適宜、紹介する。

推薦書

・東山明『絵画・製作・造形あそび指導百科』ひかりのくに

- ・阿部寿文・舟井賀世子 『0・1・2歳児の造形あそび百科』 ひかりのくに
- ・平田智久・小野和編著 『すべての感覚を駆使してわかる乳幼児の造形表現』 保育出版社

科目名	造形基礎（考えて表現）		
担当教員名	宮野 周		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部（J）- 幼児教育学科		
学 年	1	ク ラ ス	2Dクラス
開 講 期	後期	必修・選択の別	必修* , 選択
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	保育士資格 / 幼稚園教諭一種免許状		

ねらい（ 科目の性格 科目の概要 学修目標）

身近な素材やものの色や形、感触やイメージ等に親しむ経験や具体的な活動を通して造形表現の楽しさや喜びを味わい、造形表現に関する知識・技術を習得し将来、保育者として必要な実践的な力を身につけることを目的とします。

素材体験、造形あそび等、実技を中心とした授業内容のため、活動しやすく汚れても良い服装で受講すること。

様々な表現や材料体験を通して、指導者となるための幅広い造形的な能力や子どもたちが育つ環境について造形を通して考え実践できる力を身につけてほしい。

内容

1	オリエンテーション：授業の内容、扱う道具、評価方法、約束事など
2	身近にある材料を使った表現：段ボール
3	身近にある材料を使った表現：段ボール
4	身近にある材料を使った表現：段ボール
5	様々な描画材料の特徴について理解し「かく」活動について
6	様々な描画材料の特徴について理解し「かく」活動について
7	様々な描画材料の特徴について理解し「かく」活動について
8	身近にある材料を使った表現
9	身近にある材料を使った表現
10	身近にある材料を使った表現
11	身近にある材料を使った表現
12	身近な材料でつくって遊ぶ
13	身近な材料でつくって遊ぶ
14	身近な材料でつくって遊ぶ
15	まとめ

評価

授業を通して行ったこと、感じたこと、考えたことなどを一冊のスケッチブックにまとめ、さらに関連したことを参考資料などをもとに加え、自分自身のポートフォリオを作成する（60%）。また活動への取り組み、学習態度、作品の提出（40%）により総合的に判断します。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

適宜、紹介する。

推薦書

・東山明『絵画・製作・造形あそび指導百科』ひかりのくに

- ・阿部寿文・舟井賀世子 『0・1・2歳児の造形あそび百科』 ひかりのくに
- ・平田智久・小野和編著 『すべての感覚を駆使してわかる乳幼児の造形表現』 保育出版社

科目名	体育基礎（身体表現）		
担当教員名	坪倉 紀代子、仁井田 千寿		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部（J）-幼児教育学科		
学 年	2	ク ラ ス	2Aクラス
開 講 期	後期	必修・選択の別	選択, 必修*
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	保育士資格 / 幼稚園教諭一種免許状		

ねらい（ 科目の性格 科目の概要 学修目標）

【授業の概要】

感性、身体、運動に関わる多様な体験をさせることにより、運動することの楽しさ、面白さ、運動が引き起こす心身の変化に敏感な運動への興味関心が旺盛な学生の育成を図る。その上で幼児期の心身の発達、運動機能の特性を考えながら保育における身体表現活動をどのように援助・発展させていけばよいかを考える。あわせて幼児期における身体表現活動に係る教材、及び保育時の環境構成、指導上の留意点等を考えていく。

【到達目標】

- ・自身の現時点での運動能力・体力を最大限に発揮すること
- ・周囲の仲間の様子をしっかりと観察すること
- ・運動を分析する力、発展・展開させていく力、援助する方法を身につける
- ・子どもの活動としてとらえるときの留意点を学ぶ

内容

1	ガイダンス（平服、筆記用具持参）
2	心身を解きほぐす...仲良くなるよう
3	自身の身体への認識を深める...身体部位
4	<基本的な運動から身体表現へ> 基本的な運動の理解
5	基本的な運動を発展させた遊び
6	運動を構成する要因への理解
7	運動を発展・展開させていく方法
8	<身近な遊びから身体表現へ> 伝承遊び・集団遊び
9	手遊びから全身の表現遊びへ
10	~のように動いてみよう
11	身近材料から表現遊びへ
12	<保育者にふさわしい身体づくり> リズミカルに動く
13	<保育者にふさわしい身体づくり> リズミカルに動く
14	大好きな歌から表現遊びへ
15	親子の遊び

評価

授業への取り組み方を基本とし、実技試験、レポート・毎時の記録で評価する。

平常点50%、実技試験40%、レポート10%

忘れ物、遅刻は減点とする。

三分の二以上出席することで評価を受けることができる。

合格点に満たなかった場合は再試験を行う。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【推薦図書】

レイチェル・カーソン	『センス・オブ・ワンダー』	新潮社
石亀泰雄	『さあ 森のようちえんへ』	ぱるす出版
レオ・パスカーリア	『葉っぱのフレディ』	童話屋

科目名	体育基礎（身体表現）		
担当教員名	坪倉 紀代子、仁井田 千寿		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部（J）- 幼児教育学科		
学 年	2	ク ラ ス	2Cクラス
開 講 期	後期	必修・選択の別	選択, 必修*
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	保育士資格 / 幼稚園教諭一種免許状		

ねらい（ 科目の性格 科目の概要 学修目標）

【授業の概要】

感性、身体、運動に関わる多様な体験をさせることにより、運動することの楽しさ、面白さ、運動が引き起こす心身の変化に敏感な運動への興味関心が旺盛な学生の育成を図る。その上で幼児期の心身の発達、運動機能の特性を考えながら保育における身体表現活動をどのように援助・発展させていけばよいかを考える。あわせて幼児期における身体表現活動に係る教材、及び保育時の環境構成、指導上の留意点等を考えていく。

【到達目標】

- ・自身の現時点での運動能力・体力を最大限に発揮すること
- ・周囲の仲間の様子をしっかりと観察すること
- ・運動を分析する力、発展・展開させていく力、援助する方法を身につける
- ・子どもの活動としてとらえるときの留意点を学ぶ

内容

1	ガイダンス（平服、筆記用具持参）
2	心身を解きほぐす...仲良くなろう
3	自身の身体への認識を深める...身体部位
4	<基本的な運動から身体表現へ> 基本的な運動の理解
5	” 基本的な運動を発展させた遊び
6	” 運動を構成する要因への理解
7	” 運動を発展・展開させていく方法
8	<身近な遊びから身体表現へ> 伝承遊び・集団遊び
9	” 手遊びから全身の表現遊びへ
10	” ~のように動いてみよう
11	” 身近材料から表現遊びへ
12	<保育者にふさわしい身体づくり> リズミカルに動く
13	<保育者にふさわしい身体づくり> リズミカルに動く
14	” 大好きな歌から表現遊びへ
15	” 親子の遊び

評価

授業への取り組み方を基本とし、実技試験、レポート・毎時の記録で評価する。

平常点50%、実技試験40%、レポート10%

三分の二以上出席することで評価を受けることができる。

合格点に満たなかった場合は再試験を行う。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【推薦図書】

レイチェル・カーソン	『センス・オブ・ワンダー』	新潮社
石亀泰雄	『さあ 森のようちえんへ』	ぱるす出版
レオ・パスカーリア	『葉っぱのフレディ』	童話屋

科目名	体育基礎（身体表現）		
担当教員名	坪倉 紀代子、仁井田 千寿		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部（J）-幼児教育学科		
学 年	2	ク ラ ス	2Bクラス
開 講 期	後期	必修・選択の別	必修*,選択
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	保育士資格 / 幼稚園教諭一種免許状		

ねらい（ 科目の性格 科目の概要 学修目標）

【授業の概要】

感性、身体、運動に関わる多様な体験をさせることにより、運動することの楽しさ、面白さ、運動が引き起こす心身の変化に敏感な運動への興味関心が旺盛な学生の育成を図る。その上で幼児期の心身の発達、運動機能の特性を考えながら保育における身体表現活動をどのように援助・発展させていけばよいかを考える。あわせて幼児期における身体表現活動に係る教材、及び保育時の環境構成、指導上の留意点等を考えていく。

【到達目標】

- ・自身の現時点での運動能力・体力を最大限に発揮すること
- ・周囲の仲間の様子をしっかりと観察すること
- ・運動を分析する力、発展・展開させていく力、援助する方法を身につける
- ・子どもの活動としてとらえるときの留意点を学ぶ

内容

1	ガイダンス（平服、筆記用具持参）
2	心身を解きほぐす...仲良くなろう
3	自身の身体への認識を深める...身体部位
4	<基本的な運動から身体表現へ> 基本的な運動の理解
5	” 基本的な運動を発展させた遊び
6	” 運動を構成する要因への理解
7	” 運動を発展・展開させていく方法
8	<身近な遊びから身体表現へ> 伝承遊び・集団遊び
9	” 手遊びから全身の表現遊びへ
10	” ~のように動いてみよう
11	” 身近材料から表現遊びへ
12	<保育者にふさわしい身体づくり> リズミカルに動く
13	<保育者にふさわしい身体づくり> リズミカルに動く
14	” 大好きな歌から表現遊びへ
15	” 親子の遊び

評価

授業への取り組み方を基本とし、実技試験、レポート・毎時の記録で評価する。

平常点50%、実技試験40%、レポート10%

三分の二以上出席することで評価を受けることができる。

合格点に満たなかった場合は再試験を行う。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【推薦図書】

レイチェル・カーソン	『センス・オブ・ワンダー』	新潮社
石亀泰雄	『さあ 森のようちえんへ』	ぱるす出版
レオ・パスカーリア	『葉っぱのフレディ』	童話屋

科目名	体育基礎（身体表現）		
担当教員名	坪倉 紀代子、仁井田 千寿		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部（J）-幼児教育学科		
学 年	2	ク ラ ス	2Dクラス
開 講 期	後期	必修・選択の別	選択, 必修*
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	保育士資格 / 幼稚園教諭一種免許状		

ねらい（ 科目の性格 科目の概要 学修目標）

【授業の概要】

感性、身体、運動に関わる多様な体験をさせることにより、運動することの楽しさ、面白さ、運動が引き起こす心身の変化に敏感な運動への興味関心が旺盛な学生の育成を図る。その上で幼児期の心身の発達、運動機能の特性を考えながら保育における身体表現活動をどのように援助・発展させていけばよいかを考える。あわせて幼児期における身体表現活動に係る教材、及び保育時の環境構成、指導上の留意点等を考えていく。

【到達目標】

- ・自身の現時点での運動能力・体力を最大限に発揮すること
- ・周囲の仲間の様子をしっかりと観察すること
- ・運動を分析する力、発展・展開させていく力、援助する方法を身につける
- ・子どもの活動としてとらえるときの留意点を学ぶ

内容

1	ガイダンス（平服、筆記用具持参）
2	心身を解きほぐす...仲良くなろう
3	自身の身体への認識を深める...身体部位
4	<基本的な運動から身体表現へ> 基本的な運動の理解
5	” 基本的な運動を発展させた遊び
6	” 運動を構成する要因への理解
7	” 運動を発展・展開させていく方法
8	<身近な遊びから身体表現へ> 伝承遊び・集団遊び
9	” 手遊びから全身の表現遊びへ
10	” ~のように動いてみよう
11	” 身近材料から表現遊びへ
12	<保育者にふさわしい身体づくり> リズミカルに動く
13	<保育者にふさわしい身体づくり> リズミカルに動く
14	” 大好きな歌から表現遊びへ
15	” 親子の遊び

評価

授業への取り組み方を基本とし、実技試験、レポート・毎時の記録で評価する。

平常点50%、実技試験40%、レポート10%

三分の二以上出席することで評価を受けることができる。

合格点に満たなかった場合は再試験を行う。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【推薦図書】

レイチェル・カーソン	『センス・オブ・ワンダー』	新潮社
石亀泰雄	『さあ 森のようちえんへ』	ぱるす出版
レオ・パスカーリア	『葉っぱのフレディ』	童話屋

科目名	表現総論		
担当教員名	藪崎 伸一郎、平田 智久、坪倉 紀代子、齋藤 麗子 他		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部（J）-幼児教育学科		
学 年	3	ク ラ ス	
開 講 期	前期	必修・選択の別	必修*
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	保育士資格 / 幼稚園教諭一種免許状		

ねらい（ 科目の性格 科目の概要 学修目標）

「表現」が幼稚園教育要領や保育所保育指針の中で領域の一つになって久しい。その表現領域は＜多様な体験を通して豊かな感性を育て、感じたことや考えたことを表現する意欲を養い、創造性を豊かにする＞というねらいが示されている。

ここに示されたねらいは、いわゆる表現方法としての音楽や造形、身体表現といった各論を統合した領域にも受け止められてしまう。しかし、表現とは人と人との関わりの中で成立するものであり、表現する側と受け取る側との相互的關係の上に存在する。そうした観点から考えると、表現は幼児期の保育を考え実践していく上で重要であるばかりでなく、人として表現すること受け止めることの意味を改めて問い直す必要がある。また、表現について考えることは、現代社会の現況にも深く関わっていることになる。そうした社会的諸問題の解決の糸口が見いだせることにもなる急務な研究ともいえる。

本講義のねらいは、様々な表現行動を知ることから始まる。そしてその根底にある心の諸相について考えを深め、人として表現することの意義や意味についての認識を深め、さらには人のさまざまな特性や状態に呼応した表現行動についての理解をひろげることにある。

内容

以上のねらいを達成する為に、1プロローグ（1回）・2保育と教育（4回）・3発達と臨床（2回）・生活と福祉（2回）・4健康と運動（2回）・5表現と文化（3回）・6エピローグ（1回）とし、学科教員全員のオムニバス方式で行う。

評価

授業中に作成したノート40％・まとめ（レポート）60％

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

適宜紹介する。

科目名	言語文化表現		
担当教員名	皆川 美恵子		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部 (J) - 幼児教育学科		
学 年	1	ク ラ ス	2Aクラス
開 講 期	後期	必修・選択の別	必修*
授 業 形 態		単 位 数	1
資 格 関 係	保育士資格 / 幼稚園教諭一種免許状		

ねらい (科目の性格 科目の概要 学修目標)

科目の性格

保育士資格を取得するための必修科目である。子どもの言語表現にかかわる、保育士の基礎的保育技術を修得する演習科目として位置づけられている。

科目の概要

子どもの遊びを豊かに展開していくのに必要な知識・技術の中の、言語表現活動に関わる多層的な児童文化について実際に学ぶ。そもそも児童文化とは何かについての理解を促していきながら、その上で、保育活動への具体的展開を習得するための実践方法を提示していく。

授業のなかでは、子どもが遊びのなかで歌う、遊戯歌、歳時歌、ことば遊び歌、子守唄などから始まり、なぞなぞ、昔話、紙芝居、絵本などの物語性を豊かに内包した言葉の世界を扱う。子どもの遊びやイメージを豊かに育むための環境構成のあり方と保育の展開にも触れて行く。

学修目標

まずは欠席することなく、授業に出席すること。演習科目なので、人前で演じるプレゼンテーションの度胸、技術を身につけること。学生自身の言語能力もさらに深めるため、試験では言語表現力を駆使して筆記試験に臨んでもらいたい。

内容

- 第1回 変化する社会と児童文化
- 第2回 子どもにとっての遊び
- 第3回 保育のなかの遊び
- 第4回 子どもの発達と言語文化
- 第5回 伝承遊びとわらべ唄
- 第6回 伝承遊びで遊んでみましょう【実演】
- 第7回 昔話の世界
- 第8回 さまざまなおはなしの世界 (口演童話、ストーリー・テリング、素話など)
- 第9回 おはなしをしてみましょう【実演】
- 第10回 紙芝居の世界
- 第11回 紙芝居を演じてみましょう【実演】
- 第12回 5領域を意識した絵本の選び方
- 第13回 絵本を読んでみましょう【実演1】
- 第14回 絵本を読んでみましょう【実演2】
- 第15回 絵本を読んでみましょう【実演3】

評価

授業への取り組み方 20%、試験 80パーセントによって評価する。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

『児童文化 子どものはあわせを考える学びの森』皆川美恵子・武田京子編著　ななみ書房

科目名	言語文化表現		
担当教員名	皆川 美恵子		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部（J）-幼児教育学科		
学 年	1	ク ラ ス	2Bクラス
開 講 期	後期	必修・選択の別	必修*
授 業 形 態		単 位 数	1
資 格 関 係	保育士資格 / 幼稚園教諭一種免許状		

ねらい（ 科目の性格 科目の概要 学修目標）

科目の性格

保育士資格を取得するための必修科目である。子どもの言語表現にかかわる、保育士の基礎的保育技術を修得する演習科目として位置づけられている。

科目の概要

子どもの遊びを豊かに展開していくのに必要な知識・技術の中の、言語表現活動に関わる多層的な児童文化について実際に学ぶ。そもそも児童文化とは何かについての理解を促していきながら、その上で、保育活動への具体的展開を習得するための実践方法を提示していく。

授業のなかでは、子どもが遊びのなかで歌う、遊戯歌、歳時歌、ことば遊び歌、子守唄などから始まり、なぞなぞ、昔話、紙芝居、絵本などの物語性を豊かに内包した言葉の世界を扱う。子どもの遊びやイメージを豊かに育むための環境構成のあり方と保育の展開にも触れて行く。

学修目標

まずは欠席することなく、授業に出席すること。演習科目なので、人前で演じるプレゼンテーションの度胸、技術を身につけること。学生自身の言語能力もさらに深めるため、試験では言語表現力を駆使して筆記試験に臨んでもらいたい。

内容

- 第1回 変化する社会と児童文化
- 第2回 子どもにとっての遊び
- 第3回 保育のなかの遊び
- 第4回 子どもの発達と言語文化
- 第5回 伝承遊びとわらべ唄
- 第6回 伝承遊びで遊んでみましょう【実演】
- 第7回 昔話の世界
- 第8回 さまざまなおはなしの世界（口演童話、ストーリー・テリング、素話など）
- 第9回 おはなしをしてみましょう【実演】
- 第10回 紙芝居の世界
- 第11回 紙芝居を演じてみましょう【実演】
- 第12回 5領域を意識した絵本の選び方
- 第13回 絵本を読んでみましょう【実演1】
- 第14回 絵本を読んでみましょう【実演2】
- 第15回 絵本を読んでみましょう【実演3】

評価

授業への取り組み方20%、試験80パーセントによって評価する。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

『児童文化 子どものはあわせを考える学びの森』皆川美恵子・武田京子編著 ななみ書房

科目名	言語文化表現		
担当教員名	皆川 美恵子		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部 (J) - 幼児教育学科		
学 年	1	ク ラ ス	2Cクラス
開 講 期	後期	必修・選択の別	必修*
授 業 形 態		単 位 数	1
資 格 関 係	保育士資格 / 幼稚園教諭一種免許状		

ねらい (科目の性格 科目の概要 学修目標)

科目の性格

保育士資格を取得するための必修科目である。子どもの言語表現にかかわる、保育士の基礎的保育技術を修得する演習科目として位置づけられている。

科目の概要

子どもの遊びを豊かに展開していくのに必要な知識・技術の中の、言語表現活動に関わる多層的な児童文化について実際に学ぶ。そもそも児童文化とは何かについての理解を促していきながら、その上で、保育活動への具体的展開を習得するための実践方法を提示していく。

授業のなかでは、子どもが遊びのなかで歌う、遊戯歌、歳時歌、ことば遊び歌、子守唄などから始まり、なぞなぞ、昔話、紙芝居、絵本などの物語性を豊かに内包した言葉の世界を扱う。子どもの遊びやイメージを豊かに育むための環境構成のあり方と保育の展開にも触れて行く。

学修目標

まずは欠席することなく、授業に出席すること。演習科目なので、人前で演じるプレゼンテーションの度胸、技術を身につけること。学生自身の言語能力もさらに深めるため、試験では言語表現力を駆使して筆記試験に臨んでもらいたい。

内容

- 第1回 変化する社会と児童文化
- 第2回 子どもにとっての遊び
- 第3回 保育のなかの遊び
- 第4回 子どもの発達と言語文化
- 第5回 伝承遊びとわらべ唄
- 第6回 伝承遊びで遊んでみましょう【実演】
- 第7回 昔話の世界
- 第8回 さまざまなおはなしの世界 (口演童話、ストーリー・テリング、素話など)
- 第9回 おはなしをしてみましょう【実演】
- 第10回 紙芝居の世界
- 第11回 紙芝居を演じてみましょう【実演】
- 第12回 5領域を意識した絵本の選び方
- 第13回 絵本を読んでみましょう【実演1】
- 第14回 絵本を読んでみましょう【実演2】
- 第15回 絵本を読んでみましょう【実演3】

評価

授業への取り組み方 20%、試験 80パーセントによって評価する。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

『児童文化 子どものはあわせを考える学びの森』皆川美恵子・武田京子編著 ななみ書房

科目名	言語文化表現		
担当教員名	吉岡 晶子		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部 (J) - 幼児教育学科		
学 年	1	ク ラ ス	2Dクラス
開 講 期	後期	必修・選択の別	必修*
授 業 形 態		単 位 数	1
資 格 関 係	保育士資格 / 幼稚園教諭一種免許状		

ねらい (科目の性格 科目の概要 学修目標)

科目の性格

保育士資格を取得するための必修科目である。子どもの言語表現にかかわる、保育士の基礎的保育技術を修得する演習科目として位置づけられている。

科目の概要

子どもの遊びを豊かに展開していくのに必要な知識・技術の中の、言語表現活動に関わる多層的な児童文化について実際に学ぶ。そもそも児童文化とは何かについての理解を促していきながら、その上で、保育活動への具体的展開を習得するための実践方法を提示していく。

授業のなかでは、子どもが遊びのなかで歌う、遊戯歌、歳時歌、ことば遊び歌、子守唄などから始まり、なぞなぞ、昔話、紙芝居、絵本などの物語性を豊かに内包した言葉の世界を扱う。子どもの遊びやイメージを豊かに育むための環境構成のあり方と保育の展開にも触れて行く。

学修目標

まずは欠席することなく、授業に出席すること。演習科目なので、人前で演じるプレゼンテーションの度胸、技術を身につけること。学生自身の言語能力もさらに深めるため、試験では言語表現力を駆使して筆記試験に臨んでもらいたい。

内容

- 第1回 変化する社会と児童文化
- 第2回 子どもにとっての遊び
- 第3回 保育のなかの遊び
- 第4回 子どもの発達と言語文化
- 第5回 伝承遊びとわらべ唄【実演】
- 第6回 昔話の世界
- 第7回 昔話の世界【実演】
- 第8回 さまざまなおはなしの世界 (口演童話、ストーリー・テリング、素話など)
- 第9回 おはなしをしてみましょう【実演】
- 第10回 紙芝居の世界
- 第11回 紙芝居を演じてみましょう【実演】
- 第12回 絵本の世界
- 第13回 絵本を読んでみましょう【実演】
- 第14回 年中行事を活かした遊びの展開
- 第15回 児童文化を支える活動

評価

授業への取り組み方 20%、試験 80パーセントによって評価する。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

『児童文化 子どものはあわせを考える学びの森』皆川美恵子・武田京子編著　ななみ書房

科目名	歌唱演習		
担当教員名	藪崎 伸一郎		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部（J）-幼児教育学科		
学 年	2	ク ラ ス	
開 講 期	後期	必修・選択の別	選択
授 業 形 態		単 位 数	1
資 格 関 係	保育士資格		

ねらい（ 科目の性格 科目の概要 学修目標 ）

科目の性格

この科目は、音楽基礎（歌唱法）の応用編として、保育現場における音楽活動に必要な歌唱表現法をより発展させた形で学ぶ。

科目の概要

単に歌を歌うだけではなく、身体表現としての歌唱法を探求し自己表現力を高めるとともに、保育現場で必要とされる表現方法を獲得する。

学修目標

- ? 具体的かつ実践的な音楽表現の探求と開発
- ? 作品の本質を理解し、効果的な表現方法を自ら考え表現する
- ? グループ活動を通して表現する楽しさを実体験として味わい、表現力の幅を広げる。

内容

1	ガイダンス
2	発声法と呼吸法
3	声と音感
4	子どもの歌とは
5	子どもの歌の表現法の探求
6	手遊び作品とは
7	手遊び作品の創作と実践
8	ボディパーカッションとボイスパーカッション
9	身体表現を伴った歌唱表現とは
10	身体表現を伴った歌唱表現の実践
11	音楽・歌唱を用いた作品づくり
12	グループ単位での実践
13	グループ単位での作品発表
14	発表を終えて（自己評価と反省）
15	まとめ

評価

歌唱試験（40％）、グループ活動への取り組み（60％）

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】

必要に応じて授業中に指示します。プリント配布。

【推薦書】

米山文明『声がよくなる本』主婦と生活社、萩野仁志・後野仁彦『医師と声楽家が解き明かす発声のメカニズム』音楽之友社

科目名	ミュージック・クリエーション		
担当教員名	金勝 裕子		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部 (J) - 幼児教育学科		
学 年	2	ク ラ ス	1Aクラス
開 講 期	前期	必修・選択の別	選択
授 業 形 態		単 位 数	1
資 格 関 係			

ねらい (科目の性格 科目の概要 学修目標)

幼稚園・保育園での音楽活動として、歌を歌ったり音楽遊びを保育の中で取り上げていくことは不可欠なことである。ピアノ技術の向上や音楽活動の伴奏に関しては他の授業で行っており、個人的なレベルアップの学ぶ機会は設けてある。ここでは「子どもの合奏」や「子どもの音楽あそび」などについて、保育者としてどのように活動していくべきかをグループで考えながら、音楽的な価値観を養うことを目的とする。

市販の合奏書籍をそのまま保育に下ろすというようなことはせずに、子どもの本来の力や、子どもにとっての合奏とは何かなど子どもの身体的な発達も含めて、音楽の意味などを話し合い活動に下ろしていくという授業を行う。

また、「音楽あそび」も「手あそび」「わらべうた」などから、あそびを覚えることや、あそびを発展させていくことを研究をしながら、子どもにとっての「音楽あそび」を考える。

こどもと音楽を楽しむこととは何かを、実技を通した視点で学ぶ。

具体的には「あそび」「おどる」「合奏する」という3視点を中心に行う。

内容

- 園活動で使用する簡易楽器について、子どもの発達に合わせて楽器をどのように楽しむかということにとりくむ
- 年齢に応じた楽器演奏を研究しつつ組み立てていく
- グループで考えをまとめて活動報告をして行く
- 音楽あそびを発達から考えて分類する
- 遊びから育つもの、子どもの発達を刺激するものなどを考え、活動にして行く
- 音楽活動としての子どものうたのジャンルを試みていく
- 集団の活動としての「こどものうた」を組み立てる

以上の音楽活動を、選択人数により全て活動するか、ジャンル別の活動につなげるかを検討しながら、園生活での音楽活動を具体化して行う授業内容とする。

評価

- グループ活動中心であるので、全員が役割を担い活動を盛り上げていくことを評価したい。
- 積極的に意見を出しあい、授業に参加することで自分の力を育てることも評価につなげたい。
- まとまった活動ごとに発表をして行く

教科書・推薦書 (著者名・書名・出版社名)

教科書は特に使用しない。

推薦書：佐藤千賀子「合奏楽譜百科」ひかりのくに
福音館書店「にほんのわらべうた」

科目名	ミュージック・クリエーション		
担当教員名	藪崎 伸一郎		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部 (J) - 幼児教育学科		
学 年	2	ク ラ ス	1Bクラス
開 講 期	前期	必修・選択の別	選択
授 業 形 態		単 位 数	1
資 格 関 係			

ねらい (科目の性格 科目の概要 学修目標)

科目の性格

この科目は、保育者として必須である「歌うこと」を学ぶ科目である。ミュージカル作品を通して歌唱表現の幅を広げ、併せて身体表現としての歌唱を獲得することをめざす。

科目の概要

基礎的な音楽知識や声に関する知識（発声法、呼吸法など）を学びながら、ミュージカル作品に親しみ、歌う、話す、動く、踊るなど総合的な表現法を探る。さらにグループ活動を通して作品を創造していく中で、主体性や積極性、協調性、コミュニケーション力なども養っていく。

学修目標

1. 人前でも臆せずに歌えるようになること。
2. 人の心に伝わる歌唱とはどのようなものか、試行錯誤してみること。
3. 歌うことの楽しさや喜びを実体験として味わい、それを他者に的確に伝えることができるようになること。

内容

1	ガイダンス
2	ミュージカルについて
3	ミュージカル作品の鑑賞
4	日本語による歌唱における留意点について
5	日本語による歌唱実技
6	英語による歌唱における留意点について
7	英語による歌唱実技
8	実際の舞台のシステムについて
9	台本の作成と推敲
10	配役決めとグループ単位での演出プランの作成
11	台詞の読み合わせ
12	照明、衣装等の検討
13	グループ単位での実践
14	実技発表
15	まとめ

評価

実技発表 (50%) グループ活動への取り組み (50%)

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

必要に応じて授業中に指示します。

科目名	ミュージック・クリエーション		
担当教員名	金勝 裕子		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部 (J) - 幼児教育学科		
学 年	2	ク ラ ス	2Aクラス
開 講 期	後期	必修・選択の別	選択
授 業 形 態		単 位 数	1
資 格 関 係			

ねらい (科目の性格 科目の概要 学修目標)

幼稚園・保育園での音楽活動として、歌を歌ったり音楽遊びを保育の中で取り上げていくことは不可欠なことである。ピアノ技術の向上や音楽活動の伴奏に関しては他の授業で行っており、個人的なレベルアップの学ぶ機会は設けてある。ここでは「子どもの合奏」や「子どもの音楽あそび」などについて、保育者としてどのように活動していくべきかをグループで考えながら、音楽的な価値観を養うことを目的とする。

市販の合奏書籍をそのまま保育に下ろすというようなことはせずに、子どもの本来の力や、子どもにとっての合奏とは何かなど子どもの身体的な発達も含めて、音楽の意味などを話し合い活動に下ろしていくという授業を行う。

また、「音楽あそび」も「手あそび」「わらべうた」などから、あそびを覚えることや、あそびを発展させていくことを研究をしながら、子どもにとっての「音楽あそび」を考える。

こどもと音楽を楽しむこととは何かを、実技を通した視点で学ぶ。

具体的には「あそび」「おどる」「合奏する」という3視点を中心に行う。

内容

- 園活動で使用する簡易楽器について、子どもの発達に合わせて楽器をどのように楽しむかということにとりくむ
- 年齢に応じた楽器演奏を研究しつつ組み立てていく
- グループで考えをまとめて活動報告をして行く
- 音楽あそびを発達から考えて分類する
- 遊びから育つもの、子どもの発達を刺激するものなどを考え、活動にして行く
- 音楽活動としての子どものうたのジャンルを試みていく
- 集団の活動としての「こどものうた」を組み立てる

以上の音楽活動を、選択人数により全て活動するか、ジャンル別の活動につなげるかを検討しながら、園生活での音楽活動を具体化して行う授業内容とする。

評価

- グループ活動中心であるので、全員が役割を担い活動を盛り上げていくことを評価したい。
- 積極的に意見を出しあい、授業に参加することで自分の力を育てることも評価につなげたい。
- まとまった活動ごとに発表をして行く

教科書・推薦書 (著者名・書名・出版社名)

教科書は特に使用しない。

推薦書：佐藤千賀子「合奏楽譜百科」ひかりのくに
福音館書店「にほんのわらべうた」

科目名	造形発達と表現		
担当教員名	平田 智久		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部（J）-幼児教育学科		
学 年	2	ク ラ ス	
開 講 期	後期	必修・選択の別	選択
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係			

ねらい（ 科目の性格 科目の概要 学修目標）

科目の性格

乳児から児童に至るまでの子どもの発達やその特性を理解し、その生育にいかに関わることが望ましいかについて学ぶことが主眼である。

その一つの視座として「子どもの造形行動を通し、その発達や特性を知る」ことは具体的な学びとなる。

科目の概要

人間が生きる手段として表現行動は重要である。その表現行動のひとつとして造形表現は欠くことができない行動である。その造形表現の行動は乳幼児・児童と大人と共通した行動もあれば、大きく異なる行動もある。そうした同一性と異文化性を持っていることを認識することは乳幼児・児童教育の立場だけでなく、ひろく人間の営みとして理解することになり重要である。

学修目標

そのために乳幼児の造形表現に潜む意味や特徴的な表現の意味を学び、幼児期から児童期の発達過程について学び、その表現をどう読み取るのか、どのような援助方法や対応があるのか...について体得していくことがねらいである。

内容

子どもたちの実態をスライドやビデオなどで知ることや、実際の幼児画を見るなど具体的な資料を基に、観察・鑑賞・検証・考察を繰り返して、直接体験的に認識を積み上げながら学ぶ。つまり、子どもたちの独特な表現法やその読み取り方を体得し、適切な援助の仕方を体得することである。そうした中で大人との共通性（同一性）もおのずと理解されることになる。

1～2 1. 表と現と 「乳幼児独特の造形表現法について」

3～5 2. 幼児画の発達段階
 ・描き始めのころ（Scribble期・1～2歳ころ）
 ・伝達の喜び（象徴期・3～4歳ころ）

6～10 3. 幼児・児童画の特徴 「子どもの絵の読み取り方」
 ・共感する意義とそのポイント

11～15 4. 気になる、心配になる絵への理解と対応
 ・ストロークのもつ意味
 ・色彩心理との関わり

授業中に示した子どもの絵をデジタルカメラで撮影し、分類し資料にする。

評価

講義と実習を通して学ぶので、感じ考えたことや実験してわかったことなどを一冊のスケッチブックにまとめ、自分のための資料集(60%)とすること。そのスケッチブックによって造形表現を手がかりとして子ども達と関わる感性、意欲(40%)を評価する。

教科書・推薦書(著者名・書名・出版社名)

教科書平田・小野編著「乳幼児の造形表現」保育出版社刊

科目名	ボディアワーク		
担当教員名	坪倉 紀代子		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部 (J) - 幼児教育学科		
学 年	3	ク ラ ス	
開 講 期	後期	必修・選択の別	選択
授 業 形 態		単 位 数	1
資 格 関 係			

ねらい (科目の性格 科目の概要 学修目標)

幼児教育学科における身体表現の専門科目として、2年次、3年次での学びをさらに深めながら自身の身体に向き合うこと、他者の身体を感じ取ることを進めていく。

幼児の身体表現活動における環境の最大要因は“保育者の身体”そのものであると考える。

保育者としての自身の身体支配・運動能力を高めるトレーニングと身体の可能性の極限に挑戦する体験をもとに人間の“身体と運動”を捉え、表現活動として展開していく力を培うことを目標とする。

受講制限

「体育基礎 (身体表現)」「保育内容の指導法 (身体表現)」の履修が完了していること。

3年次「身体表現論」「身体表現論演習」を履修後、4年次での選択履修が望ましい。

内容

1 ガイダンス

2 ~ 1 0 毎回下記の4つの要素を繰り返し学ぶ

からだをあそぶ・からだであそぶ ゲーム
 ストレッチング
 リズムエクササイズ
 身体表現による小作品の創作

1 1 ~ 1 5 幼児向けのリズムダンスの創作・発表

評価

授業に対する意欲・関心・態度及び参加度を基本とし、毎時の授業記録から評価する。

出席回数10回未満の場合は単位を認めない。

教科書・推薦書 (著者名・書名・出版社名)

教科書は使用せず

科目名	児童音楽文化論		
担当教員名	金勝 裕子		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部 (J) - 幼児教育学科		
学 年	3	ク ラ ス	2Aクラス
開 講 期	後期	必修・選択の別	選択
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係			

ねらい (科目の性格 科目の概要 学修目標)

日本の“子どもの音楽文化”について学ぶために「日本音楽教育史」「音楽教育学」「日本童謡史」などを学び、現代の子どもと音楽のかかわりを考えていきたいと思う。

本来の意味での邦楽は「浄瑠璃」「能楽」「三曲」を代表とし、日本の「わらべうた」や「こもりうた」「神楽」などを総称したものである。日本の音楽文化の歴史を追い音楽教育とは何をすべきなのか、現場の子どもたちにはどのように音楽文化を伝えていくべきかをじっくりと考えていきたい。

日本音楽の歴史と日本音楽教育史の関係は、相反するものが見え隠れする。教育の現場での音楽教育を進めながら、日本独自の音楽を受け継いでいく複雑な日本の教育・社会の現状の上になんて、自分なりの音楽ポリシーを養ってもらいたい。

確かな「音楽」の概念をしっかり持ち、保育現場で生かせるような授業展開を進める。

内容

第1回～第4回 邦楽の、国楽、雅楽などの歴史とその背景

第5回～第7回 日本の「わらべうた」「こもりうた」

第8回・第9回 明治時代の「唱歌」

第10回・第11回 大正時代、昭和前期における「童謡」

第12回～第14回昭和時代後期・戦後の「こどものうた」「幼稚園教育要領」「保育士指針」に書かれている「表現」との関係。

台15回・ここまでにいった講義内容からレポートの課題を前もって提示する。課題を自分で決めその内容についてレポートを90分以内で記載する。

評価

半期学んだ中から、自分の興味を持ったテーマでまとめて書く。

教科書・推薦書 (著者名・書名・出版社名)

【参考図書】町田嘉章他編 『わらべうた』 岩波書店

増本伎共子 『雅楽入門』 音楽の友社

丸山忠璋 『田村虎蔵の生涯』 音楽の友社

科目名	児童音楽文化論		
担当教員名	藪崎 伸一郎		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部 (J) - 幼児教育学科		
学 年	3	ク ラ ス	2Bクラス
開 講 期	後期	必修・選択の別	選択
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係			

ねらい (科目の性格 科目の概要 学修目標)

科目の性格

本科目は音楽基礎 (歌唱法) ・歌唱演習で得た知識や技術及び幼児に関わる専門的知識について深く理解することを目的とします。

科目の概要

歌唱表現を充実させるために必要とされる専門知識を修得し、視聴覚資料などを活用して具体的な事例を参考にしながら学修を進める。又、専門教育に関わる必要事項を取り上げ、歴史や教育・発達・環境・指導法などについて、その背景や意義、問題点を具体例を参考に学修する。

学修目標

- ? 子どもの歌に関する正しい知識の修得
- ? 保育現場のニーズに対応できる知識の修得
- ? 保育現場における的確な指導技術の獲得

内容

1	ガイダンス
2	わらべ歌について
3	唱歌について
4	童謡について
5	子どもの歌について
6	幼児の声域と声の発達
7	声の管理 (怒鳴り声、小児嘔声・音声障害)
8	詩と音楽の関係
9	マザリーズ・読み聞かせ・素話
10	早期音楽教育について
11	子どもを取り巻く音楽環境
12	子どもと音楽メディア
13	テレビ視聴による子どもの歌唱表現への影響
14	保育者の音楽指導における資質と役割
15	まとめ

評価

レポート (30%)、試験 (70%)

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】

必要に応じて授業中に指示します。プリント配布。

【推薦書】

米山文明『声がよくなる本』主婦と生活社、萩野仁志・後野仁彦『医師と声楽家が解き明かす発声のメカニズム』音楽之友社、奥中康人『国家と音楽 伊澤修二がめざした日本近代』春秋社

科目名	造形保育論		
担当教員名	平田 智久		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部（J）-幼児教育学科		
学 年	3	ク ラ ス	
開 講 期	前期	必修・選択の別	選択
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係			

ねらい（ 科目の性格 科目の概要 学修目標）

科目の性格

子どもたちは幼稚園・保育所という家庭とは異なった生活の場の中でも、「もの」と関わり人とかかわる。その「もの」との関わり方捕らえ方で保育も大きく変わる。子ども自らが主体的に生きることを願って行われる保育であるなら、当然自ら感じ考え行動していくことを保育という規範の中で認め励ますことが重要となる。

科目の概要

造形は人間の本性に関わりながら発生する行為そのものであるだけに、そうした保育手段のひとつとしての造形の意義は大きい。

保育全体を見通しながら造形活動の役割と意義を見出し、実践のための基礎づくりをすることがねらいである。子どもの成長発達に呼応した提案、季節や自然との触れ合いなど子どもの興味関心を起点にした活動展開、活動の中で育まれる人との関わりなどに視点を置いて学ぶ。

学修目標

子どもたちの成長発達を保証し、意欲的に行動できる子どもたちに育つ環境づくりに関われる人材となるよう自らの保育力を高めることを目標とする。

内容

生活の中で自ら感じ考え行動する乳幼児を、造形を通して認め励ます意義に気づくために、実際の保育や子どもたちの作品などをVTRなどで提示し、造形を通じた保育のあり方を考える。さらに、身近な自然や素材との出会いを保障する環境づくりや、子どもの強い興味関心に支えられた保育展開が図れるための考察と研究を行う。

- 1週 プロローグ
- 2週 保育は生活
- 3週 内的循環論
- 4週 内的循環と援助・刺激
- 5週 コミュニケーション
- 6週 保育のパターンと援助
- 7週 集中と拡散
- 8週 応答的環境
- 9週 共同と協同
- 10週 素材のもつ特性
- 11週 造形発達の目安
- 12週 子ども造形教育の歴史
- 13週 領域「表現」のポイント・領域を超えて
- 14週 保育の二重構造
- 15週 エピローグ

評価

講義を通して学び、感じ考えたことや実際に試してみたことなどを一冊のスケッチブックにまとめ、自分のための資料集とすること（60％）。まとめ方は造形表現を手がかりとした保育展開が可能になることが条件となる。そのスケッチブックによって、乳幼児と関わる感性、意欲、実践力を評価する（40％）。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】教科書「乳幼児の造形表現」平田・小野編著 保育出版社刊 「毎日が造形あそび」平田智久著 学習研究社刊

科目名	造形保育論演習		
担当教員名	平田 智久		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部 (J) - 幼児教育学科		
学 年	3	ク ラ ス	
開 講 期	後期	必修・選択の別	選択
授 業 形 態		単 位 数	1
資 格 関 係			

ねらい (科目の性格 科目の概要 学修目標)

科目の性格

生活の中で自ら感じ考え行動する乳幼児を、造形を通して認め励ます意義に気づくとともに、身近な自然や素材との出会いを保障するための保育環境づくりを行える感性を磨くことや、子どもの強い興味関心に基づいた保育展開が図れるための環境づくりを可能にできる能力を磨くことが重要となる。

科目の概要

身近なさまざまな素材の可能性を自らが開発し、子どもの発達や興味関心に呼応させて提案できる資質を磨くことであり、造形的考察と実践的研究をすることが主なねらいである。

その為にはうまい下手ではなく、行動しながら考えイメージをひろげられる「造形的思考力」を高めていく努力を必要とする。

学修目標

保育環境づくりや子どもの発達や興味に呼応させた保育活動を造形的視座から考え実行できる能力を開発することであり、実際に幼稚園や保育所での実習を活用して、实际的に学ぶことを目標とする。

内容

1 ~ 4 発達と造形行動と...

5 ~ 8 心情と造形行動と...

9 ~ 1 2 想像と造形行動と...

1 3 ~ 1 5 協同と共同と造形行動と...

以上などのような切り口でひとりひとりの充実と集団の充実を図るための造形行動を、具体的に素材に触れて試し確かめて自らの能力開発を行い、造形を通じた保育活動が展開できるようにする。

さらに具体的な試行活動から生まれた作品は保育現場で役立つ教材開発にもなる。

評価

講義を通して学び、感じ考えたことや実際に試してみたことなどを一冊のスケッチブックにまとめ、自分のための資料集(60%)とすること。まとめ方は造形表現を手がかりとした保育展開が可能になることが条件となる。そのスケッチブックや作品を通して、乳幼児と関わろうとしている感性、意欲、実践力(40%)も評価する。しかし、作品の良し悪しでの評価はしない。

教科書・推薦書 (著者名・書名・出版社名)

特に定めない。適宜参考図書を紹介する。

科目名	アート教育論		
担当教員名	宮野 周		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部（J）-幼児教育学科		
学 年	3	ク ラ ス	
開 講 期	前期	必修・選択の別	選択
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係			

ねらい（ 科目の性格 科目の概要 学修目標）

この科目は幼児教育専攻の専門科目であり、様々な専門領域の中で、保育における造形や造形表現について追求し専門性を深めていくことを希望する学生を対象としている。

ここでの学びが卒業研究に結びついていく。幼児造形教育の意義や子どもの造形表現に対する理解、保育者の役割、造形活動の中で育まれるものや人とのかかわりを実技も含めながら学ぶ。

理論と実践を通して、造形活動における子どもの発達に即した理解や多様な表現方法、幼児造形教育の理解を深め自らの保育力を高めることを目標とする。

内容

1	オリエンテーション
2	幼児教育の基本
3	領域「表現」と造形
4	保育者の役割
5	子どもの造形表現の理解について
6	幼児造形教育の意義1
7	幼児造形教育の意義2
8	幼児造形の指導
9	造形教育の歴史
10	グループ演習1：共同製作のための導入（構想）
11	グループ演習2：共同製作（製作）
12	グループ演習3：共同製作（製作）
13	グループ演習4：共同製作（製作）
14	グループ演習5：共同製作（製作）
15	まとめ

評価

授業を通して行ったこと、感じたこと、考えたことなどを一冊のスケッチブックにまとめ、さらに関連したことを参考資料などをもとに加え、自分自身のポートフォリオを作成する（60%）。また活動への取り組み、学習態度（40%）により総合的に判断します。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

〔教科書〕無藤隆監修・浜口順子編著『事例で学ぶ保育内容 領域 表現』萌文書林

その他、適宜授業の中で紹介する。

科目名	アート教育論演習		
担当教員名	宮野 周		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部（J）-幼児教育学科		
学 年	3	ク ラ ス	
開 講 期	後期	必修・選択の別	選択
授 業 形 態		単 位 数	1
資 格 関 係			

ねらい（ 科目の性格 科目の概要 学修目標）

この科目は幼児教育専攻の専門科目であり、「アート教育論」を履修後に、選択することが望まれている選択科目である。

保育者は幼児の人やものとのかわりの重要性を理解し、物的・空間的環境を構成しなければならない。また幼児一人一人の活動の場面に応じて、様々な役割を果たし、その活動を豊かにしていく必要がある。

幼児の主体的な活動が確保されるよう幼児一人一人の行動の理解と予想に基づき、計画的に造形的な環境を構成していく力や実際に幼稚園や保育所での実習とも関連させながら子どもの発達を考慮した教材研究を通して将来、保育者として必要な実践的な力を身につけることを目標とする。

内容

第1講 オリエンテーション

第2-5講 保育における造形と教材研究について

第6-9講 身近な素材と表現

第10-14講 多様な表現方法について学ぶ

第15講 まとめ

評価

授業を通して行ったこと、感じたこと、考えたことなどを一冊のスケッチブックにまとめ、さらに関連したことを参考資料などをもとに加え、自分自身のポートフォリオを作成する（60％）。また活動への取り組み、学習態度（40％）により総合的に判断します。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

特に定めない。適宜授業の中で紹介する。

科目名	身体表現論		
担当教員名	坪倉 紀代子		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部（J）-幼児教育学科		
学 年	3	ク ラ ス	
開 講 期	後期	必修・選択の別	選択
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係			

ねらい（ 科目の性格 科目の概要 学修目標 ）

身体表現とは、自分自身の身体を素材として、その運動が媒体となって、自分の思いを外に出し、他へ伝えようとするこ
とで成立する表現の世界である。様々な身体表現形式の歴史を概括した上で、人間にとって身体表現がどのような意義のあ
るものであるかを考える。合わせて保育における身体表現の活動の意義、指導上の留意点などを考えていく。

内容

からだと運動

～ 幼児期の身体表現をめぐって

～ 幼児期における身体表現の指導法について

様々な身体表現の形式をめぐって

身体を感じる、身体で感じるということについて

感性について

表現ということについて

コミュニケーションとしての身体運動

受講資格：「身体表現論」と同時に「身体表現論演習」が受講可能であること

評価

授業への取り組み方を基本とし、レポート・記録ノートの内容等から総合的に判断する。

平常点60%、レポート40%で評価する。

出席回数10回未満の場合は単位を認めない。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

- 【推薦書】S・スティンソン 『幼児のためのダンス』 不昧堂
長田 弘 『黙されたことば』 みすず書房 911.56/0
竹内敏晴 『思想する「からだ」』 晶文社 804/T

科目名	身体表現論演習		
担当教員名	坪倉 紀代子		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部（J）-幼児教育学科		
学 年	3	ク ラ ス	
開 講 期	後期	必修・選択の別	選択
授 業 形 態		単 位 数	1
資 格 関 係			

ねらい（ 科目の性格 科目の概要 学修目標 ）

「身体表現論」及び既に履修した「身体表現基礎」「身体表現・指導法」を基に、自らの身体表現に関わる能力の進展を計ると共に、身体表現への興味関心を広く深く掘り下げることが目的とする。また、幼児期における身体表現活動の教育的意義、その発育・発達について、教材研究及びその指導法の検討を通して考えていく。

内容

< 自分自身の身体へ向かう >

身体への感性を養う

- 自らの身体を感じ、他者の身体を感じる
- 自らのボディ・コントロール能力を高める
- 動きのボキャブラリーを増やす

< 幼児期の身体表現活動を考える >

- ～ 幼児期における身体表現活動の芽生えをとらえる
- ～ 保育の場での身体表現活動を引き出す教材の工夫
- ～ 保育の場での身体表現活動を展開していく指導法の工夫
- ～ 身近な物を利用して、運動遊び、表現遊びへと発展させていく工夫
- ～ フォークダンスの指導法の工夫
 - その特徴、基礎用語の理解
 - 幼児に指導する際の留意点
 - 身体表現へと発展させていく工夫

受講資格：「身体表現論演習」と同時に「身体表現論」が受講可能であること

評価

授業への取り組み方を基本とし、レポート・記録ノートの内容等から総合的に判断する。

平常点60%、レポート40%で評価する。

出席回数10回未満の場合は単位を認めない。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【推薦書】マリオン・ゴーフ 『ダンスの教え方・学び方』 玉川大学出版部

柴真理子 『身体表現』 東京書籍 781.4/S

科目名	幼稚園教育実習総論		
担当教員名	上垣内 伸子、野口 隆子、向井 美穂、横井 紘子 他		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部 (J) - 幼児教育学科		
学 年	3	ク ラ ス	
開 講 期	通年	必修・選択の別	必修 * , 選択
授 業 形 態		単 位 数	1
資 格 関 係	幼稚園教諭一種免許状		

ねらい (科目の性格 科目の概要 学修目標)

科目の性格

この科目は、幼児教育学科の学科専門科目で、幼稚園における教育実習の事前事後指導のための科目である。幼稚園教諭免許状取得のための必修科目であり、幼稚園教諭免許状取得のための実習を行う際には、必ず本科目を併せて履修することが求められる。

科目の概要

実習前には、実習を行う幼稚園の組織、保育形態、今回行う実習の目的・目標などの理解を促し、実りある実習につなげていきたい。

実習に求められる様々な知識や技能が習得されているか、幼児理解、保育者の役割の理解などを確認、する。

実習後も、保育日誌などの記録を基に、じっくりと考察・討論し、保育者を目指す自己の保育行為の評価と課題の明確化を促したい。

学修目標

- ・実習に必要な事前学習と準備が整っている。
- ・実習後に自己の保育行為を評価し課題を明確化できる。

内容

(1) 事前指導 (参加観察実習)

学内での担当教員による実習の目的・目標、内容等に関わるオリエンテーション

実習園園長・実習担当者を学内に招聘しての特別講義

実習園に出向いての、園長・実習担当、担任等によるオリエンテーション

園の周辺の環境の自己調査と把握、環境特性の理解

(2) 事後指導 (参加観察実習) / 事前指導 (総合実習)

クラス全体、グループ、実習園別、担当年齢別、個別面談等、様々な規模と形態での話し合いを重ねながら、1週間の参加観察実習を振り返り、実習に関しての自己評価を行うと共に、総合実習に向けての課題を設定し、それに向けての準備に取り組む。

総合実習に置いて取り組む指導案作成、責任実習のために、これまでに学んできた知識・技術の確認と、保育日誌等を基にしたの保育対象である子ども・子ども集団の理解に努める。

実習園にて、総合実習に関するオリエンテーションを受ける

(3) 事後指導 (総合実習)

実習園においての実習の総括としての反省会

学内での実習報告、これから実習を行う下位学年に向けての発表と話し合いを通して、自分にとっての実習成果は何かについて考える

自己の成長部分、努力が現れた取り組み、反省点などを踏まえて自己評価を行う。

事前指導では、幼稚園教育の基本となる考え方、子どもの生活実態、発達特性など、保育実践の土台となる知識を整理し、

これまでの実習体験や保育シュミレーションなどを通して、保育者としての自己課題を明確にすること、指導計画作成、教材研究など、実習に向けての具体的準備を行うことに取り組む。

自分の保育を振り返って反省し、主体的に評価を行うことが、保育実習後に学内で行う事後指導の要点である。保育実習日誌などの記録を手がかりにして、自己の対象理解と保育行為について、クラスの仲間や指導教員と話し合い、更なる保育実践力の向上に向けて踏み出す契機とする。

評価

学内外での実習指導への参加状況(50%)、実習日誌やレポート等の提出(50%)によって評価する。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】幼稚園教育要領解説（フレーベル館）

改訂2版 幼稚園 わかりやすい指導計画作成のすべて．柴崎正行編著 （フレーベル館）

【推薦書】新版 遊びの指導．幼少年教育研究所編著 （同文書院）

科目名	保育実習総論		
担当教員名	野口 隆子、上垣内 伸子、向井 美穂、横井 紘子 他		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部（J）- 幼児教育学科		
学 年	3	ク ラ ス	
開 講 期	通年	必修・選択の別	必修* , 選択
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	保育士資格		

ねらい（ 科目の性格 科目の概要 学修目標 ）

科目の性格

「保育所保育実習」「施設実習」、「保育所保育実習」「施設実習」履修者の実習事前事後指導を目的とする。幼稚園教諭免許取得希望者も、必要に応じて受講する必要がある。将来保育者を目指す学生が受講し、意欲的に参加することが望ましい。

科目の概要

各実習の目的や課題を明確にすると共に、実習前・中・後の具体的なプログラム、実習先に関するインフォメーション、実習の心構えと準備、実習日誌の書き方などを指導する。また、実習を終えた学生の報告会を随時おこない、話し合いを通して経験を共有する。

学修目標

実習は「事前指導 - 実習 - 事後指導」という一連の指導を経て実習と認められる。そのことを理解し、授業に積極的に参加する。また、授業の中で進める発展的学習・課題をおこなうことで、保育の場・保育実践をより多角的に理解し、実習生としての責任感、自己課題の探索、臨機応変な実践力などの育成を目指す。

内容

【前期の主な授業内容】

< 「保育所保育実習」「施設実習」の事前指導 >

- ・ 授業概要とスケジュール / 各実習の目的と方法
- ・ 実習内容、実習生としての心構え
- ・ 乳幼児への援助のあり方
- ・ 実習日誌 / 指導案 / 実践演習
- ・ 実習施設別のグループワーク
- ・ 個別指導

【後期の主な授業内容】

< 「保育所保育実習」「施設実習」の事前事後指導 >

- ・ 授業概要とスケジュール / 各実習の目的と方法
- ・ 実習後の振り返り（グループディスカッション、個別指導）
- ・ 実習課題（自己課題 / 保育課題）の確認

< 「幼稚園教育実習」への展開 >

- ・ 「幼稚園教育実習」の目的と方法、心構え、実習内容の確認
- ・ 幼児期の発達による教材研究や指導のねらい、留意点
- ・ 実習日誌の意義と書き方 / 指導案 / 模擬保育

< 「保育所保育実習」「施設実習」の事前指導 >

- ・ 各実習の目的と方法
- ・ 実習履修の手続き

保育実習と幼稚園教育実習に内容がまたがる場合、保育士資格か幼稚園教諭免許状の片方のみの取得を希望する者も、4年次の「幼稚園教育実習」とあわせて受講することが望ましい。

評価

授業への参加状況（50％）や課題提出（50％）などから総合的に判断する。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

<教科書>

大場幸夫・大嶋恭二 『保育実習』 ミネルヴァ書房

<参考書>

最新保育資料集 子どもと保育総合研究所 ミネルヴァ書房

幼稚園教育要領解説書 文部科学省 フレーベル館

保育所保育指針解説書 厚生労働省 フレーベル館

科目名	保育所保育実習		
担当教員名	野口 隆子、向井 美穂		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部（J）-幼児教育学科		
学 年	3	ク ラ ス	
開 講 期	通年	必修・選択の別	必修* ,選択
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	保育士資格		

ねらい（ 科目の性格 科目の概要 学修目標 ）

科目の性格

保育士資格取得のための必修科目であり、「施設実習」とともに必ず履修しなければならない（その他「保育実習総論」も資格取得上の必修履修である。さらに4年次に「保育所保育実習」もしくは「施設実習」を選択履修すること）。

科目の概要

原則3年次に2週間、保育所で実習を行い、責任実習も先方の保育所との相談の上経験する。保育園における最初の実習となる場合が多いので、まずは全年齢のクラスに1~2日間ずつ入れていただくようにし、年齢ごとの発達と保育のあり方を学ぶ。生活の中の様々な養護を実践すると同時に、保育を支える周辺の仕事を体験する。実習中は毎日保育実習日誌を提出し、指導者の助言を受け、各自の実習課題を明らかにし、学びを深めていくことが必要となる。他の職員と連携・協働できるような基本的なコミュニケーション能力と技能を育むことも非常に重要である。また、子育て支援における役割、他のスタッフの業務分担や協力関係も学ぶ。さらに保育士の保護者とのかかわりを観察し、家庭や地域との連携の必要性を学び問題意識をもってほしい。

学修目標

実習は「事前指導 - 実習 - 事後指導」という一連の指導を受けて実習として認められる。「保育実習総論」の指導をふまえ、実習先の状況の中で臨機応変に対応し、自己課題・保育課題を見つけていく。

内容

< 保育実習 の主な内容 >

- 実習施設の概要の理解、
- 保育所保育の実情の理解（保育の流れ等）
- 乳幼児の発達
- 保育課程・指導計画の理解
- 多職種職員の連携によるチームワークの実情
- 家庭・地域の連携
- 保育方法と保育技能の理解と習得
- 安全・危機管理
- 疾病予防や健康維持を図る配慮
- 保育士の倫理観などの視点をもち実習に取り組み、学びを深める

「実習の手引」をよく読み、事前指導の内容を十分に理解して実習に臨むこと。

実習先の保育所は、基本的に、学生の居住する市区町村の担当部署に大学が依頼をして決める。公立が多いが、一部民間保育所もある。実習依頼にあたって相談がある場合は、指定の期日内に早めに相談をしておくこと。また、実習は原則3年次の夏季休暇中となる予定であるが、市区町村との調整で別の時期になる場合がある。各自が主体的な意識を持ち、実習プランニング（実習の準備も含めて）を立て、学生生活全体の調整をすること。

評価

実習先の保育所による評価を基本とするが、保育所の方針によって基準が一律ではないので、大学で総合的な評価への読み替えをおこなう。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

毎回「実習の手引」を持参すること

<教科書>

大場幸夫・大嶋恭二 『保育実習』 ミネルヴァ書房

科目名	保育所保育実習		
担当教員名	向井 美穂、野口 隆子		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部（J）-幼児教育学科		
学 年	3	ク ラ ス	
開 講 期	通年	必修・選択の別	選必, 選択
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	保育士資格		

ねらい（ 科目の性格 科目の概要 学修目標 ）

科目の性格

保育士資格取得のためのの実習として、必修の「保育所保育実習」と「施設実習」のほかに、この「保育所保育実習」か「施設実習」のいずれかを履修する必要がある。原則として保育所における実習体験の拡充を図るものは「保育所保育実習」、施設（保育所以外）における拡充を希望するならば「施設実習」を履修する。「保育所保育実習」「施設実習」「保育実習総論」を履修後に取り組み実習であるため、4年次に必ず履修すること。

科目の概要

「保育所保育実習」での実習では、今までの実習や主として「保育所保育実習」の中で探究した自己課題・保育課題と関連づけながら、学びを広げ深めていくことを主たる目的とする。そのため「保育所保育実習」の実習経験と「保育所保育実習」の実習をどうリンクさせるか、各自でよく考え、2週間の実習内容に関するプランを立てる。また、特定のクラス(原則3歳未満児クラス)に連続して入れていただき、責任実習をおこなう。

学修目標

各自の学びの課題を明らかにした上で実習プランを立て、受け入れ先の施設の実情に合わせ、大学の実習担当と相談して実習を進めていく。受講生自身が主体的に実習計画を立てながら行う実習である。

内容

「保育所保育実習」の経験をふまえ、主として以下の内容に取り組む。

- 保育全般に参加し保育技能を習得する
- 子どもの個人差に応じた援助を理解する
- 多様な保育ニーズに対応した保育の展開を学ぶ
- 指導計画の立案と実践（責任実習）
- 家族や地域社会との連携を学ぶ
- 保育者の倫理について理解する
- 保育への自己課題の明確化
- 保育実習の総括

「実習の手引」をよく読み、事前指導の内容を十分に理解して実習に臨むこと。

実習中は実習日誌を毎日担当者に提出し、指導を受ける。責任実習（一日または半日の保育、または部分）の実施にあたっては、指導者の指導・助言のもと指導案を作成し、保育の実践、評価・反省という一連の保育の営みを体験する。「保育実習」で経験できなかったことにチャレンジする意欲をもって臨んでほしい。実習後は、保育日誌に必要な内容を補充して大学に提出し、一連の保育実習での学びを総括する。

尚、実習は原則2週間（土曜の半日を含む）とし、大学で指導する基準を満たす民間の認可保育所を自己開拓する場合と、大学がすすめる民間の認可保育所に配属される場合とがある。原則「保育所保育実習」とは違う保育所で実習すること。また、実習時期は原則4年生の夏季頃、もしくは大学の授業のない期間にておこなうこととする。

評価

実習先の保育所による評価を基本とするが、保育所の方針によって基準が一律ではないので、大学で総合的な評価への読み替えをおこなう。また、事前指導及び事後指導への取り組み、必要提出書類の状況等も評価に反映させる。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

毎回「実習の手引」を持参すること

【教科書】

授業内で指定する

科目名	施設実習		
担当教員名	潮谷 恵美、鈴木 晴子		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部 (J) - 幼児教育学科		
学 年	3	ク ラ ス	
開 講 期	通年	必修・選択の別	必修* , 選択
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	保育士資格		

ねらい (科目の性格 科目の概要 学修目標)

施設実習 は保育士資格取得の必修の実習です。3年次に保育所を除く児童福祉施設および知的障害者施設で、11日～12日間(実実習時間90時間)の実習を行います。宿泊実習が原則です。施設保育士として必要な資質を、実践を通して身に付けていきます。本実習の目的は次の4点です。

施設実習園の設立の目的や運営の理念を念頭に置きながら、児童および利用者の方と共に生活し実習することにより、児童福祉施設・社会福祉施設の役割や社会的意義を体験的に理解します。

施設内で取り組まれている保育、食事・排泄などの日常生活に関わる援助技術等を実践によって具体的に学びます。

施設を利用している児童や利用者とは分かり合える関係になり、相手にふさわしい関わりができるようになるために、相手を理解し、相手に自分自身を理解してもらう方法を実際に関わりながら学びます。

施設で働く保育士の職務や役割、他職種との連携を具体的に理解し、担当職員の指導を受けながら実践します。

内容

具体的な指導は保育実習総論 の年間30回の計画に従う。

「事前指導 配属先の発表 実習施設の事前報告書作成 初インターン報告書の提出 実習開始 巡回指導を受ける 事後指導(学内反省会) 個別指導(評価表にそって)」の流れにのっとり進めます。

<学内での事前指導>

施設実習は施設の種類の多様で、実習時期の幅も広いので、全体指導の他にグループ指導および個別指導を丁寧に行い、実習に向けての心構えを作ります。主として「保育実習総論」の授業内で行いますが、それ以外の時間を設定することもあります。

<施設での実習内容>

・実習は大学の指定する施設で行います。主な実習内容は次の2点です。その他については施設の種類や対象年齢、施設実習園の方針等によって異なります。

日常生活全般の流れに沿って環境を整え、集団生活の中での基本的な生活習慣や社会性を個々に応じて支援します。

食事、排泄、入浴、着脱衣の生活処理能力としてのADL(日常生活動作)の自立を支援し、必要な援助を行います。

・実習後、日誌を書くことによって保育体験の中身を自分自身で振り返ることと、実習指導者から反省会の場で直接指導を受けたり、日誌への講評を頂いたりする過程で、日々の実習での学びを積み重ねていきます。

<学内での事後指導>

実習全般を振り返り、グループ指導の中で各自が自分の実習を振り返りつつ互いの経験を共有して、これからの保育の学びの糧にします。必要に応じて個別指導も行います。

評価

大学指定の評価表に基づいて実習先からの評価を受け、日誌の提出具合やその内容などを総合的に判断し、評価を行います。

教科書・推薦書(著者名・書名・出版社名)

科目名	施設実習		
担当教員名	鈴木 晴子、潮谷 恵美		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部（J）- 幼児教育学科		
学 年	3	ク ラ ス	
開 講 期	通年	必修・選択の別	選択, 選必
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	保育士資格		

ねらい（ 科目の性格 科目の概要 学修目標 ）

保育士資格を取得するための実習として、必修の「保育所実習」「施設実習」のほかに、「保育所保育実習」、この「施設実習」のいずれかを履修する必要がある。原則として保育所における実習体験の拡充を図る場合は「保育所保育実習」、施設（保育所以外）における拡充を図る場合は「施設実習」ということになる。

施設実習は、将来保育所以外の児童福祉施設における保育士を目指す学生が主に選択する実習として位置づけられており、「施設実習」で行った保育所以外の児童福祉施設等における実習内容をより深めることを目標としている。また、児童福祉施設の持つ社会的役割や機能、子どもの家族や地域社会における援助など、子どもを取り巻く社会的環境についても視野を広げ、そうした視点を養うことも目標である。実習配属にあたっては、受け入れ先との交渉、その他の実習スケジュールとの関係も考慮する必要がある。

内容

実習先を自己開拓することが求められる。宿泊型および通所型の福祉施設が対象となる。実習先を自己開拓するにあたっては施設の成り立ち、時代背景、社会的ニーズなど施設を取り巻く環境変化などを理解する 子どもの入所経路や入所理由など、社会的背景を十分に事前学習し施設の果たしている役割、機能を理解する 実習施設の生活環境などを理解する 子供たちや障害のある人々の家族はどのような思いや願いを持って施設を利用しているのかを理解する 施設で生活している人々の抱える問題、それが社会的にどのような状況から生じているのかを理解する、といったことを整理した上で検討することが必要である。

また、施設保育士に求められる要素の一つとしてソーシャルワーク的援助が挙げられる。施設における生活場面での直接援助および家族に対する援助といった視点についても学びを深めていくこと。さらには実習先によっては障害に関する専門的知識を有していることが必要とされる。よって、実習先に応じた具体的実習計画を立てて実習に臨むことが求められる。

実習では、「施設実習」で経験できなかった生活援助計画、個別援助（ケースワーク）、集団援助（グループワーク）計画を責任実習に取り入れる等積極的に実習に取り組むことが求められる。また生活を共にすることで自身の保育観を見つめなおし、さらには実践的な援助が出来るように取り組むことが臨まれる。

実習終了後の日誌においては自身の保育観や社会的養護、障害に対する見方等についても振り返ることが求められる。？

評価

大学指定の評価表に基づいて実習先からの評価を受け、日誌の提出具合やその内容などを総合的に判断し、評価を行う。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】 阿部和子・増田まゆみ・小櫃智子編 最新保育講座 13 『保育実習』 ミネルヴァ書房？

科目名	保育インターンシップ		
担当教員名	上垣内 伸子、山田 陽子、向井 美穂、野口 隆子 他		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部 (J) - 幼児教育学科		
学 年	3	ク ラ ス	
開 講 期	通年	必修・選択の別	選必, 選択
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	保育士資格		

ねらい (科目の性格 科目の概要 学修目標)

科目の性格

保育インターンシップは、幼児教育学科の学科専門科目である。免許・資格習得にかかわらない学生の自発的な選択による幼稚園、保育所などの児童福祉施設、その他における実習の科目であり、学生の主体的な取り組みが期待される。明確な実習課題を持っている場合に履修を認める。学科が実習先とのインターンシップの取り決めを結んだ上で、保育者としての責任とチームの一員としての自覚をもって実践に臨む。履修希望者は、履修登録前に、実習課題および実習計画書を担当教員に提出し、事前の相談を行った上で履修登録を行う。

3 年次および4 年次の前期オリエンテーション時に履修希望調査を行うほか、個別相談も受け付ける。時間をかけて準備をして意欲を持ってインターンシップとしての保育実践に臨んでもらいたい。

科目の概要

保育実践を必要とする発達研究、保育方法・保育内容に関する研究、保育者となるための保育実践力の向上などを目的とする、インターンシップとしての性格を持つ実習である。現場指導者と科目担当者から指導を受けながら、1年間または一定期間の現場実習と、実践記録の作成、それに基づく省察を深める。

学修目標

- ・受講生自身が設定した目標への到達を目指す。

内容

実習にあたっては、実習担当者に実習課題および実習計画の概要レポートを提出する。実習中は実習日誌を毎日実習先に提出し、実習後は、実習前に提出したレポートをもとに考察レポートを作成し、実習先と大学双方に提出する。

実習先は、実習目的に合う実習先を担当教員と相談のうえで決めることとするが、目的によっては出身地の園や施設などを自己開拓することもすすめる。

実習方法および実習時期は、授業に支障のないように実習生と実習先との話し合いによって決め、実習目的、実習先の状況等により、次のいずれかの方法をとることができることとする。

毎週1 日実習 (12 日程度) の実習

2 週間継続実習

1 週間ずつの分割実習

および の組み合わせ

インターンシップとしての性格ももつ実習であり、実習担当教員と現場での実習指導担当者が連携して指導に当たり、実習生と三者での話し合いを通して、実習課題の探求および保育実践力向上に資する実習となることを目指す。

評価

実習先からのコメント、および提出されたレポートと実習日誌、学内での実習指導参加状況によって総合的に評価する。

教科書・推薦書 (著者名・書名・出版社名)

各実習によって異なるので、受講生と相談して決める。